

知と自由への誘い

京都大学 大学案内

KYOTO UNIVERSITY
GUIDE BOOK 2010



INDEX

01 総長メッセージ

京都大学の教育

- 02 京都大学の教育システム
- 04 京都大学で学ぶということ
- 05 京都大学の教養教育を担う「全学共通科目」
- 07 活力ある教育の場の形成と、環境の充実を目指して
- 08 ポケット・ゼミ

教育を支える施設

- 14 学術情報メディアセンター
- 16 図書館

さらなる飛躍を支援

- 18 国際交流
- 20 大学院進学
- 23 就職支援
- 26 ベンチャー起業

学生生活サポート

- 28 学生生活を支援する制度や施設
- 32 京都大学生生活協同組合
- 34 クラブ・サークル

学部紹介

- 38 総合人間学部
- 42 文学部
- 46 教育学部
- 50 法学部
- 54 経済学部
- 58 理学部
- 62 医学部
- 68 薬学部
- 72 工学部
- 76 農学部
- 80 教員の研究テーマ紹介

資料請求・お問い合わせ

- 96 入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法
- 98 多様な入学制度／お問い合わせ先一覧

京都大学について

- 103 京都大学のすがた
- 104 キャンパスマップ・交通案内

京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研究

京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運営

京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成13年12月4日制定)





地球社会の共存に 貢献せんとする 高い志をもつみなさんへ

京都大学総長 松本 紘

本年で創立 112 年を迎える京都大学は日本を代表する総合大学として 10 学部に加え充実した大学院や全国一を誇る研究所群も擁しています。また、「対話を根幹とする自学自習」を尊重する特色のある世界最高水準の大学教育を提供しています。これまで累計で 182,538 名の卒業生を世に送り出し、多くの卒業生が学術分野のみならず、産業界、官界など様々な分野で大いに活躍しています。

みなさんが京都大学で学ぶことはなにもものにもかえがたい経験となるはずですが、みなさんは行政・政治・経済の中心から一定の距離をおく京都に暮らし、学生生活をおくります。世界都市・京都の内懐に抱かれ、千年以上続いた日本の文化や伝統を肌で感じつつ、それを革新していく姿勢を京都の地で学ぶことになるのです。古典から現代先端技術にいたるまでの幅広い知識を身につけ、大局的にものを見、自由に発想できるようになるためには、旺盛な知識欲を満足させる優れた教育環境と学んだことを我が物とする沈潜の時が必要です。現に各界で活躍する卒業生は、京都大学で学んだからこそ、学問を通じて、学問の源流や本来あるべき人間社会の姿というものに思いをはせつつ、確固たる人生の礎を築くことができたと言っています。

京都大学においては、人文学、社会科学、自然科学の各分野で様々な独創的な研究がなされています。本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いており、霊長類研究や iPS 細胞研究などはその一端を示すものにすぎません。京都大学においては 1 年生からの少人数ゼミ「ポケットゼミ」を通じ、独創的な研究を行っている研究者から最先端の研究の手ほどきを受けることができます。

人間は地球上の小さな存在ながら、その行いが地球全体の様相を変える可能性を秘めた存在です。その可能性と責任を胸に、将来世界的なリーダーとして地球社会の共存に貢献したいという高い志を持つみなさん。自由で知的刺激にあふれた大学、京都大学はみなさんの未来の飛翔のための翼を与える大学でありたいと総長として願っています。

京都大学の初代総長木下廣次は、履修科目の選択肢を広げるなど、学生の自立性を尊重した教育方針を採用したことで知られている。京都大学創立後最初の入学宣誓式において、木下は「大学学生に在りては自重自敬を旨とし以て自立独立を期せざるべからず」と述べている。



京都大学の教育システム

● 柔軟な教育システム

京都大学の教育は、学部や研究科によって様々な形をとっています。入学者は、10の学部のうちいずれかの学部（学科）に属することになりますが、学部卒業までにどのような教育を体験するかは、各学部の理念と教育方針にもとづいた教育課程によって異なります。あるいは同じ学部に属していても、卒業後にどのような進路を希望するかによって、教育課程は異なってくることもあるでしょう。

教育課程のことを「カリキュラム」といいますが、これはもともと個人が歩んだ道程を指す言葉です。そこには、与えられた課程を受動的に辿っていくのではなく、自分で自らの将来を見据えながら、自分の学ぶ道を作り上げていくという含意があります。京都大学は、学生が主体的・能動的に学ぼうと思えば、それに対して十分な学習を提供できるような柔軟な教育システムを備えています。ここでは、学部教育から大学院教育までを辿りながら、みなさんに京都大学が提供する教育の特徴を概観しておきましょう。

● 全学共通教育

どの学部に入学した場合も、まずは全学共通科目を受講しなくてはなりません。全学共通科目とはその名前のとおり、京都大学の全学部の学生が共通して受講する科目群をさします。この科目群は、一言でいえば教養教育をおこなうためのものです。教養教育は、専門の勉強を始める前に、あるいは専門の勉強と並行しつつ、専門以外の分野も含め文理を問わず広く学ぶという形をとりますが、それは単に該博な知識を得るためではありません。京都大学で考える教養教育の目的は、大きく三つに分けられます。

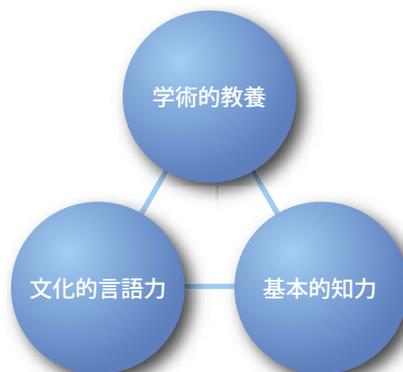
第一には、これまで人類が築き上げ、そして現在も築きつつある学問・研究の諸分野に広く向き合い、その方法論や世界観、探求の姿勢といったものを学ぶことです。これは学問という領域をはるかに超え、人生観や世界観にまで及ぶでしょう。学問に対峙することを通して、人間的な成長や成熟も期待されていると言ってもよいでしょう。第二には、自分の言葉（言語）で批判的かつ論理的に思考を組み立て、それを他者へ伝え表現していくことを学ぶことです。この場合の言語とは、高度な日本語運用能力はもちろんのこと、あらゆる分野において世界的に活躍するために不可欠な、外国語の習得を含みます。このような批判



的思考と言語運用能力を鍛えるためには、他者や異文化を正しく理解しようと努め、また協調関係を築きあげようとするのが重要です。教養教育の第三の目的は、専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することです。これは、将来、みなさんが社会や学術研究をリードしていくための基盤となる知識を得るだけでなく、見通しのつかない新たな複雑な状況において、適切に課題を分析し解決法を見つけようとする姿勢も含まれます。

以上のような教養教育の3つの目的、すなわち教養教育を通して獲得される能力と素養を、京都大学では順に、学術的教養、文化的言語力、基本的知力と名付けています。京都大学の全学共通科目はいずれも、この3つの知を実現するために提供されているものです。

しかし、全学共通教育を履修すればこれら3つが自動的に獲得できるというものではありません。京都大学の提供する全学共通科目は、大変多様な構成となっています。専門教育といってもよいほどの高度な専門性をもっている科目もあれば、基礎的な事項の習得や他分野との関連に重きをおいた基礎論もあります。大学によっては、教養教育に期待される能力の習得をプログラム化して、入学者に一律に履修を課しているところもあります。しかし、京都大学はそのような立場をとりません。京都大学の学生は、入学当初からきわめて専門志向の強いことが、これまでの調査から分かっています。すなわち、自分はそのような専門領域に進みたいか、明確なビジョンを持つ学生が多いのです。したがって京都大学では、教えるべき専門的な内容を薄め技法の習得にのみ特化したような科目を提供するのではなく、最先端の知の生まれてくる現場に触れてもらい、研究者の背中を見て学んでいくことを学生に期待しています。このような教育構成の場合、学生の主体的で能動的な関わりが何よりも重要となります。与えられることを待つのではなく、自分から求め学問の現場に参与していく態度を身につけることが要求されます。すなわち、「生徒」から「学生」へと転換することが、必要なのです。





● 学部での専門教育

全学共通科目を履修しつつ、あるいは各学部が定める履修を完了した後、学部の専門教育に入ります。学部によっては、1年次からすでに、相当な専門教育を受けるところもあります。学部の教育課程を修めたと見なされるための学習内容は、各学部の理念と教育方針に基づいて決定されています。

専門教育の課程に入ったからといって、教養教育と無縁になるわけではありません。京都大学の全学共通科目は、専門を勉強し始めてからも必要とあれば、いつでも履修できる構成になっています。すなわち、自分の専門の枠を広げ、自分たちの学問的範疇や方法論に関して省察し、さらに創造的にそれを広げていくことができるよう、他の学問分野との対話の可能性を開いています。この意味で京都大学の教養教育は「高度一般教育」とも呼ばれています。また、一定の条件において、専門教育に入っても、他学部の専門科目も履修できる場合が多いことも、京都大学の恵まれた条件としてここに付記しておきます。

学部によって異なりますが、専門教育では、研究室やゼミに属したり、学科や系と呼ばれる学部よりさらに専門分化した集団に所属することになります。学部の専門教育は、少人数教育の特徴を備え持つことも多く、教員との関係もさらに密なものとなるでしょう。また、講義で知識を習得するだけでなく、実習や演習といった、専門分野に特に必要とされる技能を習得するための学習形態も増えてきます。いずれの学部

であれ、卒業前には、各学部での学びの総決算とでもいうべきハードルがあります。卒業研究をおこなったり卒業論文を作成したりするほか、国家試験の受験が重要な学部もあります。みなさんの希望する学部がどのような教育課程となっているかは、本誌の各学部のページを参照してください。

● 大学院の教育

学部卒業後には、就職する場合もあれば、さらに上位学位（修士号、博士号）の取得をめざして大学院に進学する場合もあります。京都大学では卒業生のうち約60%が大学院に進学します。いずれにしても、学部在籍中から、どのような方向に進むかということ、考えて準備しておく必要があります。

ここでは、大学院の課程に関して紹介しましょう。まず修士課程では、学部の専門課程よりも、さらに専門的な学習をすることになります。修士課程には、大きく分けて、研究者養成のための従来型の大学院の課程と、高度な職業的技術をもつ実務家養成のための専門職大学院の課程があります。修士課程では、専門家としての第一歩を踏み出すことになります。また、大学院によっては、いったん社会に出た後に再び大学で勉強したい人のために、在職社会人を対象としたコースを設けているところもあります。

大学院には、他大学や他学部の卒業生、勤務経験のある社会人も入学してくることで、学部時代よりも学生の年齢層やキャリ

アが多様となるでしょう。また、分野によっては留学生の数も多くなります。このような多彩な人々の中で、みなさんの人間関係はさらに豊かなものとなるでしょう。また、大学院では、自分でテーマを発見し学んでいくことが重要となります。すなわち、良い答えを見つけることばかりでなく、良い問いを発することも重要となるときです。修士課程修了時にも、研究者養成の課程では修士論文の作成が、専門職大学院では関連専門職の資格試験の受験という、ハードルがあります。

修士課程を修了した後、研究型大学である京都大学では博士課程にまで進学する学生が多いのが特徴です。そこでは、研究テーマを自ら開拓し研究計画を立て、それにもとづき教員からの指導をうけます。博士課程に在籍する間には、学会での発表や学術雑誌への論文の投稿なども行うことになり、研究者としての活躍が始まるでしょう。また、様々な研究奨励資金に応募しそれが受給されることもあるかもしれません。このような研究の成果として、博士論文を執筆し審査に合格することで、国際的に通用度の高い学位である博士号を取得することができます。

京都大学で 学ぶということ

西村 周三(教育・学生・国際(教育)担当 理事)



京都大学は1897年に、東京大学に続き、日本で2番目に設立された大学です。首都機能のある東京ではなく、京都という歴史文化が深く中央政府から距離を置いた土地に設けられたこともあって、自由闊達な教育と研究の学風が築かれてきました。京都大学は帝国大学としての創立当時より「自重自敬」の精神のもと、学生と教員の自主性と自立性を重んじていました。また、現在の吉田南構内にあった旧制第三高等学校も自由の気風に溢れていました。第二次世界大戦後、これら二つを母体に発足した新制の京都大学においても、それらの伝統は「自由の学風」として現在まで脈々と引き継がれています。

京都大学の教育の基本理念には「対話を根幹として自学自習を促し」という表現があり、この言葉は、内外にあまりにも有名なのですが、時にはこの言葉は「自由放任主義」と理解されることがあります。しかしながらこの表現の伝えるメッセージとして重要なのは「対話を根幹として」という箇所、教員と学生との間や、学生どうしの対話を通じて学習意欲を高め、それをもとに各人が自発的に学習することを促すことが重要であるという趣旨が込められているのです。

京都大学には、10学部と17研究科、13の研究所と28の教育研究施設において、22,446人の学生と2,875人の教員、2,533人の事務・技術職員が、人類知のあらゆる分野にわたり、研究と教育にかかわる活動をおこなっています。

京都大学は大学の類型からいえば「研究型大学」に分類されます。10の学部はいずれのその上位学位課程、すなわち修士号や博士号取得のための大学院教育課程を備えています。(注1) 学部によって異なりますが、学部から大学院に進学する学生の比率は全体では、実に60%程度にまで及んでいます。また、独立研究科と呼ばれる大学院のみの課程はもちろんのこと、研究所やセンターが提供する大学院協力講座もあり、各分野の最先端の研究と深く関連した教育が行われることが、京都大学の特徴です。さらには、研究者養成のためのだけではなく、現代社会で要求される高度な専門的職業に関する能力と知識をもった高度専門職業人を育てるための専門職大学院も設置され、総合大学ならではの多様性を持っています。こうした活動を、創立以来蓄積されてきた図書館の蔵書、博物館の収蔵品、さらには電子メディアネットワークなどの情報基盤が背後から支えています。

このような恵まれた環境から生み出される研究は、世界的にもトップレベルを誇っています。物理学、化学、医学生理学の分野で7人のノーベル賞受賞者を輩出したことは言うに及ばず、数学のフィールズ賞をはじめ、多くの研究者が学術上の顕彰を受けてきました。数多く発表されている世界大学ランキングにおいても、京都大学は数千におよぶ世界の大学の中でも20位~30位(上位1%内)に安定して位置し続けています。また、哲学や文学、教育学などの人文科学諸分野での京都学派の伝統、人類学や生態学、地域研究分野でのフィールドワークの伝統など、日本や世界の学問に与えた影

響は実に大きなものがあります。さらに、第二次世界大戦前に思想や言論統制の厳しさが増す中、法学部の教員と学生が中心となって学問の自由を死守しようとした、「瀧川事件(京大事件)」に象徴されるように、常に研究・教育の自主性と自立性を重んじてきました。

京都大学が、京都という恵まれた土地にあることも大きな財産です。新入生に京都大学を選んだ理由を尋ねると、「自由の学風」と「研究教育の卓越性」のほかに、京都という土地への憧れも上位に上がってきます。京都には1,200年以上にわたって先人たちが築き上げてきた、有形無形の文化があるばかりでなく、先人たちが守ってきた山紫水明の自然環境もあります。かつて哲学者の西田幾多郎博士が散策したことから、鹿ヶ谷の疎水辺りの小径が「哲学の道」と名付けられたように、京都に残る自然や数多くの文化財は、私たちの内的な対話と探求を支えてくれるものとなるでしょう。キャンパス内でも11の施設が登録有形文化財となっています。

京都大学の主なキャンパスは、吉田、宇治、桂の3つに大きく分かれていますが、学士教育課程(学部)の段階では、教養教育(全学共通教育)も学部専門教育も吉田キャンパスを中心に行われ、ひとつのキャンパスで連続して学べることも大きな魅力です。下宿する学生のほとんどは自転車通勤できる範囲内に居住することになりますが、このことは授業時間以外でも学生間の親密な交流を可能にしています。また京都には多くの大学が存在するので、他大学の学生との交流も期待できます。

大学での学びの場は、授業ばかりではありません。クラブ・サークル活動といった課外活動にも、あるいは教職員や先輩同輩との交流にも、人格や人間性を陶冶していく大変重要な役割があります。京都大学には現在150を超えるスポーツ、文化に関する全学公認団体があり、大学はその活動と運営を施設や資金面で支援しています。また学生の主体的な学びと探求をサポートする施設も充実しています。学生が自己を探求し作り上げていくことを個別に親身になって支援するカウンセリングセンターは、国内の大学随一の充実度を誇っています。就職を支援するキャリアサポートも充実しています。また、大学の成員が不当に不利益を被ることなく、真に自由で人間的な関係を築き保てるために、セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメントの防止と対策にも力を入れています。

創立以来受け継がれてきた「自由の学風」を堅持していくことは、実はたやすいことではありません。自由を守り通していくためには、自律と責任、自発性と自己管理が必要だからです。京都大学で学び研究するということは、そうした自分への厳しさを引き受けることでもあります。みなさんもこれからぜひ、類まれなる教育・研究の環境をもつ京都大学で学び研究し、この大学の伝統とともに創り上げていくプロセスに参加されることを期待します。

(注1) 現在は大学院重点化により、大学院のほうが京都大学の主体となり、そこが学部教育も提供するという形になっています。

京都大学の 教養教育を担う 「全学共通科目」

「自由の学風」を尊重しつつ、
真に学生の力を発揮できる教養教育を提供するために

● 全学共通教育の実施体制と 全学共通科目の特徴

京都大学の全学共通教育（教養教育）は、主として「全学共通科目」によって具現化されています。

全学共通教育は大学院人間・環境学研究科及び大学院理学研究科を実施責任部局、その他の研究科・研究所・センター等を実施協力部局と位置づけ、全学あげて取り組むという、他大学には例のない特徴的な体制で実施しています。全学共通教育の全学的な責任組織である高等教育研究開発推進機構では各部局から提供される科目について、実施責任部局及び各研究科等の教員が参画する全学共通教育システム委員会のもとに設置された4つの専門委員会と11の科目部会において、カリキュラムの設計や科目審査を行い、基礎から応用、高度な内容まで多様で特色ある科目を提供しています。

全学共通科目（教養科目）

平成21年度は、人間・環境学研究科と理学研究科を中心に、各学部、研究科、研究所及びセンター等から996科目の提供があり、内訳は次のとおりです。

A群（哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学等の系列科目）：363科目

B群（数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学等関連科目）：386科目

C群（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語〔留学生対象〕）：108科目

D群（スポーツ実習等）：8科目

複数群：131科目

EX群（大学コンソーシアム京都単位互換科目）：21科目

[全学共通科目について詳しく知るには]

高等教育研究開発推進機構
教育推進部共通教育推進課
<http://www.z.kyoto-u.ac.jp/>

学部科目（専門科目）

学部科目（専門科目）は、各学部の教育方針に基づき、1年次から学部の専門科目を配当しています。なお、他学部の専門科目も受講することができます。

* 学部の専門科目については、
学部紹介のページをご覧ください。

● A群科目（人文・社会科学系科目）

A群科目は、哲学・思想、歴史・文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化、社会科学、複合の各系列に区分されています。その授業形態は講義とそれに関する少人数の授業である基礎ゼミナール（講読・実習などを含む）に大別され、科目数も300を超えるヴァリエティに富んだ内容となっています。これらの科目は、人間の興味・関心は多様であるという前提に基づいて保持されており、京都大学のA群科目の大きな特徴にもなっています。

● B群科目（自然科学系科目）

B群科目には、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学及び複数領域にわたる応用的な講義・実験・実習科目が提供されています。これらの科目には、理系の基礎科

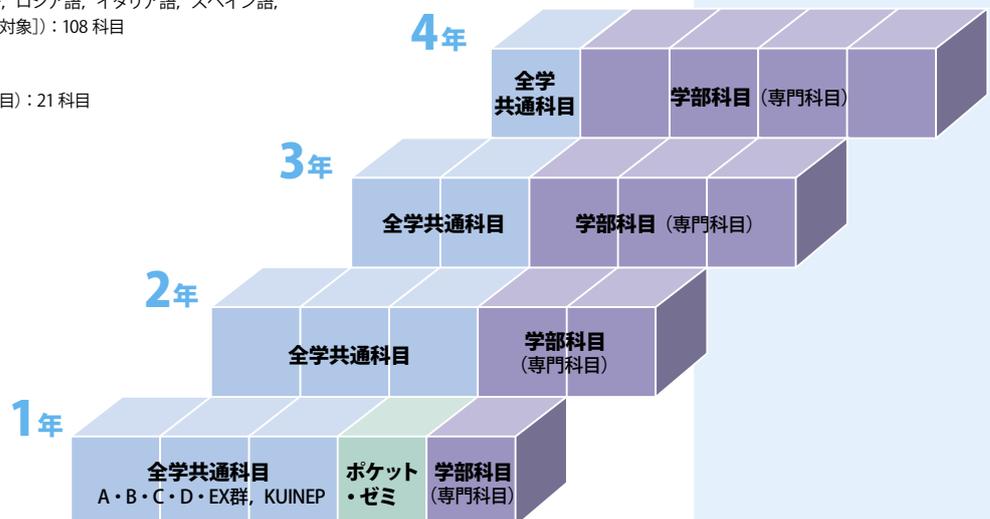
目やより高度な内容の科目のほか、文系学生を対象とする教養科目等があります。

● C群科目（外国語科目）

C群科目には、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語（留学生用）の10ヶ国語があります。外国語教育においては、学術的教養の涵養と学術的言語技能の修得を目指すとともに、異文化理解と外国語運用力の養成にも努めています。また、英語では「自律学習型CALL」を活用した授業を大規模に導入しており、今後、他の外国語を含めCALLを活用した授業がさらに充実するよう取り組んでいます。

● D群科目（保健体育科目）

D群科目は、スポーツ実習と運動や健康に関する講義で構成されています。社会的交流技能の養成、スポーツ動作の技能向上、体力・健康作りを目的とするスポーツ実習では、ソフトボール・サッカー・テニス・バレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・フィットネス・二軸動作等を開講しています。講義では、身体や神経科学に関する学術的知識を学び、心身ともに健康で豊かな生涯を送る知恵や教養を身につける内容となっています。





● **EX 群科目** (大学コンソーシアム 京都単位互換科目)

EX 群科目は、大学コンソーシアム京都に加盟する大学が単位互換科目として提供する科目のうち、「美術」、「芸術」、「芸能」の各分野の中から本学が指定する科目のことをいいます。

※特色ある全学共通科目として、次の3種類の科目が開講されています。これらも授業内容により A~D の各群に分類されます。

● **新入生向け少人数セミナー** (ポケット・ゼミ)

新入生向け少人数セミナーは、新入生に学問へのモチベーションを与えることを目的として、1 回生時のみ本学専任教員が様々な形態で行う授業です。10 名程度の少人数という親密な人間関係の中で教員との対話を重視する授業は、学生と教員の双方から高い評価を得ています。

(平成 21 年度は、155 科目を開講)

各学部の特色あるポケット・ゼミの内容を、8 ページから 13 ページに紹介しています。

● **国際教育プログラム** (KUINEP)

国際教育プログラムは、京都大学と海外の大学との学生交流協定の一環として、海外の協定校から迎えた留学生と本学の学生を対象に学際的・先端的なテーマを英語で行う授業です。

(平成 21 年度は、24 科目を開講)

● **国際交流科目**

国際交流科目は、海外でのフィールド研修や外国の大学での授業を通じて現地の自然、政治、経済、文化、歴史などを学ぶことを目的としている授業です。これまでにタイ・中国(上海)・韓国・ベトナム等で実施されています。

(平成 21 年度は、4 科目を開講)

全学共通科目の科目選択から単位認定まで (平成21年度前期の例)

原則として、前期・後期ごとに授業を完結する Semester 制を実施しています。



活力ある教育の場の形成と、環境の充実を目指して

学生と教職員が一緒になって学び嬉々として熱中する場（Field）を提供

● 新入生向けガイダンスの実施

高等教育研究開発推進機構では、全学部の新入生を対象とした「全学共通教育に係る新入生向けガイダンス」を実施しています。このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念や学生個人々の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介し、さらに総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所及びセンターから提供される多様な全学共通（教養）科目について、その選択の仕方や適正な履修方法の説明を行い、学生の自律的な学習を促しています。



● KULASIS

KULASIS(クラスィス)とは、あらゆる教務情報を Web 化することにより、より早く正確な情報伝達及び学生・教員への支援やサービスの充実を目指し、京都大学で開発・運用しているシステムの名称です。

学生はパソコン・携帯電話から学内外を問わず、教務情報（休講・授業変更・レポート等）の確認・履修登録・採点確認等の機能を利用することができます。ログイン件数は多い日には 10,000 件を越え、全学共通科目を履修するためには必要不可欠なものとなっています。

● Student Research Room

学生が自主的に学習できる静かな空間を提供することを目的に「Student Research Room」を吉田南総合館北棟地階に設置しています。10時から19時までの開室時間多くの学生が来室しています。



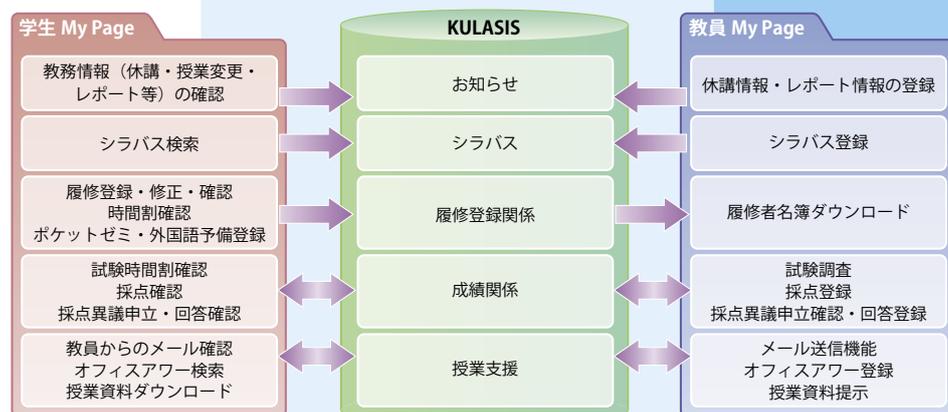
〔写真〕 Student Research Roomの様子

● 吉田南構内の学習・教育環境の整備

全学共通教育が主に行われている吉田南構内では、年間約9,000人の学生が授業を受け、1,000人以上の教員が授業を担当しています。高等教育研究開発推進機構では、甲子園の約5.7倍の広さを持つ構内の教育環境整備や安全に配慮した歩行者と車のゾーニングを図るとともに、自習室やリフレッシュコーナーの設置等、学生が自主的に学習でき快適に過ごせる空間を提供しています。また、学生の課外活動へも積極的に支援しています。



〔写真〕 吉田南総合館 館内



上：KULASISのホームページ
左：KULASIS（全学共通科目）の概要（平成21年4月現在）

ポケット・ゼミ

京都大学ならではの「少人数教育」。
教育の原点である人間と人間の触れあいの機会

京都大学では、特色ある教育を目指して、平成10年度より新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）という授業科目を開設しています。ポケット・ゼミは、入学直後の新入生の希望者を対象に、全学の教員がボランティアとして実施する授業で、原則として10人程度の少人数単位で前期に実施され、大学とはどういうところか、学問をするとはどういうことか、最先端の分野でどんなことが行われているかなどについて、教員が直接に学生に語りかけ、あるいはさまざまな研究のフィールドに誘う、いわば「京都大学そのものへの入門」の授業として機能しています。最近では140余りの科目が提供され、1,400人近くの学生（全人生の約46%以上）が受講しています。

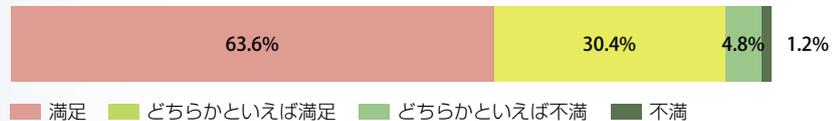
ポケット・ゼミは本学が全国に先がけて取り組みを進めてきた少人数教育の授業法であり、これまで教員、学生の双方から高い評価を得ており、京都大学の将来にとっても重要なものと考えられています。

右のページでポケット・ゼミの内容の一部を紹介しています。

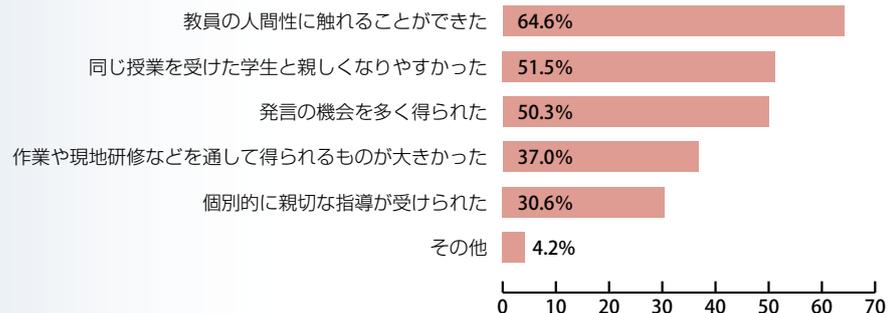
受講学生アンケート調査の結果

[[新入生向け少人数セミナー（ポケット・ゼミ）の現状と課題-平成20年度アンケート調査報告-]、
京都大学高等教育研究開発推進機構、平成21年3月発行より抜粋]

Q1. 全体として、少人数セミナーの授業に満足していますか？



Q2. 少人数形式の授業のよかった点



Q3. 自由記述の意見

- 大学の研究室の雰囲気を実感でき、とても有意義でした。
- 学部の枠を越えて、様々な人たちが集まっているのが、魅力の1つ。
- 講義形式ではなく、同じ目線で教授の話を伺い、討論できとても良かった。
- 受け身でなく、自分の頭で考える、ということがしっかりできました。
- 新入生が先端的な研究に触れるという点で、良いものだった。
- プレゼンテーションという貴重な体験をさせていただき、感謝しています。
- もっと受講科目を増やしてほしい。
- 前後期とも開講して下さったら嬉しいです。
- 生き生きとした実地経験や直接体験ができて良かったです。



「イギリス詩入門」

人間・環境学研究科
桂山 康司 准教授
 専門分野：英文学

● 舌の快楽

文字に慣れ親しんだ現代人は、言葉というものを、舌を通じてではなく、目を通してのみ理解するという便法に違和感を覚えなくなり、今や、文字は電子信号に変換されて世界を高速で駆け巡る時代となった。しかし、それでもなお、舌の快楽に訴えかけるパフォーマンスが、現代においても頑に存在する。謡、詩吟、音頭取り、応援団の掛け声、アカペラ。頭の理解だけでは覚束ないところがあって、声に出さないでは伝わらない何かが確実に存在する。それをリズムと呼ぼうと何と呼ぼうと、ともかくも、それを隈なく詩という言語芸術に総合し、結晶化させることに生涯をかけた人々がいた。このゼミでは、日本人には外国語である英語において、音にこだわり続けた人々の思いを追体験し、そのことを通じて言葉そのものに対する理解を深めることを第一の目的とする。

● 頭ではなく全身で

言語内の3つの構成要素（音、文法、意味）の中で、特に、意味の示す表現力は他を圧倒するものがある。効率を求める現代人には、それゆえ、意味さえ分かればそれでよい。しかし、言葉の発揮する表現力は、実は、もっと多様で、繊細かつダイナミックであり、言葉は単に「意味する」に止まらず、語順や響き、余韻に拘るばかりか、曖昧と思われるすべてを包含した総体としてそこに「ある」。言葉は、「事（＝事実）の端（＝瑣末なもの）」などではなく、むしろ、言葉こそが実体であった。「光あれ」と言えば「光が生じた」ように、言葉は現実をそのままに体現する言霊であったのだ。その力を信じている者が詩人と呼ばれる人々たちである。それゆえ、その表現を味わうには、頭で意味を理解するだけではなく、全身でその言葉を受け止めなければならない。ともあれ、何度も何度も口にして、舌触りを

しっかり確認することが肝要である。さあ、一緒に、音読しよう。

● 繰り返しと変奏

英詩の表現に特徴的な技法とされるもの一強勢のある音節が強勢のない音節と交互にあらわれることによって生ずるリズム、行（line）による区切り、連（stanza）形式、脚韻（rhyme）、頭韻（alliteration）、子音韻（consonance）、母音韻（assonance）一さまざまな区分けにおける繰り返しと変奏の織りなす絵模様が、音読することによって舌の快楽となって、直覚的に理解される。このゼミでは、直覚的理解をいかに論理的に説明するかを通じて、また、論理において説明された内実を感覚的に実感することを通じて、双方への感性が相乗的に、より鋭敏に研ぎ澄まされていくことを目指す。論理に飽き足りないあなた、人に説明できない独自の感覚をどうにかして人に伝えたいあなた、いっしょに詩を味読しながら、言葉そのものに対する感受性を豊かにすることで、身の回りのできごとや人々の思いがさらに濃やかによくわかる人になり、延いては、その感性を生かして独自の学問を打ち立てる！—そんな冒険の第一歩を、ここから踏み出しませんか。



「中世ヨーロッパの社会と文化」

文学研究科西洋史学専修
服部 良久 教授
 専門分野：ヨーロッパ中世史

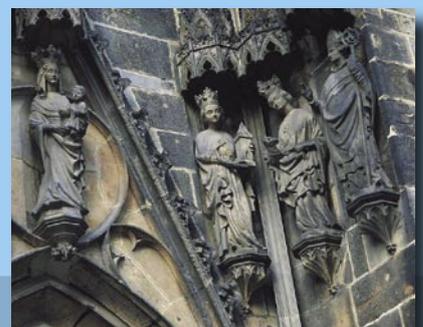
現代のヨーロッパ人にとっても中世という時代は、遠い過去の時代ですが、日本人にとってヨーロッパ中世とはどんな意味をもっているのでしょうか。日本の「戦国もの」が繰り返しテレビ・ドラマ化されるように、こんにちのヨーロッパでも「中世もの」が映画や小説、テレビに繰り返し現れます。とくに騎士的なスタイルの戦士が姫君をめぐる争い、英雄的、犠牲的な奉仕を行う再版「騎士物語」は、「スターウォーズ」から無数のゲーム・ソフトにまで時空を越えたストーリーに、繰り返しインスピレーションを与えてきました。たしかに中世文化には現代人を惹きつけるものがあります。しかしNHKの「大河ドラマ」から直接、現代人が困難な状況を生き抜く知恵と教訓を得ようとするのが馬鹿げているように、近代とは異なる中世社会の基本的なしくみを認識しなければ、中世人の価値

観、理念、そして行動様式も理解できないのです。

中世社会では、近・現代ヨーロッパの基礎になる文化の型が形成されると同時に、近・現代ヨーロッパが失った、あるいは克服した制度や慣習が存在しました。このゼミではこのような意味で、現代のヨーロッパ人にとって「遠くて近い」中世社会の様々な事象から、受講者が自分の関心・興味にしたがって課題を見つけ出し、関連文献を読んで発表します。例えば、中世における女性の地位、魔女狩り、神判（神明裁判）、聖人・聖遺物崇敬、イスラームとヨーロッパの交流、刑罰と刑吏（刑の執行者）、ヴァイキングの活動、異端審問など。これらの各々が、近現代ヨーロッパにはなかった中世特有の事象であり、あるいはそうでなくとも近代とは全く異なる相貌を示す制度や事象なのです。発表者と出席者は、ヨーロッ

文学部

パ中世にはなぜそのような事件、事象、文化、慣習が生まれたのか、中世人の立場に身を置いて想像をめぐらし、自由に議論します。そこから中世社会の輪郭がおぼろげに姿を現すこととなります。そのようにして、専門的知識に頼らず自身の思考と相互の議論を通じて、ヨーロッパ中世社会、そして近現代ヨーロッパの「生い立ち」=歴史的性格の一端を理解すること、これが本ゼミの目標です。それは高校の受験準備中心の勉強から、自分で問題を設定し、議論、思考する人文学への第一歩なのです。





少人数セミナー（ポケット・ゼミ）は、その名称が示す通り、受講生と教員、そして受講生同士が、親密なコミュニケーションをとりながら授業を進めることができるように少人数編成となっています。また、受講生は、自分の学部以外の教員と接することを勧められていますので、少ない人数の中にも異なる学部からの受講生が存在し、各学部の固有の事情や文化を共有しながら、多角的な視点からの議論ができるようになっています。ちなみに、本年度の私の授業には、総合人間学部、文学部、法学部、経済学部、工学部の5つの学部から各1名、合計5名の1回生が参加しています。

この授業のテーマは、人間が起こしてしまう「間違い」です。私自身は、これまで人間の記憶を中心的テーマとして、認知心理学という分野で研究してきました。記憶の仕組みを調べるのですが、記憶という働

「間違いの認知心理学」

教育学研究科

齊藤 智 准教授

専門分野：認知心理学

きに生じる間違い（たとえば、事実とは異なるように覚えていること等）が、記憶の仕組みを探る上で非常に多くの情報を提供してくれることがわかっています。その他の認知心理学のテーマを見ても、同様のことが言えます。言い間違いや聞き間違いは、言語を司る心の仕組みを教えてください、アクション・スリップと呼ばれる行為の間違い（例えば、チョコレートを包みから出して、包みを口に運んで中身をゴミ箱に捨ててしまう等）は、我々の運動行為やその制御の仕組みについて重要な情報を提供してくれます。つまり、「間違い」は、人間の心の働きを扱う多くの研究テーマに共通したパラダイムであると言えるのかも知れません。

それでは、「間違い」という心の働きの誤作動は、どのようにして心の働きについての情報を提供してくれるのでしょうか

か。私たちは日常的に多くの間違いをしますが、こうした間違いは、無秩序に起こるのではなく、ある種の規則性を備えています。そして、その規則性は、心の働きを制御する規則を反映していると考えられています。「間違い」は、一見すると、我々の心の働きの「規則からの逸脱」であるかのように見えますが、実は、「間違い」は心の誤作動でありながら、心の「規則の現れ」なのです。言い換えると、「間違い」とは、宇宙を観測するための天体望遠鏡や微生物を観察するための顕微鏡と同じように、直接的には見ることでできない心の働きを観察するための道具であるとも言えます。

この授業では、「間違い」に関連した著書や論文を読むとともに、実際に間違いを収集し、理論的な立場から分析を試みる予定です。そうした活動を通じて、さまざまな「間違い」に見られる規則性を探り、認知心理学的な視点からその意味を考えたいと思っています。



大学で学ぶ学問の目的は、多くの専門的知識を獲得することではなく、自分で考える能力を身につけることにあります。いささか図式的に言えば、高校までの「勉強」が、「問題」に対する「解答」をいかに出すかに関心を向けるのに対し、大学の「学問」は、「問題」自体を探し出すことを目的としていると言えます。物事を根本から疑い、批判的に考えることは、時に苦痛や困難を伴いますが、非常にスリリングで、楽しいことでもあります。また、物事を根本から考えるという能力は、文系・理系を問わず、分野を越えて全ての大学生に最終的に求められているものだと思います。ポケットゼミは、このような学問の面白さを、大学に入学したばかりの1回生に対して伝えることを主目的としています。受講生も、あらゆる学部の学生を対象にしています。

私は法学部に所属し、日本政治外交史

「政治指導者論」

法学研究科

奈良岡 聡智 准教授

専門分野：日本政治外交史

という分野を専攻しています。この分野は、日本の政治・外交を歴史的視点から考察するもので、近現代日本の政治、外交に関すること全てが研究対象となります。高校の日本史の近現代分野を発展させたものというイメージしやすいかもしれませんが、単にそれを詳しくしたものではありません。この分野は政治学の一領域を形成しており、憲法、国際法、法制史などの知識が不可欠です。また、この分野は歴史学の一分野でもあり、西洋史、東洋史にも通じ、できれば複数の外国語を習得することが求められます。私自身は、「大正デモクラシー」という言葉で知られる大正～昭和初期の政党政治、幕末から第二次大戦期ぐらいまでの日英関係といったことを研究しており、最先端の研究成果を積極的に授業に反映させていこうと思っています。

このように書くと「高校で日本史を取っ

ていないから無理だ」「語学が苦手だからやめておこう」などと思われるかもしれませんが、ご心配は無用です。この授業は、学問の最先端を極めるといよりは、その雰囲気味わってもらうことに主眼を置いています。そのため、人間＝「政治家」という、歴史を理解するのに比較的取っつきやすい素材を取り上げ、彼らの政治指導を検討するということを通して、近現代日本の政治・外交とはどのようなものだったのかを考えていきます。具体的には、受講者に興味のある政治家を一人取り上げて自由に発表してもらい、それに基づいて全員でディスカッションをしていきます。近現代の日本を駆け抜けた様々な政治家たちについて考察することで、高校までの勉強では味わえなかった歴史の醍醐味を感じて欲しいと思っています。2009年度に取り上げたのは、以下のような政治家たちです。

徳川慶喜、井伊直弼、山県有朋、陸奥宗光、西園寺公望、加藤高明、後藤新平、高橋是清、広田弘毅、近衛文麿、鳩山一郎、吉田茂、田中角栄

なお、2009年度の授業の最終回には、京大のそばにある西園寺公望の別荘跡（清風荘）を皆で見学しました。



このゼミのねらいは、現在、日本の地域が抱える諸問題や、各地での地域づくりの取り組みを学ぶことで、持続可能な地域、日本、世界のあり方を考えてみることにあります。とくに、アメリカに端を発したグローバルな規模での経済危機は、日本の都市や農村に大きな影響を与えています。他方で、地球環境問題やエネルギー問題、食料問題といった長期的で、人間の生存条件そのものに関わる問題も横たわっており、ひとことで持続可能な世界をつくるといっても、そう簡単なことではありません。このゼミは、世界や日本をつくる基礎細胞ともいえる人間の生活に最も近い「地域経済」の仕組みと、それを再構築するための具体的な取り組みについて学んでいくというものです。

ゼミ生は、6人で、経済学部生3人のほか、法学部生2人、工学部生1人です。出身地も、

「地域を究める」

経済学研究科

岡田 知弘 教授

専門分野：地域経済論

東京都、大阪府、兵庫県、滋賀県、石川県と、多彩です。

ゼミでは、まず、地域経済の仕組みや現状、地域開発や地域づくりの実例をテキストで勉強し、2人ずつペアになって毎回分担報告し、それをもとに議論することからはじまります。大学に入ってはじめてゼミでの報告の仕方を学びますので、最初は戸惑う人も当然います。私の方から簡単にレクチャをして、レジュメの作り方を教えます。回を追って、レジュメの作り方は、ワープロソフトの技法も含め目に見えて上達していきます。ゼミの司会の仕事も、学生自身がやります。なんといっても、ゼミの主人公は、学生自身であるからです。教員の役割は、学生の皆さんの学習や討論をサポートする黒子役だと考えています。

先日は、関西新空港のプロジェクトについて検討しました。「なぜ、関西に3つも

空港ができたのか」「なぜ海上埋立空港になったのか」「関西新空港は、どうして経営がうまくいかないのか」「りんくうタウン開発は、なぜ失敗したのか」「大阪府や泉佐野市の財政はどうして破綻したのか」など、次から次へと疑問が出され、時間がすぐに経ってしまいました。出身地や学部の違いもあって、鋭く、面白い意見が続出し、楽しい議論ができます。結局、時間が足りないということで、弁当もちこみで、30~40分延長ということも。

テキストの勉強をしながら、学期末をめざして、各人が自分の調べたい地域とテーマを選び、レポートづくりをしていきます。市町村合併問題から、大都市の再開発や財政危機問題まで、幅広い分野にわたって、ある特定の地域を深く掘り下げて調査、研究しますので、教員の私にとっても大変勉強になります。どんなユニークなレポートが出てくるのか、楽しみです。



● ポケゼミのあらまし

本ポケゼミでは、テキスト「活動する宇宙」(裳華房, 1997年)を半年かけて輪講し、夏休みに飛騨天文台で2泊3日の合宿ゼミを行なっている。テキスト「活動する宇宙」は、20世紀後半に明らかになった宇宙・天体の激しい活動現象を身近な太陽から100億光年先のクェーサーや宇宙ジェットに至るまで、丁寧に解説した本であり、基礎から始めて学問の最先端まで触れることができる。ゼミには、毎年さまざまな学部から8名前後が参加する。毎週、1人の学生が1つの章を担当し、内容をレジュメにまとめ、1時間ほどかけて自分の理解を述べる。その後、教員が詳しい解説をする。

● テキストは難しい

元々このテキストは学部の3、4年生や大学院生向けに書かれているので、大学に入り

「活動する宇宙」

理学研究科附属花山天文台

柴田 一成 教授

専門分野：太陽宇宙プラズマ物理学

理学研究科宇宙物理学教室

嶺重 慎 教授

専門分野：宇宙物理学

たての1回生には、かなり難しい。しかし、それを承知でテキストに採用したのはには理由がある。京大に入る学生がいかに優秀といえども、高校までは手取り足取りの教育しか受けていない。答えのわかっていない問題や予備知識が十分与えられていない教科書や授業は受けたことがない。しかし、大学とはそもそも答えがわかっていない問題を研究するところなのだ。講義や実習も予備知識が親切に与えられるとは限らない。そのような状況でいかに答えを見出し、問題を解決するか、それを学ぶのが大学である。高校や予備校のように教材もヒントもすべて与えられた上での学習ではなしに、右も左もわからない状況の中で、手探りで教材やヒントを自分で探しながら勉強することが要求される。それを大学に入りたての1回生から学んでもらいたい。そういう思いから、1回生には難しいテキストを選んだ。もちろん、担当教員がいくらで

も解説や補足ができるゼミ形式ならではの選択である。そして、確かに難しいのだが、毎年、学生は必死にくらいついてくる。文系(文学部や経済学部など)の学生もいるが、和気あいあいと、共に天文学を学んでいる。ゼミでは、途中から担当教員によるスライドショーが始まったり、二人の教員による研究談義が始まったりする。これも学生には楽しみのようだ。テキストは単なる触媒に過ぎない。

● 夏の飛騨天文台合宿

夏の飛騨天文台合宿は、学生にとって最も楽しい経験だ。飛騨天文台の最先端の望遠鏡や設備を見学し、天気が良ければ、太陽や星の観望もできる。運が良ければ、満天の星空に堂々たる天の川を見つけ感動して涙する女子学生もいたりする。合宿ではゼミ発表も重要行事。各人が自分の興味で自由に選んだ宇宙関係の話題の自由研究発表をやる。テキストでは扱わなかった初期宇宙や、宇宙人にまで話が及ぶことがある。食事はすべて自炊。夕食は毎回コンパ状態と化す。半年間同じゼミに出席していたのに、合宿のとき初めて親密に言葉を交わす学生達もいる。合宿とはそういう人と人との交流の場なのかもしれない。



医学研究科

岩田 想 教授

専門分野：構造生物学

小林 拓也 講師

専門分野：生化学，薬理学

野村 紀通 助教

専門分野：分子生物学

足立 誠 助教

専門分野：細胞生物学

「タンパク質の構造と機能」

● 授業のテーマと目的

私たちの体では2万種類以上のタンパク質が働いており，生体に必要な触媒，情報伝達，形態形成，エネルギー生産など各種の働きをしています。本ゼミでは毎回機能の違ったタンパク質に焦点をあて，それらの生体内での機能を立体構造をもとに理解することを目指します。タンパク質構造の基礎やX線構造解析の基礎についても勉強します。

● 授業計画と内容

文系理系を問わず，さまざまな学部からの参加者がいることが本ゼミの特徴です。毎回，セミナー形式で講師が異なった構造機能研究の話をしなが，学生と対話形式で質疑応答する形で進めます。簡単な結晶化実験も行います。



薬学研究科

富岡 清 教授

専門分野：薬品合成化学

竹本 佳司 教授

専門分野：薬品分子化学

掛谷 秀昭 教授

専門分野：システムケモセラピー
(制御分子学)

伊藤 美千穂 准教授

専門分野：薬品資源学

山田 健一 准教授

専門分野：薬品合成化学

高須 清誠 准教授

専門分野：薬品分子化学

服部 明 准教授

専門分野：システムケモセラピー
(制御分子学)

大野 浩章 准教授

専門分野：薬品有機製造学・ケモゲノミクス

大石 真也 講師

専門分野：薬品有機製造学・ケモゲノミクス

山本 康友 助教

専門分野：統合薬学教育開発

「薬の有機化学 Organic Chemistry of Pharmaceuticals」

● 授業のテーマと目的

医薬品が開発されるまでの探索から設計・合成までを眺め，薬の化学の面白さと難しさを探る。

● 授業計画と内容

現在使用されている医薬品の歴史的な流れを理解しながら，なぜ，有機化合物が医薬品として機能するのか，なぜ副作用を抑えるのが難しいのかなどについて調べ，考え，理解してもらう。また，最新のテクノロジーとメソロジーを駆使した医薬品開発の一端を紹介する。

「磁気を使う：磁気センサから磁気浮上まで」

工学研究科電気工学専攻

引原 隆士 教授

専門分野：非線形力学、

パワーエレクトロニクス、MEMS

子供の頃から、磁石を使って遊んだ経験の在る人は多いでしょう。コンパス（方位磁石）を知り、地磁気と磁極の極性N極とS極があること、同極では反発力、異極では吸引力が働く、そして、磁石から磁束が生じることを砂鉄の分布で理解した人は多いと思います。この目に見えない作用を知ることは、何かワクワクする経験ではありませんでしたか？一つの磁石が他の磁石から明らかに力を受けた瞬間には磁石を押さえていた手が力を感じます。この磁石間の作用力は身近でマクロに観測できる物理的な力です。磁場の工学的な応用は19世紀に達成され、モータや発電機に利用されています。また、リニア新幹線では、磁場を用いて列車を非接触浮上させ、摩擦を減らし高速化が図られています。このように電気磁気学は古い学問ではなく、現代科学・工学につながる物理現象です。

2005年から3年間「磁気浮上」を主テ



ホントに浮いた！（反磁性）



アー、どうしても最後の一点が離れない！

マとしてポケットゼミを開講してきました。その講義では、永久磁石または電磁石、あるいは磁性材料を用いて「磁気浮上」を達成する実験にトライしてもらいました。1800年代に英国のアンショウが、静磁場のみが存在する領域では、磁石を安定に支持することができないことを示しました。しかしながら、電流と磁場にフィードバック制御を行い、対象を磁気で間接的に支持することが試みられ、1937年に磁気浮上が達成されるのです。こういった歴史的な発見、発明を身近な永久磁石や電磁石を用いて再体験してもらうことを本ポケゼミでは重視しました。つまり、永久磁石を単に対向させて組み合わせただけでは安定な浮上が達成できないことを身を以て経験してもらいました。どうすれば磁気浮上が達成できるのか・・・、ポケットゼミの受講生は様々に工夫します。磁石を空間的に配置して浮上側の磁石が受

ける力の釣り合いを図る、浮上体を回転させて磁場を平均化する、身近な素材で反磁性体を作る、ヘルムホルツコイルで能動的に磁場を変えるとといった様々な工夫をしてくれました。ホームページで結果の一部を公開したところ、学外の研究者からも興味を持たれ、この講義に大きな反響を得ました。このように、ポケットゼミは、受講生だけでなく、講義する側にも驚きと発見の体験を与えてくれる貴重な講義となっています。考え工夫するという作業は、いろいろな知識を横につなげ、新入生の方々が、高校で学習したいろいろな力学や電磁気学の知識を、磁場を利用するあるいは検出するという経験で、融合する様子が見ている側にも解ります。非接触で物体が浮いたという感動と達成感最初は受動的に参加していた受講生にも大きな意識の変化を与えている様です。



ユーカリ植林地での説明



採取してきた試料を葉と枝に分け、面積や重さをはかる

「熱帯林をはかる」

農学研究科森林科学専攻

岡田 直紀 准教授

専門分野：樹木生理生態学

●なぜこのポケゼミを始めたのか

京都大学はかつて探検大学と呼ばれていました。海外に学術探検隊を派遣して様々な調査を行ってきた輝かしい歴史は私を魅了し、そのことが京都大学を受験する重要な動機となりました。今や海外に出かけること自体は珍しいことではなくなりましたが、かつてのような意味での学術探検、つまり不自由な環境の下で多少の苦勞を伴いながら行う調査研究は今でははやらなくなっただけに見えます。しかし、このゼミでは敢えてそのような体験を学生諸君にしてみたいと思っていました。行き先はやはり熱帯をおいて他にありません。そして言うまでもなく、熱帯林の研究を担うフィールドワー

カーがこのゼミから現れることを期待しています。

●どのようなことをしているのか

夏までは熱帯林に関する基礎的な学習を続けていますが、ゼミの中心は夏休みに行く現地でのフィールドワークです。これまでの4年間に、ボルネオとタイにそれぞれ2回ずつ出かけました。単なる見学旅行ではなく、簡単でもいいから何がしかの調査を行い、それを記録することを続けています。

ボルネオのキナバル山では、標高700mから3000mまでの異なる森林において、そこに生育する樹木の水分生理を調べました。標高の違いに基づく温度、水分環境の違いが樹木の耐乾燥性にも違いを生み出していると考えたのです。東北タイの熱帯季節林では、常緑と落葉の森林で枝と葉の資源配分について調べました（写真）。乾季に葉を落とす樹木と落とさない樹木とは、厳しい時期を生き抜く戦略の違いがあります。葉

の厚さと大きさおよび枝の太さには戦略の違いを反映した差があると予想し、その意味を明らかにしようとしたのです。結果はまずまず予想通りで、それらをこれまでに学会で2回発表しました。

現地での活動ではフィールドワークのほかにもうひとつ大切だと考えていることがあります。それは、そこに住んでいる人々の暮らしを実際に自分の目で見ることです。熱帯林の減少は自然現象ではありません。生きていくために焼畑や違法伐採をせざるを得ない人々がそこにいるのです。それはどのような人たちでしょう。写真や映像で紹介される熱帯林からは、自然の驚異や豊かさだけが強調されて、しばしば人間の姿が抜け落ちていきます。現地の人たちが何を食べ、どのような家に住んでいるのかをぜひ見て欲しいと思っています。そうした理由から、必ず市場に出かけて各参加者が現地の食材をひとつ選び、それを食べながら日本との生活や文化の違いについて考えることにしています。

●「熱帯林をはかる」へのお誘い

楽しくて知識が身に付く授業が世の中では評価されます。ではつまらなくても身に付く授業と、楽しいけれど身に付かない授業とではどうでしょうか。私は躊躇なく後者を選びます。好奇心旺盛な人にとって、熱帯でのフィールドワークは間違いなく楽しいはず。ぜひお越しください。

学術情報メディアセンター

ダイナミックに変化する情報環境において、実社会で即戦力となる人材の育成と、情報関係の基礎技術の教育に取り組んでいます。



【写真】 右上：CALL 自律学習用端末の利用風景 / 右下：CD-ROM 版 CALL 教材

教育における学術情報メディアセンターの役割

全学共通科目の語学教育と情報教育をセンターの計算機環境を利用して行っています。

● 全学共通教育における役割

学術情報メディアセンターでは、京都大学におけるさまざまな教育研究活動を支えるために、高い安全性と利便性を備えた先端的な情報環境を構築・運営しています。センターでは、学術情報ネットワーク(KUINS)、スーパーコンピューティングサービス、および学生の皆様に関係の深い語学学習システム(CALL)、教育用コンピュータシステム、そして、遠隔講義支援サービスを情報基盤機構と共に提供しています。

● CALL

CALL(コール)とは、Computer-Assisted Language Learningの略で、コンピュータを使用した外国語学習を指しています。CALL授業には、「教室学習型CALL」と「自律学習型CALL」があります。「自律学習型CALL」クラスは、学生が大学の自習室や自宅などコンピュータの使用できる環境で、CALL用に開発されたCD-ROM教材を使用し、時間や場所に拘束されることなく学習することができます。

現在、自律学習型CALLを大規模に導入している英語授業では、成績は3回の試験の得点とFDに記録された学習時間に基づいて判定されます。

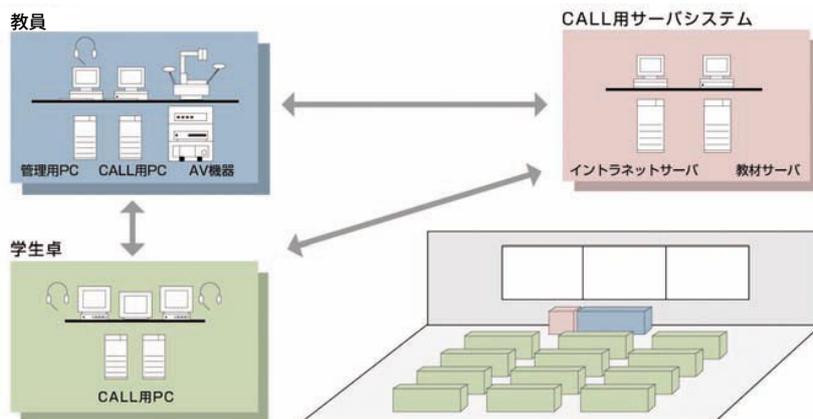
英語における自律学習型CALLの導入は、再履修者が非常に多くなり、大人数クラスでの授業を余儀なくされたため、高度な英語教育の実施に支障を来すようになったことが契機ですが、「発音、文法、基礎会話」等の外国語基礎運用能力向上のための新しい教育方法として、他大学から高い評価と関心を獲得しているだけでなく、学生の満足度も高いという結果が出ています。

また、ドイツ語、フランス語等においてもCALL用の教材を独自で開発し、教室学習型CALL授業に導入するとともに、CALL用自習室における学生の自律学習にも活用されています。

● 情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目のB群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も行われています。

学術情報メディアセンターでは、全学共通科目だけでなく、各学部でのメディアを利用した教育も支援しています。



【図】 CALL 教室システム概念図

● CALL 自律学習コーナー / CALL Learning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL 自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。

CALL 自律学習用端末では、センターで開発された Introduction to the Beauties of Kyoto を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては、必須の環境となっています。

また、同じく語学の自習室として、吉田南総合館北東2階に設けられた「CALL Learning Space」には、ヘッドセットとCALL 授業（外国語教育参照）のテキストがインストールされた Windows 自習用端末を20台設置し、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。

● 教育用コンピュータシステム

教育用コンピュータシステムはネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ約1,300台を学術情報メディアセンター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室やCALL教室、サテライト端末室など30カ所に展開しています。その一部は

利用者がいつでも使える自習用端末として、学術情報メディアセンター北館および南館、附属図書館、人間・環境学研究科・総合人間学部図書館内にオープンスペースラボラトリー (OSL) として設置し、運用しています。

これらの端末では、Windows と Linux の2系統のオペレーティングシステムが利用可能です。またオフィスソフトのほかプログラミング言語の処理や統計処理、数式処理など大学での学習に必要なさまざまなソフトウェアが導入されています。さらに、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWW ブラウザを利用した Web メールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールや WWW を利用したコミュニケーション環境を提供しています。

学術情報メディアセンター

- 北館 OSL のサービス時間
月～金曜日：10：00～17：00
(祝・祭日を除く)
- 南館 OSL のサービス時間
月～金曜日：10：00～20：00
土曜日：10：00～18：00 (試行中)
(祝・祭日を除く)

担当：情報環境部 情報基盤課
教育システム支援グループ

● 遠隔講義支援サービス

遠隔講義支援サービスでは、学術情報メディアセンターをはじめとする学内の遠隔講義用施設を利用して、国際遠隔講義、大学間遠隔講義、キャンパス間遠隔講義など、さまざまな遠隔講義の支援を行っています。国際遠隔講義としては、時差の少ないアジア圏との遠隔講義が定期的に行われています。台湾との遠隔講義、中国、マレーシアとの3ヶ国同時進行型遠隔講義、インドネシア、タイとの国際シンポジウムなど、新しい講義やセミナーも次々に開設されています。国内の他大学（慶応義塾大学、広島大学、東京電機大学など）との遠隔講義も開講されており、他大学の学生と同時に講義を受けることのできる機会も広がりました。

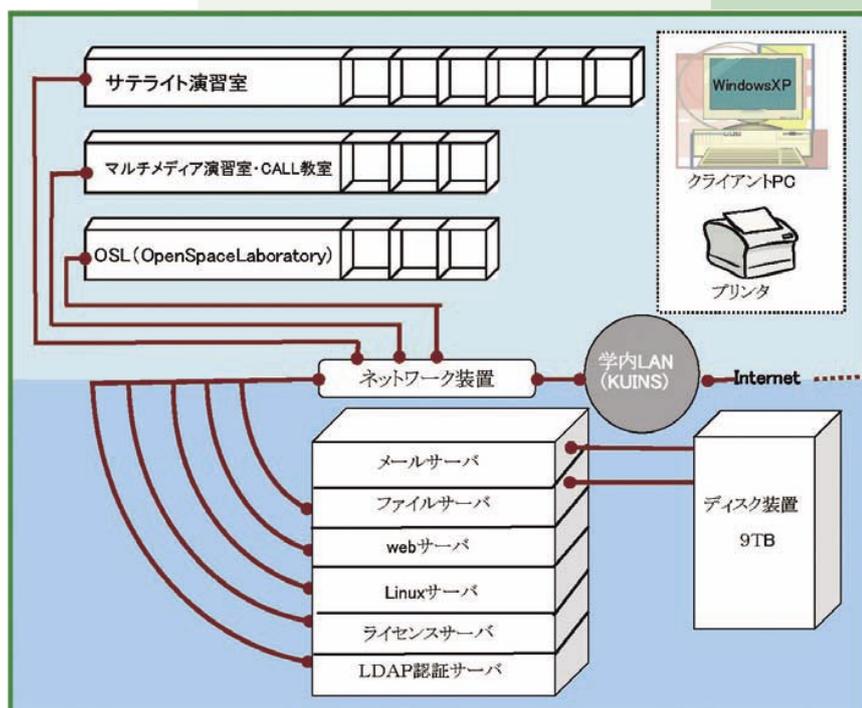
これらの遠隔講義の多くは全学共通科目として開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。さらに、桂キャンパスの開設にともなって、吉田、桂、宇治それぞれのキャンパスを結ぶ高精細遠隔講義システムも運用されています。開講されている講義をキャンパス間の移動なしに受講できるため、受講科目選択の幅が広がっています。

このほか、衛星回線を用いた遠隔講義システム SCS の運用を行っており、国内の多数の大学・研究期間を結んだ遠隔講義、会議を支援しています。さらに、このような遠隔講義の設備や技術を用いて、京都市や京都府をはじめとする学外組織の文化・学術活動を支援しています。



[写真] 国際遠隔講義風景

担当：情報環境部 情報基盤課
ネットワーク・遠隔講義支援グループ



[図] 教育用コンピュータシステム システム構成図

図書館

充実した資料の蓄積と、情報技術による学術情報サービスにより、学習支援・研究支援を行っています。



[写真] 左・右下：学習室 24 / 右上：オープンスペースラボラトリー

● 附属図書館

附属図書館は学習・教育・研究支援機能を持ち、学生、教職員をはじめ、学術情報を必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新入生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書は下の表に示されているように、附属図書館では約86万冊、全学で約635万冊所蔵しており、創立より110年にわたる歴史から、国宝「今昔物語集 鈴鹿本」をはじめ、古文献資料、特殊文庫、全集ものコレクション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学系外国雑誌のセンター館として国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携して収集し、全国の研究者の利用に供しています。また、学外からインター

ネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスして、デジタル化した貴重資料を見たり、京都大学が所蔵している図書や雑誌を検索することができます。学内からは電子ジャーナルと文献データベースが利用できます。

● 館内の施設・設備等

3階の情報端末エリアには学術情報メディアセンターのオープンスペースラボラトリーとして106台のパソコンおよび情報コンセント22口があります。このパソコンの利用にあたっては情報環境機構への登録が必要です。

また1,2階閲覧室の北側エリアでは、無線LANが利用できますので、情報環境機構へ登録していれば、持参のノートパソコン等でインターネットに接続することもできます。

● 学習室 24

学習室24は、附属図書館が閉館した後も、朝まで勉強できるスペースです。91席の自学自習用のエリアと、37席の飲食・談話ができるエリアがあり、無線LANの設備も用意しています。

学習室24は、利用者の安全を考慮して、入退室する際に必ず学生証あるいは職員証を認証装置に通す必要があります。また、防犯カメラを4か所に設置し、夜間には警備員を配置しています。

● 研究個室

研究個室は、大学院生と教員向けに、より研究に専念できる環境として用意した一人用の個室です。附属図書館の3階に14室あり、各部屋には有線の情報コンセントを設置しています。

蔵書数 (平成21年3月31日現在)

部局名	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
附属図書館	603,724	263,909	867,633	13,627	11,521	25,148
全学	3,278,362	3,079,059	6,357,421	46,252	49,453	95,705

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む
全学の所蔵雑誌種類数はのべ数

館内の施設・設備等

閲覧室	1,271席
1階	端末コーナー、学習室24、参考図書、雑誌、新聞の各コーナー
2階	開架図書と閲覧室
3階	情報端末エリア、メディア・コモン、ライブラリーホール、研究個室、共同研究室
地階	書庫

京都大学の学習・研究活動を 支える図書館・図書室群

附属図書館

附属図書館宇治分館

人間・環境学研究所・総合人間学部図書館

文学研究科図書館

教育学研究科・教育学部図書室

法学研究科・法学部図書室

経済学部・経済学研究科図書室

[理学研究科・理学部]

理学部中央図書室

数学教室図書室

物理学教室図書室

宇宙物理学図書室

地球物理学図書室

化学教室図書室

生物科学図書室

地質学鉱物学教室図書室

医学図書館

医学図書館人間健康科学系図書室

薬学研究科・薬学部図書室

[工学研究科・工学部]

地球系図書室（桂）

建築系図書室（吉田・桂）

物理系図書室

航空宇宙工学図書室

電気系図書室（吉田・桂）

化学系図書室（桂）

工業化学科図書室

地球工学科図書室

農学部図書室

農学研究科生物資源経済学専攻司書室

エネルギー科学研究科図書室

[アジア・アフリカ地域研究研究科]

アジア専攻図書室

アフリカ専攻図書室

情報学研究科図書室

地球環境学堂図書室

● 共同研究室

共同研究室は、グループでの共同研究や学習のために利用できる部屋です。4名以下の少人数向け2室、8名程度の中規模向け2室、20名収容可能な1室の合わせて5室を用意しています。これらの部屋全てに



[写真] 閲覧室

は、有線の情報コンセントを設置しています。部屋によって、ホワイトボードやプロジェクターを使うこともできます。共同研究室は学部学生も利用することができます。



[写真] 共同研究室

● 蔵書検索システム (KULINE)

京都大学の蔵書は、蔵書検索システム KULINE (Kyoto University Libraries Information Network system) で検索できます。KULINE はインターネットで公開していますので、どこからでも検索できます。URL <https://op.kulib.kyoto-u.ac.jp/webopac>

KULINE は京都大学の蔵書約 635 万冊のうち約 438 万冊が検索できます。検索のページのキーワード欄に書名・著者名等を入力し検索をクリックすると、所蔵している本の書名と京都大学のどこの図書館・図書室で所蔵されているかを知ることができます。中国語の簡体字やハングル等、多様な文字の表示もできます。

● メディアコモン (Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メディア・コモン」があります。CD、DVDをはじめ多種のメディアに対応できるように構想され、勉強や研究に必要な映像や音

声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を映像や音楽でリフレッシュさせることができます。

ガラス張りの広さ 240m² のスペースに、DVD やビデオ・カセットが見られる 1 人用個人ブースが 16 席、窓越しに時計台や吉田山を見ながら CD、カセットを聴くことができる 1 人用ソファが 8 席、50 インチの大型プラズマ・ディスプレイで迫力ある映像を楽しむことのできる 4 人用 AV コーナーが 2 ヶ所等合計 32 席があり、さらに 5.1 チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター（防音設備付/10 席）などがゆったりとした空間に配置されています。京都大学文学部卒業生である故片田清氏寄贈のコレクションを含む CD6,586 点のほか、DVD856 点（映画、ドキュメンタリー、音楽ほか）、ビデオ 465 タイトル（ドキュメンタリー、言語）などを置いています。



[写真] メディア・コモン (Media Commons)

国際交流

留学生との交流や、海外への留学を通して相互の教育・研究水準を高めるとともに、異文化理解、国際協調精神を身につける。

留学生交流は、相互の教育・研究水準を高めるとともに、国際理解、国際協調の精神の醸成、推進に大きな役割を果たしています。更に、開発途上国の場合はその人材要請に協力するなど、国際貢献のための重要な国策とされています。京都大学では、現在 100 の国・地域から約 1,400 名の留学生を受け入れ国際色豊かなキャンパスとなっています。

近年、留学生交流の新たなニーズとして、大学に在籍しながら 1 年以内の短期間外国の大学に留学する短期留学が活発化しており、本学においてもこの留学を積極的に支援し、その施策を展開しています。



● 京都大学国際教育プログラムについて (KUINEP [Kyoto University International Education Program])

このプログラムは、海外の学生交流協定を締結している大学から学部学生を半年もしくは 1 年間受け入れて本学の学生とともに英語で教育することにより、本学学生の国際性を育成し、留学生との相互交流を活発にすることを目的としたものです。

開講科目は 25 科目(平成 20 年度実績)で、本学の全学共通科目として提供し、単位を認定します。

● 授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定校への派遣留学(交換留学)について

この制度は、海外の大学との学生交流協定に基づいて本学の学部又は大学院に在籍しつつ、1 年以内の 1 学期又は複数学期、協定校で教育を受けて単位を取得又は研究指導を受けるものです。学内で年 2 回募集を行い、書類選考及び必要に応じ面接により候補者を決定します。

京都大学が学生交流協定を結んでいる相手は、19 力国・地域 53 大学 3 大学群あります。京都大学を通じて出願手続きができ、留学先では授業料等を支払う必要はありません。

● 派遣留学(交換留学)に関する Q&A

Q1: 学生交流協定とは何ですか?

学生交流協定は、学生の交流(交換留学)についての取り決めで、1) 在籍する大学に授業料を納めることにより留学先大学での授業料等が免除されることや 2) 留学先で修得した単位が在籍する大学で認定される場合があることなどについての取り決めをしています。

Q2: 派遣留学(交換留学)とは何ですか?

国際交流を促進するために、学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことです。京都大学に在籍しつつ、1 年以内の 1 学期又は複数学期のあいだ、京都大学が協定を結んでいる海外の大学に学位取得を目的としない留学をし、教育を受けて単位取得し、又は研究指導を受けるものです。

Q3: 外国語力・学力はどのくらい必要ですか?

多くの協定校では、英語圏では TOEFL iBT 80~100 点程度、中国語圏では HSK6 級、などのように、講義等で使われる言語の検定試験の成績を受入条件として定めていますので、学習、受験してクリアすることが必要です。また、京都大学での学業成績については、受入条件として基準を定めている協定校は少ないですが、留学先ごとの定員を超える希望者があった場合、京都大学

内での派遣候補者選考において、学業成績のより優れた者に協定校への出願権を与える原則となっています。

Q4: 派遣留学(交換留学)の準備にはどのくらいの期間がかかりますか?

派遣留学(交換留学)を希望する学生は、おおむね想定する出発の 1 年ほど前に、所属の学部・研究科を通じて学内選考用の申請書(日本語)を提出することが必要です。協定校が提供する資料の中から、自分の専攻領域に合ったプログラムや履修したい講義を持つ大学を事前に自分で調べてから、学内選考用の書類を提出する必要があります。

派遣留学(交換留学)は、年度により募集日程及び留学可能な協定校に多少変更がありますが、おおむね春と夏に学内募集を行います。

学内選考を通過した学生は、その後、留学希望先の定めに従い、願書、推薦状、留学目的、履修希望科目等を記した書類を提出することになります。

Q5: 派遣留学先で取得した単位は、京都大学で認定されますか?

留学先で修得した単位を本学で修得した単位として認める単位認定制度があります。

Q6: 一募集期に、複数の大学に応募できますか?

第二希望まで選んで学内で応募していただき、実際の出願は全学的選考・調整により、一校にさせていただきます。

Q7：大学の情報・資料はどこで入手できますか？

協定校から送られてくる資料は、留学生ラウンジに保存してありますので、自由に閲覧できます。そこにはないものは、各校のインターネットサイトで見てください。

Q8：派遣留学（交換留学）するための奨学金はありますか？

協定校への派遣留学生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成制度があります。

- 1 独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度（短期派遣）（本学の採択枠は若干名）：奨学金 月額 80,000 円
- 2 京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」：渡航費の一部助成

●「留学のススメ」～京大による京大生のための留学説明会～

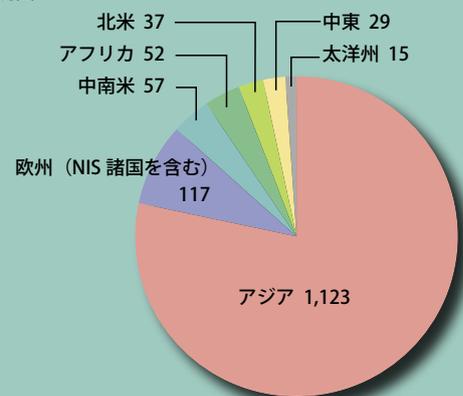
学生みなさんに海外留学を身近に感じてもらうため、国際交流センター/留学生課では年間を通して「留学のススメ」と題し、各種説明会を開催しています。主な内容として、交換留学や大学院留学のほか、語学研修、海外インターンシップ、TOEFL対策等があります。教職員や生活協同組合、関係団体に加え、学生組織や実際に留学をした学生等からは、留学情報満載の講演や留学体験談を、また海外協定校から本学に受け入れている交換留学生や、その大学へ留学した経験を持つ京大生からは、協定校紹介を行っています。所属部局の掲示板や京都大学 HP で説明会情報をチェックして、是非気軽に参加してください。

（京都大学 HP 掲載 URL）

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/international/students3/susume/>



外国人留学生受け入れ状況（平成21年5月1日現在）
合計 1,430 名



大学間学生交流協定校への派遣実績一覧（平成20年度）

国・地域	大学名	人数
中華人民共和国	香港大学	1
大韓民国	ソウル大学校	3
タイ王国	カセサート大学	1
台湾	国立台湾大学	2
カナダ	トロント大学	1
	ケベック州大学学長校長協議会	4
	ウォータールー大学	6
アメリカ合衆国	ジョージワシントン大学	1
	ハワイ大学	2
	ペンシルベニア大学	1
メキシコ合衆国	グアダハラ大学	2
オーストリア共和国	ウィーン大学	1
フランス共和国	ストラスブール大学連合	4
	グルノーブル大学連合	5
ドイツ連邦共和国	ベルリン自由大学	1
	ミュンヘン大学	1
オランダ王国	ライデン大学	1
	ユトレヒト大学	3
スウェーデン王国	ウプサラ大学	2
	ストックホルム大学	2
スイス連邦	ローザンヌ大学	1
英国	マンチェスター大学	3
オーストラリア連邦	メルボルン大学	2
ニュージーランド	オークランド大学	1
イスラエル国	テルアビブ大学	1
計（17カ国・地域）	22大学3大学群	52

「留学のススメ」開催実績（平成20年度）

月	日	タイトル・内容	
4月	1日(火)～4日(金)	国際交流センター新入生説明会	
	25日(金)	交換留学募集時期変更の説明会	
6月	2日(月)	International	
	3日(火)	Week	学部生・院生のための交換留学説明会
	4日(水)		夏の語学研修ガイダンス
	5日(木)		学生時代に体験する海外インターンシップ
	6日(金)		大学院留学 ～留学生生活編～
	6日(金)		大学院留学 ～留学準備編～
7月	12日(木)	先輩体験談	交換留学経験者による体験談
	19日(木)		KCJS/SCTI英語講義
	26日(木)		聴講経験者による体験談 長期留学(院レベル)経験者による体験談
7月	2日(水)	アジア留学説明会	
	16日(水)	海外渡航安全説明会	
10月	9日(木)	海外インターン	理工農薬学系学生対象
	16日(木)	シップ説明会	文系学生対象
11月	11日(火)	St. Gallen Symposium説明会	
12月	8日(月)	交換留学生による	Part 1：中国・香港大学
	9日(火)	協定校紹介	Part 2：中国・南京大学
	10日(水)		Part 3：韓国・ソウル大学校
	16日(火)		Part 4：オーストラリア・シドニー大学
	17日(水)		Part 5：スウェーデン・ウプサラ大学
	19日(金)		Part 6：ニュージーランド・オークランド大学

その他、学部・研究科独自の学生交流協定に基づく留学、個人手続きによる短期語学研修、大学院生を中心とした調査等の海外渡航が京大生により行われています。

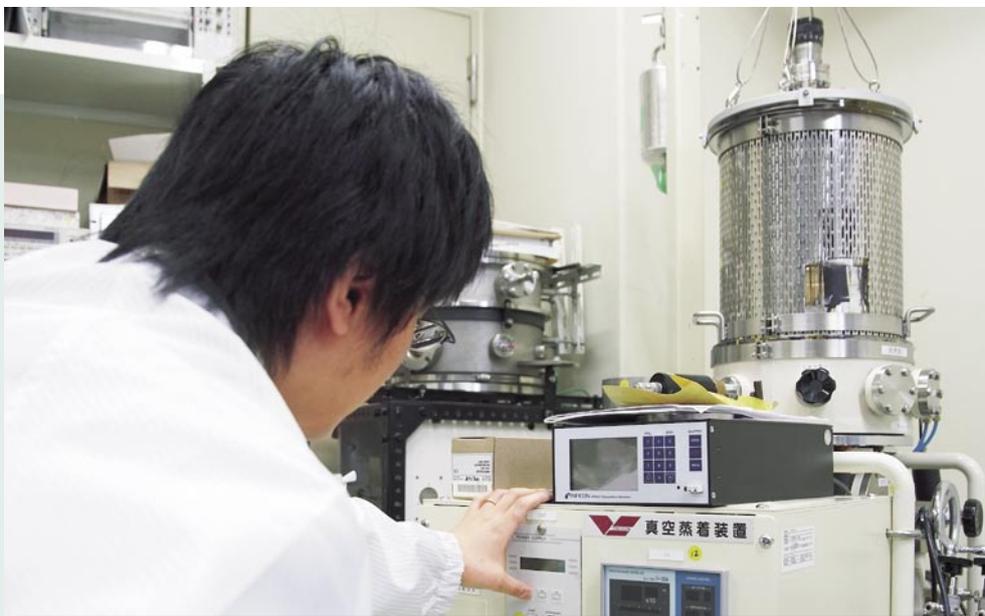
大学院進学

学部教育で身につけた知識や技術をより深め、次世代を担う研究者・実務者をめざす。

京都大学の卒業生には、伝統ある「自由の学風」の中で培われた知性・感性・倫理性といった力を、社会における様々な分野の中でさらに磨きつつ、活かして行くことが期待されています。学部卒業後の進路としては就職か大学院進学が考えられますが、いずれの進路を選ぶにせよ、京都大学は、皆さんが誇りある京都大学卒業生として、社会に貢献できるような道を進めるよう、サポートします。

大学院進学者は、全国的に増加傾向にあります。とりわけ京都大学は、大学院を充実させた研究型大学の特徴として、平成21年（2009）3月に学部を卒業した2,866名のうち、約60%が大学院に進学しました。

各部卒業後に就職の道へ進んだのは、約31%です。その就職先は、後のページに挙げるように、多種多様な職種へと進み、大学で学んできた知識と技能を活かしています。



● 大学院進学

学部を卒業した後、学部教育で身につけた知識や教養、技術をより深めることを希望するならば、大学院進学を選ぶことになるでしょう。

大学院とは、次世代を担う研究者あるいは高度な知識と技能を持った実務者を養成する課程です。したがって、学部教育よりもさらに専門的な知識を身につけ、自分自身で研究を行う能力や専門的な実務能力を養うことになります。標準修業年限は、博士前期課程（修士課程）の2年間とそれに続く博士後期課程（博士課程）の3年間で、定められた単位を修得し、必要な研究指導

を受けて研究論文の審査と最終試験に合格すれば、修士もしくは博士の学位が授与されます。またいわゆる飛び級制度を認めている大学院もあります。指定の単位を優れた成績で取得した者で学部在籍が3年間以上の者に入学を認めたり、それぞれの標準修業年数に満たなくても学位を授与したりする場合があります。

進学先については、学部と関連した大学院へ進学することが一般的ですが、異なる分野の大学院へ進学することも可能です。一般に大学院には学部よりも多種多様なバックグラウンドを持つ学生が集まり、多様性が増すことになります。

● 学部を持つ大学院

京都大学の10の学部は、それぞれが大学院を備えています。正確に言えば、大学院重点化が行われた現在は、大学院が主たる組織であり、そこが学部教育も提供しているという形になります。学部とつながる大学院は、総合人間学部と統合した人間・環境学研究科、文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科です。それぞれが、学士課程（学部）の教育と連続した、高度な研究と教育をおこなっています。詳しくは、各学部の紹介のページを参照してください。

平成20年卒業者の進路状況（平成21年5月1日現在）

進路	卒業者数		進学者数		就職者数		臨床研修医		その他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
総合人間学部	84	39	38	15	42	24			4	0
文学部	96	90	38	28	46	55			12	7
教育学部	36	32	16	10	17	20			3	2
法学部	299	94	126	27	123	47			50	20
経済学部	189	52	20	6	158	39			11	7
理学部	257	25	218	21	30	4			9	0
医学部	123	111	18	25	21	63	76	20	8	3
薬学部	52	29	46	23	3	5			3	1
工学部	883	72	758	52	110	18			15	2
農学部	215	88	168	72	42	14			5	2
男子計	2234	632	1446	279	592	289	76	20	120	44
女子計										
合計	2866		1725		881		96		164	
百分率	100.0%		60.2%		30.7%		3.3%		5.7%	

進学者数には大学学部へ入学した者6名（男3名・女3名）を含む

● 独立研究科

京都大学には学部を持たない大学院課程、すなわち独立研究科が5つあります。エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究科、情報学研究科、生命科学研究科、地球環境学舎、がそれにあたります。いず



れの研究科においても、多様な学部の卒業生を受け入れ、複合的学域の創出・深化に携わる研究者や実務家の養成を主眼にした大学院教育の体系化をめざしています。

エネルギー科学研究科では、エネルギー持続型社会形成を目指して、理工系に人文社会系の視点を取り込みつつ学際領域としてエネルギー科学の学理的確立をはかり、地球社会の調和ある共存に寄与する、国際的視野と高度の専門能力をもつ人材を育成することをめざしています。

アジア・アフリカ地域研究科では、これまでの京都大学での地域研究の伝統をもとに、大学院5年一貫教育でフィールドワークを重視し、地域の現場での生活を通して問題を発見し、生態・社会・文化が複合する地域の実態の調査研究を進めていく地域研究者や国際貢献できる実務者の育成を目的としています。

情報科学研究科では、自然および人工システムにおける情報に関して、その生成や認識、伝達、制御などの幅広い側面について、人文科学と理工科学との学際的手法により研究していきます。そこでの成果は、人類知の様々な分野に寄与することが期待されています。

生命科学研究科では、従来の理学、農学、医学、薬学分野の知識と技術を統合し、遺伝子、分子、細胞を探索の単位とする従来の生命科学を超え、より高次の生命現象解明へ取り組む新しい生命科学の研究を創出し、複雑な生物圏を理解し地球環境保全と人類の福祉と幸福に寄与できる人材の養成

をめざしています。

地球環境学舎は、地球環境問題の解明と解決のために、環境安定とそれを支える人間活動の双方に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、そしてそれを現実世界に適用する人材育成を行うことを目的として平成14年に設置されました。

知的財産として管理・活用する高度専門職を育成するために、平成16年度には知的財産経営学コースが開講されました。

また、ヒトや集団を単位とした臨床研究を推進するため、平成17年度には医師・歯科医師を対象とした1年制のコース臨床研究者養成コースを開設しました。

さらに平成18年度には、先端医療に対応できる高度な専門的知識とコミュニケーション能力を持ち、患者・家族・被験者の立場を理解して新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成する遺伝カウンセラー・コーディネータユニット（「遺伝カウンセラーコース」・「臨床研究コーディネータコース」）が開設されました。

● 法科大学院

法科大学院は、法の精神が息衝く自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法律家を養成します。法学部・法学研究科の伝統にならい、自主・独立の精神と批判的討議を重んじ、自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的理解、緻密な論理的思考能力、法律家としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法的问题に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。また実務的課題にも対応した教育を充実させるため、実務経験の豊富な多くの実務家教員を迎え、研究者教員と実務家教員が連携しつつ、理論と実務を架橋する高度な教育を提供しています。

● 公共政策大学院

公共的な仕事に携わる高度専門職業人を養成する専門職大学院として、2006年4月に開学した大学院です。定員40名で、少人数教育をとります。専任の教員は12名ですが、他にも法学研究科、経済学研究科をはじめとした、他研究科の教員、さらには実務家が授業を担当します。

ここでは、中央・地方レベルにおける国内行政および立法機関、国際機関、NPO/NGO、シンクタンク等の職業に従事する者のほか、一般企業において公共的な業務に携わる者など、公共政策分野の高度専門職業人を育てることを目的としています。したがって公共政策の立案・遂行・評価に必要な専門的知識だけでなく、優れた教養と高い倫理的責任感を備えた人材の育成を目指しています。そのため、法学・政治学・経済学・経営学を有機的に結合した科目や、実務経験者による具体的な事例に則した実践的な知識を涵養する科目を提供すると同時に、幅広い視野と教養を身につけるために原理的・歴史的知識を教授する科目も多数用意されています。

● 専門職大学院

研究者養成に主眼をおいていた従来の修士課程とは異なり、高度で専門的な職業能力をもった実務家を養成するための、新しい形の大学院です。現場で活躍する各分野のスペシャリスト等も専任教員として招き、現場の複雑な問題を解決するための知識と技能の獲得をめざした教育をおこなっています。京都大学では、医学研究科で平成12(2000)年に専門大学院として開設された社会健康医学系専攻が、平成15(2003)年専門職大学院となりました。また法学研究科では法曹養成専攻(法科大学院)を平成16(2004)年に開設しました。さらに、平成18(2006)年には公共政策大学院および経営管理大学院の2つの専門職大学院が開設されました。以下に簡単に紹介します。

● 医学研究科社会健康医学系専攻

この専攻は、将来、保健・医療・福祉分野における専門職あるいは教育研究職にすることを希望する者が、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な幅広い知識、技術、態度を身に付けることを目的としています。教育の対象となる分野は自然科学から人文社会科学まで多岐にわたります。

わが国は知的創造立国を志向しており、今後は医療分野でも特許を広く認めようとしています。そこで先端医学の研究成果を

● 経営管理大学院

マネジメントに関する専門的かつ実践的な能力を備えた真のプロフェッショナルを育成するための大学院です。ビジネススクールとして、専門的知見を持つ社会人、多様なバックグラウンドを持つ学生、外国人留学生といった人材を受け入れており、相互の刺激と切磋琢磨を通じて、現代の複雑なマネジメント諸課題に取り組むことができる実践的知識と論理的思考力の獲得を目指します。

本大学院は、科学的な理論に基づいた専門的な知識と実践的な問題解決能力を修得するために、多様な授業科目を提供します。そして、主に1年生前期に基礎科目、1年生後期から2年生前期に専門科目、そして2年生前期からは実務科目と発展科目という体系的な履修を実現する科目構成をとっています。そして、スーパーバイザーが、それぞれの学生の知識や履修状況、そして将来の希望を踏まえ、履修すべき科目や学修すべき内容についてアドバイスを与え、積極的に学びを支援します。

● 社会人のための大学院コース

現在、社会状況はますます複雑化し、職業を持つ社会人でも大学で再び学び直すことを希望する人が増えています。あるいは、大学を卒業して就職した後に、現場の具体的な問題に触れてこそ、学習や研究を深めていく必要性を感じるという場合もあります。このような要請に応えるため、京都大学には社会人の大学院進学のための制度が整備されています。この制度には大きく分けて、研究者養成を主眼にした大学院がおこなっている「社会人特別選抜」と、先述した高度専門職業人養成大学院への入学があります。

京都大学でも多くの大学院が社会人特別選抜をおこなっています。いずれも、社会での実務経験のある人材に対して門戸を開き、リフレッシュ教育の機会を提供するとともに、多様な人材を受け入れることで大学院の活性化をねらっています。

また、専門職大学院では、当該専門と直結する分野以外を卒業した者や在職社会人を積極的に入学者として受け入れており、多様なバックボーンをもつ人々がこれまでの自分のキャリアを活かしつつ、専門的な職業能力を身につけるよう工夫されています。

※大学院の詳細な内容や入学選抜方法については、大学院各研究科にお問い合わせをお願いします。

大学院への進学（●印は主な出身学部を紹介しています。）

	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
文学研究科 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻	●	●								
教育学研究科 教育科学専攻 臨床教育学専攻		●	●							
法学研究科 法政理論専攻 法曹養成専攻（法科大学院）	●	●		●						
経済学研究科 経済学専攻					●					
理学研究科 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻	●					●				●
医学研究科 医学専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻 人間健康科学系専攻							●			●
薬学研究科 創薬科学専攻 生命薬科学専攻 医療薬科学専攻 医薬創成情報科学								●		
工学研究科 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 航空宇宙工学専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻	●								●	
農学研究科 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻	●									●
人間・環境学研究科 共生人間学専攻 共生文明学専攻 相関環境学専攻	●	●								
エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻	●								●	●
アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻 グローバル地域研究専攻						●				●
情報学研究科 知能情報学専攻 社会情報学専攻 複雑系科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻	●					●			●	
生命科学研究科 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻	●					●		●		●
地球環境学舎 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻	●	●							●	●
公共政策大学院				●	●					
経営管理大学院					●	●			●	

就職支援

企業・組織での実務者として、社会での活躍を目指すために。
豊かな人生をおくるために。



を対象とした将来のキャリアを考えるための講座、将来研究者を目指す人たちに向けの講演会、女性のキャリアを考える講演会などを実施しています。また、有料の講座を、外部で受講するより割安で受けられるシステムを導入し、キャリアアップの機会増大を図っています。
※昨年度開催のガイダンス等一覧は次ページの表を参照してください。

● 若手研究者キャリアパス 多様化計画

大学院へ進学し博士の学位を取得した人材が、大学等の研究機関以外の多様な方面に進み、その高度な専門性と能力を活用することが大いに期待されています。キャリアサポートセンターでは、このような人材が主体的に進路を選択し、社会の多様な場において専門性を生かして活躍できる環境を創出するための様々な支援を行っています。

● 就職相談室の開設

就職情報企業から就職指導の専門家を相談員として招き、就職・進路にかかる様々な相談に対応しており、専門的立場から適切なアドバイスを行っています（予約制）。気軽に、また、何度でもご利用いただけます。

● インターンシップ — 実社会体験を学びに活かす —

インターンシップは、学生が在学中に企業・団体等の現場において実社会を体験する貴重な学びの機会です。

京都大学におけるインターンシップの活用
本学では、就業体験を通してキャリアアップを目指す在学生に対して、多種多様なインターンシップについての情報提供を行っています。国内の国公立・民間研究機関、地方公共企業体や民間企業等における現場での貴重な経験を、大学における学びに活かせるようサポートします。毎年多くの在学生がインターンシップを体験し、近年は、外国の研究機関や企業におけるインターンシップに積極的に参加する在学生も増えています。本学では、このような学外でのインターンシップを授業に採用し、学外の国公立・民間機関等で行った就業体験を単位として認定する制度を取り入れている学部（学科）や研究科もあります。

● キャリアサポートセンター

就職氷河期の再来が叫ばれ、就職活動に苦戦を強いられる学生が多いのは京都大学でも例外ではありません。しかし、企業でも官公庁でも優秀でかつやる気のある人材を求めていることに変わりはありません。

優秀な人材には複数の内定が出る一方で、全く結果が出ない人もいるなど人材の二極化が明らかになっています。一方、学生側の就職に対する希望が多様化しており、学生の希望と企業側の求める人材とのマッチングをいかに図るか、学生がいかに自分の能力や経験を活かせるか、かつ適性にあった就職先を見つけることができるかが大きな課題となってきています。

また、大学院への進学率が高い本学では、学生自身が自分の進むべき道（将来の進路・職業）について早い時期から考えていくことは、充実した学生生活を送るうえで重要なことであると考えています。

キャリアサポートセンターでは、学生の就職活動を支援するため、各種就職関連ガイダンスや就職相談の実施に加え、各種企業資料・会社案内（パンフレット）、求人情報、OB・OG名簿、就職関連書籍・ビデオ・CD、企業主催のセミナー・説明会開催情報及びインターンシップ募集情報の収集・閲覧並びにメールマガジンの発行、求人票検索システムの運用等を行っています。就職関連書籍・ビデオ・CDについては貸し出しも可能です。

近年の就職活動においては、インターネットの活用が不可欠なものとなりつつあることから、キャリアサポートセンターに就職情報検索用のパソコンを数台設置し、学生が自由に利用できる環境を整えています。

キャリアサポートセンターは、時計台のある吉田キャンパスの他に宇治キャンパスおよび桂キャンパスにもサテライト（分室）を開設しています。

● ガイダンス等の開催

就職活動の概要を紹介する「就職ガイダンス」、企業の人事担当者を招いて企業概要や求める人材像等について説明を受け、併せて業界研究を行うことを目的とした「業界研究セミナー（旧、企業ガイダンス）」の実施のほか、少人数を対象とした自己分析講座、ビジネスマナー講座、個人又は少人数を対象としたエントリーシート添削、模擬面接などを実施しています。「キャリアデザイン講座」として、学部1・2回生



【写真】キャリアサポートセンター

インターンシップの効果

社会の現場での就業体験を通して、次のような効果が期待できます。

- ・ 責任感や人間関係を学び、人間的に大きく成長することができる。
[人間的成長]
- ・ 働くことに対してのイメージがより具体的になり、目的意識を持った就職活動を行える。
[修業意識の高揚]
- ・ 自らの学生生活を振り返る良い機会となり、今、自分が何をすべきかが見えてくる。
[学習意欲の向上]

インターンシップの類型

- ・ 学外実習等の授業科目とする場合。
→単位として認定します。
- ・ 学校行事等、大学等における活動の一環として位置づける場合。
→単位認定しません。
- ・ 企業等が実施するインターンシップのプログラムに学生が個人的に参加する場合。
→単位認定しません。

● 海外インターンシップ

世の中のグローバル化が進み、国際的な広い視野やコミュニケーション能力を身に付けることのできる海外インターンシップへの関心が高っています。

海外インターンシップ体験を希望する学生を支援するため、京都大学内においては、以下の2つの委員会が活動しています。

「外国での研修に参加しよう！」

ー京都大学アイエステ学内委員会ー
アイエステ (<http://www.iaeste.or.jp/>) は、理工農薬系学生のための国際インターンシップを仲介している国際非政治団体です。海外に派遣される学生は主に夏休みを利用し2~3ヶ月間、現地の企業や、大学、研究機関で就業体験します。アイエステ日本支部は1964年の設立以来、2,500人以上の国内の学生を海外へ派遣しています。また、理事役員メンバーの指導の下、事務局職員と学生ボランティア(学生運営委員会)によって運営されています。

私達はその京都大学学内委員会のメンバーで、夏休みに来日する海外の研修生のサポートや、学内での派遣生募集の為に認定試験などの広報、派遣予定の日本の学生と帰国してきた派遣生OBとの交流会の開催など、インターンシップに関するあらゆる援助をしています。

認定試験を受けて、海外で自らの力量を試すのもいいですが、国内での受け入れや派遣の支援という裏方のような活動をする事で見えてくる世界もあります。専門分野を持つ海外の学生と交流できるのも大きな刺激になります。国際的な広い視野を有する研究者を目指す方、理系・文系の垣根無く、

英語をツールとして使いたい皆さん、アイエステについてもっと知ってみませんか？

「It's up to you!」

ーアイセック京都大学委員会ー

アイセックは、100を超える国と地域に活動拠点を持つ世界最大規模の国際学生NPOであり、“Peace and Fulfillment of Humankind's Potential”を理念に、海外インターンシップ事業を行っています。アイセック京都大学委員会は、海外インターンシップの運営を行い、学生に対して異文化環境のもとで社会経験を積む機会と学びを得る機会を提供しています。また企画事業として、着物を通じて日本の伝統文化への理解を促す活動も行っています。(<http://www.aiesec.jp/kyoto/>)

国内外に幅広いネットワークを持つアイセックには、多種多様なステージで活動できる機会が存在します。インターンのために来日した各国の優秀な学生や、海外へインターンの方を求める意識の高い日本人学生...彼らのサポートをする中で、アイセックメンバーは日々多くの刺激を受けています。JICAや大学教授・企業など外部パートナーとの協働、他大学・他国のアイセックメンバーとのプロジェクトなどを通して、価値観の多様性や社会の可能性に触れる場をアイセックは提供してくれます。あとはみなさんのやる気次第!あなたの充実した学生生活をお約束します。

(連絡先: kyoto@aiesec.jp)

平成20年度卒業生の産業別就職状況

行事名	実施回数等	参加者合計	学部	修士	専門職	博士	ポスドク	研究員	その他
就職ガイダンス	全6回	1,872	965	835	25	40		4	3
企業ガイダンス	全13回	2,868	1,365	1,366	37	88	1	1	10
キャリアデザイン講座	全2回	132	103	27		2			
合同企業説明会	全5回、計8日	3,088	1,435	1,428	101	96	1	2	25
公務員関係ガイダンス	全15回	1,213	498	220	29	29		1	436
就職セミナー	全35回	2,090	1,038	907	40	90		1	14
業界研究セミナー	全2回	130	76	50	2	2			
インターンシップガイダンス		267	146	85	6	3	1		26
内定者による相談会	全24回	91	52	33	3	2			1
エントリーシート指導教室	全10日	77	41	34	1	1			
公務員試験対策講座	4講座 50日	24	19	3	2				
理系学生のための就職セミナー (工業系企業交流会)		119	13	102	4				
SPI対策講座	全1回	202	83	103	2	14			
模擬テスト	全2回								
職務適性診断 テスト 結果説明会	2回 1回	405	221	170	7	7			
マスコミ就職講座	2講座、 計14日	61	49	11	1				
弁理士試験対策講座 (ガイダンス含む)	1講座、 計32日	63	45	12	5	1			
就職相談	全220日	1,232	517	460	23	155	39	5	33
キャリアパス多様化 促進計画関係	計13日	278	6	27	1	165	36	2	41
キャリア形成支援関係	全2日	121	2	27	2	42	12		36
計		14,333	6,674	5,900	291	737	90	16	625

[資料] 卒業生の産業別就職状況について

平成 20 年度卒業生の産業別就職状況

産業	学 部	総合人間		文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		医学部		薬学部		工学部		農学部		男子計	女子計	総合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
		産業		産業		産業		産業		産業		産業		産業		産業		産業		産業					
農業・林業																					1	1	1		
漁業																									
鉱業・採石業・砂利採取業		1																	1			2	2	2	
建設業						1		2		2									8	2	1	14	2	16	
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料			1		1		1	1										1		5	2	8	4	12
	繊維工業				1			2		1									1			3	2	5	
	印刷・同関連業	3	1	2	6					1		2											8	7	15
	化学工業・石油・石炭製品	1		3		1		2		3	1	1							4			14	2	16	
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	1		3	2			9		1												15	2	17	
	はん用・生産用・業務用機械器具			1	1		1		1		4		1						2	1	2	10	4	14	
	電子部品・デバイス・電子回路				1						6	2							8			14	3	17	
	電気・情報通信機械器具		1		5	1	2	8	3	7	2	3		1					13	4	1	1	33	19	52
	輸送用機械器具				3			6	1	12									9	2		30	3	33	
その他				5			1		1											1		7	1	8	
電気・ガス・熱供給・水道業				1			7	1	5	2	1							1			15	3	18		
情報通信業		10	6	5	9	1	3	9	5	17	4	5	2			1		12	2	2	2	62	33	95	
運輸業・郵便業		3	1	3	3	2		9	1	10								6	1	1	34	6	40		
卸売業・小売業	卸売業	7	4	2	3			7	4	7	3							8		6	37	14	51		
卸売業	小売業	1			1		1			1									1		1	1	5	6	
金融業・保険業	金融業	6	4	4	10	3		24	10	34	17	5		1				5	1	6	4	88	46	134	
保険業	保険業	3		2	3	1		5	7	6	1			1				1		3	22	11	33		
不動産業・物品賃貸業	不動産取引・賃貸・管理業	2						1	1	5	2							1	1		9	4	13		
物品賃貸業	物品賃貸業																								
学術研究・専門・技術	学術・開発研究機関							1		1								3			3	2	5		
専門・技術	法務							1	1	1		1						3			6	1	7		
サービス業	その他の専門・技術サービス業	3	2		2		4			24	1	1						5	1	8	2	41	12	53	
宿泊業・飲食サービス業															2								2	2	
生活関連サービス業・娯楽業										2					3			2				4	3	7	
教育・学習支援業	学校教育	1	1	1	4	1	3	1		1		4	1					3			12	9	21		
教育・学習支援業	その他の教育・学習支援業				1		1	1		1		3						3		1	9	2	11		
医療・福祉	医療業・保健衛生													15	57		1				15	58	73		
医療・福祉	社会保険・社会福祉介護事業				1																	1	1		
複合サービス事業			2	1	1			10	4									2		1	1	14	8	22	
サービス業	宗教				1			1		1												3		3	
サービス業	その他のサービス業				3	1	4	1	1											1		9	2	11	
公務	国家公務		2	2		1	2	8	4	3	1	3				2		1			18	11	29		
公務	地方公務				3		2	6	3	4		1	4		1	1		6	1	2	1	29	6	35	
上記以外															1	1		1			2	1	3		
総合計		66		101		37		170		197		34		84		8		128		56		592	289	881	
男子計	女子計	42	24	46	55	17	20	123	47	158	39	30	4	21	63	3	5	110	18	42	14				

京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活サポート

学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

ベンチャー起業

自らのアイデアを具現化し、
ベンチャー起業を志す人を様々な面からサポートします。

世界から注目されるロボットの開発

ロボ・ガレージ代表

高橋 智隆 さん

(2003年工学部物理工学科卒)



私は工学部在学中よりロボットに関する研究を基に試作機を製作し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーで行われている特許相談・起業支援などのプログラムを利用することで、技術やアイデアを企業に売り込む活動をしてきました。結果、模型玩具ロボットが世界中で販売されることとなりました。

そして、2003年の卒業と同時にベンチャー「ロボ・ガレージ」を創業し、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いてロボットの開発や事業展開に取り組んでいます。



● 起業を目指すみなさんへ (教育活動について)

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)主催の講義、「新産業創成論」では、新産業創出への最近の動きおよび大学における取り組みを概論するとともに、ベンチャーの動向・企業経営、特に注目される学生起業のベンチャーや京都ベンチャーの内実、およびハイテクベンチャーの基盤となる知的財産権(特許)、今後の産学連携の在り方・戦略に関して、この分野で活躍されている実際の企業の経営陣・弁理士・研究者の方をお呼びし、受講生との討論を主体に行っています。

また、将来の産業・科学技術の発展の担

い手となる起業家や研究者育成の一環として、ハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」(後述)を財団法人近畿地方発明センターと共同で毎年開催しています。

● 京大ベンチャーズ

大学生、大学院生、教員のベンチャー起業に向けての取り組みをサポートしています。具体的には京都市の「知の創出・活用特区」認定を受けて、VBL施設利用事業「京大ベンチャーズ」を実施しており、数十社のベンチャー企業・組織が入居しています。

また、数多くの京大VBLプロジェクトに

おいて、先進的・独創的な研究が続けられており、これら研究成果の具体的な社会還元として、学生および教職員による製品の実用化が図られています。



【写真】THE YANCHERS 制作の白色LEDゴーグルライト

京都大学 VBL

京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）は、全学の教育・研究施設として工学研究科を主体に、情報学・理学研究科、化学研究所等の教員・博士研究員および大学院生・学生を含む横断的で柔軟な運営組織から形成されています。「先進電子材料開発のための原子・分子アプローチ」を教育研究テーマとして掲げ、次世代の産業を支える基盤技術である研究開発プログラムの推進と、ベンチャー精神に富んだ創造的人材ならびに起業家マインドを持った若手研究者の育成を通して、また本学の様々な組織とも連携して、大学を核としたイノベーション創出活動を展開しています。

2003年にはVBL内に、京都大学の教員や院生などの起業家の活動の場として、「京大ベンチャーズ」を開設しました。

さらに京大の学生・教員・職員を対象としたベンチャー起業支援システムとして「特許相談室」と「起業相談室」を開設し、特許取得方法やベンチャー起業ノウハウを無料で相談できる場を提供しています。

また、独創性とベンチャー精神に富んだ若手育成のための教育プログラムとして「新産業創成論」や「先端電子材料学」を開講し、そしてハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「テクノ愛」を毎年開催しています。

このようにVBLは、特許・起業相談室、各種講義などの試策を通してベンチャー起業支援を行うと共に、全学の教育・研究・基盤技術創成のための中核的推進拠点として機能しています。



[写真] 京都大学 VBL 外観

教育学部発ベンチャー「有限会社関西教育考学」活動紹介

有限会社関西教育考学代表取締役

田坂 繭子 さん

(2005年教育学研究科教育科学専攻修了)

「大学の知を社会に還元」することを目的として、2005年よりベンチャー・ビジネス・ラボラトリーに拠点を置いて活動しています。

特に、高校生の皆さんに学ぶことの楽しさや奥深さを知ってもらいたいという思いから、高校・大学連携事業に力を入れています。具体的には、京都大学の先生方を講師に迎え、大学での研究内容を分かりやすく紹介する「京大知的好奇心学講座」の提供や京大生がガイドをつとめる京大キャンパスツアーを実施しています。



京大キャンパスツアーは、入試企画課と連携して実施しており、昨年度は30校、約2,700名の高校生がキャンパスツアーに参加しました。京大生が大学生活の紹介から進路選択の悩みや受験勉強の方法など、高校生のさまざまな質問にお答えしています。

私たちの活動が、高校生の皆さんの進路実現に少しでもお役に立てたらと思っています。

京大知的好奇心学講座 一例

- 人の老化とネズミの老化
- 現代アート入門
- 光は曲がる
- 記憶の認知と心理学
- ことばを哲学する
- 「ぼくは13歳 職業、兵士。」



● テクノ愛

このコンテストは非営利で運営しており、高校生・大学生の発明、創造活動を啓蒙、応援するコンテストです。

ユニークな発想やベンチャー精神を持つ人材の育成の一環として、身近な生活に役立つ技術から最先端技術までの幅広いアイデアを、高校生・大学生などを対象に広く募り、審査により表彰します。優れたアイデアには表彰だけでなく、希望者には起業化へのアドバイス・サポートも行います。

例年、大学の部の入賞アイデアをはじめとし、高校生のアイデアの特許出願もサポートしています。



[写真] 竹籠型電気自動車 (Bamgoo)



学生生活を支援する制度や施設

学習・研究に安心して取り組んでもらうために。



【写真】身体障害学生相談室

● 身体に障害がある方たちへのサービス

本学では、身体に障害があるなどの理由により、修学など学生生活をおくる上で、特別な配慮を必要とする方の相談を常時行っています。視覚や聴覚の障害、肢体の不自由、その他病気や怪我などの理由により、特別な配慮を必要とする方は、ご相談ください。

なお、受験上の特別措置を希望する入学志願者は、相談の内容により、特別措置の協議に時間を要することもありますので、出願前の早い時期に、志望する学部の教務掛へ照会してください。(照会については、98ページを参照してください。)

身体障害学生相談室を開室 (2008年4月)

本学では身体に障害を持つ学生の支援強化と支援の拠点となることを目的とした相談室を「身体障害学生相談室」として開室しました。

相談室では、各学部・研究科から選出された教員が、身体に障害があり、修学上様々な悩みや要望、相談ごとをかかえる学生の相談に応じます。また、交流スペースは、開室時間内で学生に開放し、障害学生と支援学生、さらには教職員も含めた交流の場になればと考えています。

支援は、学生本人からの申し出により所属学部・研究科や関係部局の教職員と連携しながら進めていくことになります。支援の内容としては、授業を受ける上で必要と

なる支援(情報保障)や物品の貸出、設備の整備などです。

開室時間：10:00～17:00

月曜日～金曜日(祝日を除く)

※ただし、事前にご連絡をいただければ時間外の利用にも対応します。

◎問い合わせ先：身体障害学生相談室

Tel.075-753-2317

フリーアクセスマップ

京都大学には、今まで一般的にいわれるバリアフリーマップがありませんでした。この京都大学フリーアクセスマップは、身体障害学生相談室の実質的な開室に合わせて、学内の施設状況を調査し、まとめたものです。

身体障害学生相談室ではバリアフリーマップの作成にあたり、従来のものとは

違った目線で情報を表示する方法を考えました。本マップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成したもので、道筋や設備の使用を限定し指示するようなものではなく、目的地までのバリア(障壁)を適切に表示することで、自らのスキルに合わせて道筋などを選択できるような形式にし、ネーミングも「フリーアクセスマップ」としました。

現在、吉田キャンパス(病院地区除く)に限定して作成しており、今後、内容の充実や精査したものの作成に合わせて、病院地区および他キャンパスのマップも作成できればと考えています。

※ご利用の方は、身体障害学生相談室までご連絡ください。



【写真】フリーアクセスマップ

● 履修相談

本学では、新入生を対象としたガイダンスを実施しています。全学共通科目については、高等教育研究開発推進機構が4月入学時に「新入生向けガイダンス」を開催しています。専門科目については、各学部において新入生向けガイダンスの実施や教務掛の窓口において履修相談に応じています。(全学共通科目については、共通教育推進課教務運営グループ [Tel.075-753-6508~6511] に照会してください。専門科目については、98ページの各学部教務掛に照会してください。)

● 経済的に困難な方たちへのサービス

入学料・授業料免除等

(1) 入学料免除

入学前1年以内において、出願者の学費負担者が死亡し、又は出願者若しくは学費負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、全額又は半額を免除する制度です。

(2) 入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学費負担者が死亡し、又は出願者若しくは学費負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付期限までに納付が困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、入学料の徴収を猶予する制度です。

(3) 授業料の免除

本学では「授業料免除」と「授業料免除京都大学特別枠」という二つの免除制度があります。

「授業料免除」は経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学費負担者が死亡し、又は出願者若しくは学費負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、各期ごとに全額又は半額を免除する制度です。「授業料免除京都大学特別枠」は出願資格として学業優秀を条件としないこと、後期授業料(前期は実施しません。)の全額を免除することが「授業料免除」と異なっています。

◎問い合わせ先: 学生センター経済担当

Tel.075-753-2536・2495

入学時に要する納付金(平成21年度)

入学料	授業料
282,000円	(前期分のみ) 267,900円 (年額) 535,800円

※入学時に改定されることがあります。

※納付金は、全学部において同額です。

奨学金制度

学業成績や人物が優れかつ健康であって、経済的な理由により就学が困難である場合に奨学金を申請することができます。

日本学生支援機構奨学金

高校在学中に大学進学後、貸与を受けようとする方に予約採用が、進学後に採用を希望する方に在学採用の申請方法があります。

なお、第1学年(編入学の入学年次を含む)において希望により、貸与月額の初回振込時(又はその翌月)に100,000円~500,000円を増額して貸与する制度があります。

申込できる方は、一定の収入金額以下の方、又は国の教育貸付け(日本政策金融公庫の教育ローン)を申込んで貸付を受けることができなかった方が申し込めます。

日本学生支援機構奨学金 貸与月額(平成21年度入学者)

	自宅通学者	自宅外通学者	採用数(注)
第一種奨学金(無利子貸与)	45,000円	51,000円	260名
第二種奨学金	3・5・8・10・12万円のうちから選択		199名

(注)平成20年度1年次在学採用数

地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

本学には、日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人、公益法人、民間企業等の出資による民間団体奨学金などの多様な奨学金制度があります。

募集等の条件は団体により種々異なりますが、募集時期はほとんどが4月~6月の間です。

なお、都道府県市区町村の教育委員会で取り扱っているケースも多いので、直接出身地等の教育委員会に問い合わせるのもよいでしょう。

奨学金を貸与或いは給付されている在学生は、大学院生を含めて約330名います。

毎年約40団体より募集があり、約100名が新規に採用されています。

小口短期貸付金(学生援助会)

学生センターでは、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、最高5万円まで無利子で短期間(1~6カ月以内)の貸付融資を行っています。

なお、金額によっては、あらかじめ保護者等を保証人とする債務保証書を提出する必要があります。

◎問い合わせ先: 学生センター経済担当

Tel.075-753-2535





● 学生寄宿舍

本学の学部学生が入居できる学生寄宿舍は、下の表の3寮です。いずれも大学の近くにあり、便利です。詳しくは、学生センターへお問い合わせください。

◎問い合わせ先：学生センター生活担当
Tel.075-753-2539・2540

● 下宿・アパート等の紹介サービス

学生センター生活担当では、入学手続の日から下宿・アパート等を紹介しています。風呂は無く、台所・トイレも共同ですが、その分、部屋代も安価で、4.5畳で15,000円、6畳で20,000円前後のものを紹介しています。

また、京都大学生協同組合では、アパート・マンション等の紹介をしています。

◎問い合わせ先：

学生センター生活担当 Tel.075-753-2533,
京都大学生協同組合ルネ南側別館
Tel.075-771-0823 〈桂, 宇治の物件等の紹介も有〉

● アルバイトの紹介サービス

学生センターでは、主に家庭教師・祭礼行列員等のアルバイトを紹介しています。

祭礼アルバイトは、京都の三大祭（葵祭、祇園祭、時代祭）等で、行列に参加したり、山車を引いたりするもので、学生生活の思い出にもなり、学生に好評のアルバイトです。

なお、その他一般のアルバイトは、京都大学生協同組合で紹介しています。

◎問い合わせ先：

学生センター生活担当 Tel.075-753-2533,
京都大学生協同組合コンベンション・サービスセンター Tel.075-752-0374

● 健康管理について

保健管理センター

本学学生の健康の保持と増進を図り、最適な健康状態で充実した学生生活を過ごしてもらうために、健康管理を専門的に行う施設として保健管理センターを設置しています。

センターには専任の医師と看護師がおり、健康診断や保健指導などの予防医療、応急措置などの初期診療、その他健康に関するあらゆる相談を行っています。病院などとは異なり、ちょっとした不安や疑問を解決するためにごく気軽に受診することができます。また、検査や投薬も受けられます。個別の相談や診療は正門西側カフェレストラン・カンフォア隣りの保健診療所で受け付けます。

学生寄宿舍一覧

	吉田寮	熊野寮	女子寮
収容定員	147名	422名	35名
対象学生	男子・女子	男子・女子	女子
建物構造	木造2階建(3棟)	鉄筋コンクリート4階建(3棟)	木造モルタル塗2階建(2棟)
居室様式	和室	洋室	洋室
食堂の設置	無	有	無
寄宿料(月)	400円	700円	400円
光熱水料等	2,000円から3,500円(各寮により異なります)		
通学時間(※)	徒歩約5分	徒歩約15分	徒歩約7分

※吉田キャンパス本部構内までの参考通学時間



保健診療所

保健診療所では、下記各科の専門医が、本学学生の病気やけがの診療と健康相談・メンタルヘルス相談を行っています。

(a) 診療科名

内科，神経科，皮膚科，眼科，スポーツ整形外科，耳鼻咽喉科

(b) 診療受付時間

10:00～12:30, 14:00～16:30

(c) 休診日

土曜日，日曜日，国民の祝日及び年末年始（12月29日～1月3日）は全日休診です。

なお，臨時休診日（定期健康診断実施日等）は，その都度受付の掲示板に掲示しています。

(d) 緊急時対応（事故等）

事故等で緊急に処置を要する傷病が発生した場合は，通常の受診手続きを取らずに，直接医療職が対応いたします。

【緊急時連絡先】

8:30～17:30 内科（内線2405）

(e) 料金

学生の診察や相談は無料です。ただし検査，投薬，処置，診断書作成は実費となります。正課中の負傷は，初回治療のみ処置や投薬も無料です。

◎各科の診療などの問い合わせ先：

Tel 075-753-2404（受付）又は

Tel 075-753-2405（内科）

● 学生教育研究災害障害保険

学生が、「急激」かつ「偶然」に「外来」の事故を被った場合の災害補償を全国的な補償救済措置として制度化されたもので、本学では、教育研究活動中等の不慮の災害事故補償のため、保険料も低額な本保険への全員の加入を強く勧めています。

また、インターンシップ、教育実習、介護体験、ボランティア活動等において学生が万が一相手にケガをさせたり物を壊したりした時に備えて賠償責任保険の加入も勧めています。さらに教育研究活動中の補償を24時間に拡大し、アルバイトや自主参加のインターンシップも含めた学生生活の幅広いリスクに対応した学生生活総合保険もあります。

◎問い合わせ先：学生センター生活担当

Tel.075-753-2533

● 京都大学学生健康保険組合

京都大学では、昭和25年より本学学生が、風邪やケガで学内の医療機関等で治療等を受けた場合、学生相互に医療費を補助することを目的とした、学生健康保険組合を設置しています。

この保険組合に加入すると学内の医療機関（京都大学保健診療所及び医学部附属病院）等で受診した1年間に支払った医療費の総額の一部を補助します。組合費は1年間500円で全員が加入されるようお勧めします。

◎問い合わせ先：学生センター生活担当

Tel.075-753-2534

● カウンセリングセンター

京都大学では、学生が学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる場として、カウンセリングセンターを設置しています。大学は、単に知的な学習・研究のための場ではなく、全人格的な成長・発達のための場であるべきものです。しかし学生生活の中で、自分だけでは抱えきれない問題が生じてくることもあるかもしれません。友人や家族にさえ話にくい内容の場合もあるでしょう。そういう時のために、カウンセリングセンターがあるのです。

カウンセリングセンターでは、心理学（臨床心理学・相談心理学・青年心理学など）を専門とするスタッフが相談に応じています。現在、1年間に約500人の学生が相談に訪れ、のべ5,000回に上る相談面接がなされています。

（カウンセリングセンターの詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>）

京都大学生生活協同組合

バランスのとれた食生活や、書籍・文具・日用品など、生協は生活のすべてをサポートします。



【写真】本部構内の正門横にあるカフェレストラン「カンフォーラ」

学内の各キャンパスには、京都大学生生活協同組合が運営するカフェレストラン、食堂、ショップなどがあり、京都大学での勉強・教育・研究生生活を幅広くサポートしています。

● 朝食から夕食まで、食生活をサポート

生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスの取れた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活をサポートしています。レシートへの栄養価表示や、食生活や健康に関する情報の提供、食生活相談や体力測定など、学生の食の自立を応援し、健康への関心を高める企画に取り組んでいます。

● 書籍からパソコン、文具など、勉学・研究生生活をサポート

講義に必要な教科書や専門書、雑誌から文具類やパソコンまで、大学での勉学や研究に必要とされる商品、サービスを提供しています。特に書籍・雑誌は生協組合員の特典として定価の10%引（CDは15%引）で提供し、大変喜ばれています。

● 安全で安心な大学生生活をサポート

行動範囲や社会的責任の広がる大学生活、事故や病気などの「万が一」に備えるため、「学生総合共済」に取り組んでいます。安い掛金で大学生活にぴったりの保障が自慢です。京都大学では約70%の学生・

院生が加入し、給付金額は1年間（07年9月～08年8月）で393人、約2,430万円でした。事故や病気にあわないための予防活動や情報提供にも力を入れています。

● 京都大学の内外で大好評、「京都大学オリジナルグッズ」

最近人気の京都大学オリジナルグッズも生協で販売しています。手頃なボールペン・レポート用紙・Tシャツ・タオルなどから、贈答に最適のクリスタル用品や時計のほか、「食べられるオリジナルグッズ」として好評な八つ橋、かわらせんべい、飴などに加え、新しくチョコレートが仲間入りしました。また京大教員が考案した元素記号の立体周期表「エレメンタッチ」なども大学らしいと評判です。



【写真】ショップルネ内の書籍コーナー



【写真】時計台生協ショップ

京大大学生生活協同組合各施設の営業時間

キャンパス(学部)	施設の名称	営業時間(平日)	取扱内容等	
吉田キャンパス 北部構内 (理・農)	食堂部	8:00～21:00	1階:カフェテリア食堂, 2階:喫茶(計250席)	
	購買部	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等	
本部構内 (文・教・法・経・工)	中央食堂	8:00～21:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計396席)	
	時計台生協ショップ	10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等	
	京大ショップ	10:00～17:00	京大オリジナルグッズ, 教員図書等	
	時計台旅行センター	10:00～19:00	海外・国内旅行, プレイガイド等	
	コンベンション・サービスセンター	10:00～17:30	イベントサポート, アルバイト紹介	
	生協本部	組合員センター	10:00～17:00	生協加入・脱退, 共済給付申請
	正門カフェレストラン「カンフォーラ」	9:00～21:30	カフェレストラン(計100席)	
吉田キャンパス 吉田南構内 (全学共通・総人)	吉田食堂	10:30～15:30	1階, 2階:カフェテリア食堂(計587席)	
	吉田ショップ	8:30～19:00	文具・食品・日用品の販売, 教科書販売等	
吉田キャンパス 医学部構内 (医・薬)	食堂部	11:00～17:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計174席)	
	ショップ	10:00～18:00	文具・食品・書籍などの販売	
吉田キャンパス 西部構内	カフェテリア「ルネ」	11:00～22:00	カフェテリア食堂(計494席)	
	ショップルネ	10:00～19:00	パソコン本体・パーツ・周辺機器・ソフトウェア 教科書・参考書などの専門書, 一般書, 雑誌等, スタディガイド	
	ルネ南側別館	11:00～17:00	住まいの斡旋, 自転車・バイク, 家具・家電リサイクル用品	
宇治キャンパス (各研究所)	食堂部	11:00～20:00	カフェテリア食堂(計168席)	
	購買部	10:30～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券	
桂キャンパス	桂Bクラスター キャンパスショップ	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券	
	桂Bクラスター カフェテリア食堂「セレネ」	11:00～21:00	カフェテリア食堂(計126席)	
	桂Bクラスター カフェ「アルテ」	11:00～18:00	喫茶(展望デッキ席もあります。計244席)	
	桂Aクラスター ショップ	10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券	
	桂Aクラスター ベーカリーショップ「リユージュ」	8:00～19:00	焼きたてパン, 調理パン等	
	桂Aクラスター ハーフムーンガーデン	11:00～14:00 18:00～22:00	テイクアウト弁当・軽食	

詳しくは京大大学生協ホームページ <http://www.s-coop.net> をご覧ください。

● 京大受験生や、新入生も 応援しています。

生協では京都大学を受験する皆さんの宿泊の手配も行い、安心して受験していただけるようお手伝いをしています。受験の不安を和らげようと、受験生のサポートには在校生があたっています。

また毎年3月には新入生の住まい探しや生活用品の購入ができる「新入生センター」を開設し、京都大学での新生活がスムーズに始まるお手伝いをしています。

ほかにも、京都大学オープンキャンパスでのキャンパスツアー開催や各種相談コーナーの運営などを通して、これから京都大学を目指す人々へのサポート活動にも力を入れています。



[写真] 百周年時計台記念館内にある「京大ショップ」。
京都大学オリジナルグッズや京都大学の教員が執筆した書籍が購入できます。



ボクシング部



合気道部

クラブ・サークル活動



落語研究会

文化系サークル(106団体)

■音楽・ダンス系

- 音楽部交響楽団
- 軽音楽部
- 音楽研究会
- 合唱部
- グリークラブ
- アカペラサークル・CRAZY CLEF
- ギタークラブ
- マンドリンオーケストラ
- 吹奏楽団
- リコーダー同好会
- E.M.B.G
- 軽音サークル・こんべいとう
- 軽音サークル・ZETS
- 吉田音楽製作所
- 民族舞踊研究会
- ALL京大舞踊研究会
- アマチュアダンスクラブ
- 叡風会
- アンブラッド
- Egoistic Dancers
- エレクトーンサークルKUES

■芸術・古典系

- 劇団ケツペキ
- 劇団ペーバームーンシアター

映画部

- 映画文化研究会
- シネマ研究会
- 雪だるまプロ
- 漫画研究部
- アニメーション同好会
- 創作サークル「名称未定」
- 美術部
- 美術研究会
- 陶芸部
- 写真部
- 書道部
- 能楽部観世会
- 能楽部宝生会
- 能楽部金剛会
- 能楽部狂言会
- 心茶会
- 落語研究会
- 囲碁部
- 奇術研究会
- 将棋部
- 京都大学かるた会
- デジタル写真サークルDigi*Photo!
- 京大短歌

■宗教系

- キリスト者学生会
- 聖書研究会
- 平和哲学研究会
- 古典に学ぶ会
- 原理研究会

■人文・社会・自然系

- クイズ研究会
- RPG研究会
- SF・幻想文学研究会
- 唯物論研究会
- コリアン学生の集い
- 韓国文化研究会
- 京都大学韓国留学生会
- 京都ムスリム協会
- 歴史研究会
- 地理同好会
- 鉄道研究会
- 天文同好会
- 粋な科学の会
- 生物科学の会
- コロポックル
- 野生生物研究会
- 都市公害問題研究会
- 環境ネットワーク4Rの会

環境サークルえこみっと

- 機械研究会
- E.S.S
- エスペラント語研究会
- 児童文学研究会・紙風船
- 点訳サークル
- 手話サークル
- グッドサマリタンクラブ
- さいもんめ
- 放送局・KUBS
- 現代社会研究会
- アジア連帯! 学生キャンペーン
- 刑事法研究会
- 探検部
- 有機農業研究会
- MPI (経営・政策勉強会)
- きのこじき
- 京都大学自然農法研究会
- ローバースカウトクラブ
- 農業交流ネットワーク
- 国際交流サークル(KIXS)
- 中国人留学生学友会
- リサイクル市実行委員会

■その他

- 学生平和委員会

京大ユネスコ学生クラブ

- 京大ユニセフクラブ
- アイセック京都大学委員会
- 全学学生自治会 同学会
- 西部講堂連絡協議会
- 文化サークル連合会
- 11月祭全学実行委員会
- 京都大学新聞社
- 京大学生新聞会
- 京大生協学生委員会
- 京都大学院生協議会



京都大学かるた会



バスケットボール部

体育会所属部(49団体)

- 運動部
- 合気道部
- アイスホッケー部
- アーチェリー部
- アメリカンフットボール部
- 居合道部
- ウインドサーフィン部
- ウェイトリフティング部
- カヌー部
- 空手道部
- 弓道部
- グライダー部
- 剣道部
- 硬式庭球部
- 硬式野球部
- ゴルフ部
- サイクリング部
- サッカー部
- 山岳部
- 自転車競技部
- 自動車部
- 柔道部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- スキー競技部
- スピードスケート部
- 相撲部
- ソフトテニス部
- ソフトボール部
- 体操部
- 卓球部
- 馬術部
- バスケットボール部
- バドミントン部
- バーベル部
- バレーボール部
- ハンドボール部
- フィールドホッケー部
- フィギュアスケート部
- フェンシング部
- ボウリング部
- ボート部
- ボクシング部
- ヨット部
- ライフル射撃部
- ラクロス部
- ラグビー部
- 陸上競技部
- その他
- 応援団

体育会に所属していない体育系サークル(40団体)

- 京都を歩く会
- 散策の会
- オリエンテーリングクラブ
- ワンダーフォーゲル部
- フリークライミングクラブ
- 神楽ヨットクラブ
- 硬式庭球同好会
- 硬式庭球同好会・FREAK
- KIDDY KIDS
- フレームショット
- 京大ソフトテニスサークル
- テニスサークル・JUST OUT
- 京大T.C.T
- スキー同好会・スノーバンサー
- 基礎スキークラブ・ラスカル
- 青城サッカークラブ
- 飛翔会
- 持久走同好会
- メイプル(バスケットボール)
- バスケットボールサークル・フリークラブ
- バスケットボールサークル・L.E.D
- バレーボールサークル・JUSTICE
- 剣道同好会・指新会
- 天之武産合気同好会
- 空手同好会
- 東洋医学拳法

- 太極拳同好会
- 圓和道部
- ソフトボール同好会・プレッシャーズ
- 卓球同好会・SMASH×SMASH
- バドミントンサークル・レモンスカッシュ
- アルパトロスゴルフ同好会
- アウトドアサークル・DOWN HILL
- バードマンチーム・シューティングスターズ
- BREEZE
- チアリーディングサークル・TREVIS
- ブーメランサークル
- ウッズストック(軟式野球)
- Nekthy(フットサルサークル)
- テコンドーサークル

課外活動施設

- 北部グラウンド
- 北白川スポーツ会館
- 馬場(厩舎)
- 吉田南グラウンド
- テニスコート
- 総合体育館
- 総合体育館附属プール
- バレーコート
- 弓道場
- アーチェリー場
- 相撲場 など

- [学校外の施設]
- 白馬山の家
- 白浜海の家
- 笹ヶ峰ヒュッテ
- 志賀高原ヒュッテ など

学部紹介

京都大学の10の学部についてご紹介します。
学部の特長、教育カリキュラム、学ぶ事ができる科目などについて述べられています。また、各学部の在学生や卒業生が自らの学部について語った生の声も収録しています。
みなさんが受験する学部を決める際の指針としてください。

38 総合人間学部

42 文学部

46 教育学部

50 法学部

54 経済学部

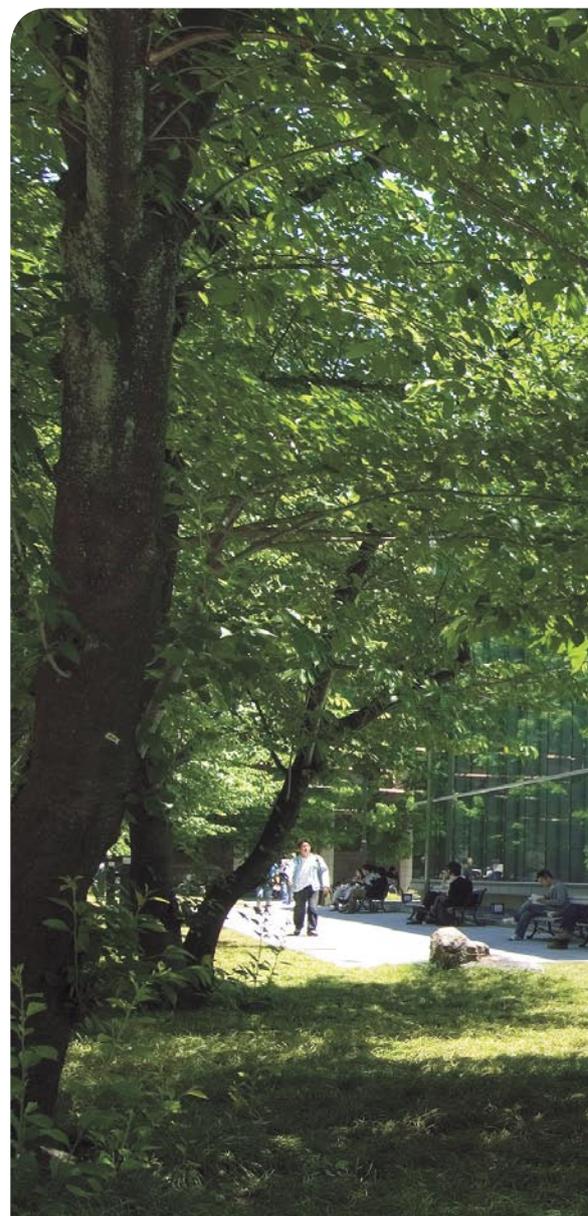
58 理学部

62 医学部

68 薬学部

72 工学部

76 農学部





総合人間学部

Faculty of Integrated Human Studies



【写真】「自然科学特別ゼミナール」の授業風景

● 総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず限りない好奇心をもてる学生、学を究めるうえでその先に見えてくる新たな地平に無上の喜びを感じることのできる学生、本学部はそういう学生が門をたくことを望んでいます。

● 総合人間学部への誘い

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され、平成5年4月に第1期生を迎え入れました。京都大学で最も新しい学部です。

この学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、ここでの研究と教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするからです。「総合人間学」は、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と、人間をとりまく世界を、総合的に捉える学問の確立が、総合人間学部にとえられた課題です。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越えた、より多様で総合的な学問の場を提供すること、これをわれわれはめざしています。

総合人間学部は、人間・環境学研究科（大学院）に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けました。時代の要請にもなっています。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系の主専攻を選択します。その際、「文系」「理系」のいずれの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することに

よって、幅広い専門知識を身につける制度です。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合は、卒業の際に、学位記と並んで主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

新たな「人間の学」をめざして

総合人間学部の教育

▶ 5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叡智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総合的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。また、今日、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発言、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的で新しい文明の理念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また、世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

▶ 専攻の決定

「文系」「理系」という入学試験の形態にかかわらず、本学部入学生はすべて、入学後1年間、どの学系にも分属しません。自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分属されます。

▶ 4年一環教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究科」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

▶ 副専攻制度

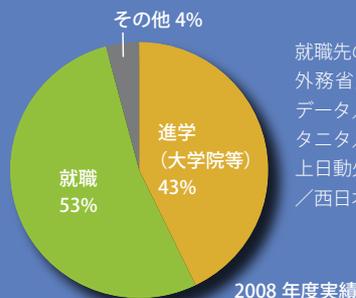
総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

▶ 大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

● 卒業後の進路

進学：約4割が人間・環境学研究科等の大学院へ進学します。
就職：就職先は官公庁や教育機関、マスコミやIT関係といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等、総合人間学部の特色を示すように多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活動しています。



就職先の例
外務省／NHK／中日新聞社／NTT
データ／三菱UFJ銀行／住友商事／
タニタ／電通／伊藤忠商事／東京海上
日動火災保険／日本生命／富士通
／西日本旅客鉄道／経済産業省

▶ 共生人間学専攻

本専攻では、「人間相互の共生」という視点をふまえて、社会や文化の中に生きる人間存在のありようを探究し、人間同志が共に生きるなかから生まれる諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

▶ 共生文明学専攻

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探究し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

▶ 相関環境学専攻

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探究し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質関連論講座の4講座を設置しています。

● 総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、高等学校、中学校、養護学校の教育職員になることを目指す学生は、教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。また、博物館等の専門職員となるための学芸員の資格も、博物館法の定めにより、他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許状の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語, 社会, 数学, 理科, 保健体育, 英語, ドイツ語, フランス語
高等学校一種	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 保健体育, 情報, 英語, ドイツ語, フランス語

卒業生からのメッセージ

「軸」を見つける時間

2008年卒業
株式会社キャリアブレイン 編集部 記者
萩原 宏子さん



1年間の休学を挟んで5年間、私は総合人間学部中に在籍していました。今振り返ると、総人での5年間は「思考の『軸』を見つける時間」だったように思います。私は在学時、植民地主義思想やナショナリズム、パレスチナ問題などを学んできました。また、「実際に何かやってみたい」と考え、NGOのアフガン難民支援に関わり、多くの難民に出会いました。彼らの置かれた状況に対する疑問から、卒業論文でも難民をテーマにしました。この時感じた「なぜ?」という思いは今も、私が物事を考える上での「軸」になっています。ただ、これはあくまでも私の経験。何をやるかは限りなく自由で、得られるものも十人十色。その分、目指すべき方向が見えなくなることもあるかもしれませんが、皆さんが素敵な学生生活を送られることを祈っています。

自由に苦しみ、自由を楽しもう

1998年卒業
京都大学大学院 人間・環境学研究科 講師
大倉 得史さん



「色々な分野について学べる」という宣伝文句に惹かれて、私は「総人」に入学しました。単位の選択肢が多く、転専攻も比較的容易という点を利用し、物理学から発達心理学に専攻を変わるとともに、サークル活動やアルバイトもよくしました。お世辞にもよく勉強した方だとは言えませんが、色々な講義に出て、友人と語り、子どもなどに関わるアルバイトをして過ごした経験が、今の研究に大変役に立っています。当時は学問に限らず「興味のあることを少しずつつかじっているだけ」という気分でしたが、今思えばその中で自分なりの興味が定まっていたのだと思います。

自由な分だけ「自覚的に興味を絞り込む必要」がよく指摘されますが、分野の選び方も、そもそも学問をやるか否かも自由といった雰囲気、まずは存分に楽しんで(苦しんで)ください。

Message

在学生からのメッセージ

自由の中で視野を広げる

4回生 箱川 真吾さん



自由の学風を重んじる本学の中でも特に自由な総合人間学部。通称「総人」。指示を待つより自分で考え自分の意思で行動したい性格の人にはとても心地よく住み良いところです。またここ数年で総人キャンパスの建物の多くが改修されてより勉強・研究しやすい環境が整ってきています。

私が総人を選んだ理由は「今はまだ専門分野に特化するより様々な分野を学びたい」というものですが、本学部の強みは文と理の物の見方をバランスよく養える点。多様化した今の世界では、様々な要素が絡み合い解決が困難になっている社会問題が多いように感じます。

ここで培った多角的な視野、柔軟な考え方はあなたがそういう難しい課題に取り組む時こそ、力を発揮してくれるはずですよ。

ちなみに、生まれ変わってももう一度この学部を選びたいと私は思いますよ。

可能性を育てる「自由」

2回生 豊田 智夏さん



総合人間学部は「自由」という点で、最も京都大学らしい学部といえるのではないのでしょうか。わたしは受験当時、宇宙や哲学、国際といった分野に興味があり、どれも捨てたくなかったため、総人を選びました。思惑どおり、文系・理系の枠を超えて広がる研究分野と、必修科目がなく好きな授業に割ける時間が多いことのおかげで、純粋におもしろいと思えることを見極め、学習できていると思います。選択肢が多いため、何を専門にしたいのか決めかねているのも事実ですが、嬉しい悩みです。

興味のあることはなんでもできる。そのために自由の幅が大きい。それが総人だと思います。その特徴をプラスにできるように、自分はなにがしたいのか、よく考えてほしいと思います。それができれば、総人は自分の可能性を育てるには最高の場所だと思います。

学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根拠的な人間理解を目指しています。その道筋として3つが考えられます。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理的な説明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的な説明です。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究です。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象についての歴史的社会的な研究です。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の6分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学構築を目指します。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をとおして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医学、情報科学や数理学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認識行動の包括的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知科学、行動制御学、身体機能論、現象数理論、数理情報論、言語情報科学、言語比較論、外国語教育論

国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものを主専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養（リベラル・アーツ）と柔軟な思考に裏づけられた専門知識の修得を心がけていただきたい。「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

文明構造論、現代社会論、国際社会論、歴史社会論、東アジア文化論、西欧文化論、共生社会環境論

文化環境学系

本学系では近代文明のグローバル化が進展する現代にあつてその基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な人間活動や居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追究します。また各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を種々の記憶にも留意しつつ複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明・文化や環境に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明・文化はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解し、文明・文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけてもらいます。

授業は、大学院人間環境学研究所の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

多文化複合論、地域文明論、文明交流論、文化人類学、地域空間論、環境構成論

自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球、さらには宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物科学、地球科学で構成されています。それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、新たな知の創造をめざします。講義は、大学院人間・環境学研究所の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子環境相関論、生命環境相関論、生物環境動態論、地球環境動態論、物質物性相関論、物質機能相関論



[写真] 新歓合宿にて

専門科目（学部共通科目）

主専攻	科目
人間科学系	<p>【入門科目】 人間科学入門</p> <p>【人間形成論関係】 人間形成論、人間形成論演習A、人間形成論演習B、人間形成史論、人間形成史論演習A、人間形成史論演習B、関係発達論、関係発達論演習A、関係発達論演習B、精神病理学・精神分析学、精神分析学Ⅰ、精神分析学Ⅱ、精神病理学・精神分析学演習A、精神病理学・精神分析学演習B</p> <p>【社会行動論関係】 グループ・ダイナミクス演習A、グループ・ダイナミクス演習B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習A、人間行動論演習B、社会情報論演習A、社会情報論演習B、宗教現象学、生命倫理学、宗教学研究法論演習A、宗教学研究法論演習B、社会心理学演習A、社会心理学演習B</p> <p>【文化社会論関係】 ヒストリー・オブ・アイディアズⅠA、ヒストリー・オブ・アイディアズⅠB、ヒストリー・オブ・アイディアズⅡA、ヒストリー・オブ・アイディアズⅡB、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B、動態映画文化論ⅠA、動態映画文化論ⅠB、動態映画文化論ⅡA、動態映画文化論ⅡB、動態映画文化論演習ⅠA、動態映画文化論演習ⅠB、動態映画文化論演習ⅡA、動態映画文化論演習ⅡB、制度・生活文化史ⅠA、制度・生活文化史ⅠB、制度・生活文化史ⅡA、制度・生活文化史ⅡB、制度・生活文化史演習ⅠA、制度・生活文化史演習ⅠB、制度・生活文化史演習ⅡA、制度・生活文化史演習ⅡB、メディア・スタディーズⅠA、メディア・スタディーズⅠB、メディア・スタディーズⅡA、メディア・スタディーズⅡB、メディア・スタディーズ演習A、メディア・スタディーズ演習B</p> <p>【人間存在論関係】 自己存在論A、自己存在論B、自己存在論演習A、自己存在論演習B、認識人間学A、認識人間学B、認識人間学演習ⅠA、認識人間学演習ⅠB、認識人間学演習ⅡA、認識人間学演習ⅡB、人間実践論A、人間実践論B、人間実践論演習A、人間実践論演習B、環境存在論、環境規範論、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特論A、人間存在論特論B、人間存在論特別演習</p> <p>【創造行為論関係】 創造行為論演習A、創造行為論演習B、創造行為論講義演習A、創造行為論講義演習B、近代芸術論A、近代芸術論B、近代芸術論演習A、近代芸術論演習B、舞台芸術論A、舞台芸術論B、舞台芸術論演習A、舞台芸術論演習B、創造ルネッサンス論A、創造ルネッサンス論B、創造ルネッサンス演習A、創造ルネッサンス演習B</p> <p>【文芸表象論関係】 英米文芸表象論講義A、英米文芸表象論講義B、英米文芸表象論演習ⅠA、英米文芸表象論演習ⅠB、英米文芸表象論演習ⅡA、英米文芸表象論演習ⅡB、英米文芸表象論講義ⅠA、英米文芸表象論講義ⅠB、英米文芸表象論講義ⅡA、英米文芸表象論講義ⅡB、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B、ドイツ文芸表象論演習A、ドイツ文芸表象論演習B、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B</p>

専門科目 (系別科目)

主専攻	科目
認知情報学系	<p>[入門科目] 認知・行動科学入門, 言語・数理情報科学入門</p> <p>[認知行動科学関係] 行動神経機能論, 行動神経機能論演習, 行動神経機能論実験, 行動神経機能論ゼミ 1, 行動神経機能論ゼミ 2, 行動制御学演習 1, 生体情報論, 生体情報論演習, 神経機能論実験 A, 生体情報論基礎ゼミ, 神経生理学の基礎, 神経生理学基礎演習, 神経機能論実験 B, 生命科学基礎ゼミ, 認知機能論, 認知機能論演習, 認知機能論ゼミ A, 認知機能論ゼミ B, 視覚認識論, 視覚認識論演習, 視覚科学実験, 細胞生理学, 細胞生理学実験, 細胞生理学ゼミ A, 細胞生理学ゼミ B, 運動医学, 運動医学演習, 運動医学実験, 呼吸循環機能論ゼミ, 神経・筋機能論ゼミ, 代謝機能論, 代謝機能論演習, 代謝機能論実験, 代謝機能論ゼミ A, 代謝機能論ゼミ B, 生活習慣と生体機能障害, 運動療法実験, 応用運動医学ゼミ, 分子運動医学ゼミ, トレーニング科学, 運動制御実験, 運動制御ゼミ A, 運動制御ゼミ B, 生体生理学実験, 生体生理学演習</p> <p>[数理情報論関係] 数理現象論 A, 数理現象論 B, 数理構造論 A, 数理構造論 B, 数理科学ゼミナール, 数理科学特論 I, 数理科学特論 II, 数理科学特論 III, 複素解析 B, 実解析 A, 実解析 B, 計算機科学の基礎 A, 計算機科学の基礎 B, 計算論, 計算と位相, 情報処理の方法と演習 A, 情報処理の方法と演習 B, 数理科学論講究, 情報科学のためのプログラミング I, 情報科学のためのプログラミング II</p> <p>[言語科学関係] 言語構造論 A, 言語構造論 B, 言語構造論演習 A, 言語構造論演習 B, 言語機能論 A, 言語機能論 B, 言語機能論演習 A, 言語機能論演習 B, 言語認知論, 言語認知論演習 A, 言語認知論演習 B, 言語比較論 A, 言語比較論 B, 言語比較論演習 A, 言語比較論演習 B, 言語科学ゼミナール IA, 言語科学ゼミナール IB, 言語科学ゼミナール IIA, 言語科学ゼミナール IIB, 言語科学ゼミナール IIIA, 言語科学ゼミナール IIIB, 言語科学ゼミナール IVA, 言語科学ゼミナール IVB</p> <p>[外国語教育論関係] 英語学習指導論, 英語教育方法論, 英語コミュニケーション論, 言語教育政策論, 言語教育政策論演習</p>
国際文明学系	<p>[入門科目] 国際文明学入門 A, 国際文明学入門 B</p> <p>[社会相関論関係] 文明構造論 IA, 文明構造論 IB, 文明構造論 IIA, 文明構造論 IIB, 文明構造論 IIIA, 文明構造論 IIIB, 文明構造論 IVA, 文明構造論 IVB, 文明構造論演習 IA, 文明構造論演習 IB, 文明構造論演習 IIA, 文明構造論演習 IIB, 文明構造論演習 IIIA, 文明構造論演習 IIIB, 文明構造論演習 IVA, 文明構造論演習 IVB, 現代社会論 IA, 現代社会論 IB, 現代社会論 IIA, 現代社会論 IIB, 現代社会論 IIIA, 現代社会論 IIIB, 現代社会論演習 IA, 現代社会論演習 IB, 現代社会論演習 IIA, 現代社会論演習 IIB, 現代社会論演習 IIIA, 現代社会論演習 IIIB, 現代社会論演習 IVA, 現代社会論演習 IVB, 現代経済文明論 IA, 現代経済文明論 IB, 現代経済文明論 IIA, 現代経済文明論 IIB, 多文化社会論 IA, 多文化社会論 IB, 多文化社会論 IIA, 多文化社会論 IIB, 多文化社会論演習 IA, 多文化社会論演習 IB, 多文化社会論演習 IIA, 多文化社会論演習 IIB, 国際関係論 IA, 国際関係論 IB, 国際関係論 IIA, 国際関係論 IIB, 国際関係論 IIIA, 国際関係論 IIIB, 国際関係論 IVA, 国際関係論 IVB, 地域研究基礎ゼミナール A, 地域研究基礎ゼミナール B, 国際関係論演習 IA, 国際関係論演習 IB, 国際関係論演習 IIA, 国際関係論演習 IIB, 公法原理論, 契約関係原理論, 国家・社会法システム論 IA, 国家・社会法システム論 IB, 国家・社会法システム論 IIA, 国家・社会法システム論 IIB, 国家・社会法システム論 IIIA, 国家・社会法システム論 IIIB, 国家・社会法システム論演習 IA, 国家・社会法システム論演習 IB, 国家・社会法システム論演習 IIA, 国家・社会法システム論演習 IIB, 国家・社会法システム論演習 IIIA, 国家・社会法システム論演習 IIIB, 社会経済システム論 IA, 社会経済システム論 IB, 社会経済システム論 IIA, 社会経済システム論 IIB, 社会経済システム論 IIIA, 社会経済システム論 IIIB, 社会統計論 A, 社会統計論 B, 社会統計論基礎ゼミナール A, 社会統計論基礎ゼミナール B, 社会経済システム論演習 IA, 社会経済システム論演習 IB, 社会経済システム論演習 IIA, 社会経済システム論演習 IIB, 社会経済システム論演習 IIIA, 社会経済システム論演習 IIIB, 社会統計論演習 A, 社会統計論演習 B, 比較経営組織論 A, 比較経営組織論 B, 公共政策論 IA, 公共政策論 IB, 公共政策論 IIA, 公共政策論 IIB, 公共政策論 IIIA, 公共政策論 IIIB, 公共政策論演習 IA, 公共政策論演習 IB, 公共政策論演習 IIA, 公共政策論演習 IIB, 経済と数学 A, 経済と数学 B</p> <p>[歴史文化社会関係] 欧米歴史社会論 IA, 欧米歴史社会論 IB, 欧米歴史社会論 IIA, 欧米歴史社会論 IIB, 欧米歴史社会論演習 IA, 欧米歴史社会論演習 IB, 欧米歴史社会論演習 IIA, 欧米歴史社会論演習 IIB, 日本歴史文化論 IA, 日本歴史文化論 IB, 日本歴史文化論 IIA, 日本歴史文化論 IIB, 日本歴史文化論演習 IA, 日本歴史文化論演習 IB, 日本歴史文化論演習 IIA, 日本歴史文化論演習 IIB, 中国社会論 IA, 中国社会論 IB, 中国社会論 IIA, 中国社会論 IIB, 中国社会論演習 IA, 中国社会論演習 IB, 中国社会論演習 IIA, 中国社会論演習 IIB, 中国文字文化論, 中国書誌論, 中国古典講読論 A, 中国古典講読論 B, 中国文化論演習 IA, 中国文化論演習 IB, 日本語学・日本文学 IA, 日本語学・日本文学 IB, 日本語学・日本文学 IIA, 日本語学・日本文学 IIB, 日本語学・日本文学 IIIA, 日本語学・日本文学 IIIB, 日本宗教史論 A, 日本宗教史論 B, 日本語学・日本文学演習 IA, 日本語学・日本文学演習 IB, 日本語学・日本文学演習 IIA, 日本語学・日本文学演習 IIB, 日本語学・日本文学演習 IIIA, 日本語学・日本文学演習 IIIB, 書論・書写演習 A, 書論・書写演習 B, 日本古典講読論 A, 日本古典講読論 B, 日本語学文献講読論 A, 日本語学文献講読論 B, 西欧近現代表象文化論 IA, 西欧近現代表象文化論 IB, 西欧近現代表象文化論 IIA, 西欧近現代表象文化論 IIB, 西欧近現代表象文化論 IIIA, 西欧近現代表象文化論 IIIB, 西欧近現代表象文化論演習 IA, 西欧近現代表象文化論演習 IB, 西欧近現代表象文化論演習 IIA, 西欧近現代表象文化論演習 IIB, 西欧近現代表象文化論演習 IIIA, 西欧近現代表象文化論演習 IIIB, 西欧近現代表象文化論演習 IVA, 西欧近現代表象文化論演習 IVB, 西欧古代・中世表象文化論 IA, 西欧古代・中世表象文化論 IB, 西欧古代・中世表象文化論 IIA, 西欧古代・中世表象文化論 IIB, 西欧古代・中世表象文化論 IIIA, 西欧古代・中世表象文化論 IIIB, 西欧古代・中世表象文化論演習 IA, 西欧古代・中世表象文化論演習 IB, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIA, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIB, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIIA, 西欧古代・中世表象文化論演習 IIIB</p>
文化環境学系	<p>[入門科目] 文化環境学入門 A, 文化環境学入門 B</p> <p>[比較文明論関係] ユーラシア文化複合論 A, ユーラシア文化複合論 B, ユーラシア文化複合論演習 A, ユーラシア文化複合論演習 B, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論 A, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論 B, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 A, ヨーロッパ・ユダヤ文化複合論演習 B, 文化交渉複合論 A, 文化交渉複合論演習 A, 文化交渉複合論演習 B, 東北アジア文化・社会論 A, 東北アジア文化・社会論 B, 東北アジア文化・社会論演習 A, 東北アジア文化・社会論演習 B, 東ヨーロッパ比較言語論 A, 東ヨーロッパ比較言語論 B, 東ヨーロッパ比較言語論演習 A, 東ヨーロッパ比較言語論演習 B, 東アジア比較芸術論 A, 東アジア比較芸術論 B, 東アジア比較芸術論演習 A, 東アジア比較芸術論演習 B, 東アジア比較言語・文化論 A, 東アジア比較言語・文化論 B, 東アジア比較言語・文化論演習 A, 東アジア比較言語・文化論演習 B, 日欧知識交流史 A, 日欧知識交流史 B, 日欧知識交流史演習 A, 日欧知識交流史演習 B, 比較パラダイム文明論 A, 比較パラダイム文明論 B, 比較パラダイム文明論演習 A, 比較パラダイム文明論演習 B, 近現代民族移動論 A, 近現代民族移動論 B, 近現代民族移動論演習 A, 近現代民族移動論演習 B, 比較動態文化論 A, 比較動態文化論 B, 比較動態文化論演習 A, 比較動態文化論演習 B</p> <p>[文化・地域環境論関係] 環境構成論 I, 環境構成論 II, 環境構成論 III, 環境構成論 IV, 環境構成論演習 I, 環境構成論演習 II, 環境構成論演習 III, 環境構成論演習 IV, 環境構成論実習 I, 環境構成論実習 II, 環境構成論実習 III, 環境構成論実習 IV, 社会人類学演習 A, 社会人類学演習 B, 文化動態論演習 A, 文化動態論演習 B, 環境人類学演習 A, 環境人類学演習 B, 文化行為論 A, 文化行為論 B, 生態人類学演習 A, 生態人類学演習 B, 文化人類学方法 A, 文化人類学方法 B, 社会人類学方法 A, 社会人類学方法 B, 宗教人類学方法 A, 宗教人類学方法 B, 地域空間論 I, 地域空間論 II, 地域空間論 III, 地域空間論 IV, 地域空間論 V, 地域空間論演習 I, 地域空間論演習 II, 地域空間論演習 III</p>
自然科学系	<p>[入門科目] 自然科学入門</p> <p>量子力学, 物性基礎論 I, 物性基礎論 II, 物性特論 I, 物性特論 II, 流体力学, 物質分析論, 物質機能論, 物質構造論, 分子構造論, 分子反応論, フロンティア化学, 生体分子機能論 A, 生体分子機能論 B, 細胞生物学 A, 細胞生物学 B, 分子細胞生物学特論, 自然史特論, 生物適応変異論, 生物多様性・生態学, 物理学演習 A, 物理学演習 B, 物理数学演習, 物質構造機能論演習 A, 物質構造機能論演習 B, 分子構造機能論演習 A, 分子構造機能論演習 B, 分子細胞生物学演習, 自然史演習, 地球科学演習, 課題演習: (物理科学) レーザー物理学, 課題演習: (物理科学) 構造と物性, 課題演習: (物理科学) 核磁気共鳴, 課題演習: (物理科学) 物理の基礎 A, 課題演習: (物理科学) 物理の基礎 B, 課題演習: 物質の構造と機能, 課題演習: 分子の構造と機能, 課題演習: 生物学, 課題演習: 地球科学, 自然科学特別ゼミナール A, 自然科学特別ゼミナール B</p>
学部共通科目	<p>学部特殊講義 IA-VA, 学部特殊講義 IB-VB, 学部特殊講義 IC, 学部特殊講義 ID, 総人ゼミ</p>

京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活サポート

学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

文学部

Faculty of Letters



【写真】上左：山東京傳似顔 / 上中：古地球儀 / 上右：演義三国志 / 下：菅丞相

● 文学部が望む学生像

文学部における教育は、人文学の名のもとに、思想、言語、文学、歴史、行動、さらに現代文化に関わって展開されてきた諸学の成果を学生に教授し、共に学び考えながら、新たな知的価値を創出することをめざしてなされるものです。そこでの活動には、単に文系の範疇に含まれるものだけではなく、高度な数学的方法や実験的手法、また情報処理の技術を必要とするものもあります。文学部は、人文学の諸学問に関して、こうした幅広い能力を具え、かつ深い教養と倫理性にも優れた人材を育成することをめざしています。過去から現在に至り、さらに未来にまでのびる人類の営みについて、様々な角度から関心を寄せ、柔軟な思考力によって問題を発見し、その解決のため、論理的に、また歴史的に、創造性豊かな考察を展開することのできる学生を本学部は歓迎します。

● 文学部への誘い

文学部は2006年に創立100周年を迎え、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出しました。創立以来何度かの改組を経て、現在本学部には哲学基礎文化学系、東洋文化学系、西洋文化学系、歴史基礎文化学系、行動・環境文化学系、基礎現代文化学系の6つの系と、その中に32（大学院では31）の専修が設置され、人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問（狭義の人文学のみならず社会科学や自然科学の一部も含まれます）をカバーしています。

文学部の多種多様な研究を束ねる唯一のキーワードは、人間とその文化的営みです。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的にはこの日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の広大な研究領域をカバーする系と専修も実に多種多様です。学部生は2年生になる時に6つの系のいずれかに仮分属し、さらに3年生で32の専修のいずれかに分属します。それぞれの専修は、教員と学生（＝学部生＋大学院生）からなる独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心とした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問的伝統を支えているのです。

「京都学派」と呼ばれる独自の自由な学風を育み、各界に多数の人材を送り出してきた本学部は、わが国の数ある文学部の中でも特筆

すべき位置を占めています。100年を超える歴史を通して培われた文学部の勉強環境は、他所ではなかなか体験できるものではありません。これから入学してこられる皆さんには、この文学部という知的交流の場にぜひ加わり、新風を吹き込んでほしいと願っています。

根源的な人間理解への 多元的なアプローチ

文学部の教育

▶ 国際化と新しい研究者の育成

他学部と同様、文学部における教育の大きな目標は研究者の養成にあります。日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。今では国際交流の活発化によって、哲学、歴史、文学、行動文化学、いずれの分野でも、国際化が進行しつつあります。その中で、日本人研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を乗り越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めなければなりません。そのために文学部では学部生の段階から、外国留学や外国人研究者との交流、さらには専修横断の学際的な公開シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードになかった研究者を育てようとしています。

▶ 文学部の4年間

文学部の学生が1年生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目で、ごく少数のものを除いて学部専門科目の履修は2年生になってからです。学年が進むにつれて勉強する分野が限定されがちです。1・2年生の間はできるだけ幅広い学問分野に触れておいた方が長期的にみればプラスになるでしょう。また、この時期は所属の専修が決まっていないとはいえ、ある程度将来分属する専修を念頭においてそれぞれに必要なとされる外国語を勉強しておくことが望まれます。

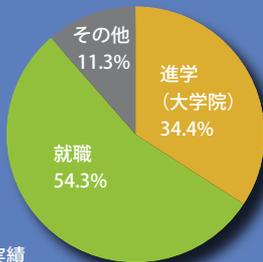
2年生になるとときには、3年生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。文学部は理工系の学部と比べると規模は小さいですが、32の専修があり、その研究内容は千差万別といってもよいくらいです。多くの専修での研究内容は皆さんにとっては未知のものですから、どのようにして専修を決定すればよいか、とまどうかもしれません。そこで、2年生では、1年生の秋に行った希望調査に従って系に仮分属し、各専修が開講している入門講義や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2年生の秋に希望専修を決定する準備をします。もちろん3年生になって専修に分属する際には、他の系の専修に分属することもできます。2年生で履修する学部英語や各国語の文献講読は系の分属に従ったクラス編成のもとで行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3年生では本格的な専門教育が始まります。各専修に分属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。そのような授業では、大学院生と同じ資格で報告を行ったり、討議に参加することになります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究というのが身近に感じられようになるでしょう。他学部比べて文献講読の形式をとる授業が多いかもしれませんが、専修によっては実験や野外実習（フィールドワーク）を課しているところもあります。

4年生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、皆さんにとっては初めてのものです。ときには苦しいかもしれませんが、一つのものを作成することの重要性を学ぶことができるでしょう。この経験は卒業後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一歩となります。

● 卒業後の進路

ここ数年は、就職者が55%前後、大学院進学者が30%前後、他大学や各種学校への進学者が3%前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では情報通信業、金融業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。



2008年度実績

就職先の例

講談社/住友商事/地方公務員/日本放送協会/日本郵政グループ/
三井住友銀行/三菱重工業/三菱UFJ信託銀行/明治安田生命保険相互会社/UFJ日立システムズ

● 文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後1年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

取得できる教職免許：

中学校一種（国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教）、
高等学校一種（国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教）

卒業生からのメッセージ

知のミキサー部

2008年地理学専修卒業
三菱重工業株式会社勤務

西田 幸世さん

小さい頃から歴史が好きで文学部を選んだのですが、入学してすぐサイクリング部と出会い、私は自転車をこいでこいでこぎまくることにハマってしまいました。そこから二年間は春夏秋冬、日本全国を山越え谷越え走り回ってました。

そんな私が、学問として自分にぴったりだと気付いたのが地理学でした。地図を見たり、いろいろな土地や地域の特色というものを知ることに関わりました。文学部の多様な専修はこんな風にまた一人の人間を受け入れてくれたのです。

「どんだけ引き出しもってんねん」と常に驚かされる先生方の博識さや、雑誌をしていると自然と話の内容が濃くなっていく先輩や仲間達が出たことも研究室の素晴らしさです。

今働いている会社の魅力は海外（特に途上国にも）プロジェクトが多く、普通の旅行では行かないような海外の僻地にインフラ設備をつくりに行くというような泥臭い（汗臭い？）仕事ができることだと思っています。

これから入学されるみなさんが大学というミキサーでもみくちやにされ、鍛えられることを願っています。



Anti-Effective

—非効率のすゝめ—

2009年科学哲学科学史専修卒業
(株)三井住友銀行勤務

衛藤 良太さん

大学時代は科学哲学科学史研究室に所属し、主に19世紀の低温物理学史について研究をしていました。

研究室での活動の中では、やはり卒業論文の執筆が最も印象に残っています。特に論文の提出間際は大学の図書館にこもり、夜遅くまで史料と格闘していたことを思い出します。

効率性を日々求められる社会人になってから当時を思い返してみますと、同じ史料を何度も何度も繰り返し読むなどということは、かもしるとあまり効率的ではなかったのかもしれませんが、しかしながら、1つの事柄に納得のいくまで時間を忘れて取り組むという経験は学生の間には積むことができないものでもあり、ここで学んだ姿勢は今の自分を形成する大きな要因になっていることは間違いありません。また一見すると非効率的に思えるこのようなことも、「学問の真髄」を味わうためには、実は最も効率的な方法なのかもしれません。

常に効率化が叫ばれる今日において、あえてそれを無視し、1つの事柄に腹を据えて取り組む。そんな時間を大学時代に送ってみるのはいかがでしょうか。



Message

在学生からのメッセージ

答えの無い魅力

中国語学中国文学専修3回生

鈴木 詩織さん

他学部の学生と話していると、よく「文学部って何をやるの?」と訊かれます。その都度具体的な専修を列挙して答えてはいますが、明確な答えはなかなか出せません。特に京大の文学部が扱う分野は多岐に渡ります。

私は今年三回生になって、専門性の高くなった講義や演習を受けるにつけ、自分の知識の無さを痛感すると同時に、決して尽きることのない奥深さと広さを感じています。一つの事をやっていると思っても、それは必ず何か他のものと絡まりあっている。絡んできたその糸を辿るのは大変なことですが、一面、底の見えない面白さを感じさせてくれます。そして京大文学部は、その手段を豊富に与えてくれる場所です。

多様な学問に触れられる環境の中で、人間の文化の来し方と行く末を見つめる、そんな四年間を、人生の中を持ってみてはいかがでしょうか。



思考のはじまりは、震撼すること

宗教学専修4回生

大谷 政弘さん

キャンパスにいて、そのためのきちんとした動機を持ち合わせているということは、やっぱり強みで、知的な欲望を充たしたい、そうあなたが感じているなら、それで十分。

ここはその期待に値する場所です。

ほとんどの場合、進学から就職へと進路の舵を切り、専修も東洋史から今の宗教学に移りましたが、京都大学文学部というこの広い可動域の中で、ほんとうにいろんなものとすれ合いすれ違い、ぶつかりもだえてどんなふうに自分が響き、鳴るのか、感じる事ができた。

おそらくそれは、このキャンパスが開かれた思考を許していたから。

ここで震える、読む、聴く、考える。人と向き合う。そうやって得た言葉や声は、このキャンパスを越えて、うつろには響かないはず。



学科紹介

哲学基礎文化学系

ここでは、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史（古代・中世・近世）、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史学（美学・芸術学、美術史学、比較芸術史学）

東洋文化学系

東洋文化学系では、日本・中国・インド・チベットの文学・思想・宗教・言語を軸とした研究が行われています。専門分野によっては、もう一步踏み込んで科学や芸術まで足を踏み入れることになるかも知れません。

基礎となるのは、なによりも文献資料の原典をきちんと読むこと。原文でしかわからない意味や美しさを理解するには、しっかりした語学力が不可欠です。研究を進展させるには、英・仏・独を始めとする外国語を、道具として駆使する必要も出てくるでしょう。

「東洋」はほんとうに存在するのか、存在するとしたらその特質はなにか、歴史的伝統と現実とはどのようにつながっているのか、文学や芸術の想像力はどんな世界を作り上げるのか。— 正確な専門的知識、分野を超えた広い視界、その両者をあわせもって考えてみてください。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総合的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

行動・環境文化学系

心理学専修では、心の働きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学の分野では認知を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。言語学専修では、人間の言語が機能する仕組みについての理論的研究、現在話されている言語を調査・分析し記述する研究、古文書を読み言語の変化や、文献以前の言語について推定する研究などが行われています。

社会学専修では、社会の構造や変化、人々の関係、文化などについて研究します。地域、家族、ジェンダー、メディア、福祉、環境など様々なトピックを扱い、社会調査にも力を入れています。地理学専修では、地域の形成過程や地域構造の分析を通して、地表空間における様々な人間活動を研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の各小分野では、地域事象全般、人間と環境の関係、景観とその変遷を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。各専修の研究内容を十分理解することができるように1、2回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野をも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、情報・史料学、二十世紀学、現代史学

専門科目（学部共通科目）

1 回生～

サンスクリット（2時間コース）、現代インド語（ヒンディー語）、哲学基礎文化学系ゼミナール、西洋文化学系ゼミナール、歴史基礎文化学系ゼミナール、行動・環境文化学系ゼミナール、基礎現代文化学系ゼミナール

2 回生～

博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ、博物館学Ⅲ、博物館学実習、フランス語（中級）、ギリシア語（2時間コース）、ギリシア語（4時間コース）、ラテン語（2時間コース）、ラテン語（4時間コース）、スペイン語（初級）、スペイン語（中級）、イタリア語（初級4時間コース）、イタリア語会話（中級）、朝鮮語（初級）、朝鮮語（中級）、サンスクリット（4時間コース）、チベット語（初級）、アラブ語（初級）、モンゴル語、オランダ語、スワヒリ語（初級）、スワヒリ語（中級）、英語、英語論文作成法、書道、東洋文化学系ゼミナール

3 回生～

ヘブライ語、イラン語（初級）、チベット語（中級）、シュメール語、フランス語（上級）

4 回生～

専門科目 (系別科目)

系	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
哲学基礎文化学系		系共通科目(哲学)講義,系共通科目(西洋古代哲学史)講義,系共通科目(西洋中世哲学史)講義,系共通科目(西洋近世哲学史)講義,系共通科目(日本哲学史)講義,系共通科目(倫理学)講義,系共通科目(宗教学)講義,系共通科目(キリスト教学)講義,系共通科目(美学)講義,系共通科目(美術史学)講義,哲学特殊講義,哲学・西洋哲学史講読,西洋哲学史講読,日本哲学史演習,日本哲学史講読,美学美術史学講読	哲学特殊講義,哲学演習,哲学卒論演習,西洋哲学史特殊講義,西洋哲学史演習,日本哲学史特殊講義,日本哲学史演習,倫理学特殊講義,倫理学演習,宗教学特殊講義,宗教学演習,宗教学演習Ⅱ,宗教学講読,キリスト教学特殊講義,キリスト教学演習,美学美術史学特殊講義,美学美術史学演習Ⅰ,美学美術史学演習Ⅱ,美学美術史学演習Ⅲ	卒業論文(哲学),卒業論文(西洋哲学史),日本哲学史演習,卒業論文(日本哲学史),卒業論文(倫理学),卒業論文(宗教学),卒業論文(キリスト教学),卒業論文(美学美術史学)
東洋文化学系	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)講義,系共通科目(インド哲学史)講義,系共通科目(仏教学)講義	系共通科目(国語学)講義,系共通科目(国文学)講義,系共通科目(中国語学)講義,系共通科目(中国文学)講義,系共通科目(中国哲学史)講義,国語学国文学講読,中国語学中国文学特殊講義,中国語学中国文学講読,中国哲学史講読,インド古典学講読	国語学国文学特殊講義,国語学国文学演習,中国語学中国文学特殊講義,中国語学中国文学演習,中国語学中国文学外国人実習,中国哲学史特殊講義,中国哲学史演習,インド古典学特殊講義,インド古典学演習,インド古典学講読,仏教学特殊講義,仏教学演習,仏教学講読Ⅰ,仏教学講読Ⅱ	国語学国文学卒論演習,卒業論文(国語学国文学),中国語学中国文学演習,卒業論文(中国語学中国文学),卒業論文(中国哲学史),卒業論文(インド古典学),卒業論文(仏教学)
西洋文化学系	系共通科目(西洋古典学)講義,系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義,系共通科目(英語学)講義,系共通科目(フランス文学)講義,系共通科目(イタリア語学イタリア文学)講義	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)講義,系共通科目(英文学)講義,系共通科目(アメリカ文学)講義,系共通科目(フランス語学)講義,西洋古典学講読,スラブ語学スラブ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学外国人実習,英語学英文学講読,英語学英文学外国人実習,アメリカ文学講読,アメリカ文学外国人実習,フランス語学フランス文学講読,イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義,西洋古典学演習,スラブ語学スラブ文学特殊講義,スラブ語学スラブ文学演習,スラブ語学スラブ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学特殊講義,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅰ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅱ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅲ,英語学英文学特殊講義,英語学英文学演習Ⅰ,アメリカ文学特殊講義,アメリカ文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学特殊講義,フランス語学フランス文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学演習Ⅱ,フランス語学フランス文学外国人実習,イタリア語学イタリア文学特殊講義,イタリア語学イタリア文学演習,イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文(西洋古典学),卒業論文(スラブ語学スラブ文学),卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学),英語学英文学演習Ⅱ,卒業論文(英語学英文学),アメリカ文学演習Ⅱ,卒業論文(アメリカ文学),フランス語学フランス文学演習Ⅱ,卒業論文(フランス語学フランス文学),卒業論文(イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎文化学系	系共通科目(考古学)講義,系共通科目(先史学)講義	系共通科目(日本史学)講義,系共通科目(東洋史学)講義,系共通科目(西南アジア史学)講義,系共通科目(西洋史学)講義,日本史学基礎演習,日本史学講読,東洋史学講読,西洋史学演習,西洋史学講読,考古学講読,考古学実習	日本史学特殊講義,日本史学演習Ⅰ,日本史学実習,東洋史学特殊講義,東洋史学演習Ⅰ,東洋史学演習Ⅱ,東洋史学演習Ⅲ,東洋史学演習Ⅳ,東洋史学演習Ⅴ,東洋史学実習,東洋史学実習,西南アジア史学特殊講義,西南アジア史学演習Ⅰ,西南アジア史学演習Ⅱ,西南アジア史学講読,西南アジア史学実習,西洋史学特殊講義,西洋史学演習Ⅰ,西洋史学演習Ⅱ,西洋史学演習Ⅲ,西洋史学演習Ⅳ,西洋史学実習,考古学特殊講義,考古学演習Ⅰ,考古学演習Ⅱ	日本史学演習Ⅱ,日本史学実習,卒業論文(日本史学),卒業論文(東洋史学),卒業論文(西南アジア史学),西洋史学演習Ⅴ,卒業論文(西洋史学),考古学演習Ⅲ,卒業論文(考古学)
行動・環境文化学系	系共通科目(言語学)講義Ⅰ,系共通科目(言語学)講義Ⅱ	系共通科目(心理学)講義Ⅰ,系共通科目(社会学)講義,系共通科目(地理学)講義,心理学講義Ka,心理学講義Kb,心理学講義Kc,心理学実習Ⅰ,心理学実習Ⅱ,言語学基礎演習,社会学特殊講義,地理学講読,地理学実習	系共通科目(心理学)講義Ⅱa,系共通科目(心理学)講義Ⅱb,系共通科目(心理学)講義Ⅱc,系共通科目(心理学)講義Ⅱd,系共通科目(心理学)講義Ⅱe,心理学特殊講義,心理学演習Ⅰ,心理学講読,心理学実習Ⅲ,言語学特殊講義,言語学演習,社会学特殊講義,社会学演習,社会学講読,社会学実習,地理学特殊講義,地理学演習Ⅰ,地理学講読	心理学演習Ⅱ,卒業論文(心理学),言語学卒論演習,卒業論文(言語学),社会学演習,卒業論文(社会学),地理学演習Ⅱ,卒業論文(地理学)
基礎現代文化学系	系共通科目(科学史)講義,系共通科目(情報・史料学)講義,系共通科目(二十世紀学)講義	系共通科目(科学哲学)講義,系共通科目(現代史学)講義,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅲ,系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅲ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅳ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅴ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅵ	科学哲学科学史特殊講義,科学哲学科学史演習,情報・史料学特殊講義,情報・史料学演習,二十世紀学特殊講義,二十世紀学演習Ⅰ,二十世紀学演習Ⅱ,現代史学特殊講義,現代史学演習Ⅰ,現代史学演習Ⅱ	科学哲学科学史卒論演習,卒業論文(科学哲学科学史),情報・史料学卒論演習,卒業論文(情報・史料学),二十世紀学卒論演習,卒業論文(二十世紀学),現代史学卒論演習,卒業論文(現代史学)

京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活サポート

学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

教育学部

Faculty of Education



【写真】「比較教育学演習」授業風景

● 教育学部が望む学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組まなければなりません。

そのため、教育学部では、心と人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

● 教育学部への誘い

教育学部は、戦後の学制改革にあたって、教育という広範で複雑な諸事象とその学問的基礎となるべき教育諸科学の重要性にかんがみ、教育諸科学の総合的な研究・教育にあたる学部として発足しました。

同時に学部発足以来、本学の全学部学生のために教育職員を養成するための教職課程の運営と教育に当たると共に、現職教員の再教育にも力を注いでいます。また、いったん他の学問分野で専門教育を受けた者、あるいは大学卒業後社会経験を積んだ者で再度本学部に入學して教育諸科学の勉学を望む者が近年増加しているのを受けて、昭和58年4月から一般社会人を含めた国内外の大学卒業者の第3年次編入学を行っています。さらに戦後の社会の急速な変化に伴う青少年の発達上の問題に関わる教育相談と治療を行うため、それまでの実践的蓄積をもとに、昭和55年から心理教育相談室が開設され平成9年4月には、それを発展させた臨床教育実践研究センターが設置されました。また、教育学部においては、平成10年4月から、基礎教育に重点を置き、幅広い視野を得ることを目的として教育科学科に統合し、3系制（現代教育基礎学系・教育心理学系・相関教育システム論系）に再編しました。平成11年4月からは教育科学専攻に専修コース（修士課程）が設置され、大学院が高度な専門職業人の養成に向けて一層解放されました。

近年、いじめ、不登校をはじめとした「こころの問題」が多発し、子どもの置かれている状況が社会問題となっています。あらゆる子どもに潜在する広く教育に関連した問題として、普遍化したとらえ方を促すものです。これらは大人のかかえる問題でもあります。このように、教育学は現代社会においてますます重要な役割を果たす学問であると考えられます。

人間らしさを擁護し促進する態度を養う

教育学部の教育方針

▶ 学部教育の方針

教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓培するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

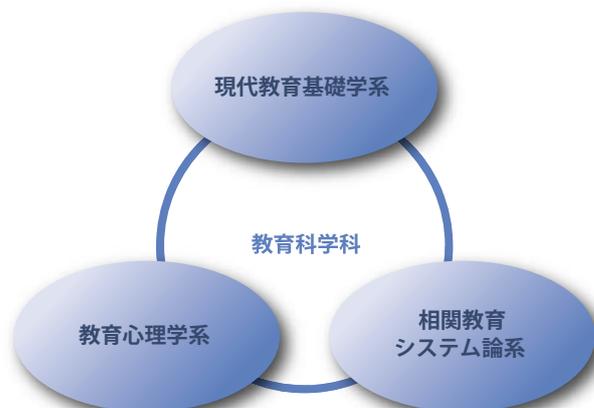
▶ 学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」推奨科目として「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、平成10年度から1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っております。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。

それぞれの大学科目（系）における教育内容は、以下のとおりです。

教育原論／教育人間学／教育史学／
教育方法学／教育課程論／授業論／
生徒指導論／発達教育論／生涯発達
心理学／障害児教育論



教育心理学／臨床心理学／認知心理学／人格心理学／発達心理学／メディア教育／児童・青年心理学／障害児心理学／社会心理学／教育評価

教育社会学／臨床社会学／社会調査／社会教育／メディア文化論／生涯学習論／図書館学／比較教育学／教育行政学／教育制度／教育財政学

教育学部では、入学者選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

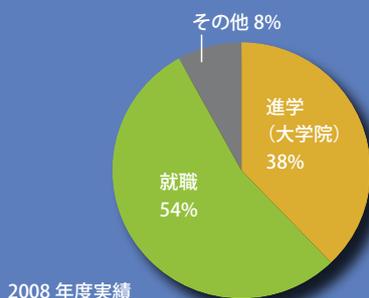
平成19年度入試から後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜することを目的に、「文系」型、「理系」型入試が実施されました。

入学当初は所属系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。

平成6年度（1994）から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。

● 卒業後の進路

教育学部の平成20年度卒業生は68名で、そのうち37名（約54%）が就職しています。その中には教育（学校）関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、26名（約38%）が大学院に進学しています。残りの5名（約8%）は聴講生等です。



就職先の例
法務省／国土交通省／郵便事業（株）／リクルート／NEC／花王／
サントリー／JR東海／中央三井信託銀行／三菱東京UFJ銀行／
第一生命

● 教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許法の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育領域に関する科目の単位を修得すれば、特別支援学校教諭1種免許状を取得することができます。本学で取得できる免許状は、聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者に関する教育の領域です。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また、教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

卒業生からのメッセージ

多様な価値観と遭遇できる環境

2005年度卒業
京都大学人間・環境学研究所事務部
荒見 友貴さん



私は人間を変化させる事象に関心をもって
いたため、大学では教育学や心理学を専攻する
つもりでした。関心のある学問分野を学ぶにあたり、入学時点で幅を
狭められることなく、かつ環境が充実している大学・学部として京都
大学教育学部を志望しました。

実際に教育学部では、「教育」という間口の広い対象を様々な切り
口から研究しておられる先生方がおられます。一見「教育」という一
事象として捉えられるものであっても様々な意味が包含されており、
さらに一つの対象に関しても数多くのアプローチがあることを学ぶこ
とができました。

また、京都大学は多様な価値観と遭遇できる環境であり、私も様々
な考え方に囲まれ数々の貴重な体験をすることができました。誤解を
恐れずに表現すると、この「多様性」の肯定というものが、京都大学
で得られた最も意義のあるものではないかと考えています。様々な価
値観との接触を通じて、物事を捉える視点や思考を固定することなく、
常に自らを相対化するという意識をもつことができるようになりました。
大学時代に出会えた人々とあわせて、何ものにも代え難い大きな
財産です。

大学での経験は人生に大きく影響を与えるものですから、学びに遊
びに充実した大学生活を送っていただきたいと思います。

興味をかなえられる環境

2007年度卒業
京都家庭裁判所
森川 智里さん

私はもともと人間の心に興味があり、心理学で日本一と聞いた本学
部を受験しました。後々私が興味を持つようになったのは教育行政、
特に外国で行われている教育でしたが。人間を教育で形成する、さ
まざまな教育の形を見たいと思ったのです。

そんな私の学部時代の感想は、「恵まれていた」という言に尽きます。
最高峰の脳みそを携えた教授陣、尊敬できる先輩や友人、豊富な資料
がそろった図書館、信頼できる職員の方がた、京大の持つ、歴史ある自
由でアカデミックな雰囲気... そういった環境すべてに恵まれていたと
思います。

おかげ様で興味がころころ変わり、果ては学部外にまで手を伸ばす
ようになった私でも、この恵まれた環境の中でその興味をかなえ、希
望の職業に就くことができました。素敵で恵まれた4年間、すべての
人・ものに感謝しております。

Message

在学生からのメッセージ

規格外の世界

教育科学科2回生

中村 俊介さん



大学はただ授業に出て単位を取るだけのところ
ではありません。とりわけ教育学部は生身の人間と
の交わりを主たるテーマとする学部です。真面目で
立派な体験談は他の方に任せたいと思いますが、私もただ無為な毎日を送
っていたわけではありません。この場所に来て、教科書や参考書からは
得られないたくさんの経験を積むことができました。それは、この京都大
学、そして教育学部にたくさんの規格外の人間がいたからです。そんな人
たちと出逢ったとき、私の中に衝撃が走りました。人が本当の意味で次の
ステージに進むためには、まず次のステージにいる人間と出逢うことから
始まるのではないのでしょうか？ここはそんな衝撃を与えてくれるところ
です。教育という抽象世界を探索するにあたり、この規格外の世界に飛び込
んでみるのも悪くはないと思います。

実はおもしろい(?) 教育学部

教育科学科教育心理学系3回生

浅井 七沙さん



何を隠そう私は理系入学の一期生です。客観
的なもの、言語化できるものだけが全てではない
といったことを考えながら心理学を学んでいます。
教育と聞くと学校のイメージを抱くと思いますが、教育されることで人
間になるとも言われるように、教育学は生き方にも関わる深さを持ってい
ます。また、社会学や哲学など様々な分野を教育という視点から捉えると
いった広さも持っている魅力的な学問です。ここでは、受験勉強のように
目的に縛られるのではなく、もっと自分の知識欲を原動力とした自由な学
びができるので楽しみにしてください。
さらに、1学年60人と少ないので、深く1人の人間として出会うこと
ができ、学部としての活動(学部祭や合宿)も多く、大学生活を送る場と
しても有意義な場だと思います。私も、みんなに出会えるのを楽しみにし
ています。

大学科目（系）紹介

現代教育基礎学系

現代教育基礎学系は、哲学、思想、歴史、心理学などに基盤を置く専門分野から構成され、教育に関わる事象について、学校教育はもとより家庭教育、社会教育など広い領域を視野に入れた研究・教育を行っている。教育についてのものの考え方や見方が、どのようにして形成されるのか、人間の生成、成長発達はどうに捉えられるのか、実際の学校教育において、授業はどのような仕組みや方法で行われているのか、その教育内容はどんな原理で構成されているのか、など教育活動の基礎を様々な研究方法やアプローチを通して教授する。

教育の現場やフィールドとして人間の活動領域を捉え直し、教育学についての幅広かつ周到な識見を備えた専門家を育てるためのカリキュラムを提供している。

教育原論、教育人間学、教育史学、教育方法学、教育課程論、授業論、生徒指導論、発達教育論、生涯発達心理学、障害児教育論

教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組まれ、他学部との心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動が行われている。

教育心理学では人の発達の特徴、教授-学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざす。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験調査等を実施して各自の研究をまとめる。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につける。教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備している。

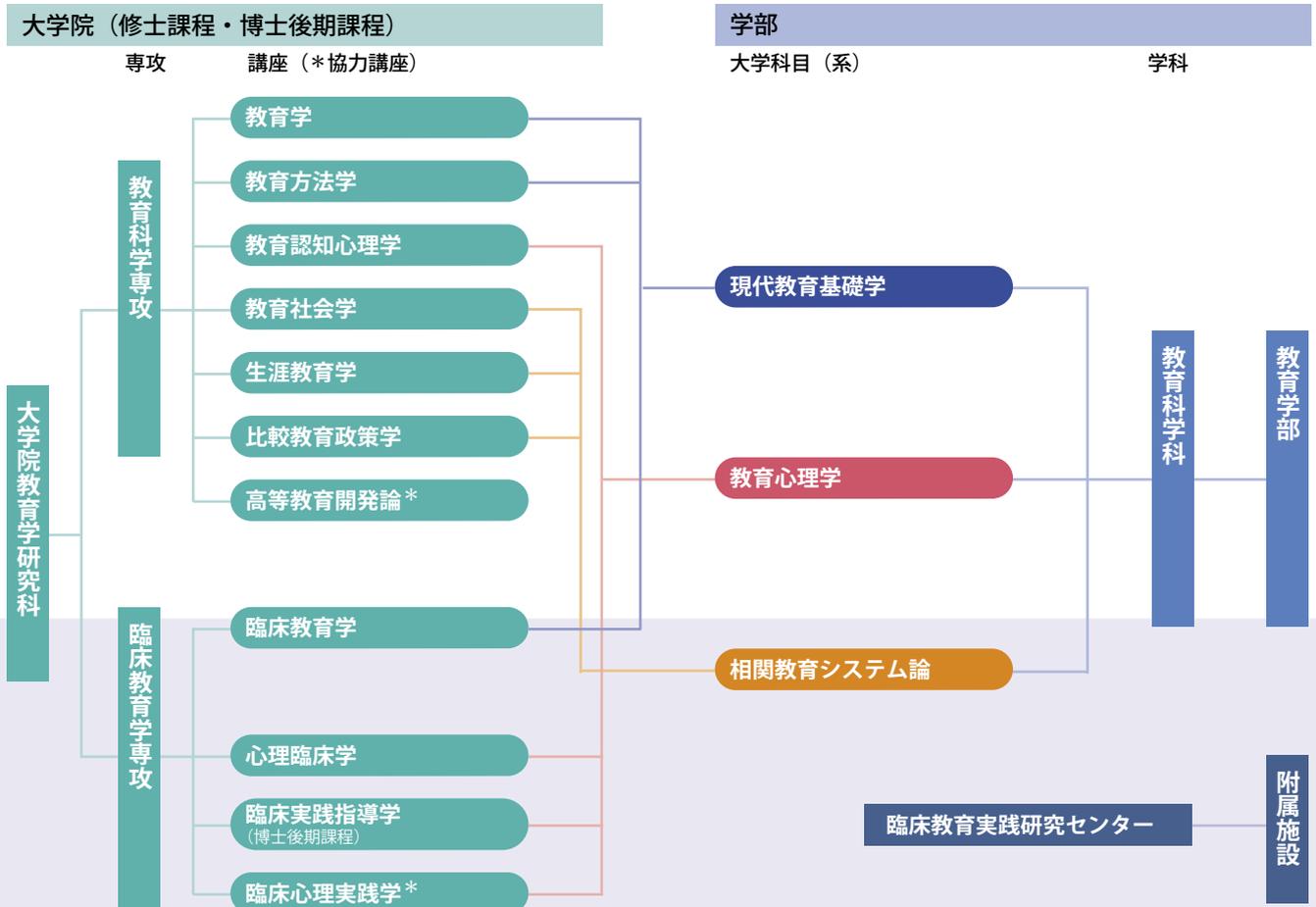
教育心理学、臨床心理学、認知心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、障害児心理学、社会心理学、教育評価

相関教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。相関教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的にしています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学の手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、臨床社会学、社会調査、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

系	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育 基礎学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育原理Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学基礎論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 生徒指導論, 精神保健Ⅱ, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習ⅠA・ⅠB, 教育方法学基礎演習ⅡA・ⅡB, 学校論ゼミナール, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 障害児教育指導法Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ, 聴覚障害教育課程論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育史専門ゼミナールⅠA・ⅠB, 教育史専門ゼミナールⅡA・ⅡB, 教育史文献講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育史史料講読演習, 教育人間学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 発達教育専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法講読演習Ⅰ・Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ・Ⅱ	
教育心理 学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ・Ⅱ, メディア教育概論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育認知心理学基礎演習A・B, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 人格心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 児童・青年心理学講義, 認知心理学概論Ⅰ・Ⅱ	教育情報学, 応用認知心理学講義, 発達心理学講義, 認知心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 乳幼児の心理学, 教育心理学コロキウムⅠA・ⅠB, 教育心理尺度開発演習, 認知心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱ, 健康心理学講義	教育心理学コロキウムⅡ
相関教育 システム 論系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 社会学講義Ⅰ・Ⅱ, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ・Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料各論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 憲法第一部・第二部, 行政学, 財政学, 教育政策学入門, 教育法学, 相関教育システム論基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・Ⅲ, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ・Ⅱ, 情報メディアの活用	教育情報学, 教育社会学講義, 社会学講義Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ, 教育社会史, 現代教育社会論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法Ⅰ部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 社会調査Ⅰ・Ⅱ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 比較教育学専門ゼミナール, 教育政策学専門ゼミナール, 相関教育システム論講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	<ul style="list-style-type: none"> 教職教育論, 教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 授業心理学Ⅰ・Ⅱ, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 道德教育論, 特別活動の理論と実践, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ・Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ・Ⅱ, 理科教育法Ⅰ・Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 同和・人権教育論, フランス語科・ドイツ語科・中国語科・水産科・宗教科の各教科教育法 	<ul style="list-style-type: none"> 教職総合演習, 教育実習Ⅰ 	<ul style="list-style-type: none"> 職業指導, 教育実習Ⅱ, 教職教育

特別支援教育に関する科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	<ul style="list-style-type: none"> 障害児教育総論, 知的障害者の心理・生理・病理, 聴覚障害者の心理・生理・病理, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 聴覚障害教育課定論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論, 聴覚障害教育総論Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ(発達障害), 障害児教育の教育課程論 		特別支援教育実習

京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活サポート

学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

法学部

Faculty of Law



〔写真〕「刑法第一部」の講義風景

● 法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

● 法学部への誘い

法学部は、明治32年（1899年）に法科大学として創設されました。それ以来、すでに33,000余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、自由な学問研究を尊び、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、卒業論文制度は残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、39講座を擁するに至りました。平成4年度からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来学部配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育も担当すると組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置に伴い、大学院組織全体が、12の大講座に再編されました。学部の教育も、基礎的・基本的なものに重点が置かれるようになりました。なお、平成18年度には、経済学研究科と協力して、新しい専門職大学院として、公共政策大学院が発足しました。

また、平成19年度には、本学部・大学院の「ポスト構造改革における市場と社会の新たな秩序形成—自由と共同性の法システム—」が日本学術振興会の学術創成研究を内容とする科学研究費補助金の対象研究に採択され、大きな補助金を得て、活発な研究を続けています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営する際に指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換期を迎えており、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応した新しい制度を設計するためには、文化の多様性を尊重し、平和な社会の実現に貢献できる豊かな国際感覚を備え、法律や政治の仕組みに関する専門

的な知識を持ち、社会全体を視野に入れて知識を組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

制度・組織の設計・運営を指導できる人材を育成する

法学部の教育

▶ 卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1回（90分）の科目は2単位、半期週2回の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目とがあります。卒業するためには、教養科目を48単位以上、専門科目については、演習2単位を含む80単位以上を取得しなければなりません。

▶ 第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全学共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から20単位以上、自然科学系科目から8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語とその他の外国語からなり、英語を8単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1年生、2年生のことを2年生と呼びます。

▶ 高学年になるほど専門科目の授業が増える

1年生のみが受講・受験することができる専門科目は、半期2単位の、法学入門、政治学入門①・②、家族と法、司法制度論です。

2・3回生配当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部、国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4回生配当科目ですが、2回生も履修できる2・3・4回生配当科目もあります。刑法第二部と民法第二部がこれに当たります。さらに、政治学関連科目と一定の基礎法関連科目からは、それぞれ2科目に限って、2回生も履修ができます。

上記以外の六法系科目や一部の基礎法関連科目は、3・4回生配当科目となっています。経済学部の一部の科目も履修できます。

演習は3・4回生に配当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周到な予習に基づいた活発な討論が行われています。

● 卒業後の進路

卒業生の進路は、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、大学院進学者の約90%は、京都大学をはじめとする全国の法科大学院に進んでいます。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、入学者の約35%が本学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広くなっています。



2008年度実績

● 法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例：
教育職員免許状（中学1種社会・高校1種公民）

▶ 科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成は、1・2年生では、広く深く教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の本格的な勉強は、それを基礎として3年生以上で行うことを推奨しているのです。必修科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。もっとも、専門科目については、学生に対し堅実な学習を促すため、各学期において履修登録できる専門科目の単位数に上限を設けています（キャップ制といいます）。

Message

在学生からのメッセージ

魅力ある学部

学部3年生

金光 啓祐さん



京都大学において、法学部は最も意欲あふれる学部と言えます。学生は、期末試験の2ヶ月程も前から試験勉強を始め、授業では、教授の話すことを必死に聞き取りながら熱心に指を動かしながら続ける。そういった、学ぶことに対して活気のある雰囲気が広がっています。

一方で、日々の私生活では、一人ひとりが様々な活動を行っています。私自身、毎日の部活動・授業・授業の予復習・アルバイトと、忙しい毎日を送っています。そういった生活ができるのも、本学において触れ合う友達みなが、大きな夢や目標を持って生活しており、その刺激の中、飽きることなく自らの目標に向かって邁進していくことのできる環境があるからだだと思います。

受験生のみならず、法学部に入学することは、人生において大きな財産になると思います。ぜひとも難関の試験を突破してください。

主体性を鍛える場

学部4年生

齋藤 孝紘さん



私は社会の構造について見識を深めたいと思い本学に入学しました。現在は政治学、特に国際政治学を中心に勉強しています。

皆さんが本学に入学すれば、まず「自由」の多さに困惑することでしょう。必修科目の無いカリキュラム、出席確認も宿題も無い授業、空きコマの多い時間割。やるべきことが与えられていた小中高校生活とは全く異なる力が求められます。それは、今の自分に何が必要かを自ら考え、そのためにすべきことを見出し実行する力です。これを世間では主体性というのでしょうか。自由の気質が生きる本学でこそ、特に鍛えられる力だと私は感じます。

主体性を持てれば、志の高い先輩・同輩や各分野で最先端を走る先生方に囲まれる京大法学部で、きっと皆さんは大きく成長できることでしょう。是非、京都大学法学部の門を叩きに来てください。

卒業生からのメッセージ

自分を成長させるフィールド

2006年卒業

株式会社みずほ銀行 新宿支店勤務

茂山 心さん



「社会を動かしている大きな仕組みを知りたい」それが、私が法学部を志した理由です。

法学とは、解釈であり、当然、立場も変われば論拠も異なり、そして主張も異なってくる。「絶対的な真実」というよりは、「相対的な真実」を追究する。そこに法学の面白さがあるのではないのでしょうか。従って、法学部では、論理と議論というのが大切な要素を占めることになる。

京都大学には、様々な背景を持つ人間が集まってきている。違った背景を持つ人間に対して、どのように自分の考えを示し、納得してもらおうか、また逆に、相手の考えをどのように受け止めるのか、知的な刺激を受けながら、自由な発想の基、学問の本質を探究していく環境が整っていると云えるでしょう。

仲間と切磋琢磨し、共に成長していきたい、そんな方は、ぜひ法学部の門を叩いてみて下さい。

法は社会の「鏡」

2008年卒業

京都大学大学院法学研究科法書養成専攻
(法科大学院)

小溝 孝仁さん



法律も生活の道具であり、社会の価値観等を実現する為に考案・蓄積された人類独自の叡智の結晶です。法は仲間内の法から国民国家間、国家間の法へと発展しました。

問題や争いを法律に照らせばその社会・時代の正義が映し出されますが、常に化する社会では鏡にも曇りが生じます。その研磨が法律の制定・改正や解釈の深化であり、裁判員制度もその一例です。その担い手が法律家で、学部の専門課程はその第一歩です。

法科大学院では裁判実務と理論の最先端を学び、上記の使命に堪える実務家となるべく日々研鑽しています。厳しい内容ですが満たされる学術的な好奇心、得られる充実感もまた確か。債権法改正をリードする教授陣をはじめ質の高さも折紙付です。

人類の叡智の結晶・法律学。その醍醐味を京都の生活と自由の学風の下で味わう楽しみをぜひ貴方も。

教員紹介

初宿 正典教授 (憲法)

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

位田 隆一教授 (国際法)

国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

岡村 周一教授 (行政法)

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

小野 紀明教授 (政治思想史)

特に20世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようと試みる現代規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

林 信夫教授 (ローマ法)

ローマ社会における契約法を中心に、法の存在状態、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

的場 敏博教授 (政治学)

現代日本の政党政治を、(日)戦後日本の政党政治の流れの中に、(月)他の先進民主主義国との比較の中に位置づけています。

大石 眞教授 (憲法)

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

伊藤 之雄教授 (日本政治外交史)

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬などの有力政治家を考察しています。

山本 豊教授 (民法)

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

寺田 浩明教授 (中国法制史)

伝統中国における法(成文法や裁判や契約)のあり方を比較法史的視点から研究しています。

高木 光教授 (行政法)

行政活動を適正妥当なものにするための法的ルールはいかにあるべきかを研究しています。

木南 敦教授 (英米法)

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法といろいろ取り上げています。

松岡 久和教授 (民法)

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

真淵 勝教授 (公共政策)

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

新川 敏光教授 (政治過程論)

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

川瀧 昇教授 (経済法)

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

村中 孝史教授 (労働法)

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

浅田 正彦教授 (国際法)

国際法の諸問題につき軍縮や武力行使を素材として研究を行っています。

潮見 佳男教授 (民法)

民事責任の基本問題。

龜本 洋教授 (法理学)

正義論と法学方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

酒巻 匡教授 (刑事訴訟法)

刑事手続法の基本問題。

山本 克己教授 (民事手続法)

民事手続法の基本問題。

岡村 忠生教授 (税法)

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

洲崎 博史教授 (商法)

保険契約法の基本問題。

前田 雅弘教授 (商法)

株式会社の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

鈴木 基史教授 (国際政治経済分析)

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

山本 敬三教授 (民法)

「法体系における私法の役割」という観点から、憲法と私法の関係、契約規制の法理、不法行為法の再構成を中心に研究しています。

北村 雅史教授 (商法)

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法制のあり方について研究しています。

塩見 淳教授 (刑法)

市民の安全確保と自由領域の保障とをともに充たしうような刑法を求めて研究・教育を行っています。

服部 高宏教授 (ドイツ法)

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

伊藤 孝夫教授 (日本法制史)

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

秋月 謙吾教授 (行政学)

中央地方関係にかかわる官僚制の研究。

横山 美夏教授 (民法・フランス法)

所有に関わる法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。

中西 寛教授 (国際政治学)

国際政治の歴史的展開。

佐久間 毅教授 (民法)

権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。

笠井 正俊教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。

唐渡 晃弘教授 (政治史)

ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究。

酒井 啓亘教授 (国際法)

国連の平和維持機能を国際法の観点から研究しています。

土井 真一教授 (憲法)

憲法の基本原理、とりわけ法の支配と権力分立論について、研究を行っています。

毛利 透教授 (憲法)

民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。

山田 文教授 (民事手続法)

民事紛争解決手続 (訴訟外手続を含む) について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。

高山 佳奈子教授 (刑法)

因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。

中西 康教授 (国際私法)

国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法の役割について研究しています。

橋本 佳幸教授 (民法)

不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現代的諸問題について研究・教育を行っています。

待鳥 聡史教授 (アメリカ政治)

議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制」下で、政策決定に大きな権限を持つ議会の研究を行っています。

安田 拓人教授 (刑法)

刑事制裁の根拠を探りながら、責任能力論、量刑論、心神喪失者等医療観察法の諸問題等に取り組んでいます。

瀧本 正太郎教授 (国際機構法)

国際法の基礎理論 (特に法律行為・解釈) について、領域・海洋・国際機構・経済・人権など様々な分野を題材に研究しています。

堀江 慎司教授 (刑事訴訟法)

伝聞法則をはじめとする刑事証拠法を中心に、刑事手続法全般について研究、教育を行っています。

船越 資晶教授 (法社会学)

批判法学の法・社会理論について研究を行っています。

中田 昭孝教授 (民事裁判実務)

民事訴訟法などの理論を民事裁判の実務の観点から研究・教育を行っています。

大山 隆司教授 (刑事裁判実務)

刑事手続法などの理論を刑事裁判実務の観点から研究・教育しています。

松田 一弘教授 (知的財産法)

特許権侵害訴訟及び特許審決取消訴訟に関する諸問題について研究しています。

天野 佳洋教授 (企業法務・信託法)

企業の資金調達ニーズと資金の出し手である投資家をリンクさせるファンドと証券化を研究しています。

小弓場 文彦教授 (刑事訴訟実務)

刑事手続上の実務的な諸問題について、検察官の役割を踏まえた観点から検討する研究と教育を行っています。

島田 幸典准教授 (比較政治学)

英独を中心とする欧州諸国制の比較的研究。

深澤 龍一郎准教授 (行政法)

行政機関が裁量権限を行使することによって発生するさまざまな法的問題について研究を行っています。

南 京兎准教授 (公共政策)

日本・英国・韓国といった国々における公共政策 (民営化、官僚制など) の比較研究を行っています。

稲森 公嘉准教授 (社会保障法)

社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保障のしくみを中心に研究を行っています。

曾我部 真裕准教授 (憲法)

憲法で保障された表現の自由、特にマスメディアの自由について研究しています。

齋藤 真紀准教授 (商法)

会社における関係者間の利害調整枠組みの研究を行っています。

奈良岡 聡智准教授 (日本政治外交史)

大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、日英関係について研究しています。

増田 史子准教授 (国際取引法)

国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引の私法的規整について研究しております。

愛知 靖之准教授 (知的財産法)

特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲画定に関する諸問題を中心に研究を行っています。

佐々木 健准教授 (ローマ法)

日本や西洋の法の源流に位置するローマ法において私人が利益を実現回復する紛争解決手段を研究しています。

高谷 知佳准教授 (日本法制史)

前近代日本の社会と秩序の多面性について研究しています。

西内 康人准教授 (民法)

団体とされる人々の関係について、契約に関する原則の機能変化と、その原因について研究しています。

木村 敦子准教授 (民法)

家族法 (親族法、相続法)、とくに法的親子関係の成立、効果に関する諸問題について研究しています。

エスタ ティナオットマン准教授 (国際公共政策)

国際関係、特に中東地域の紛争・紛争解決を研究しています。

専門科目 (平成 21 年度開講分)

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
法理学, 法社会学, 日本法制史, 西洋法制史, ローマ法, 東洋法史, 英米法概論, ドイツ法, 憲法第一部, 憲法第二部, 行政法第一部, 行政法第二部, 税法, 国際法第一部, 国際法第二部, 国際機構法, 民法第一部, 民法第二部, 民法第三部, 民法第四部, 商法第一部, 商法第二部, 経済法, 民事訴訟法, 国際私法, 国際取引法, 労働法, 社会保障法, 刑法第一部, 刑法第二部, 刑事訴訟法, 政治原論, 政治過程論, 比較政治学, アメリカ政治, 国際政治学, 国際政治経済分析, 政治史, 日本政治外交史, 政治思想史, 行政学, 公共政策, 法学入門, 政治学入門①, 政治学入門②, 司法制度論, 家族と法, 外国文献研究 (英・独・仏), 特別講義 (日本政治思想史, 外交史, アセット・マネジメントの実務と法, 国際生命倫理法), 特殊講義 (メディア法), 演習	ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 進化経済学, 経済政策論, 財政学, 租税論, 経済史 1, 経済史 2, 金融論, 基礎統計学, 経済統計学, 経営学原理, 会計学 1, 会計学 2, 経済学史, 社会政策論, 公共経済学, 公共政策論	法理学, 日本法制史, ローマ法, 東洋法史, 英米法, ドイツ法, 憲法, 行政法, 税法, 国際法, 国際機構法, 民法, 商法, 経済法, 国際私法, 労働法, 刑法, 政治過程論, アメリカ政治, 国際政治学, 国際政治経済分析, 政治史, 日本政治外交史, 政治思想史, 行政学, 公共政策

京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活サポート

学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

経済学部

Faculty of Economics



[写真] 川北教授のゼミ風景

● 経済学部が望む学生像

経済学部の教員たちは、経済学・経営学の教育は、すぐに役立つ知識を与えることではなく、学問的基礎のうえに柔軟な思考力と創造性を備えさせることだと考えています。そのため、大学において意欲をもって学び、社会に出てからの経済活動においても自分を成長させ続けようとする学生を望みます。経済学部は、これまで、産業・経営・学術・行政などの領域で活躍する人材を多数生み出しました。経済学部は、このような良き伝統を継承し、そこに自分なりの発展を付け加えようとする学生諸君が入学してくることを望んでいます。

なお、経済学部は、平成21年度入試から高等学校の文系の教育課程に対応した一般学力検査による選抜（190名）だけでなく、理系の教育課程に対応した学力検査による選抜（25名）、論文を重視した選抜（25名）にも定員の一部を割いています。それは、数学などに現れる理科的才能や読解力と結びついた論文作成に現れる文科的な才能が経済学にむすびつくことを期待しているからです。

● 経済学部への誘い

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919（大正8）年に法学部（法科大学）から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899（明治32）年から経済学関連の講義がスタートしていましたから、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2006年に経済学部・経済学研究科を母体として、新たにMBA取得コースとして経営管理大学院を開設しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

未来を切り拓く柔軟な 思考力と想像力を培う

経済学部の教育

▶ 4つのコースを設置

経済学部は、経済と経営、経済学と経営学の相互依存関係を重視して、平成21年度から経済学科と経営学科の2学科を経済経営学科1学科に統合しました。学科による区別のない1学部1学科の体制のもとで、「理論・歴史コース」「政策コース」「マネジメントコース」「ファイナンス・会計コース」という4つのコースが示されていて、そのガイドにしたがって専門科目を履修することによって、コースそれぞれの特性に応じた専門化がはかれるようになっていきます。1学年は前期と後期の2セメスターにわかれ、1セメスターにわたり毎週1回の授業を履修して試験に合格すれば2単位が得られます。学部科目はすべて選択科目ですが、入門科目、専門基礎科目、専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱと年次配当によって階層化されています。

▶ 第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、全学共通科目によって語学学習や教養学習をおこなうだけでなく、入学したばかりの学生に、不足した知識を補い、自立した学習力をつけさせるための「入門演習」と9つの入門科目（ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、社会経済学入門、基礎統計学、経済史・思想史入門、現代経済事情、経営学入門、会計学入門、情報処理入門）によって、経済学・経営学の専門学習のための準備をすることになります。

▶ 第2学年から学ぶこと

第2学年からは「専門基礎科目」及び「専門科目Ⅰ」の授業群、第3学年からは「専門科目Ⅱ」の授業群が取れるようになります。

第3学年以上になると、経済学・経営学の専門科目だけでなく、法学部が提供する法学や政治学の科目もとれるようになります。また、高度な学習を求める学生には、大学院と橋渡しする大学院共通科目も履修できます。

▶ 少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的なテーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

● 卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに80年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年約1割の学生は大学院へ進学しています。



就職先の例

富士通/パナソニック/トヨタ自動車/大阪ガス/住友商事/みずほフィナンシャルグループ/三井住友銀行/三菱東京UFJ銀行/住友信託銀行/大和証券/日本銀行/日本生命/三菱地所/監査法人トーマツ

2008年度実績

● 経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭:「地理・歴史」、「公民」、「商業」

中学校教諭:「社会」

▶ 「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育てられてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積まなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことができるところが京都大学経済学部です。

Message

在学生からのメッセージ

自由の中で成長する

2回生

島田 洋輝さん

京都大学といえば自由の学風、これはよく耳にすることであろう。しかし、「自由」であることはすなわち「楽」であるということではない。むしろ自由だからこそ、大変なのだと思う。何もかも自分で決めなければならないのだから。

大学時代の4年間をどう過ごすのか。それは将来において非常に大きな意味を持つことである。自分はこの大学で何を学び、何を身につけなければならないのか。どんな大学生活を送ることが理想なのか。それらは人それぞれであり、また、答えは誰にも分からないものである。その選択を誰にも左右されることなく自分自身で行える環境、これこそが京都大学の言う「自由」なのだと私は思う。大学時代を一生の宝にすることが出来るか否か、全ては君たち次第なのだ。無限の可能性を秘めた大学生活を謳歌してもらいたいと思う。It's up to you!



京大経済、直感と実感

4回生

福土 久美子さん

中学生の頃から京都で暮らすことに憧れて、一年の浪人生活を経て入学しました。当時夏のオープンキャンパスで模擬授業があり私は会計学を受講したのですが、その時の先生が教壇に立つなり『カイケイっちゃん〜』と関西弁で切り出されたのが衝撃的でした。私の“大学の講義”の堅いイメージは見事に打ち砕かれたのです。それと同時に、この大学でなら楽しくやっていたらいいやと直感しました。...あれからはや四年、私の直感は当たっていたようです。中でも、今や私の生活の中心となっているゼミ演習はとても自由で楽しく、学びと遊びの融合空間とも言えるでしょうか、講義時間以外にもミーティングを重ね、回生関係なく議論を戦わせ一つのテーマを深めています。みなさんもぜひ、京都大学で自由で豊かな時間を過ごしてくださいね。



卒業生からのメッセージ

京大生という立場が どれだけ幸せかということ

2009年卒業

フジテレビジョン勤務

角山 僚祐さん

昨日たまたま学部時代の友達と飲みに行きました。みんなそれぞれのフィールドで一生懸命社会人頑張っていました。私も今、「24時間家にいる生活」から「1週間家に帰れない生活」へ激変しました。バラエティ番組のADという仕事は正直辛いですが、やめたくなくなるときもあります。そんなとき、ふと京都の生活を思い出すと懐かしくて涙が出そうになります。ですから皆さんも、京都という最高な場所で学生生活を送れる幸せをしっかりと噛み締めてください。社会人になるとやりたいこと、したいことがほとんどできなくなります。ですからこの4年間を終えたら死んでもいいと思えるくらいしっかり遊び、しっかり恋愛し、そして余った時間にちゃんと勉強もしましょうね。大切なのはゼミの教授にしっかりとついていくことです。



「京大日記」

2008年卒業

防衛省 防衛政策局防衛計画課

杉原 逸樹さん

7月の空を映す鴨川の水の色、穏やかなに吹いていた風のおい、どこからともなく聞こえてくる学問的議論や切ない恋の話・・・

何か大き失敗をしても、「大丈夫、大丈夫」と、笑い飛ばしてられる雰囲気があった、京大のキャンパス。そんな自由な学風の中、どんな無理なことにも手が届くような気がしていた。

どうしても譲れなかった将来の夢。いつからか、誰かを護る仕事をした、そう思い始めていた。何度も壁にぶつかりはしたが、それでもあきらめなかったのは、この大学で学んだという誇りがあったから。今では防衛省で、刻々と変化する国際情勢のなか、いかにして国民の安全を護るかを考える毎日である。ゼミで学んだ議論の仕方や、国際政治経済学の知識、さらになぜか法学部まで聞きに行った国際法は今でも役に立っている。

あれからずいぶんと時が流れたけれど、今でもふと、楽しかった学生時代を思い出す。夜中まで語り合った友の笑顔、憧れの人がいたいつかの交差点、めっちゃくちゃなように見えていつも僕達を温かく見守ってくれた経済学部の先生、そしてどんなにいきまっても、「大丈夫、大丈夫」って、不安をどこかに吹き飛ばしてくれた京都の風・・・それらすべてを包み込んでいた京大のキャンパスで、あの夏の日に誓った大きな志。

みなさんも京都大学で、自分だけのストーリーを描いて下さい。



入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心とした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測るなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検証を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知ってますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきました。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基いて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	准教授	講師	助教	助手
経済学	経済理論	八木 紀一郎 小島 専孝 宇仁 宏幸	遊喜 一洋 若井 克俊	ディミター・ヤルナソフ		
	統計・情報分析	大西 広 森棟 公夫		飯山 将晃	白井 亨	
	歴史・思想分析	田中 秀夫 堀 和生	坂出 健 竹澤 祐文			
	比較制度・政策	今久保 幸生 岡田 知弘 久本 憲夫 岩本 武和	黒澤 隆文 久野 秀二 神事 直人	稲葉 久子		
	金融・財政	植田 和弘 島本 哲朗	諸富 徹			
	市場動態分析	西牟田 祐二				
	現代経済学	成生 達彦 塩地 洋 根井 雅弘 依田 高典	渡邊 純子	櫻田 忠衛		
	国際経営・経済分析	劉 徳強	菊谷 達弥 宇高 淳郎			
	経営管理・戦略	武石 彰 若林 靖永	曳野 孝			
	市場・会計分析	藤井 秀樹 文 世一 末松 千尋 若林 直樹 澤邊 紀生	草野 真樹			
	事業創成	日置 弘一郎 徳賀 芳弘	梶山 泰生			
	ファイナンス工学	岩城 秀樹	江上 雅彦			
	ビジネス科学	吉田 和男	松井 啓之			

専門科目

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<ul style="list-style-type: none"> ●入門演習 ●入門科目 ミクロ経済学入門, マクロ経済学入門, 社会経済学入門, 経済史・思想史入門, 現代経済事情, 経営学入門, 会計学入門, 基礎統計学, 情報処理入門	<ul style="list-style-type: none"> ●専門基礎科目 ●専門科目Ⅰ ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 経済史 1, 経済史 2, 経済政策論, 財政学, 金融論, 計量経済学, 経済統計学, 経営学原理, 経営戦略, 経営組織 1, 経営組織 2, マーケティング 1, マーケティング 2, 経営財務, 会計学 1, 会計学 2 社会思想史, 日本経済論, 公共経済学, 社会政策論, 経済数学 1, 経済数学 2, 経営史, 財務会計, 管理会計, 組織経済論, 情報処理論 1a, 情報処理論 1b, 情報処理論 2a, 情報処理論 2b, 経済学史, 日本経済史, 欧米経済史, 工業経済論, 農業経済論, 国際経営史, 証券投資論, 派生証券論, ファイナンス工学, 保険論, 比較経営論, IT ビジネス論, 行動経済学, 開発経済論	<ul style="list-style-type: none"> ●専門科目Ⅱ 社会経済変動論, 経済哲学, 意思決定論, 計画理論, 経営情報論, アジア経済史, ヨーロッパ経済論, 比較経済システム論, 市場経済移行論, 地域産業論, 地域開発論, 租税論, 公共政策論, 地方財政論, 財政政策論, 医療経済学, 交通経済論, 情報・通信産業論, 現代経済思想, 産業組織論, 産業・企業成長論, 東アジア経済論, 現代日本産業論, 人的資源管理論, オペレーション・マネジメント, 都市経済学, 流通論, 会計監査論, 経営分析論, 原価計算論, 国際会計論, 国際経営論, 世界経済論, 国際経済学, 国際金融論, 労働経済論, 国際農政論, 金融政策, イノベーション・マネジメント概論, 市場構造と企業戦略, 環境経済論, 事業創成

特殊講義 (*は大学院共通科目)

アカデミック・ライティング入門, 実践簿記Ⅰ, 実践簿記Ⅱ, 実践簿記Ⅲ, 実践簿記Ⅳ, *応用計量経済学, *思想史の方法と対象, *国際財政論, *金融システム論, *数理経済学, *国際マーケティング, *応用ミクロ分析とゲーム論, *経営と起業会計, *経済情報調査論 1, *経済情報調査論 2, 進化経済学, *社会経済学・理論 A, *社会経済学・理論 B, *社会経済学・理論 C, *労使関係論, *経済学のための数学, *現代マーケティング, *企業金融のフロンティア, *財務戦略論, 京都経済論, *社会経済学・古典研究 A, *社会経済学・古典研究 B, 税務会計論, 国際税務論, *先端/バンキング論, 啓蒙と現代の社会思想史, アセットメントマネジメントの実務と法, *国際貿易論, 関西経済論, *最近の経済哲学の論点

「特別科目」及び「演習」

外国経済書講読, 演習, 卒業論文

留学生対象科目

基礎経済比較論, 基礎企業ガバナンス論, 基礎人的資源論, 基礎組織行動論

理学部

Faculty of Science



【写真】化学実験の風景

● 理学部が望む学生像

- ・自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人

● 理学部への誘い

自然はどのようにになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってきましたが、最近の大きな改革は1994年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来の学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育てていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境において、グローバル COE 拠点として、4つの教育研究計画が評価され、プロジェクト遂行のため活動しています。

自然への疑問。自然からの声。
そして自然の理に学ぶ。

理学部の教育

▶ 理学部の教育理念

教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切に、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

▶ 理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と理学部学部科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと学部科目である専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究科及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどにより、全学部の学生を対象に開講されています。また、講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身に付け、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス（10数名）が設けられています。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する。

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

数理科学系：数学

物理科学系：物理学、宇宙物理学

地球惑星科学系：地球物理学、地質学鉱物学

化学系：化学

生物科学系：動物学、植物学、生物物理学

系登録は、2年次の終りの時期に行います。3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、4年次においては卒業研究（講読（数理科学系）または課題研究）を履修します。

全学共通科目に関しては、以下のように大まかに言ってA~Dの4群とそれらの組み合わせから成っています。

A群科目 人文科学及び社会科学系科目

B群科目 自然科学系科目

C群科目 外国語科目

D群科目 保健体育科目

A・B群科目 科学論など

A・C群科目 芸術交流論など

B・D群科目 健康科学など

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがあります。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めて、自己に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

● 卒業後の進路

卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を超えています。卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1以下です。



4年次では卒業研究に取り組む。

4年次では、数理科学系では講究と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必修科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部3年次から大学院への入学について

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学した者で所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、全ての専攻の修士課程または博士後期課程において、特に優秀と理学研究科が認めた者に、それぞれ、1年で修士の学位が、または修士課程と合計して3年の在学で博士の学位が授与されることがあります。

Message

在学生からのメッセージ

自由からできること

理学部数理科学系 3 回生

中西 克典さん

京都大学理学部の自由度は、分野・回生を問わない履修制度によく現われていると、私は思います。

実際、自分より上回生向けの授業を受ける人が、私を含め、少なからずいます。私の場合、2回生で幾何学演義、3回生では数学講究に混ぜてもらって、空間の組成をホモロジー群などの代数的な道具で調べる位相幾何学を学んでいます。この受講方法によって、単に数学の知識を一年早く得るだけではなく、数学をきっかけにして一つ上の回生の先輩とも親しくなれ、本来なら受けることのなかったような刺激を受けることができ、大きく得していると思います。

通常の講義に限らず、すこしの勇気と積極性で、よりよい学生生活ができると思います。

学ぶ意欲を持つ

理学部地球惑星科学系 4 回生

比嘉 哲也さん

大学に入ってみると、今までに全く知らなかった学問のテーマが数多くあることに驚くでしょう。単に物理や生物といった言葉でひとくくりにはできません。明確な目標を掲げて入学される方も、あらゆる分野に目を向けて幅広く学ぶと、想像もしていなかった分野に心惹かれるかもしれません。例えば、私は津波が作る電磁場について研究をしていますが、そのようなことを自分の専門として取り組むなど思ってもみませんでした。

京都大学の学風が「自由」であるがゆえに、自ら学ぶ意欲を持った学生はその意欲を満たすまでとことん学問を追究できます。しかし、そうでない学生はただなんとなく4年間が過ぎていくだけになる可能性もあります。この大学には勉強をするうえで最高の環境が整っていますので、積極的に学び、充実した生活を送ってほしいと思います。

就職先の例

大阪府立高等学校/大阪教育研究所/コリア国際学園/
ジュビターテレコム/読売新聞社/日興コーディアル証券/
モルガン・スタンレー証券/コムス/レイス/
みずほフィナンシャルグループ/三井住友銀行/ゆうちょ銀行/
財務省大阪税関/厚生労働省/ソニー/三洋電機/
西宮市消防局/住友電工情報システム/島津製作所/カヤック/
関西電力/青山特許事務所/医学書院/樫出版社/
伊藤忠テクノソリューションズ/イビデン/
シスコシステムズ合同会社/アイパワ

● 理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状(数学・理科)と中学校教諭一種免許状(数学・理科)の課程認定を受けています。

数理科学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業生については、測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けていますので、所定の科目を履修することにより、測量士補の資格を取得することが可能です。

また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

卒業生からのメッセージ

「夢とあこがれが現実に - 充実の大学生活 -」

1999年卒業

奈良先端科学技術大学院大学 特任助教

武田 征士さん

中学生の頃から漠然と生物系の研究者になりたいと思いつけ、理系なら東大より京大!と思いついて大学受験、入学。学部で印象に残った講義は、現在の研究の源になった生物系のものだけでなく、多くの文系講義もある。いずれも、自身の分野を深く探求されている先生方だからこそ、面白い講義ができるのだろう。勉強だけでなく、サークル・クラブ活動も大変充実している。私はマンドリンオーケストラでギター三昧な毎日を送り、生涯の趣味となっている。夢であった研究者になる為に京大大学院に進学、博士後期課程修了後にイギリスに研究留学。現在は奈良先端科学技術大学院大学で、研究に明け暮れる毎日を送っている。大学時代での自由な勉強、先輩や先生方との出会いなど、すべてが今こうやって研究者としてやっていける根源になっている。

「本当に自分に合った選択を」

2008年卒業

理学研究科化学専攻表面化学研究室 M2

留川 脩平さん

私が大学受験時に理学部を志望した理由と実際に入学してから素晴らしいと感じた所は、この学部ではあらかじめ1つの分野を選択してから始まるのではなく、1・2回生の間に様々な分野の基礎的な知識を学び、吸収した上で自分の進みたい専攻を選択できるという点でした。また私が専攻している化学系では3回生で1年間の学生実験を経てから所属する研究室を選択し、そこからいよいよ専門的な研究が始まります。大学院での研究においても研究分野だけでなく他の分野の基礎が必要となることがあり、学部で学んだものが生きてきます。

このように理学部では入学時に進もうと考えている分野以外にも色々な知識を増やし、実際に触れてみることで理解が深まり、そして体験してから専攻を選べるため、より自分に合った選択を見つけることが出来ると思います。

各系の紹介

数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いてきましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、また物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性質により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、関数解析、複素解析、代数解析学、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機科学、保険数学

物理科学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とします。本系は3教室に分かれ、物理学第一教室では主に物質の構造と性質について、物理学第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から宇宙論まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究と教育を行っています。

不規則系物理学、量子光学・レーザー光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、化学物理・生命物理、ソフトマター物理、非線形動力学、凝縮系の理論、統計物理学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、高エネルギー物理学、宇宙線、素粒子論、原子核理論、天体核、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としています。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラと関係している太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマンツルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究し教育しています。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、地球物質科学、地球生物圏史、関連地球惑星科学

化学系

化学は、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問です。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性にに応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

有機物性化学、生物構造化学、量子化学、理論化学、物理化学、分子分光化学、光物理化学、分子構造化学、電子スピン化学、表面化学、金相学、無機物質化学、有機化学、有機合成化学、集合有機分子機能、生物化学、遺伝子動態学

生物科学系

生物科学系は、地球上の多様な生物が織りなす様々な存在様式や生命現象を研究対象としています。マクロ的な視点からは、生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心に自然史や野外研究に重点をおいた伝統に培われた研究を展開し、生物の進化や多様性の機構を明らかにしようとしています。一方、様々な生物のゲノムが解読され、ライフサイエンスもポストゲノム時代に入り、新しい研究の方向性が求められるようになりました。ミクロ的な視点からは、動物や植物の細胞生物学、発生学、分子生物学、構造生物学の独創的な研究により多彩な生命現象を分子レベルで解明しようとしています。このようにミクロ・マクロの両方の視点から、多様なアプローチと方法論を駆使しつつ、生物をその環境と合わせて統合的に理解することを目指しているのが、生物科学系の特徴です。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、海洋生物学、動物行動学、動物生態学、生態科学Ⅰ、発生ゲノム科学、環境応答遺伝子科学、細胞情報制御学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、生態科学Ⅱ、ゲノム情報発現学、理論生物物理学、分子生体情報学、神経生物学、構造生理学、分子発生学



[写真] 物理科学課題研究(物理科学系卒業研究科目)の風景

全学共通科目(専門基礎科目)

科目

微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、微分積分学統論A、微分積分学統論B、確率論基礎、数理統計、線形代数学統論、非線型数学、非線型数学セミナー、現代解析学の展開、関数論、数値計算の基礎、現代の数学と数理解析—基礎概念とその諸科学への広がり、対称性の数理A、対称性の数理B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、初修物理学A、初修物理学B、熱力学、振動・波動論、力学統論、物理学実験、特殊相対論、電磁気学統論、現代の素粒子像、天体観測実習、やわらかな物理学-物質と生命の本質を探る、低温科学A、低温科学B、ビーム科学入門、レーザー科学、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、基礎化学実験、現代化学入門A、現代化学入門B、薬学物理化学(化学熱力学)、基礎地球科学IA、基礎地球科学IB、基礎地球科学IIA、基礎地球科学IIB、地球科学実験A、地球科学実験B、Field地球科学A、Field地球科学B、Material地球科学A、Material地球科学B、Visual地球科学概説、Visual地球科学演習、地球生物圏史セミナー、地質科学セミナー、地球の物理、地球テクトニクス基礎セミナー、自然災害科学Ⅰ、自然災害科学Ⅱ、環境地圏科学ゼミナールⅠ、生物学実習Ⅰ、生物学実習Ⅱ、生物学実習Ⅲ、生物自然史基礎論A、生物自然史基礎論B、真菌自然史A、真菌自然史B、動物自然史A、動物自然史B、植物自然史A、植物自然史B、生命現象の生物物理学、基礎生物学A、基礎生物学B、現代植物学、薬学生物学、薬用植物学、霊長類学のすすめ、生態科学、コンピュータグラフィックス実習A、コンピュータグラフィックス実習B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、コンピュータサイエンス入門、グラフ・ネットワーク、科学英語A、科学英語B

専門科目

1 年次	2 年次	3 年次
線型代数学演習 A, 線型代数学演習 B, 地球・惑星科学入門 I, 現代化学セミナー A, 現代化学セミナー B, 大学で学ぶ物理学, 自然人類学 A, 自然人類学 B	集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 基礎数学からの展開 A, 基礎数学からの展開 B, 数学基礎演習 I, 数学基礎演習 II, 解析力学 1, 解析力学 2, 波動と量子論, 熱・統計力学 1, 物理のための数学 1, 物理のための数学 2, 物理学情報処理論 1, 解析力学 1 理論演習, 解析力学 2 理論演習, 熱・統計力学 1 理論演習, 天文学概論, 地球惑星科学入門 II, 地球惑星科学入門 III, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習 A, 観測地球物理学演習 B, 地質科学通論 I, 地質科学通論 II, グローバルテクトニクス, 基礎地質科学実習, 生物圏進化史, 有機化学 IA, 有機化学 IB, 物理化学 I (量子化学), 無機化学 I, 物理化学 II, 生物化学 IA, 生物化学 IB, 入門化学実験, 分子生物学 I, 分子生物学 II, 分子遺伝学 I, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 生体分子科学, 基礎生物学実験 I, 基礎生物学実験 II, 基礎生物学実験 III, 臨海実習第 1 部	代数学 I, 代数学 II, 幾何学 I, 幾何学 II, 解析学 I, 解析学 II, 微分方程式論, 函数解析学, 複素函数論, 代数学演義 I, 代数学演義 II, 幾何学演義 I, 幾何学演義 II, 解析学演義 I, 解析学演義 II, 数値解析, 計算機科学, 量子力学 1, 量子力学 2, 量子力学特論 1, 熱・統計力学 2, 物理実験学 1, エレクトロニクス, 物性物理学 1, 物性物理学 2, 物理実験学 2, 物理数学特論 1, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学 3, 電磁気学 4, 物理学情報処理論 2, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理の英語, 熱・統計力学 2 理論演習, 量子力学 1 理論演習, 量子力学 2 理論演習, 電磁気学 3 理論演習, 電磁気学 4 理論演習, 現代物理学, 物理科学課題演習 (原子核物理: 素粒子の基本相互作用 - 量子電磁力学, 素粒子で観る量子力学, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の 4 つの力, 宇宙 X 線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理科学課題演習 (物性物理: 相転移, 物質の光応答, 固体電子の量子現象, 高温超伝導, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス, ソフトマター), 基礎宇宙物理学 I, 輻射, 基礎宇宙物理学 II, 電磁流体力学, 太陽物理学, 恒星物理学, 物理科学課題演習 (宇宙物理: 数値計算・シミュレーション, 観測機器, 星・銀河の世界, 活動する太陽), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学 I, 地震学 I, 海洋物理学 I, 気象学 I, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学 I, 地形学, 地球惑星科学課題演習 (地球物理: 固体地球系, 流体地球系), 岩石学 I, 岩石学 II, 鉱物学 I, 鉱物学 II, 層序学, 地質調査法, 地史学, 古生物学 I, 古生物学 II, 地球テクトニクス I, 地層学, 地球テクトニクス II, 地質学機器分析法, 構造地質学, 岩石学実験 I, 岩石学実験 II, 結晶学演習, 地質科学野外巡検 I, 地球テクトニクス実習 I, 古生物学実験, 地球惑星科学課題演習 (地質科学: 地質科学研究法 1, 地質科学研究法 2), 生物化学 II, 生物化学 III, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法 I, 化学実験法 II, 無機化学 IIA, 無機化学 IIB, 物性化学 I, 物性化学 II, 化学統計力学, 有機化学 II, 有機化学 III, 化学数学, 物理化学 IIIA, 物理化学 IIIB, 量子化学 I, 量子化学 II, 分析化学 I, 分析化学 II, 環境化学, 物理化学演習 II, 計算機化学演習, 物理化学演習 I, 無機・物性化学演習, 生物化学演習, 化学実験 A, 化学実験 B, 植物系統分類学 II, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学 I, 生態学 II, 人類学第 1 部, 人類学第 2 部, 陸水生態学, 遺伝情報維持機構論, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生生物学 I, 発生生物学 II, 植物生理学, 植物分子生物学, 分子進化学, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学 II, 膜生物学, ゲノム科学, 再生生物学, 細胞内情報発信学, 数理生物学, 植物分子遺伝学 I, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学 II, 分子生物物理学, 生物学セミナー A, 生物学セミナー B, 生物学実習 A, 生物学実習 B, 生物学実習 C, 生物学実習 D, 生物学実習 E, 臨海実習第 2 部, 臨海実習第 3 部, 臨海実習第 4 部, 野外実習第 1 部, 野外実習第 2 部, 陸水生態学実習 I, 陸水生態学実習 II, 安定同位体実習, 物質の創成と制御

4 年次	卒業研究科目	特別講義
代数幾何学 I, 代数幾何学 II, 整数論 I, 整数論 II, 位相幾何学 I, 位相幾何学 II, 微分幾何学 I, 微分幾何学 II, 確率論, 偏微分方程式, 函数解析特論, 解析学特論 I, 解析学特論 II, 力学系, 非線型微分方程式, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学 I, 保険数学 II, 保険数学演習 I, 保険数学演習 II, 原子核物理学 1, 原子核物理学 2, 素粒子物理学 1, 素粒子物理学 2, 重力, 重力特論, ソフトマター, 量子力学特論 2, 量子力学特論 3, 量子光学・光物性, 物理数学特論 2, 非平衡統計, 物性物理学 3, 物性物理学 4, 銀河・星間物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学 II, 地震学 II, 海洋物理学 II, 気象学 II, 太陽地球系物理学, 陸水学, 火山物理学 II, 活構造学, 鉱物学特論, 惑星科学基礎論, 変成岩岩石学, 鉱物学実習, 地質科学野外巡検 II, 地球テクトニクス実習 II, 理論テクトニクス特論, 無機化学 III, 物理化学 IV, 有機化学 IV, 有機化学演習, 物理化学演習 III	<p>[数学講究]</p> <p>[物理科学課題研究]</p> <p>(原子核科学) 自然における相互作用 I, 自然における相互作用 II, 素粒子と原子核, 原子核とハドロン物理学, 天体核現象, 高エネルギー天体物理</p> <p>(物性科学) 不規則系の物性, 光物性, 固体電子物性, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 時空間秩序・生命現象の物理, 非線型・非平衡現象の理論, ソフトマターの階層構造と揺らぎ, 凝縮系の理論, 凝集系の分子分光, 分子集合体および無機化合物の構造と物性, 固体・表面のナノ構造解析, 液体の物理化学・理論生物物理化学, 化学物理理論</p> <p>(宇宙科学) 機器開発, 太陽, 恒星とブラックホール, 銀河, 理論宇宙物理学</p> <p>[地球惑星科学課題研究]</p> <p>(地球物理学) 電磁気圏, 大気圏・水圏, 固体圏</p> <p>(地質学・鉱物学) 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学</p> <p>[化学課題研究]</p> <p>有機物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピン化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学</p> <p>[生物科学課題研究]</p> <p>植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 生態学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 海洋生物学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 時間生物学, 植物分子遺伝学, 植物細胞分化の分子生物学, 分子細胞生物学, 遺伝情報の維持機構, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, ゲノム情報発現学, 細胞シグナル伝達の分子生物学, 神経生物学, 多細胞体構築の分子発生遺伝学, 遺伝子分子生物学, 幹細胞と幹細胞化の分子細胞生物学, 理論生物物理学</p>	<p>数学特別講義, 物理科学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物科学特別講義</p>

京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活サポート

学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

医学部

Faculty of Medicine



[写真] 臨床実習（放射線診断科）の風景

● アドミッションポリシー（医学部が望む学生像）

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種との連携あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

● 理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間である。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命である。

医学科

新医学領域の開拓と革新的医療の創成

学科紹介（医学科）

カリキュラムは、医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。

専門科目（医学科）

1年生	基礎医学生物学, 基礎医学生物学(実習), 医学情報リテラシー, 外来患者支援ボランティア実習, Early Exposure
2年生	組織学, 組織学実習・組織標本作製実習, 肉眼解剖学講義実習, 発生学, 生理学, 生理学実習, 実験動物学, 分子細胞生物学, 分子細胞生物学実習, 神経科学, 脳実習, 免疫学, 微生物学講義, 微生物学実習, 寄生虫学, 病理学総論, 病理学各論・実習, 法医学, 法医学実習, 薬理学・薬理学実習, 放射線生物学, 遺伝医学, 薬物動態学・毒性学, 医療情報学
3年生	
3年生	社会・環境・予防医学, 診断治療学総論, 循環器病学・心臓血管外科学, 血液病学, 内分泌・代謝病学/糖尿病・栄養内科学, 呼吸器病学, 消化器病学, 泌尿器科学・腎臓病学, 臨床神経学(神経内科学・脳神経外科学), 特殊感染病学, 免疫病学, 整形外科学, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学, 眼科学, 婦人科学・産科学, 皮膚科学, 小児科学, 加齢医学(老年医学), 精神医学, 麻酔科学・集中治療医学, 救急医学, 臨床腫瘍学, 画像診断学, 口腔外科学, 形成外科学, 医の倫理, 臨床検査医学, リハビリテーション医学, 医療安全学
4年生	
4年生	マイコース・プログラム
5年生	臨床実習(血液・腫瘍内科, 内分泌・代謝内科, 循環器内科, 消化器内科, 呼吸器内科, 免疫・膠原病内科, 老年内科, 糖尿病・栄養内科, 神経内科, 消化管外科, 肝胆膵・移植外科, 乳腺外科, 小児外科, 眼科, 産科婦人科, 小児科, 皮膚科, 泌尿器科・人工腎臓科, 腎臓内科, 耳鼻咽喉科, 整形外科, 精神科神経科, 放射線治療科, 放射線診断科, 麻酔科, 集中治療部, 脳神経外科, 呼吸器外科, 心臓血管外科, 形成外科, 口腔外科, 薬剤部, 検査部, 感染制御部, 輸血, 細胞治療部, 病理診断部, 外来化学療法部, 初期診療・救急医学)
6年生	
6年生	卒業試験

▶ 医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを旨とする医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

▶ 生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年から第2学年にかけて、「全学共通科目」の履修が主体となります。しかし、これと並行して、医療人の素養をはぐむ取組や研究マインドを育成するチャレンジも始まります。たとえば、生命科学に関する基礎的な教材に関して、少人数で教員と議論したりします。人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修も開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていくこととなります。京都大学では、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

▶ 実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められています。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各科が個別の分野の教育を行うだけでなく、学生が臨床医学を系統的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、例えば基礎医学との橋渡しとしての探索医療センターが役割をはたしています。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークが機能しています。初期診療・救急医学のセクションも整備され、外科も新しい形に再編されるなど、新しい時代を担う組織づくりをめざして脱皮し続けています。施設も多額の寄付により、新しく構築されるなど整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療の発展に貢献できる人材養成をめざして、密度の高い教育が行われています。

● 卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もいますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



2008年度実績

● 医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

卒業生からのメッセージ

可塑性と寛容性

2002年 医学科卒業
京都大学大学院医学研究科医学専攻
脳神経外科・病態生物学



平田 英周さん

私は大学卒業後に脳神経外科教室に入局し、脳神経外科医として臨床現場の最前線で診療技術を磨いて参りました。その後大学院へ入学し、現在は基礎系の病態生物学教室において、悪性脳腫瘍の浸潤機構解明に向けて研究を進めています。脳神経外科のように高度な手術技術を要求される臨床科においても、その医療技術・戦略は全て science に立脚するものであり、地道な基礎研究なくして医療の発展は望めません。京都大学医学部では学部から附属病院に至るまで学問に対する可塑性・寛容性に溢れており、私のような臨床医でも必要に応じて最先端の基礎研究に携わることができます。ライフサイエンスを志す皆さんの無限の可能性を実現するに、これ以上の環境は存在しません。是非、京都大学で我々と共に学びましょう。

いわば目印としての北極星

2009年 医学科卒業
京都大学医学部附属病院研修医



渡邊 翼さん

『彼の写真と文章はいわば目印としての北極星である。いくら歩いても北極星に行きつくことはできないけれども、しかし星を目印に北へ歩くということはできる。大事なものは距離ではなく方位なのだ。』

小説家・池澤夏樹は写真家・星野道夫の一生を振り返りこう書きました。

夢を描いて本大学の門をくぐったのはちょうど6年前の春のことです。受験生の頃、期待に胸を膨らませた大学生活は思った通り、自分に学ぶ意欲さえあればどこまでも世界が広がる素晴らしいものでした。大学は知の現場であり、社会は出会いと学びの泉です。大学にも社会にもまさに北極星となる人々と出会い、あなたが迷いそうになった時も優しく道を照らしてくれます。

私も大学で出会った北極星をいわば目印として将来は放射線腫瘍学の道を志し、今は一歩ずつ研修医として学んでいます。

Message

在学生からのメッセージ

素晴らしい環境

医学部医学科 4 回生 池内 亮介さん



京都大学では、一回生から、一般教養に加え専門科目がカリキュラムに組み込まれており、特に、秋には early exposure があります。これは早い段階から、実際の医療現場を体験するもので、医学の勉強に対するモチベーションが非常に高まったのを今でも覚えています。

皆さんは京都大学についてどのようなことを思い浮かべますか。京都大学は自由の学風であるとししばしば言われます。自由とは、単に拘束がない

ということを意味しているのではありません。京都大学が与えてくれる自由は、知的好奇心に従って自ら学ぶ機会を活かすためのものです。限りある学生時代、何もしなければ気がつけば終わってしまうかもしれません。しかし、様々なことにチャレンジできる環境が医学部に整っています。学生時代から研究室に通うもよし、海外に行くもよし、様々なことに積極的に挑戦しましょう。

人間健康科学科

語らいから学びあい ... 創りあげる



[写真] 血液検査学実習（凝固検査）

● 人間健康科学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育課程の中心として取り上げ、新入生から『人間健康科学概論』において、「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チーム医療に積極的に参画してリーダーシップを発揮できる医療専門職として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上で高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

● 人間健康科学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展させ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、人間健康科学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。人間健康科学科は高度医療専門職を、そして将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

授業科目の区分

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目 専門基礎科目(全専攻共通)				各専門科目 ・看護学専攻 ・検査技術科学専攻 ・理学療法学専攻 ・作業療法学専攻			

人間健康科学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通科目は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通じて豊かな人間性を育むための教育を実施す

ることを目的としています。専門基礎科目は、医学部人間健康科学科全専攻の学生が個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

▶ セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。人間健康科学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

▶ 全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに人間健康科学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要する科目があります。

▶ 専門基礎科目

専門基礎科目は、「専門基礎」と「臨床基礎」で構成され、医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、多専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。全学共通科目と並行して第Iセメスターより第IVセメスターまでに、人間健康科学科の学生は多専攻共通で履修することとなります。

専門基礎は、人体構造、人体機能、健康科学、専門基礎I、専門基礎II、専門基礎IIIから、臨床基礎は、内科系臨床概論、外科系臨床概論、臨床各論から構成されています。全学共通科目として開講される人体構造学(理学・作業対象)、臨床コミュニケーション論(看護・理学・作業対象)、リハビリテーション概論(理学・作業対象)は、該当専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

▶ 専門科目（看護学専攻）

看護学専攻では入学時から専門科目を開講します。第Iセメスターでは「基礎看護学」「看護カウンセリング」等により、独自の健康観や看護観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。第IIセメスターでは「基礎看護学技術論」「基礎看護学技術演習」等により、看護学において基礎となる援助技術の知識や方法論を学習します。第III・IVセメスターは「臨床基礎看護学」や「臨床基礎看護学技術演習」等により、臨床における援助技術の知識や方法論を学習します。

第IIIセメスター以降は、成人、精神、母性、小児、在宅、地域保健の各専門領域の科目と選択コースとして助産学を開講します。これらの領域では専門基礎科目や基礎看護学・臨床基礎看護学の学習を踏まえ、領域の特性や捉え方、疾病をもつ人や状況に対するアセスメントなどの専門的知識と、領域特性に応じた援助技術の方法論を学習します。

第VII~VIIIセメスターでは「統合」と「統合看護(卒業論文)」を開講します。第VIセメスターまでの学習を振り返り、各人の課題に沿って研究的なプロセスをたどることにより、4年間の学習を統合し看護学を深めていくことができるようにしています。

▶ 専門科目（検査技術科学専攻）

第I・IIセメスター(1年次)は、全学共通科目にて幅広い教養と見識を培う時期です。専門科目としては、医用イメージング概論(第IIセメスター)のみが配当されています。

第III・IVセメスター(2年次)においては、基礎医学に関する講義を中心に問題を論理的に把握する能力を培います。生体の正常な機能と病因・病態を中心に、基礎医学の知識を総合的に理解する時期です。後期では臨床検査に関連する実習を行います。専門基礎科目を中心に編成されており、いずれ臨床医学の場で必要となる基礎医学を学習します。

第V・VIセメスター(3年次)では、臨床検査医学に必要な実習が主体となり、知識を経験に活かす時期となります。基礎医学の総論、実習を通じて学んできた知識を実習に活かし、臨床検査に関する技術を習得することにより、将来に向けて生きた知識と技術を体験します。

第VII・VIIIセメスター(4年次)には、指導教員のもと各自が卒業研究を行います。また、3年次までに実習してきた臨床検査学全般にかかわる実践的な検査実務を、臨床実習として京都大学医学部附属病院の検査部・病理部・輸血部において、少人数単位で体得します。臨床検査技師の国家試験を受験しますが、その対策はもちろん、チーム医療教育、地域医療、医療の国際化など幅広い医療に関する問題、医工連携等に直結する学習を行います(臨床実習、先端医療技術セミナーなど)。

▶ 専門科目 (理学療法学専攻)

第Iセメスターから「理学療法学総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法法の現場を見学・体験させることによって理学療法学への興味を深めます。

第IIIセメスターから第Vセメスターにかけては理学療法学評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第VIセメスターから第VIIセメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実践を経験します。第VIIIセメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

▶ 専門科目 (作業療法学専攻)

作業療法学専攻では、第I・IIセメスターで共通科目、専門基礎科目と平行し、作業療法学適応学原理、作業学や臨床実習I(早期臨床体験)により、作業療法学への興味を深めます。第IIIセメスターでは作業分析学、作業療法学評価学総論など作業療法の基盤となる専門科目の学習が始まり、身体障害、精神障害、発達障害の3領域の見学実習(臨床実習II)など、専門課程を学ぶための基盤づくりを行います。

第IVから第VIセメスターにかけては、作業療法学評価や作業療法治療学など作業療法の専門科目の学習、そしてそれらの技術を習得するための演習・実習を行い、第VIセメスターで、講義や実習で学んだ評価手順と技術を習得するために、評価実習(臨床実習III)を行います。第VII・VIIIセメスターでは、より高度な臨床応用能力をつけるために、作業療法の治療計画と治療体験を、臨床実習IVを通して学び、卒業研究で将来の臨床家、研究者、教育者としての基盤を育みます。

Message

在学生からのメッセージ

人間健康科学への誘い

医学部保健学科理学療法学専攻 3 回生

橋本 幸次郎さん



本学科は「人間の健康を科学する」を教育の中心に据えています。人間健康科学を極めるうえで医学専門知識だけでは足りませんが、必要なのは様々な学問、経験を通じて得るもの、つまり学際領域での学びであると考えられます。京都大学で学ぶということは専門知識の詰め込みではなく、様々な学問に触れて自分で考え論理的思考を定着させ、自己を成長させることが求められます。次世代の健康科学を牽引する本学科で自分を成長させ、よりよい医療・保健・福祉を目指して活躍してみませんか。

大学における先生方・学友から刺激を受けながら、高いモチベーションで物事に取り組める環境がここに 있습니다。各専攻でアプローチの仕方は違いますがゴールは同じです。そう、一緒に人間の健康について科学しましょう。

● 卒業後の進路

[看護学専攻]

医療系(病院、保健所、市町村、企業内健康管理部門など)、官公庁、一般企業、教育研究機関、大学院進学など

[検査技術科学専攻]

医療系(病院、診療所、保健所等)、教育研究機関、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政、大学院進学など

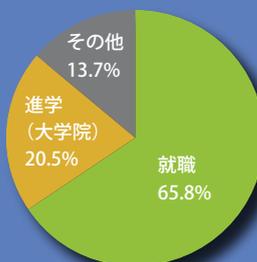
[理学療法学専攻]

リハビリテーションセンター、国立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、行政機関、教育機関、関連企業、大学院進学など

[作業療法学専攻]

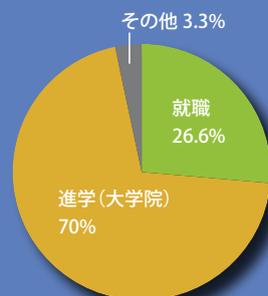
医療系(病院、診療所、保健所、保健センターなど)、福祉系(児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社会性支援施設、老人福祉施設など)、養護学校、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

看護学専攻



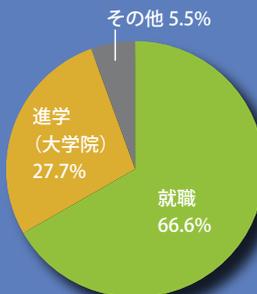
就職(48)	病院	39
	企業	5
	その他	4
進学(15)	大学院	14
	大学院編入	1
その他		10

検査技術科学専攻



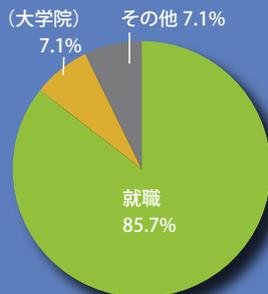
就職(8)	病院	6
	企業	2
進学(21)	大学院	21
その他		1

理学療法学専攻



就職(12)	病院	12
進学(5)	大学院	5
その他		1

作業療法学専攻



就職(12)	病院	11
	企業	1
進学(1)	大学院	1

2008 年度実績

● 人間健康科学科で取得可能な資格

人間健康科学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

[看護学専攻] 看護師、保健師、助産師

[検査技術科学専攻] 臨床検査技師

[理学療法学専攻] 理学療法士

[作業療法学専攻] 作業療法士

講座紹介 (人間健康科学科)

看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

1. 基礎看護学講座

人間、健康、環境、生活など、基本的な概念に関連する事柄やそこから派生する健康現象について、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化や理論の検証をめざして教育・研究を行います。

2. 臨床看護学講座

人の健康は身体的・精神的・心理社会的等様々な因子の統合として達成されます。臨床看護学講座では、主として成人期にある人のからだところの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

3. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む 21 世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。家族看護学講座では、さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生み育てることに直接あるいは間接的に参加できるように、母子とその家族を取り巻く専門的な理論と技術について教育・研究します。

4. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

理学療法学専攻

理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成するために運動機能開発学講座と健康運動機能学講座を設けています。

運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによって運動機能に障害が生じたり、後遺症が残存したものの、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してそれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象にします。

健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための運動方法の研究などを対象にします。

本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されるところです。

卒業後は、急性期、療養型の医療機関だけでなく、高齢者の保健・行政機関、リハビリテーションセンター、介護保険事業所、教育、研究機関などに就職し、リーダーとして活躍する事が期待されます。

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の分子細胞生物学、遺伝子医療、移植医療、再生医療など医学および医療技術の急速な進歩に伴い、幅広い教養と専門医療職としてのより深い知識や最新の技術を習得した臨床検査技師を養成することを目的とします。本専攻は、基礎生体病態情報解析学、臨床生体病態情報解析学、ならびに情報理工医学の3講座からなり、基礎医学、臨床医学、遺伝子工学、画像診断学・情報科学を含めた生命科学のあらゆる分野を視野に入れた幅広い知識や技術を学び、さらに国際的にも活躍しうる研究者・教育者としての優れた人材を育成します。

1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織にわたる基礎的な生理的ならびに病理学情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育、研究を行います。

2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

3. 情報理工医学講座

高度先進医療を支える生体医療情報解析において画像診断機器とそれを用いた画像診断技術が必要不可欠です。これらの診断機器や技術を開発・導入するうえでは、医学・医療分野の知識に加えて機器開発の基礎となる医用工学技術や情報科学の理論をも習得した人材が必要です。このような人材を育てるため、情報理工医学講座では、医工融合分野における最先端技術の研究開発および事業化に将来発展しうる教育・研究を行います。

作業療法学専攻

人の日々の生活は、身辺処理や生活管理などの日常生活活動、職業や家事・育児・学業などの仕事関連活動、余暇活動などとさまざまな作業活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来たし、生活に障害をもたらします。

作業療法は、病や障害により日々の暮らしに支障を来している人々に対し、自律して生活に適用する能力の発達・回復・開発・維持を、「作業活動」を介して、達成しようとするものです。そのためには、まず日々の生活を構成するさまざまな作業活動の影響・効果を科学的に捉える必要があります。さらに、精神機能、心理・社会的機能、感覚・運動機能、高次神経機能など、人間の健康生活の基本となる機能に障害がある人に対し、より有効な作業療法の治療原理、問題解決の考案・実施に関する研究が必要です。作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材を育成するため、臨床教育と研究を行います。

1. 作業機能開発学講座

作業と人間との関わり、作業が生活に及ぼす影響・意義、など人間の健康生活に必要な作業活動の基本機能を神経筋骨格系の機能的側面、社会心理学的側面から理論的に理解、究明し、心身の障害に対する作業治療学、日常生活や社会生活の援助の基礎となる知識と効果的介入法の教育と研究を図ります。

2. 作業機能適応学講座

精神機能、心理・社会機能、感覚・運動機能、高次神経機能、など人間の健康生活の基本となる機能に障害がある人々に対し、生活を構成するさまざまな作業活動を用いて日常生活の自律と適応、社会参加を図る作業療法に関し、高度な治療原理、問題解決法の考案・実施に関する臨床教育と研究を行います。

全学共通科目 (人間健康科学科)

専攻	科目
看護学専攻	健康心理学, 生活と健康, 人間健康科学概論, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 基礎化学実験, 情報科学概論, 生体制御機構概論
検査技術科学専攻	健康心理学, 生活と健康, 人間健康科学概論, 数学基礎 IA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IIB, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 健康管理論, 物理学実験, 基礎化学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習
理学療法学専攻	人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 生体制御機構概論
作業療法学専攻	健康心理学, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 生体制御機構概論

専門基礎科目 (人間健康科学科)

人体構造学, 解剖学, 運動機能解剖学, 人体構造学実習, 解剖学演習, 人体機能学, 生理学, 人体機能学実習, 運動学, 臨床コミュニケーション論, リハビリテーション概論, 精神保健学, 医療管理学, 病理学総論, 薬剤・薬理学概論, 生体防御学, 生化学概論, 公衆衛生学, 医療情報学, 医療統計学, 臨床内科疾病論 I, 臨床内科疾病論 II, 臨床内科疾病論 III, 臨床外科疾病論 I, 臨床外科疾病論 II, 臨床外科疾病論 III, 精神医学各論, 整形外科各論, 成育医療学各論

専門科目 (人間健康科学科)

専攻	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
看護学専攻	基礎看護学, 看護カウンセリング論 I, 基礎看護学技術論, 基礎看護学技術演習 I, 基礎看護学技術演習 II, 基礎看護学実習	臨床基礎看護学 I, 臨床基礎看護学 II, 臨床基礎看護学技術演習, 臨床基礎看護学実習, 成人看護学概論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学 III, 成人看護学演習, 精神看護学, 小児看護学, 母性看護学, 在宅ケア論, 地域看護学概論, 地域看護学演習, 地域看護学活動論 I, 地域看護学活動論 II, 保健行動学習論, 保健看護政策論, 地域福祉行政論	成人看護実習 I, 成人看護実習 II, 成人看護実習 III, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 家族看護学, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 基礎助産学, 生殖科学, 助産診断技術学 I, 地域看護学演習 I, 看護研究法	看護管理・倫理学, 漢語カウンセリング論 II, 緩和ケア論, 高度医療看護論, リエゾン精神看護学, ヒューマンセクシャリティ論, ベアレンティング論, 助産診断技術学 II, 助産経営学, 助産学実習, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 地域看護学演習 II, 地域看護学実習, 総合実習, 統合看護 (卒業論文)
検査技術科学専攻	医用イメージング概論	分子生物・遺伝子検査解析学, 細胞生物学, 臨床検査総論, 医用電子工学, 生化学, 微生物学, 生化学実習, 分子生物・遺伝子検査解析学実習, 細胞生物学実習, 医動物学, 微生物感染症学実習, 細胞組織検査学, 血液学, 情報解析学基礎, 医用電子工学実習, 検査情報統計学, 臨床生理・超音波診断学	病理学各論 I, 細胞組織検査学実習, 臨床検査精度管理学, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 血液検査学実習, 画像情報システム学, 情報解析学, 臨床化学, 生体応答解析学, 病理学各論 2, 放射性同位元素検査技術学, 臨床生理・超音波診断学実習, 臨床化学実習, 生体応答解析学実習, 非侵襲画像検査学, 画像情報システム学実習	臨床実習, 卒業研究, 臨床検査病態学, 先端医療技術セミナー, 臨床病態情報解析学演習
理学療法学専攻	理学療法総論, 理学療法見学実習	理学療法評価学, 運動機能評価実習, 筋・骨格系理学療法学, 義肢学, 日常生活援助法 I	理学療法評価学演習, 臨床運動機能学, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 物理療法学, 生活動作学実習, 装具学, 高齢者理学療法学, 地域理学療法学概論, 日常生活援助法 II, 理学療法評価実習, 臨床運動機能学実習, 神経系理学療法学実習, 呼吸理学療法学, 循環代謝系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 臨床評価実習 II	運動機能解剖セミナー, 身体運動解析セミナー, 臨床実習 II, 卒業研究, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 画像診断・整形外科セミナー
作業療法学専攻	作業療法適応学原理, 作業学, 臨床実習 I	作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 運動機能評価学実習, 日常生活援助法 I, 身体障害作業療法治療学総論, 高齢期作業治療学, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 臨床実習 II	作業学演習 II, 発達評価実習, 心理社会機能評価学, 生活機能評価学実習, 日常生活援助法 II, 作業療法技術論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業治療学, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 発達障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 地域作業治療学, 作業療法管理運営論, 研究方法論, 臨床実習 III	作業療法演習, 卒業研究, 臨床実習

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences



【写真】顕微鏡による細胞観察の様子

● 薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標としています。

薬科学科：薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科：薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

● 薬学部への誘い

薬は、人類の健康に大きく貢献し、不可欠なものとなっています。薬学は、この薬を創造、創生し、適正に使用するための学問を行う場です。薬の開発は先端的な科学と技術の融合の上に成り立っていますので、薬学を通して社会に貢献するためには、化学系、生物系、物理系、医療系など幅広い専門知識と医療人としての心を学ぶことが必要です。

京都大学における薬学の教育・研究組織は昭和14年に医学部薬学科として、有機化学系、分析化学系を中核に出発し、その後、薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制を整え、現在に至っています。

現在、薬学では、近年の急速な生命科学の進歩、医療の高度化に対応するために、新しい概念に基づく医薬品の創製・発展、医療への貢献に対応できる教育が求められており、その一環として、平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要するという教育制度の変更も行われました。そこで、本薬学部では、この薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、将来の医薬品の創製を担う創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を担い、それを指導できる薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す6年制の薬学科の2学科を設置し、それぞれの目的に適した人材の育成に努めています。また大学院では、薬科学専攻と医薬創成情報科学専攻の2つの専攻を設け、学部で養われた学力、技能を基盤として、より広い視野に立って薬学関連領域の学識を深め、研究能力を養うことを行っています。さらに、教育・研究の施設・環境の充実にも努め、最近総合研究棟および教育棟の新設、本館の大改修を行いました。また、文部科学省21世紀COEプログ

ラムをはじめ、創薬、医療薬学分野の特色ある研究・教育プログラムにも採択され、創薬科学および医療薬学の充実した教育に努めています。薬学は先端科学研究と医療での社会的貢献が同時に可能な学術領域です。医薬品の創製と医療への貢献を目指す学問の場として、薬学部には皆様を招待します。

総合科学としての薬学研究の発展を通じて社会貢献へ

薬学部の教育

▶ 創薬科学研究者と高度な医療を支える薬剤師を育てる

薬学は疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学です。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を進展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は4年制の総合薬学科で創薬科学、医療薬学の研究者、技術者の養成を目指してきました。平成18年度より京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を支える薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科となりました。

▶ 1~2 回生（薬科学科、薬学科共通）：全学共通科目を中心とした履修と専門教育への準備

1 回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学なども履修します。2 回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目として科学英語を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

▶ 3~4 回生（薬科学科）：専門科目の講義と実習

3 回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4 回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

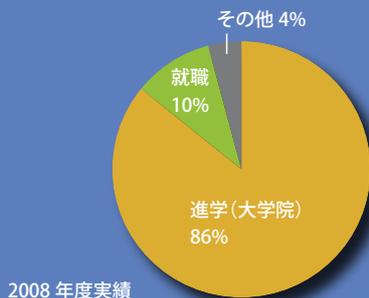
▶ 3~6 回生（薬学科）：専門科目の講義と実習

3 回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4 回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学専門演習を行います。医療薬学専門演習は主として医療薬学分野の研究室をまわり、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4 回生後期から特別実習が行

● 卒業後の進路

8割以上が大学院に進学します。修士課程を修了した学生の3割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では7割が製薬会社に就職しています。



2008年度実績

われます。特別実習は6回生まで行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、医療薬学を中心とした種々の領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究所の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で5ヶ月間の実務実習を行います。

Message

在学生からのメッセージ

「新たな薬学部として」

薬科学科4回生

井本 有基さん



新制度に替わり、今年で4年目。私たちの代から新たな薬学部の形が始まりました。かねてから研究者を志していた私は薬剤師としての活躍を目指す6年制の薬科学科ではなく、研究者としての活躍を目指す4年制の薬科学科を志望しました。

4回生となった現在は生体情報制御学分野に所属し、うつ病の根治治療に関する研究を始めています。まだまだ先輩方の手助けを受けながらですが、目標に向かって日々前進し、充実した研究生生活を送っています。

ところで、先にも述べたように薬学部は新制度になりました。しかし今現在、新制度になってからまだ卒業者はおらず、社会的な評価は確立されていません。もちろんそれを作り上げていくのが私たち学部生であり、薬学を志す皆さんとなるわけです。新時代の薬学部とともに活躍してゆくことを期待しています。

『京都で学ぶ幸せ』

薬科学科4回生

高木 すみれさん



6年制の一期生として入学し、大学生生活も4年目となりました。これまでに、通常の講義や実験実習の他に、少人数制を活かした、グループディスカッションや、早期体験学習などを経験し、クラスメートとの交流を通じて、お互いに成長してきたように感じています。

最近では、薬を、標的とする臓器に届ける研究をはじめました。目的としたものを作るために試行錯誤の毎日ですが、先人の知恵を借りながら自分で考えて実行する楽しさを感じ、日々過ごしています。

このように、京大の薬学部6年制では、医療人として、研究者としての姿勢のどちらも身につけることができます。ちょっと欲張りかな、とも思いますが、それもかかってしまう環境が整っています。また、京都は、歴史があり、四季を身近に感じられる魅力的な場所です。みなさんも、京都で学んでみませんか？

就職先の例（修士課程修了者）

塩野義製薬／武田薬品工業／大塚製薬／アステラス製薬／
大日本住友製薬／第一三共／大正製薬／花王／田辺三菱製薬／
日本新薬／大鵬薬品工業／医薬品医療機器総合機構など

● 薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、6年制の薬学科で卒業見込みの者及び卒業生が薬剤師国家試験に出願することができます。また、4年制の薬科学科卒業生も必要な要件を満たせば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。このほかに、教員職員免許状、衛生検査技師（薬学科）などの資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ

さらなる発展を遂げる

薬学分野

1999年薬科学科卒業

京都大学大学院薬学研究科 助教

土屋 創健さん



実家が薬局（そのためか私の名も非常に薬学的）なこともあってか自然と薬に関心を持ち、さらに創薬は学術的かつ社会的貢献を果たせることから薬学部に入学しました。学生時代に創薬・医療薬学に必要な幅広い学問分野を総合的・系統的に学べることは薬学教育の特色・魅力ですが、これにより知識の獲得のみならず物事・現象を多面的に捉える能力を修得できました。さらに、ポストゲノム時代を見据えて遺伝子配列などのゲノム情報を活用する情報科学についていち早く学べたことが現在の研究に大きく役立っています。近年、データベース化されたゲノム・ケミカル情報を活用してより理論的に創薬を行う方法論が台頭してきており、これからの薬学研究者・薬剤師にはその素養も求められます。これからの創薬・医療薬学を目指し、ぜひ、ともにがんばりましょう。

「舞台は世界！」

2005年総合薬学科卒業

塩野義製薬株式会社

創薬研究所 代謝性疾患部門 勤務

藤原 拓司さん



私は“くすり”を生み出す仕事に携わりたいと思い、薬学部を志望しました。入学して驚いたのは、その分野の幅広さでした。生物・物理・化学を基礎とした分野に加え、薬理学や薬剤学といった専門性の高い分野があり、本当に多くのことを学ぶことができました。また、私にとって非常に大きな経験だったのは配属した研究室での研究活動でした。そこでは世界トップクラスの研究が行われており、常に世界を意識して研究することの楽しさと厳しさを肌で感じることができました。大学卒業後は大学院修士課程を経て製薬企業に就職しました。現在は生物系を専門とし、新薬の研究に打ち込む日々です。自分のくすりが世界で活躍する日を夢見て…

様々なことを学び、経験できる薬学部で、みなさんが充実した学生生活を過ごせるよう応援しています。

学科紹介

薬科学科

医薬品の創成、生産を目的とした総合科学として薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には特別実習が行われます。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うために、大学院に進学します。

薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4~6年次には特別実習、病院実習、調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが、さらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うことを希望する学生は大学院に進学します。

研究室紹介 (大学院の基幹分野, 協力講座, 寄附講座, 統合薬学フロンティア教育センター)

創薬科学専攻

薬品有機製造学: 大野 浩章 准教授

- 1) ゲノム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用
- 3) 新規フラグメント合成法の開発と長鎖ペプチド合成への応用
- 4) ペプチド・ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 5) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗癌剤の分子設計・合成研究

薬品合成化学: 高岡 清 教授

- 1) 未来型触媒的不斉合成反応の設計と開拓
- 2) 立体化学制御の分子論的基礎の構築と新概念の創出
- 3) 分子の高度構造制御の有機化学
- 4) 抗腫瘍性有機化合物の設計・合成と生物有機化学
- 5) 生物活性天然物の全合成

薬品分子化学: 竹本 佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物とその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

薬品資源学: 伊藤 美千穂 准教授

- 1) 二次代謝機能発現に関する研究、特にテルペノイドの合成機構の解明

- 2) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 3) 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究
- 4) 海外伝統薬物の調査研究

薬品機能解析学: 松崎 勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

構造生物薬学: 加藤 博章 教授

- 1) X線結晶構造に基づいたABCトランスポーターの構造生化学
- 2) ベルオキシンーム膜タンパク質の膜局在化メカニズムの構造生化学
- 3) 精密立体構造に基づく酵素の触媒作用の構造起源の解明
- 4) X線結晶構造解析による生物時計の構造と機能の解明

ゲノム創薬科学: 辻本 豪三 教授 (兼任)

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オーファン G 蛋白質共役型受容体のリガンド探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析

- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

製剤機能解析学: 半田 哲郎 教授

- 1) リポ蛋白質質点とアポリポ蛋白質の相互作用に関する生物物理化学的研究
- 2) テイク状 HDL の新生に関する生物物理化学的研究
- 3) 脂質非ラメラ相の構造評価とその機能に関する物理化学的研究
- 4) レムナント粒子の細胞毒性に関する研究
- 5) ペプチドによる受容体型キナーゼの機能抑制に関する研究

精密有機合成化学: 川端 猛夫 教授

- 1) 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による精密反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

生命薬科学専攻

生体分子認識学: 竹島 浩 教授

- 1) 小胞体 Ca²⁺シグナリングに関する研究
- 2) 中枢系の新規情報伝達に関する研究
- 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

分子微生物学: 渡部 好彦 准教授

- 1) インターフェロン産生と作用機序 (抗ウイルス機構) の解析
- 2) インターフェロンに対する多面的な細胞応答機序の解析
- 3) インターフェロンと各種疾患との相関の探索
- 4) インターフェロン遺伝子治療の基礎的研究

生体機能解析学: 金子 周司 教授

- 1) イオンチャネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬、機能解析、薬効解析、安全性評価、病因論、ゲノム科学に関する研究
- 2) 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 3) 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 4) 生命科学用語オントロジーの研究

遺伝子薬学: 伊藤 信行 教授

- 1) 細胞増殖因子 (FGF) の脂肪組織、骨・軟骨、脳形成などにおける役割の解明

- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成、組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

生理活性制御学: 小堤 保則 教授

- 1) 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- 2) スフィンコ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- 3) シリアル酸分子種に関する研究

生体情報制御学: 中山 和久 教授

- 1) 低分子量 GTPase による細胞内タンパク質輸送の調節に関する研究
- 2) 多様なエンドサイトーシス経路の調節に関する研究
- 3) メンブレントラフィックによる細胞分裂の調節に関する研究
- 4) メンブレントラフィックとタンパク質分解の共役に関する研究

神経機能制御学: 根岸 学 教授

- 1) 神経ネットワーク形成、神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 2) 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 3) 三量体 G 蛋白質及び低分子量 G 蛋白質による神経機能調節の研究
- 4) ストレス遺伝子の発現機構

生体機能化学: 二木 史朗 教授

- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 2) 細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム
- 3) 亜鉛フィンガー型転写因子の DNA 認識と機能解析
- 4) 細胞内ターゲティング (核・ミトコンドリアなど) の化学と分子設計
- 5) 環境応答型機能性ペプチドのデザイン

医療薬科学専攻

薬品動態制御学: 橋田 充 教授

- 1) 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 2) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発
- 3) タンパク質医薬品の臓器、細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 4) 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 5) 薬物の経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

薬品作用解析学: 赤池 昭紀 教授

- 1) 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする
- 2) 神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 3) 胎仔血清に由来する神経保護セロフェンド酸の作用機序の解析

- 4) 生体および天然物に由来する神経保護活性物質の探索研究
- 5) ニューロン生存と神経再生を制御する細胞内機能分子に関する研究

病態機能解析学: 佐治 英郎 教授

- 1) 脳疾患、心疾患、がんでの生体機能変化をインビボ解析する分子イメージング法の開発とそれに基づく病態の仕組みの解明及び薬物作用の解明に関する研究
- 2) 病態の特性に基づく標的部選択的移行、選択的活性化をおこなう機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学: 高倉 喜信 教授

- 1) 遺伝子治療・DNA ワクチン療法の最適化を目指した核酸医薬品の設計と体内動態制御
- 2) 免疫応答制御を目指したタンパク質・DNA ワクチンの開発

- 3) RNA 干渉を利用した疾患治療システムの開発
- 4) 核酸医薬品による免疫活性化機構の解明と疾患治療への応用
- 5) 高分子医薬品の体内動態を対象とした統計解析法の開発

医療薬理学: 乾 賢一 教授

- 1) 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2) 薬物トランスポーターの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3) 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別投与設計に関する研究
- 4) 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 5) 薬物トランスポーター・代謝酵素の遺伝的多型とテララメイド医療

医薬創成情報科学専攻

薬理ゲノミクス：辻本 豪三 教授

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オフファン G 蛋白質共役型受容体のリガンド探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

ケモゲノミクス：大野 浩章 准教授 (兼任)

- 1) ゲノム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用
- 3) 新規フラグメント合成法の開発と長鎖ペプチド合成への応用
- 4) ペプチド・ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 5) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗癌剤の分子設計・合成研究

システムバイオロジー：岡村 均 教授

- 1) 哺乳類生体リズムにおける時間の生成と調律の仕組みを、細胞、組織、生体という多層レベルで解明する。

- 2) 哺乳類時計遺伝子の同定とリズムの分子機構の研究
- 3) 多層にわたる時間の分子ネットワークシステムの研究
- 4) リガンド、受容体の解析による時間を調律する創薬研究

システムケモセラピー (制御分子学)：掛谷 秀昭 教授

- 1) 多因子疾患 (癌、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等) に対する次世代化学療法の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究
- 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学
- 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究
- 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究 (コンビナトリアル合成研究等)

システムケモセラピー (創薬計算化学)：北浦 和夫 教授

- 1) 生体高分子のための量子化学計算法の開発
- 2) 生体高分子の構造と機能の理論的研究
- 3) 蛋白質と低分子の分子間相互作用の理論解析
- 4) 計算化学手法によるドラッグデザイン

統合ゲノミクス：金久 實 教授

- 1) バイオ情報を統合するバイオインフォマティクス技術の開発研究
- 2) すべての医薬品を化学構造で一元管理した KEGG DRUG データベースの開発
- 3) ゲノムと生体内化学反応の知識に基づく合成可能な天然物の予測
- 4) 医薬品開発に伴う化学構造変換の知識に基づく薬らしさの予測
- 5) 薬物間相互作用、薬物・標的間相互作用のネットワーク解析

分子設計情報：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス：ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与データからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精度化
- 5) システムスバイオロジー：計算機による複合からの生命現象の解析・理解

寄附講座

創薬神経科学：杉本 八郎 寄附講座教授

- 1) アルツハイマー病に代表される神経変性疾患の病因解明に基づく創薬研究
- 2) 生体内物質や天然物の中から生体活性物質を探索し創薬のシードを発見
- 3) ゲノムや神経再生医療技術を駆使した創薬アプローチに関する研究
- 4) コリンエステラーゼ阻害薬の神経細胞保護作用のメカニズムの解明に基づく創薬研究

ナノバイオ医薬創成科学：清水 一治 寄附講座教授

- 1) 最先端工学技術とバイオ技術を融合したナノレベル創薬研究
- 2) 先端ナノバイオ工学技術 DNA チップによるがん等の臨床検体の分析
- 3) 病態関連遺伝子やタンパク質情報を活用したテララーメード医療
- 4) 分子標的薬のターゲット探索、薬理ゲノミクス研究

システム創薬科学：奥野 恭史 寄附講座教授

- 1) 病態発症プロセスや薬理作用プロセスにおけるゲノム発現解析による病態メカニズム、薬理メカニズムのシステムの解析

- 2) 病態発症プロセスや薬理作用プロセスのシステムシミュレーションによる病態原因遺伝子、薬物標的遺伝子の同定
- 3) ケミカルゲノミクス情報、遺伝子発現データ、副作用情報などのデータ統合による多重標的薬理作用のシミュレーションモデルの開発
- 4) 多重標的薬理作用モデルに基づく薬理効果促進と安全性向上を志向した合理的薬物探索手法の開発とドラッグデザイン理論の構築

統合薬学フロンティア教育センター

本センターは、新概念に基づく e-ラーニングを実践する統合型教育支援薬学情報ナビゲーションシステムを始め、薬学の全学問領域を体系的に統合した薬学フロンティア教育プログラムを開発し、革新的医薬品開発、高度先進医療を担う薬学人を育成すると共に、連携ネットワークによる展開を図る。

統合薬学教育開発分野：柴田 敏之 教授
 先端薬学教育開発分野：杉倉 匡文 准教授
 臨床薬学教育開発分野：矢野 義孝 准教授

全学共通科目 (専門基礎科目)

科目

薬学倫理・概論, 薬学生物学, 薬学物理化学 (化学熱力学), 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 数学基礎 A, 数学基礎 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 熱力学, 物理学実験, 基礎化学実験, 生物学実習 III, 薬用植物学, 基礎情報処理 1, 基礎情報処理 2

専門科目 (予定)

	1 回生	2 回生~	3 回生~	4 回生	5 回生	6 回生
化学系講義科目		有機化学 1 (有機合成化学), 有機化学 2 (生物有機化学), 天然物薬学 1 (天然物化学), 天然物薬学 2 (薬用資源学), 創薬有機化学エクササイズ	有機化学 3 (創薬化学), 有機化学 4 (精密合成化学), 有機化学 5 (生体機能化学), 天然物薬学 3 (生薬学), 医薬品化学・新薬論			
物理系講義科目		物理化学 1 (量子化学), 物理化学 2 (電気化学・界面化学), 物理化学 3 (構造化学), 分析学 1 (薬品分析学), 分析学 2 (放射化学), 分析学 3 (分光学), 創薬物理化学エクササイズ 1, 創薬物理化学エクササイズ 2	分析学 4 (臨床化学), 物理化学 4 (生物物理化学)			
生物系講義科目		生物化学 1 (物質生化学), 生物化学 2 (代謝生化学), 生物化学 3 (基礎遺伝子学), 衛生薬学 1 (健康化学)	微生物学 1 (細菌学), 微生物学 2 (ウイルス学), 生物化学 4 (応用遺伝子学), 生物化学 5 (細胞生物学), 生物化学 6 (生理化学), 生物化学 7 (生体防御学), 衛生薬学 2 (環境衛生学)			
医療系医療系講義科目	生理学 1 (解剖生理学), 医療薬学チュートリアル演習, 先端医療 SGD 演習 1	生理学 2 (分子生理学), 生理学 3 (病態生理学), 薬理学 1 (総論・末梢薬理), 薬剤学 1 (溶液製剤論), 先端医療 SGD 演習 2	薬理学 2 (循環器薬理), 薬理学 3 (中枢神経薬理), 薬剤学 2 (固形製剤論), 薬剤学 3 (薬物動態学), 生理学 4 (病態ゲノム学)	医療薬剤学 1, 医療薬剤学 2, 薬局方・薬事関連法規, 薬物治療学 1, 薬物治療学 2		
情報系講義科目		バイオサイエンス統計基礎, 地域医療薬学		基礎バイオインフォマティクス, 医薬品開発学		
専門実習			薬学専門実習 1, 薬学専門実習 2, 薬学専門実習 3, 薬学専門実習 4			
薬科学科				特別実習		
薬学				医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 医療実務事前学習, 特別実習	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 医療実務事前学習, 病院実務実習, 薬局実務実習, 特別実習	医療薬学ワークショップ, 医療薬学実験技術, 学術情報論, 臨床薬学総論, 特別実習

工学部

Faculty of Engineering



【写真】超短パルスレーザーを用いた分光実験の風景

● 工学部が望む学生像

- 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

● 工学部への誘い

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の永続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30（1897）年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3（1914）年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8（1919）年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部で発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成21年4月現在で工学研究科の地球系専攻、建築学専攻、電気系専攻、化学系専攻が移転を終え、今後も順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を実施し、学部教育は吉田キャンパスで実施しますが、学科によっては第4学年の授業と特別研究（卒業研究）を桂キャンパスで行うことがあります。

自由な発想と独創性に基づく 社会貢献

工学部の教育

▶ 「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

▶ 第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究科と理学研究科を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

▶ 高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

▶ 第4学年では特別研究（卒業研究）に取り組む

第4学年では、特別研究（卒業研究）を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取り組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を取得し、学士論文を完成すれば、学士（工学）の学位を取得することができます。

▶ カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

Message

在学生からのメッセージ

「自分で決める大学」

建築学科 4 回生

真鍋 義貴さん



大学には多くの自由な時間があります。その時間に勉強をするか、部活やサークルをするか、バイトをするかは本人の自由です。大学では多くの自由がある代わりに、自分のことは自分で決めていなくてはなりません。何もせずには時間は過ぎていくだけ、その代わり自分から求めていけば満足できる場は必ずあると思います。私は学校で建築を勉強しながら、体育会の部活に所属しています。しんどいこともありますが好きなのをやっているのが毎日充実しています。僕の周りにはバイトでお金を貯めて海外へ留学した人や、弁護士になるために必死で勉強している人などいろんな人がいます。京都大学は、まずこれをしようと思うこと、そしてそれに向かって進むことで自分の望む大学生活を送ることが許される、そんな大学だと思います。

「やっと見えてきた未来」

物理工学科 4 回生

浜田 知和さん



私が専攻している材料科学は全ての物創りの基礎となる学問であり、新しい物を創ろうとすると必ずそこには必要とされる材料があります。誰もまだ触れたことの無い物質に世界で初めて関わりうる、四回生で研究室に配属された私は、やがて始まるそんな研究生活に胸が高鳴っています。しかし大学を受験する段階では、まだ自分には何ができるのか、何をやりたいのかははっきりと見えていない人も多いと思います。実際のところ私もそうであり、物を創り出すのが楽しそう、そして化学よりは物理が好きだという曖昧な理由で工学部物理工学科を選びました。

入ってみると京大という場所は圧倒的に自由で、授業の選択の幅の広さや緩やかなカリキュラムによる自由な時間の多さに初めは戸惑いました。しかしそれは、自分が興味をもった全てに挑戦するチャンスが与えられているという事であり、様々な経験や個性的な友人との交流を通して、自分の価値観が大きく広がっていくのを感じることができました。そして最先端の研究に携わる先生や先輩方を身近に感じながら、新たな角度から自分を見直していく中で、進みたい方向がようやく少しずつ見えてきたのです。まだ自分の道が見えずに不安だという人も、思い切って京大に飛び込んできてみてください。ここには可能性を見つける最高の環境があります。

ひとりひとりの京大

情報学科 4 回生

川野 悠さん



コンピューターに対する興味と京都に住んでみたいという漠然とした理由で、私は京都大学情報学科に入学しました。京大は自由な校風で一般教養科目の種類も多く、自分の興味のある講義を受けることができます。また時間的にもゆとりがあるので、勉強だけでなくアルバイトやサークルにも打ち込むことができます。ノーベル賞を目指して勉強に明け暮れるのもよし。勉強・アルバイト・サークルの両立を目指すのもよし。京大ではあなただけの充実した学生生活を送ることができます。

私は今、研究室で Web 関連の研究を行っています。まだまだ未熟なので学ぶことも多く、先輩方からたくさんのお話を吸収しようとしている最中です。それぞれがひとつのテーマで研究をしており、目をみはるものばかりです。

皆さんも京大で「あなただけ」の学生生活を送りませんか。



【写真】実験施設

● 卒業後の進路

本学部卒業生の 5 分の 4 以上（平成 20 年度 85%）の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、大学の研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は増加しています。



● 工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線従事者、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験の全部または一部が免除されます。（また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。）

卒業生からのメッセージ

可能性を引き出せる場所

2004 年 地球工学科卒業

2006 年 工学研究科修士課程修了

関西電力株式会社 土木建築室

土木建築エンジニアリングセンター（土木）



中村 和男さん

私が京都大学を選んだ理由は、自由な学風に憧れての事でした。入学してからも、その期待が裏切られることはありませんでした。京都大学には様々な学生がいます。色々な授業に積極的に参加する人もいれば、部活やサークルに明け暮れる人もいます。しかし今思い返しますと、この自由な校風こそが、無限の可能性を存分に発揮させてくれたのではないかと思います。京都大学ではやりたいように大学生活のプランを立てることができましたし、それがどんなプランであれ、それをサポートしてくれる制度・施設が充実していました。私も大学生生活を通して、自分で考えたことを表現する力が身につきましたし、それは現在の会社生活の中でも活かされていると思います。皆さんも自由な京都大学の中で、無限の可能性を存分に引き出して下さい。

学んだことが社会で生きる

2004 年 工業化学科卒業

2006 年 工学研究科修士課程修了

田辺三菱製薬株式会社 創薬化学研究所



中牧 千尋さん

化学をもっと深く学びたいと思ったこと。そして京都が好きだったこと。こんな単純な理由から京都大学工学部工業化学科を選びました。

一言で『化学』といっても有機化学や物理化学など様々な分野にわかれており、製薬企業への就職を希望していた私は有機化学を専攻。社会人になった今でも研究室で学んだ知識や技術が役立っています。

大学時代に学んだことが就職先でそのまま生かせるということはあまり多くはないと思います。工業化学科では大学で学んだことを社会で生かせるように、高度な専門教育がおこなわれています。将来就きたいと思っている仕事がある人もそうでない人も、いろんな『化学』に触れる中でやりたいことがきっと見つかるはず。社会に出て即戦力になれるよう、京大で質の高い化学を学んでください。

学科紹介

地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力を養成することを目標として教育を行っています。

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も、建築設計及び施工に従事する建築家、建築構造技術者及び設備環境技術者、行政的な指導・監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組む新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、宇宙基礎工学、原子核工学、エネルギー応用工学の5つのコース・サブコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所及び工学研究科附属量子理工学実験センターなどの協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題 (たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など) において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。

情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、システムの機能とそこに流れる“情報”の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では“数理的思考”によって高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性などを対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各コースの研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子2010」をご覧ください。また、「工学部紹介冊子2010」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

全学共通科目 (学科指定科目)

学科	科目
地球工学科	自然現象と数学、微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、基礎物理化学A、基礎物理化学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、力学統論、物理学実験、基礎地球科学IA、基礎地球科学IB、基礎地球科学IIA、基礎地球科学IIB、基礎有機化学A、基礎有機化学B、基礎化学実験、図学A、図学B、微分積分学統論A、微分積分学統論B、線形代数学統論、振動・波動論、無機化学入門A、無機化学入門B、生物自然史基礎論A、生化学入門101、生化学入門102、地球科学序論、環境生物・化学、科学英語 (地球)
建築学科	自然現象と数学、線形代数学A、線形代数学B、微分積分学A、微分積分学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、振動・波動論、熱力学、力学統論、図学A、図学B、コンピュータグラフィックス実習A又はB、物理学実験、生活と数学A、生活と数学B、基礎地球科学IIA、基礎地球科学IIB、確率論基礎、数理統計、微分積分学統論A、微分積分学統論B
物理工学科	自然現象と数学、微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、物理学実験、基礎物理化学A、基礎物理化学B、図学A、基礎化学実験、微分積分学統論A、微分積分学統論B、電磁気学統論、確率論基礎、数理統計、無機化学入門A、無機化学入門B、生命科学概論A、生命科学概論B、振動・波動論、統計物理学、基礎有機化学A、基礎有機化学B、力学統論
電気電子工学科	微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、自然現象と数学、物理学基礎論A、力学統論、物理学実験、基礎有機化学A、基礎有機化学B、基礎化学実験、関数論 (関数論)、線形代数学統論、微分積分学統論A、微分積分学統論B、確率論基礎、数理統計、数理論理学A、数理論理学B、熱力学、統計物理学、量子物理学、解析力学、特殊相対論、基礎物理化学A、基礎物理化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、神経科学総論A、神経科学総論B
情報学科	自然現象と数学、微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、物理学実験、力学統論、微分積分学統論A、微分積分学統論B、線形代数学統論、熱力学、振動・波動論、確率論基礎、数理統計、数理論理学A、数理論理学B、情報と社会、科学英語 (数理)
工業化学科	基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、自然現象と数学、微分積分学A、微分積分学B、線形代数学A、線形代数学B、物理学実験、物理学基礎論A、物理学基礎論B、基礎化学実験、微分積分学統論A、微分積分学統論B、熱力学、振動・波動論、力学統論、解析力学、科学英語 (創成化学)、科学英語 (工業基礎化学)、科学英語 (化学工学)

専門科目

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
地球工学科	地球工学総論、基礎情報処理演習、基礎情報処理、情報処理及び演習	確率統計解析及び演習、地球工学基礎数理、一般力学、社会基盤デザイン、基礎環境工学Ⅰ、資源エネルギー論、工業数学B1、構造力学Ⅰ及び演習、水理学及び演習、土質力学Ⅰ及び演習、計画システム分析及び演習、環境衛生学、物理探査学	測量学及び実習、連続体の力学、工業数学B2、構造力学Ⅱ及び演習、材料学、波動・振動学、水文学基礎、水理水工学、海岸環境工学、土質力学Ⅱ及び演習、土質実験及び演習、社会システム計画論、基礎環境工学Ⅱ、大気・地球環境工学、水質学、環境装置工学、放射線衛生工学、環境工学実験1、地質工学及び演習、弾性体の力学解析、流体力学、物理化学、資源工学基礎実験、資源工学フィールド実習、先端資源エネルギー工学、学外実習、空間情報学、構造実験・解析演習、コンクリート工学、耐震・耐風・設計論、河川工学、水資源工学、水理実験、地盤環境工学、岩盤工学、都市・地域計画、公共経済学、交通マネジメント工学、交通政策論、都市景観デザイン、上水道工学、下水道工学、廃棄物工学、環境工学実験2、固体の力学物性と破壊、波動工学、数値計算法及び演習、熱流体工学、分離工学、工業計測、資源工学材料実験、材料と塑性	地球工学デザインA、地球工学デザインB、地球工学デザインC、土木法規、地球防災工学、材料実験、地殻海洋資源論、地殻開発工学、時系列解析、工学倫理、建築工学概論、特別研究
建築学科	基礎情報処理、基礎情報処理演習、建築工学概論、日本都市史、世界建築史、設計演習基礎、建築造形実習	建築計画学Ⅰ、住居計画学、建築設計論、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築構造力学Ⅰ、建築構造力学Ⅱ、建築生産Ⅰ、建築材料、建築・都市行政、景観デザイン論、建築情報処理演習、工業数学C	都市設計学、行動・建築デザイン論、日本建築史、建築設備システム、鉄筋コンクリート構造Ⅰ、鉄骨構造Ⅰ、建築構造力学Ⅲ、建築生産Ⅱ、建築論、都市・地域論、都市環境工学、建築光・音環境学、建築熱環境設計、建築構造解析、耐震構造、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鉄骨構造Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ、建築応用数学、建築情報システム学	建築計画学Ⅱ、建築基礎構造論、耐風構造、地球工学総論、設計演習Ⅴ、構造設計演習、構造・材料実験、建築安全設計、建築設備計画法、建築環境工学演習、工学倫理、専門英語、特別研究
物理工学科	物理学総論A、物理学総論B、基礎情報処理、基礎情報処理演習	計測学、計算機数学、材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、熱力学Ⅰ、熱力学Ⅱ、機械設計製作、工業数学F1、工業数学A1、材料基礎学Ⅰ、固体物理学、原子物理学、流体力学Ⅰ、物質科学基礎、材料統計物理学、材料科学基礎1、材料科学基礎2、化学熱力学基礎、原子核工学序論1、原子核工学序論2、機械製作実習、電気回路と微分方程式、エレクトロニクス入門	エレクトロニクス入門、応用電磁気学、工業数学F2、工業数学A2、工業数学F3、工業数学A3、数値解析、材料基礎学Ⅱ、量子物理学Ⅰ、量子物理学Ⅱ、連続体力学、流体熱工学、工業力学A、エネルギー変換工学、振動工学、制御工学Ⅰ、制御工学Ⅱ、システム工学、生産工学、薄膜材料学、精密加工学、設計工学、材料組織学、結晶物理学、材料物理化学、量子物性基礎論、構造物性学、熱及び物質移動、統計力学、エネルギー・材料熱化学Ⅰ、エネルギー・材料熱化学Ⅱ、固体物性論、プラズマ物理学、量子反応基礎論、中性子理工学、エネルギー化学Ⅰ、エネルギー化学Ⅱ、流体力学Ⅱ、統計熱力学、量子線計測学、気体力学、熱統計力学、空気力学、推進基礎論、航空宇宙機力学、固体力学、量子無機材料学、固体電子論、材料機能学、材料プロセス工学、高分子材料概論、物理学演習1、物理学演習2、機械システム学演習、機械システム工学実験1、機械システム工学実験2、機械システム工学実験3、機械設計演習1、機械設計演習2、材料科学実験および演習1、材料科学実験および演習2、エネルギー理工学設計演習・実験1、エネルギー理工学設計演習・実験2、航空宇宙工学実験1、航空宇宙工学実験2、インターナショナル、金属材料学、材料強度物性、材料量子化学、材料電気化学、材料分析化学、加速器工学、放射化学、流体熱工学、結晶解析学、原子炉物理学	量子物理学2、人工知能基礎、システム工学、マイクロ加工学、物理学英語、固体物理学、信頼性工学、品質管理、機械要素学、核物理基礎論、生物物理学、原子炉基礎演習・実験、数理解析、有限要素法の基礎と演習、航空宇宙工学演義、工学倫理、特別研究1、特別研究2
電気電子工学科	電気電子工学概論、電気回路基礎論、電気電子回路、基礎情報処理、基礎情報処理演習	電子回路、電気電子工学実験A、電気電子工学実験B、電気電子プログラミング及び演習、電気電子数学Ⅰ、電磁気学Ⅰ、論理回路、計算機工学、情報理論、物性・デバイス基礎論、半導体工学、電気電子計測	電気電子工学実習A、電気電子工学実習B、電気電子計算工学及び演習、グラフ理論、電気回路、電磁気学Ⅱ、電気機器基礎論、電気電子数学Ⅱ、デジタル回路、自動制御工学、デジタル制御、システム最適化、応用電気機器、パワーエレクトロニクス、電力工学Ⅰ、放電工学、通信基礎論、情報伝送工学、通信ネットワーク、電波工学、計算機ソフトウェア、組み込み計算機システム、デジタル信号処理、固体電子工学、電気電子工学のための量子論、プラズマ工学、真空電子工学Ⅰ、電気電子材料学、光工学Ⅰ、生体工学の基礎、メカトロニクス入門	マイクロ波工学、生体医療工学、アンテナ・伝搬工学、知能型システム論、光通信工学、電力工学Ⅱ、真空電子工学Ⅱ、光電子デバイス工学、光工学Ⅱ、電気伝導論、集積回路工学、電気電子英語、工学倫理、電気法規、電波法規、特別研究
情報学科	計算機科学概論、数理工学概論、アルゴリズムとデータ構造入門、線形計画、電気回路と微分方程式、基礎情報処理演習	エレクトロニクス入門、工業数学A1、数理工学実験、基礎数理演習、プログラミング演習、計算機科学実験及び演習1、計算機科学実験及び演習2、システム解析入門、論理システム、システムと微分方程式、解析力学、論理回路、言語・オートマトン、計算機アーキテクチャ1、プログラミング言語、コンパイラ、情報理論、コンピュータネットワーク、グラフ理論、数値解析	コンピュータネットワーク、数値解析、工業数学A2、工業数学A3、線形制御理論、確率と統計、確率離散事象論、応用代数学、人工知能、ヒューマンインタフェース、数値計算演習、数理工学セミナー、システム工学実験、計算機科学実験及び演習3、計算機科学実験及び演習4、物理統計学、連続体力学、量子物理学Ⅰ、量子物理学Ⅱ、現代制御論、最適化、非平衡系の数理、情報システム理論、計算機アーキテクチャ2、オペレーティングシステム、パターン認識と機械学習、データベース、集積システム入門、技術英語、情報システム、アルゴリズム論、画像処理論、ソフトウェア工学、マルチメディア、計算と論理、生命情報学、情報と通信の数理	電子回路、信号とシステム、数理解析、非線形系の力学、情報と職業、通信基礎論、工学倫理、ビジネス数理、特別研究
工業化学科	工業化学概論Ⅰ、工業化学概論Ⅱ、基礎情報処理、基礎情報処理演習	物理化学基礎及び演習、有機化学基礎及び演習、基礎無機化学、化学プロセス工学基礎 【創成化学コース】有機化学Ⅰ(創成化学)、物理化学Ⅰ(創成化学)、無機化学(創成化学)、分析化学(創成化学)、高分子化学基礎Ⅰ(創成化学)、化学数学(創成化学)、化学プロセス工学 【工業基礎化学コース】物理化学Ⅰ(工業基礎化学)、無機化学Ⅰ(工業基礎化学)、分析化学Ⅰ(工業基礎化学)、有機化学Ⅰ(工業基礎化学)、化学プロセス工学、化学数学Ⅰ(工業基礎化学)、最先端の化学入門(工業基礎化学) 【化学プロセス工学コース】物理化学Ⅰ(化学工学)、無機化学Ⅰ(化学工学)、基礎流体力学、化学工学数学Ⅰ(化学工学)、化学工学計算機演習、反応工学Ⅰ	【創成化学コース】創成化学実験(創成化学)、有機化学Ⅱ(創成化学)、生体関連物質化学(創成化学)、物理化学Ⅱ(創成化学)、高分子化学基礎Ⅱ(創成化学)、統計熱力学入門(創成化学)、機器分析化学(創成化学)、環境保全概論、有機化学Ⅲ(創成化学)、物理化学Ⅲ(創成化学)、錯体化学(創成化学)、最先端機器分析(創成化学)、高分子化学Ⅰ、化学生物学、材料有機合成化学、環境安全化学 【工業基礎化学コース】工業基礎化学実験(工業基礎化学)、物理化学Ⅱ(工業基礎化学)、有機化学Ⅱ(工業基礎化学)、無機化学Ⅱ(工業基礎化学)、分析化学Ⅱ(工業基礎化学)、グリーンケミストリー概論、生化学Ⅰ(工業基礎化学)、高分子化学概論(工業基礎化学)、化学数学Ⅱ、環境保全概論、有機化学Ⅲ(工業基礎化学)、物理化学Ⅲ(工業基礎化学)、無機化学Ⅲ(工業基礎化学)、生化学Ⅱ、生物化学工学、有機工業化学、高分子化学概論Ⅱ(工業基礎化学)、量子化学概論、環境安全化学、界面基礎化学 【化学プロセス工学コース】移動現象、流体系分離工学、プロセス制御工学、物理化学Ⅱ(化学工学)、化学工学数学Ⅱ、計算化学工学、化学工学実験(化学工学)、環境保全概論、反応工学Ⅱ、固相系分離工学、微粒子工学、プロセスシステム工学、化学工学シミュレーション、生物化学工学、環境安全化学、物理化学Ⅲ(化学工学)、有機工業化学	【創成化学コース】電気化学、有機分光学、高分子化学Ⅱ、化学のフロンティア(創成化学)、産業科学特論、有機金属化学、工学倫理、化学実験の安全指針、特別研究 【工業基礎化学コース】化学実験の安全指針、触媒化学、化学統計力学(工業基礎化学)、有機分光学、電気化学、有機金属化学、先端機器分析科学(工業基礎化学)、工学倫理、特別研究 【化学プロセス工学コース】化学実験の安全指針、プロセス設計、工学倫理、特別研究

京都大学の教育

教育を支える施設

さらなる飛躍を支援

学生生活サポート

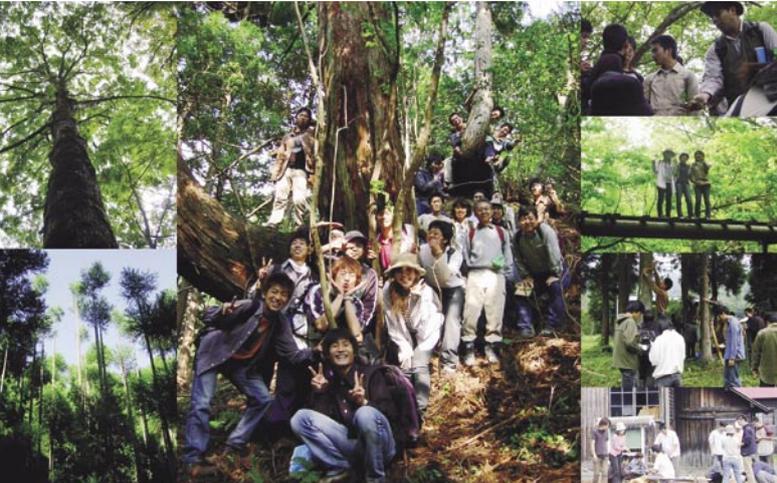
学部紹介

資料請求・お問い合わせ

京都大学について

農学部

Faculty of Agriculture



【写真】 芦生研究林等での実習風景

● 農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である生命・食料・環境に関わる様々な複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育に必要な学力を有する人材を求めています。

● 農学部への誘い

衣食住は人類の生活にとって必要不可欠な条件です。食物はもとより、私たちの身の回りの多くのものが農林水産業や畜産に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するために、農学はますます重要な使命を担っています。

農学と聞くと古くさくて何となく現代的でないイメージを持つかもしれませんが。しかし今や農学はバイオテクノロジーやロボット工学など最先端の技術を駆使しながら品種改良や、食品の機能の向上、農業生産の効率化をめざす学問です。より環境にやさしい農業をおこなうために、人工衛星からのリモートセンシングやIT技術も積極的に取り入れられています。また、自然条件のみならず、地域の経済的・社会的・文化的諸条件を総合的に見わたしながら、今後人類がどのようにして持続的に発展を続けていくべきかも、農学の重要な課題です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。

京都大学農学部は1923年、農林水産業の技術向上に貢献すべく、農作園芸学科（農学科）、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農林工学科、農林経済学科の6学科が設置されてスタートしました。それ以来、さまざまな社会の変化とその要請に対応しながら、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基盤とし、「生命・食料・環境」をキーワードとする幅広い教育と研究を行う体制を作り上げてきました。創設以来、1万7千名に及ぶ卒業生を社会に送り出し、食料の生産・加工技術や環境の保全・管理技術の発展に大きく貢献しています。

現在わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。一方、地球上では多くの人が飢えに苦しみ死に瀕しています。食料は人類が快適で平和に暮らしていく上で欠かすことのできないものです。しかし、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が深刻になりつつある中で、これからの人間の活動にはなおいっそうの自然との調和が求められます。食料の生産も例外ではありません。できるだけ環境に負担をかけない方法や技術を見つけていかなければならないのです。

この大きな課題に皆さんもぜひチャレンジしてください。

生命・食料・環境

農学部の教育

▶ 専門知識の習得と広い視野の育成

農学部は、農学とそれに関連する学識とともに高い倫理性を身につけた社会人を育てることを目的としています。さらにそのような人材に(1)人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想する能力(2)農林水産業及び食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与する能力(3)生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学を理解する能力を備えさせることをめざしています。

この目的を実現するため、農学部では、資源生物科学科（生物系）、応用生命科学科（化学系）、地域環境工学科（物理系）、食料・環境経済学科（社会科学系）の基礎系4学科と森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、本学の最大の特徴である自由の学風を尊重し、学生の自主的判断を活かしつつ、ものごとを広い視野から総合的に判断することができる人材の育成をめざしています。

人間社会は、地球上の動植物や微生物と共存しながらそれらを利用しています。生物を資源として利用しようとする場合、生物が生命を維持している仕組みや、生物が食物連鎖や物質循環をとおしてどのような生態系を形成しているのかについての深い理解が欠かせません。また人間の活動をより自然と調和のとれたものに改善していくためには、工学的な技術や社会科学の手法を用いた分析も必要になります。それぞれの学科で求められる専門知識の基礎をしっかりと身につけながら、関連する分野にも積極的に興味をもって視野を広げていくことが求められます。

▶ どのように学ぶか

農学部では入学時に学ぶ学科が決まり、それぞれの学科で4年間の一貫教育がおこなわれます。農学では生物学、化学、物理学などの自然科学に加えて、社会科学の手法も用いられます。学科にとらわれない幅広い学識を養うことを目的にまず1~2年生では主に、自然科学、人文・社会科学、語学などの基礎教養科目を履修します。これと並行して専門基礎科目も開講され、3年生からの本格的な専門教育に備えます。農学部の専門科目では講義に加え、実験、実習、ゼミナールが重視され、各学科において必要とされる実験技術・手法に関する密度の高い教育が実施されます。さらに4年生では研究分野（研究室）に分かれて課題研究（卒業研究）に取り組みます。教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。所定の単位を修得した学生は、学士（農学）の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

農学部の教育の大部分は京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部総合館で行われます。一部は、総合館北の農学・生命科学研究棟、宇治キャンパス（京都府宇治市）、農学部附属の農場（大阪府高槻市）・牧場（京都府京丹波町）でも行われます。

▶ 生産現場に根ざした教育・研究

実際の生産・農産物流通の現場に出かけ、そこにある問題点を分析し、解決策を導く手法を学ぶというフィールド実習もおこなわれます。附属の農場と牧場もあり、教育・研究の場として利用されています。附属農場では、農業の現状と未来に即した農学研究、特に先端的研究を農場の現場に応用するための理論構築、作物の品種改良などを目的として圃場をベース

● 卒業後の進路

卒業生の8割程度が大学院に進学しています。

就職先については、公務員、公的研究機関の研究者、化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・コンピュータ関係など、幅広い分野で活躍しています。

にした研究が行われています。附属牧場は、総面積約15haを有し、肉用牛を用いて、産肉生理学的な面からの研究を行うとともに、得られた成果にもとづいて効率的な牛肉生産方式を開発しようとしています。



【写真】森林科学科のゼミ風景

Message

在学生からのメッセージ

自分に素直に

資源生物学科 4 回生

森 奈々子さん



京都が好き、食べ物が好き、やっぱり上を目指したい！という三拍子で京大農学部へ飛び込んで瞬間に3年が経ちました。とにかく京大に行きたい、という単純な理由でも十分なほど充実している環境、友人、先生に囲まれて気づけば自分のやりたいことを見つけていました。私がやっと辿り着いたのはイネの遺伝子に関する研究です。毎日実験とそれに関する知識の習得に忙しい日々を送っていますが、時間をかけ自分自身で出した答えに満足しています。この学び舎では妥協は必要ないのです。この先どんなことが待っているのかなんて今は知ることができません。しかし、きっと私がここで学んだように、たくさんの雑然とした選択肢を発見して、迷って悩んで試してみても自分に合った答えを模索していくのだろう、そんな予感がしています。

素敵な出会い

食品生物科学科 4 回生

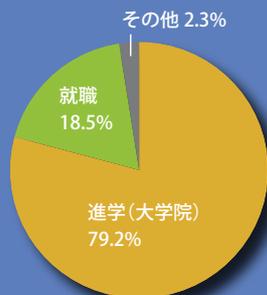
安淵 碧さん



人の体に大きく影響を与えるものたちの中でも、最も身近な存在である食べ物について学びたくて食品生物科学科を選びました。食品生物科学科では、生化学をはじめ有機化学、物理化学、酵素科学、微生物学などのさまざまな学問の基礎を学び、その知識を携えて4回生で研究室に配属されます。私は脂肪・生活習慣病に関して学んでいる研究室に所属し、一人前の研究者を目指してがんばっている最中です。

京都大学の環境のとてもいいところは、尊敬できる先生方や先輩方、そして一緒にがんばっている同級生の存在だと思います。絶えずいい刺激をくれて、日々自分を成長させてくれているのを感じます。自分の可能性を広げてくれたこの出会いに本当に感謝しています。

皆さんもこの大学で素敵な出会いがあることを祈っています。



2008 年度実績

就職先の例

奈良県／全国農業協同組合連合会／旭硝子(株)／日本水産(株)／第一公害プラント(株)／伊藤忠商事(株)／(株)日本政策投資銀行／日本生命保険(相)／TDC ソフトエンジニアリング(株)／(株)電通／(株)リクルート／西日本電信電話(株)／日本新薬(株)／(株)東芝／(株)クボタ／阪急電鉄(株)

● 農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、二級建築士試験及び木造建築士資格試験受験資格、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程を設けているほか、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ

自由な発想でフィールド研究を

1992 年農学部農業工学科卒業
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構
農村工学研究所
施設資源部 水利施設機能研究室勤務

森 充広さん



京都大学では、地域環境工学分野の研究を学びました。特に感銘を受けたのは、一流の先生方の飽くなき探求心とその研究方法でした。とにかく現地調査を頻繁に行って、フィールドのデータを詳しく集めた上で、現象を正確に把握してそのメカニズムを推測、それをもとにモデル化し、室内実験や数値解析を駆使して検証していく。時間を要する地道な方法ですが、フィールドを対象とした研究の重要性や奥深さを実感しました。現在、農業生産の場に水を運ぶ水利施設の状態を診断する技術や、その機能を維持するための補修技術の開発を行っています。農業が始まって以来、これまで脈々と受け継がれてきた国民共有の資産であるこれらの施設を次世代に継承していくため、京都大学で学んだ「研究力」を基礎とし、自由な発想を持ってフィールド研究に取り組んでいきたいと思っています。

夢を育んだキャンパスライフ

2009 年農学部食料・環境経済学科卒業
伊藤忠商事(株)勤務

森川 直紀さん



私は自由闊達な校風に憧れ、京都大学を志望しました。もともと何にでも関心を抱けるタイプでしたので、興味さえあれば様々な分野の学問、スポーツ、遊びに没頭できる京都大学の校風は非常に居心地が良かったです。ただ居心地が良いだけでなく、京都大学には必ず第一線で活躍しておられる先生方、院生の方々が居られ、勉強面において日々刺激を受けることができました。その刺激が「食を通して世の中を豊かにする」という現在の夢に繋がりました。

現在はその夢を持って総合商社でコーヒーの輸入を担当しております。思考にも実務作業にもスピードが求められる状況に日々戸惑っています。しかし、大学で学んだ事を大いに活かせるフィールドなので、京都大学で得た貴重な知識や人脈をビジネスという形で世の中の豊かに繋げていきたいと思っています。

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、有用物質・遺伝子の有効利用やこれまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象に基礎から応用に至るまでの研究を多面的に行っています。

作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学（全能性制御機構学）、植物分子生物学（遺伝子特性学）

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、アセットマネジメント（農業水利施設の効率的な維持管理と更新）による生産環境の充実、生態系と調和した大気・水・土壌環境の実現、農村計画と住民主体による地域づくり、精密農業による資源循環型社会の構築、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、農畜水産物と食品生産に関わる計測と制御など、様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的評価などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林利用学、森林環境計画学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細学、複合材料化学、生物材料化学、森林生態学、森林水文学、森林生化学、森林育成学、森林情報学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食糧不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

全学共通科目（学科推薦科目）

学科	科目
資源生物科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、バイオテクノロジー－農学の戦略－、生物圏の科学－生命・食糧・環境－、基礎化学実験、環境科学基礎ゼミナール
応用生命科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、バイオテクノロジー－農学の戦略－、基礎化学実験、基礎生物学 A
地域環境工学科	微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、数理統計、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、確率論基礎、数理統計、基礎情報処理、基礎情報処理演習、環境学、生命科学概論 A、生命科学概論 B、バイオテクノロジー－農学の戦略－、生物圏の科学－生命・食糧・環境－、人間と数学 A、人間と数学 B、環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、基礎情報処理、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、物理学実験、基礎生物学 A、基礎生物学 B、基礎化学実験、地球科学序論、生存圏の科学－環境計測・地球再生
食品生物科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、基礎情報処理、基礎情報処理演習、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、基礎化学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B

RESEARCH ACTIVITIES

教員の研究テーマ紹介

ここでは、京都大学教員の研究テーマを学部ごとに紹介します。
進路の選択や、興味ある研究テーマを探すための参考にしてください。

総合人間学部

赤松 紀彦 教授

(高等教育研究開発推進センター兼務)
中国古典演劇

浅野 耕太 教授

環境経済学, 応用計量経済学

阿辻 哲次 教授

漢字の歴史

石川 尚人 教授

古地磁気学・岩石磁気学の情報による地球表層部での地学現象 (超大陸の形成史, 古環境変遷など) の解明

石田 明文 教授

ドイツ近代の知の構造

石原 昭彦 教授

神経・筋の可塑性に関する分子生物学的研究

稲垣 直樹 教授

◎ヴィクトル・ユゴー研究
◎近現代フランス小説とその日本での受容
◎科学技術と擬似科学の文化表象

伊従 勉 教授

近現代建築都市論研究, 歴史民俗世界の祭儀空間研究

宇敷 重広 教授

力学系の分岐理論, カオス・フラクタル, 複素力学系

内田 賢徳 教授

古代日本語文法の研究・和歌のこぼれの研究

内本 喜晴 教授

電気化学エネルギー変換, 次世代電池, 燃料電池

江田 憲治 教授

1920-30年代の中国政治史・思想史

大川 勇 教授

ドイツ・オーストリア文学, 中欧精神史, 教養論

大木 充 教授

外国語教授法, 動機づけ, 自律学習, CALL

大澤 真幸 教授

◎社会システムの構造に関する身体論的研究
◎メディア・コミュニケーションの構造に関する研究

岡 真理 教授

◎現代アラブ文学
◎第三世界のフェミニズム思想
◎パレスチナ問題

岡田 温司 教授

イタリアを中心とした中世・近世美術史, 芸術理論

岡田 敬司 教授

教育において自律, かかわり, 共同体を問う

小方 登 教授

(地球環境学堂)
コンピュータを利用した地理情報処理, 宇宙からの映像による遺跡探査と歴史景観復原

奥田 敏広 教授

20世紀ドイツの長編小説・トーマス・マンを中心に

小田 伸午 教授

(高等教育研究開発推進センター)
スポーツ科学, 身体運動の制御機構

尾野 照治 教授

ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ中世の思想・文芸作品および法書・史書に映し出された当時の人々の理想像ならびに生活像

加藤 真 教授

(地球環境学堂兼務)
植物や動物の生態と進化, 生物の多様性と生態系の保全

加藤 幹郎 教授

映画学ならびに表象文化論 (アイルランド亡命文学研究等)

金坂 清則 教授

◎都市の地帯的存在様式と地域整備に関する歴史地理学的研究
◎イザベラ・バードを主とする19世紀英国の女性旅行家とその活動に関する研究

鎌田 浩毅 教授

火山学, 地質学, 地球科学, 科学教育法, コミュニケーション論

河崎 靖 教授

言語学・文献学

川島 昭夫 教授

近代イギリスの文化史, 社会生活史および科学の制度史

小林 茂夫 教授

(情報学研究所)
感覚を生むしくみ, 脳素子の探索

小山 静子 教授

近代日本における教育とジェンダーに関する歴史的研究

齋木 潤 教授

視覚認識の認知神経科学的研究

齋藤 治之 教授

ドイツ語の歴史および印欧語比較言語学

佐伯 啓思 教授

現代社会の諸現象を思想的背景にもとづいて分析する。

酒井 敏 教授

大気・海洋の流体としての力学

阪上 雅昭 教授

実験室でブラックホールを造る

篠原 資明 教授

間哲学と交通論という立場にもとづく芸術の研究

新宮 一成 教授

精神分析および精神医学の思想と臨床実践の研究

菅原 和孝 教授

狩猟採集民の社会と生態, 対面相互行為の構造, 日常会話の人類学的分析

杉万 俊夫 教授

グループ・ダイナミクス, 社会心理学

杉山 雅人 教授

(地球環境学堂兼務)
水圏における化学物質の分布・循環機構・動態に関する研究。環境化学物質の高感度検出法に関する研究

鈴木 雅之 教授

初期近代からロマン主義時代を経てヴィクトリア朝にいたるイギリス文学, 視覚芸術・視覚表象文化

多賀 茂 教授

18世紀フランスの知の構造及びフランス現代思想

高崎 金久 教授

代数解析, 数理論理, 可積分系

高橋 由典 教授

感情を基点とする社会学理論の研究

竹安 邦夫 教授

(生命科学研究所)
細胞のナノバイオロジー, バイオインフォマティクス

田地野 彰 教授

(高等教育研究開発推進センター)
教育言語学, 教育文法, 外国語の教授と学習, 第二言語習得論

田部 勢津久 教授

光機能性ガラスの設計・無機材料科学, 光ファイバ通信デバイス, フォトニクス材料

田邊 玲子 教授

近代西欧, 特にドイツの文学現象における人間, ジェンダー, セクシュアリティ観

田村 類 教授

◎分子のキラリティーが誘起する物質の新しい現象や性質に関する研究
◎キラル機能性有機化合物の設計・合成と物性に関する研究

増辻 正剛 教授

(学術情報メディアセンター)
音声学, 応用言語学

津田 謹輔 教授

糖尿病・栄養学

東郷 雄二 教授

フランス語を中心とする談話機能文法と意味論

富田 恭彦 教授

◎粒子仮説を基盤とした17世紀観念論の理論空間とその変貌
◎現代言語哲学・科学哲学

中西 輝政 教授

冷戦後の新しい国際政治秩序の形成と東アジアの地域秩序の相関

西井 正弘 教授

国境を越える人の移動 (難民・移民・逃亡犯罪人など) に関する国際法的規制と国際人権法, 国際環境法の研究

西垣 安比古 教授

東アジアの住まいに関する建築論的研究 / 住居観の史的研究

西村 稔 教授

18～19世紀ドイツ法文化史および近代日本道徳思想史

西山 良平 教授

日本古代中世の都市・王権・文化

服部 文昭 教授

スラヴ諸語の研究

廣野 由美子 教授

19世紀イギリス小説, 小説技法, 物語論

福岡 和子 教授

19世紀アメリカ小説・批評理論

藤田 耕司 教授

生成文法, 生物言語学による言語能力の起源・進化研究

船橋 新太郎 教授

(こころの未来研究センター)
前頭連合野の機能に関する神経科学的研究

カール・ベッカー 教授

(こころの未来研究センター)
生命倫理・医療倫理の教育と東西比較

堀 智孝 教授

水圏環境の化学, 金属酸化物複合体の構造化学, 物質の地球循環を解明するための分析化学

前川 覚 教授

物性物理学。極低温における磁性体の量子力学的現象やスピン現象の核磁気共鳴法による研究

前川 玲子 教授

20世紀のアメリカ思想・文化史研究

松井 正文 教授

両生爬虫類の系統分類学的研究

松浦 茂 教授

17・18世紀のアムール川流域史, 18世紀東アジア地理学史, 清初史

松下 和夫 教授

(地球環境学堂)
公共政策としての環境政策論の研究, 特に地球環境に関する法的・制度的な枠組みの検討と政府・企業・NGOなどの多様な主体の役割の分析

松田 清 教授

日本洋学史, 日欧文化交渉史

松村 道一 教授

運動制御の神経機構

間宮 陽介 教授

公共的空間 (コモンズ, 都市空間, 政治空間) に関する研究

丸橋 良雄 教授

英国喜劇と比較演劇

水野 尚之 教授

◎アメリカ19・20世紀の小説
◎アメリカの都市の成立と文化

三谷 恵子 教授

中・東欧の言語と文化, 言語接触と言語変化, 言語と社会

道籟 泰三 教授

W.ベンヤミン等19, 20世紀のドイツ文学・思想の研究

三原 弟平 教授

カフカ, ベンヤミンなど20世紀ドイツ文学・思想

三室 守 教授

光合成の光化学, 光物理学的過程の解析。光合成生物の進化。

宮本 嘉久 教授

ソフトマターの構造形成, 緩和現象, 破壊

元木 泰雄 教授

日本中世成り立期の政治史, 院政・武士・内乱について

平田 昌司 教授
中国における言語の史的変化と社会変動・情報技術の変遷過程について

木津 祐子 准教授
中国近世口語史の研究、対話型テキストの文献論的研究

池田 秀三 教授
漢魏六朝の学術と思想

宇佐美 文理 准教授
中国宋代思想史、特に存在論と藝術論についての研究

赤松 明彦 教授
インドにおける言語哲学の展開についての思想的考察

横地 優子 准教授
インド古代から中世にかけてのヒンドゥー教の神話・信仰の変遷。特に大女神信仰の形成過程

アーチャールヤ ディヴァカル 外国人教師
写本に基づくインド哲学研究

御牧 克己 教授
インド・チベット仏教思想研究

宮崎 泉 准教授
後期インド仏教とそのチベットへの伝播について

中務 哲郎 教授
ヘロドトス、ギリシア喜劇、古代の説話

高橋 宏幸 教授
ローマ文学におけるペルソナの研究

佐藤 昭裕 教授
スラブ言語学、アスペクト論、テキスト文法

西村 雅樹 教授
19世紀末から20世紀前半にかけてのオーストリアの文学ならびに文化の研究

松村 朋彦 准教授
18・19世紀ドイツ文学・文化史

宮内 弘 教授
英詩（特にルネサンス期と20世紀）及び文体論研究

若島 正 教授
Vladimir Nabokovを中心としたアメリカ小説の研究

佐々木 徹 教授
ディケンズを中心としたイギリス小説研究

廣田 篤彦 准教授
ルネサンス期のイギリス演劇（特にシェイクスピア）

家入 葉子 准教授
英語学・歴史社会言語学・現代英米語法研究・コーパス言語学

森 慎一郎 准教授
アメリカ小説研究（F・スコット・フィッツジェラルドなど）

吉川 一義 教授
近現代フランス文学。プルースト小説の生成および絵画との関連。

田口 紀子 教授
フランス語学・ナラトロジー。文学テキストの言語学的解析により、形式面から作品の意味を明らかにする。

増田 真 准教授
ルソーを中心とする18世紀フランスの思想と文学

永盛 克也 准教授
フランス17世紀演劇の劇作法と文学理論の関係

大倉 得史 講師
人間の自己性・主体性の形成過程についての研究

細川 浩 講師
(情報学研究科)
神経生物学、細胞生物学

見平 典 講師
憲法秩序形成の在り方に関する規範的分析と経験的分析

李 長波 講師
日本語と中国語の歴史的研究、東アジア言語思想史の研究

文学部

伊藤 邦武 教授
言語分析による認識論

出口 康夫 准教授
中国中世（六朝隋唐時代）の政治制度、中国法制史、敦煌・トルファン出土文書研究

中畑 正志 教授
西洋古代哲学の研究、現代英語圏哲学を視野に入れた「心の哲学」の研究

川添 信介 教授
◎西洋13・14世紀のアヴェロエス主義の問題
◎スコラ哲学における身心問題

福谷 茂 准教授
カントを中心とする近世哲学史

藤田 正勝 教授
西田哲学をはじめとする日本近代哲学の研究

水谷 雅彦 教授
◎現代倫理学の理論的研究
◎コミュニケーション及び情報の倫理的な研究

氣多 雅子 教授
近代のニヒリズムの本質と思想的系譜について

杉村 靖彦 准教授
現代フランス思想を手掛かりに、哲学と宗教がそれぞれ深刻な危機にさらされているこの時代になお可能な宗教哲学を追求する。

芦名 定道 教授
近代キリスト教世界の形成と現代キリスト教思想の諸問題について

中村 俊春 教授
17世紀フランドル絵画史

根立 研介 教授
日本仏教美術史、特に仏師論、美術の対外受容、肖像彫刻論など。

吉岡 洋 教授
現代のメディア、テクノロジー環境を見据えた美学・芸術理論

平川 佳世 准教授
ドイツを中心とする北方ルネサンス美術、および北方美術とイタリア美術の交流について

木田 章義 教授
日本語の歴史

大谷 雅夫 教授
国文学中国文学の比較研究

大槻 信 准教授
古代日本語の研究

金光 桂子 准教授
中古・中世の物語文学

川合 康三 教授
六朝・唐宋の文学

須田 千里 准教授
日本近代文学の研究

瀬戸口 浩彰 准教授
植物系統進化学・植物地理学

大黒 弘慈 准教授
貨幣・信用を中心とする経済理論および経済思想史

高谷 修 准教授
18世紀英文学及び比較文学

立木 秀樹 准教授
プログラミング言語理論、実数計算、連続性と計算可能性、及びフラクタル立体図形の研究

津江 広人 准教授
構造有機化学、合成有機化学を基盤とした、窒素架橋かご形分子の合成と物性に関する研究

辻 正博 准教授
中国中世（六朝隋唐時代）の政治制度、中国法制史、敦煌・トルファン出土文書研究

戸田 剛文 准教授
認識論・近代イギリス経験論・知覚

中嶋 節子 准教授
近代都市史、都市景観史、建築史。自然景観や建築から都市の歴史を読む

永田 素彦 准教授
◎環境変化をめぐる対話システムの構築
◎科学技術（バイオテクノロジー）の社会的受容

中森 誉之 准教授
言語学理論、認知科学理論を基盤とした効果的効率的な外国語指導理論の構築

西山 教行 准教授
外国語教育ならびに言語政策、フランコフォニー、植民地主義などの研究

林 達也 准教授
運動による糖・脂質・エネルギー代謝活性化とそのメカニズム解明

ブライアン・マサル・ハヤシ 准教授
アメリカ20世紀の移民史

日置 尋久 准教授
データハイディング（ステガノグラフィ）

マーク・ピーターソン 准教授
コンピューターを利用した英語教育

藤田 健一 准教授
(地球環境学堂兼務)
新しい有機遷移金属錯体の創製と環境調和型分子変換触媒としての応用

藤原 直樹 准教授
高圧を含む多重（極限）環境下における強相関電子系（超伝導、金属絶縁体転移、低次元量子効果）の研究

松田 英男 准教授
イギリスおよびアメリカ映画論

水野 眞理 准教授
◎英国ルネサンス期の物語文学
◎イングランド人による自己と他者・異文化の表象

道坂 昭廣 准教授
中国古典文学、特に南北朝から唐の散文。江戸から明治時代の漢文学

宮下 英明 准教授
微生物の多様性と多機能性に関する研究。藻類学、系統進化学、微生物生態学、生物工学

吉村 成弘 准教授
(生命科学研究科)
1分子イメージング・計測・操作技術を用いて、細胞核内の分子構造や分子反応機構を解明する。

森谷 敏夫 教授
生体信号処理・応用生理学

森本 芳則 教授
偏微分方程式に対する超局所解析

山口 良平 教授
有機金属分子・錯体の構造と触媒機能の探求、ならびにその触媒機能を活用した環境調和型分子変換に関する研究

山田 孝子 教授
東アジア諸民族における宗教と生態に関する人類学的比較研究

山梨 正明 教授
言語学（意味論・語用論）・記号論

山本 行男 教授
(高等教育研究開発推進センター兼務)
酵素や生体関連物質の機能解明研究

吉田 純 教授
(高等教育研究開発推進センター)
ドイツの社会思想・社会理論、情報ネットワーク社会の理論的・経験的研究

依田 義丸 教授
創造行為としての演劇（特にシェイクスピアを中心とした英米演劇）

エンゲルベルト ヨリッセン 教授
日欧交渉史、西南ヨーロッパのルネサンス・バロック時代、ヨーロッパの領土拡張政策に関連した問題、比較文化・比較文学、インド英文学

安部 浩 准教授
M.ハイデガーを中心とする存在論・実存哲学。H.ヨナスを中心とする環境思想。

市岡 孝朗 准教授
(地球環境学堂兼務)
生態学、昆虫学、熱帯雨林における群集生態学

上木 直昌 准教授
確率解析学

小倉 紀蔵 准教授
東アジア思想に基づき、特に韓国・朝鮮を主なフィールドとする文化およびメディア概念の研究

小畑 史子 准教授
(地球環境学堂)
労働災害の予防と補償を中心とする労働法、環境法、民法などの研究

勝又 直也 准教授
◎中世ヘブライ文学
◎ユダヤ学
◎地中海・中東における3つの一神教文明の交流史

桂山 康司 准教授
(高等教育研究開発推進センター兼務)
英国宗教詩人の研究 - ミルトン、ホプキンスを中心に -

木坂 正史 准教授
力学系理論、特に複素力学系

木下 俊哉 准教授
レーザー冷却、トラッピング、冷却原子を用いた物性物理学

神崎 素樹 准教授
◎協働筋の機能的意義の解明
◎立位姿勢制御則の解明

小木曾 哲 准教授
火成岩石学、実験岩石学、地球化学

櫻川 貴司 准教授
計算機科学

佐藤 義之 准教授
メルロ＝ポンティ、レヴィナスを手がかりとした、現象学ならびに倫理学の研究

島崎 健 准教授
平安朝文学の研究

アヴォカ エリック 外国人教師
18-19世紀のフランス文学と政治、フランス革命の演説家たち、悲劇と悲劇的なるもの、演劇性、歴史記述、創作中の政治

齊藤 泰弘 教授
レオナルド・ダ・ヴィンチの思想研究

天野 恵 准教授
ルネサンス期のイタリア文学、特に騎士物語詩

ヴァーガータ シャローム 外国人教師
ダンテおよびイタリア近現代文学と60年代のイタリア映画

藤井 謙治 教授
日本近世政治史研究

勝山 清次 教授
これまで収取制度を中心に、日本の中世社会の特質を解明しようとしてきた。最近では権門勢家の形成に関心を持っている。

吉川 真司 教授
日本古代史

谷川 穰 准教授
近代日本の教育 / 宗教 / 社会史研究

夫馬 進 教授
中国明清社会研究

杉山 正明 教授
モンゴル時代史

吉本 道雅 教授
中国古史 (西周~前漢)・中国古史中世民族史 (10世紀以前)

中砂 明德 准教授
17世紀の世界史とイエス会

高嶋 航 准教授
中国近代の社会と文化の諸相

濱田 正美 教授
中央ユーラシア史上のイスラーム教と政治の相互関係

久保 一之 准教授
前近代中央アジア・イラン史

服部 良久 教授
ドイツを中心とするヨーロッパ中世の政治・社会・文化の研究

南川 高志 教授
ローマ帝国政治史・社会史の研究、古代末期の研究

小山 哲 教授
ポーランド近世史、とくに貴族の政治文化の研究

金澤 周作 准教授
近代イギリスにおける国制、チャリティ、海軍の研究

上原 真人 教授
日本における瓦生産体制の変遷について

泉 拓良 教授
西日本縄文文化・社会の研究及び、中東フェニキアの考古学的研究

吉井 秀夫 准教授
考古資料を通して朝鮮三国時代の地域性や地域間関係を復元し、その意味を考察する。

宇阪 直行 教授
感覚・知覚・意識情報処理

藤田 和生 教授
動物の知覚・認知機能に関する実験的な分析と「知性」や「心」の進化の探究

櫻井 芳雄 教授
心の実体である脳内の情報表現を神経細胞の活動から解明する認知神経科学的研究

板倉 昭二 准教授
ヒト乳児およびチンパンジー乳児における社会的認知に関する実験的研究

蘆田 宏 准教授
視覚を中心とする感覚・知覚とその脳内機構に関する心理物理学・認知神経科学的研究

田窪 行則 教授
理論言語学 (生成文法、語用論、談話理論)、調査言語学 (琉球語宮古方言)、日本語、英語、朝鮮語の統語論・語用論

吉田 和彦 教授
インド・ヨーロッパ諸語比較言語学

吉田 豊 教授
中央アジア出土中世イラン語文献の言語学的・文献学的研究

松田 素二 教授
アフリカ都市社会の研究

落合 恵美子 教授
家族と親密性の比較社会学

伊藤 公雄 教授
ポピュラー・カルチャーを対象とした文化社会学的研究

田中 紀行 准教授
ヴェーバー社会学の再構成と継承に関する研究

太郎丸 博 准教授
社会階層論、数理社会学、社会学の方法論

森本 一彦 特定准教授
民族・歴史社会学による家族・親族論、地縁社会論、民俗宗教論

安里 和晃 特定准教授
移民政策論、特にアジアにおける看護・介護・家事労働をめぐる人の国際移動

石川 義孝 教授
人の空間的流動をはじめとする人口地理学研究、およびエスニック地理学研究

杉浦 和子 教授
都市の空間構造の形成や変化の過程に関するモデル化について

米家 泰作 准教授
近世・近代日本における地理的知と環境の歴史地理学的検討

伊藤 和行 教授
力学を中心とした西欧近代初期科学史、ルネサンスの科学思想史

伊勢田 哲治 准教授
科学者共同体の哲学、科学的実在論、バイズ主義、功利主義、科学技術倫理

林 晋 教授
情報化社会と情報技術の人文・社会学的分析

杉本 淑彦 教授
フランス植民地帝国の社会史をテーマとし、文学・絵画・映画などを素材にして、フランス民衆のアラブ観・イスラーム観を研究している。

紀平 英作 教授
20世紀アメリカ合衆国政治史と合衆国を中心とした国際政治史の研究

永井 和 教授
戦前日本における政軍関係の研究

小野澤 透 准教授
アメリカ外交史および冷戦史の研究

教育学部

辻本 雅史 教授
教育史学：日本教育史・近世思想史

鈴木 晶子 教授
教育学：教育哲学・思想史

駒込 武 准教授
教育史学・植民地教育史

山田 洋子 教授
発達教育論：生涯発達心理学・ことばとイメージ・フィールド心理学

田中 耕治 教授
教育方法学：学力論、授業論、評価論

西岡 加名恵 准教授
教育方法学：カリキュラム論、教育評価論

明和 政子 准教授
発達教育論：比較認知発達科学、乳幼児期の心の発達・模倣

子安 増生 教授
発達心理学：視点理解、心の理論、創発的思考

楠見 孝 教授
認知心理学：比喩・類推、知識、熟達化、意思決定

齊藤 智 准教授
認知心理学：記憶・作動記憶、言語産出、言語理解

岩井 八郎 教授
教育社会学：ライフコース・教育と社会移動

稲垣 恭子 教授
教育社会学：学校社会学・青年文化史

川崎 良孝 教授
図書館情報学

前平 泰志 教授
生涯教育学

渡邊 洋子 准教授
生涯教育学：生涯学習・成人教育の国際比較研究、社会教育史

佐藤 卓己 准教授
広報学：メディア社会学、マス・コミュニケーション研究、情報史

高見 茂 教授
教育政策学：教育資源分配と公共政策

杉本 均 教授
比較教育学：教育と国際関係 (東南アジア)

金子 勉 准教授
教育行政学：高等教育に関する立法過程、大学の自治

南部 広孝 准教授
比較教育学：高等教育改革の国際比較研究

矢野 智司 教授
教育人間学：生成と発達の教育人間学、贈与と交換の教育人間学

西平 直 教授
臨床教育学：人間形成と東洋哲学

齋藤 直子 准教授
教育人間学：アメリカの教育哲学

桑原 知子 教授
心理臨床学・人格心理学：心理臨床及び人格のダイナミズムに関する研究

田中 康裕 准教授
心理臨床学：ユング心理学に基づく心理療法における治療とその限界

大山 泰宏 准教授
心理臨床学：心理療法論、臨床心理学の言説研究

皆藤 章 教授
臨床実践指導学：心理臨床学・心理臨床と教育の接点

高橋 靖恵 准教授
臨床実践指導学：心理臨床学・心理アセスメント・心理療法における家族コミュニケーション

角野 善宏 教授
「臨床教育実践研究センター」
臨床心理実践学：心理療法・精神医学

松木 邦裕 教授
「臨床教育実践研究センター」
臨床心理実践学：精神分析・心理療法

法学部

法学部の研究テーマ紹介については、法学部の学部紹介 (52, 53 ページ) に掲載されています。

経済学部

経済学科

依田 高典 教授
「ネットワーク・エコノミクス」情報通信・電力・ガスのようなネットワーク産業の理論・実証研究、特にBBサービスの需要分析、規制機関分割の契約理論的分析、産業融合における経済政策分析など

今久保 幸生 教授
ドイツ経済政策史、現代日本の経済政策、東アジア経済統合

岩本 武和 教授
国際貿易・国際金融に関する理論的、歴史的研究

植田 和弘 教授
財政と公共政策に関する基礎理論、持続可能な社会の経済と財政、環境制御の財政理論、循環型社会の理論と政策

宇仁 宏幸 教授
経済制度の補完性とマクロ経済の安定性に関する理論的、実証的研究

大西 広 教授
「レニン型」の国際資本リンクモデルの構築から、「マルクス=新古典派型」の2部間成長モデルの開発へとテーマを移動中である。後者は「技術に依存した経済システムの転換」過程のモデル化でもあり、その観点から中国経済の転換過程分析も実証の分野で行っている。

岡田 知弘 教授
日本における地域開発、産業構造の再編と地域経済の変動、経済のグローバル化と地域、都市形成史、農村経済論、アグリビジネス論

小島 専孝 教授
ケンブリッジ学派の経済理論に関する学説史研究。とくにホートリー、ピグーの貨幣・景気・雇用理論を研究。

塩地 洋 教授
自動車産業に関して、その史的形過程及び現在の構造的特質、国際比較等を生産、開発、流通等の全分野において解明している。

島本 哲朗 教授
マスメディアの経済学、金融政策の有効性

田中 秀夫 教授
17~18世紀の英国 (スコットランドを含む) の社会思想の諸側面を原資料の分析を通して解明すること

武石 彰 教授
技術経営、競争戦略

高村 茂准教授
複素曲線の退化の変形の構成や変形に関して最も安定な退化の分類研究

中西 賢次准教授
偏微分方程式論

西村 進准教授
計算機科学 特にプログラミング言語の理論、プログラム変換

畑 政義准教授
超越数論

日野 正訓准教授
確率論

藤井 道彦准教授
微分位相幾何学 特に双曲多様体の変形の研究

藤野 修准教授
高次元代数多様体の双有理幾何学

山崎 愛一准教授
多元環の整数論

吉田 伸生准教授
確率論 統計物理学の対象となる諸現象を確率論の立場から研究。特に相転移（例えば液体の気化や凝固）の確率論的な仕組みについて

稲場 道明講師
代数幾何学におけるモジュラリ理論

久保 雅義講師
応用解析, 数値解析

小西 由紀子講師
数値物理 特にミラー対称性

平賀 郁講師
数論 特に保型表現

若野 功講師
応用解析, 数値解析: 破壊現象の数学解析と数値解析

物理科学系

前野 悦輝教授
固体物理学
◎スピン三重項超伝導体などの新しい超伝導体や磁性体の物質開発
◎熱測定などによる低温での量子凝縮状態の研究
◎低温での測定技術の開発

石田 憲二教授
固体物理学 新奇な超伝導体や磁性体の研究。主に原子核レベルのミクロな測定（核磁気共鳴（NMR）実験を用いた研究）

松田 祐司教授
固体物理学 新奇超伝導状態の研究 強く相関し合った電子系の示す新しい量子状態の電子輸送現象を中心に研究

芝内 孝禎准教授
固体物性・低温物理学 超伝導を中心とした極低温・強磁場下における物質中の量子現象に関する実験的研究

高橋 義朗教授
量子光学 中性原子のレーザー冷却及びその精密測定に基づく基礎物理への応用

田中 耕一郎教授
光物性
◎超高速レーザー分光法をもちいた非平衡系のダイナミクスの研究
◎光誘起構造変化の素過程の解明
◎新しいテラヘルツ分光法の開発およびソフトマテリアルへの応用

中 暢子准教授
光物性物理学 レーザー分光による固体中の量子多体系の実験的研究, 光を用いた量子物質相の相制御。

上 正明教授
低次元トポロジー

上田 哲生教授
多変数複素関数論および複素力学系

加藤 和也教授
整数論, とくに類体論や岩澤理論の代数多様体への拡張

加藤 信一教授
代数群の表現論

加藤 毅教授
空間の局所的な微分構造から大域的構造を調べる微分位相幾何学

木上 淳教授
解析学

熊谷 隆教授
確率論

河野 明教授
位相幾何学 リー群やそれに関連する空間をトポロジーの手法, とくにホモトピー論的手法を用いて研究

國府 寛司教授
力学系とその分岐, 力学系理論の応用

齋藤 裕教授
代数群の許容表現, 保型表現の研究

重川 一郎教授
確率論 無限次元空間上の解析を確率論の立場から研究

穴倉 光広教授
力学系, 特に複素力学系の変集合や分岐集合の研究

堤 誉志雄教授
非線形偏微分方程式論 特に非線形分散型及び波動方程式

並河 良典教授
代数幾何学 特に複素シンプレクティック多様体やカラビヤウ多様体の研究

西和田 公正教授
偏微分方程式の解の構造

深谷 賢治教授
幾何学 図形を研究する。現在は位相的場の理論を通じて無限次元幾何学を目指す。

松木 敏彦教授
リー群論

三輪 哲二教授
代数解析学

森脇 淳教授
代数幾何学, 特にモディライ空間と数論的多様体の研究

吉田 敬之教授
数論 保型形式から得られるL関数について, その特殊値と零点の研究

浅岡 正幸准教授
力学系理論 特に低次元力学系の位相的性質の研究

梅田 亨准教授
関数解析 量子群対称性に基づく不変式論及び双対性の研究

大鍛治 隆司准教授
微分方程式論

加藤 文元准教授
代数幾何学, 特に非アルキメデス的解析学やその代数幾何学への応用

岸本 大祐准教授
代数的位相幾何学

塩田 隆比呂准教授
微分方程式論

諸富 徹准教授

環境税, 排出権取引制度をはじめとする, 環境政策における経済的手段の研究。租税構造の歴史的変動と租税思想史の研究。地域の持続可能な発展とそれを支える財政システムの研究。

遊喜 一洋准教授

マクロ経済学, 特に経済発展のメカニズムや所得・資産分布の決定要因についての分析

若井 克俊准教授

ミクロ経済学, 金融経済学, 行動経済学・行動ファイナンス

渡辺 純子准教授

近現代日本経済史
停滞・衰退産業の産業調整に関する研究（繊維・石炭・造船・化学・金属等）

飯山 将見講師

情報処理論, メディア工学

稲葉 久子講師

異なる文化的背景を持つ個人や組織が接触する際に, 何を学習し, どのように多文化共存の途に活用できるか, 探求すること。

ディミター・ヤルナゾフ 講師

◎ロシア・東欧における資本市場とコーポレート・ガバナンス
◎ブルガリアにおける市場経済移行
◎EU 経済統合と EU の東方拡大

岩城 秀樹教授

数理工学的アプローチによる将来の不確実な資産価値及びキャッシュ・フロー（現金流）の価値評価とその制御

澤邊 紀生教授

会計学, 管理会計学, 会計制度形成過程の研究

末松 千尋教授

事業創成, IT ビジネス論, IT 戦略論

徳賀 芳弘教授

会計の国際的調和化現象の分析, ベンチャー企業の IPO 前後の会計行動の考察

西牟田 祐二教授

経営史, 国際経営史, 投資銀行史

日置 弘一郎教授

比較経営特に組織デザイン論, キャリア形成, 権力継承など

藤井 秀樹教授

会計の比較制度分析, 国際会計論 公会計, 非営利組織 (NPO) 会計

若林 直樹教授

企業組織でのネットワーク行動に関する実証研究

若林 靖永教授

マーケティング・流通・商業。顧客満足志向マーケティング(組織), リレーションシップ・マーケティング, 非営利・協同組織のマーケティング。

相山 泰生准教授

企業のグローバル戦略, 企業内研究のマネジメント, イノベーションにおける協働とビジネス・エコシステムのマネジメント

理学部

数理科学系

池田 保教授
数論

泉 正己教授
作用素環

磯 祐介教授
微分方程式論の数値解析, 逆問題解析, 応用解析学

成生 達彦教授

ミクロ経済学の応用という観点から, 企業組織, 企業間関係, マーケティング, 流通について研究しています。

根井 雅弘教授

マーシャル以後の現代イギリス経済学

久本 憲夫教授

一国の労使関係・人材育成・処遇制度などが固有にもつ論理の相違点と共通点を国際比較を通じて解明すること

文 世一教授

都市の空間構造に関する理論的, 実証的分析, 交通政策の分析

堀 和生教授

日本, 中国, 朝鮮の近代経済史を比較検討し, 東アジアの発展理論を構築することをめざしている

森棟 公夫教授

計量経済学の研究を行っている。計量経済学とは, 経済分析に必要とされる統計学的な解析方法である。研究としては, 特に金融データの時系列分析に携わっている。

八木 紀一郎教授

マルクス経済学, オーストリア学派, 歴史学派などの学史的な研究をふまえて, 制度の成立・変化を解明する理論を探究している

吉田 和男教授

日本経済・財政の数理分析

劉 徳強教授

中国の経済改革と経済発展における諸問題を研究している。

宇高 淳郎准教授

応用ミクロ経済学, 特にマーケティング戦略の経済分析

菊谷 達弥准教授

広い意味での企業組織の経済学的研究。企業の分社化行動の国際比較。自動車産業における部品調達・製品販売における企業間関係の分析など。

江上 雅彦准教授

ファイナンス工学

草野 真樹准教授

財務会計, 国際会計

黒澤 隆文准教授

近現代ヨーロッパ経済史・経済政策史, 工業経済論

坂出 健准教授

20世紀に登場した主要産業の一つである航空機産業における国際的な競争, 協同関係の特質の検討をつうじて, 欧米各国の産業構造の史的展開とその国際的連関を研究している。

神事 直人准教授

研究テーマ: 国際貿易に関する研究。特に, 貿易と環境/貿易と再生可能資源, 等。

竹澤 祐丈准教授

近代社会形成期の英国（イングランドとスコットランド）での議論, 特に, 共和主義思想を, 同時代のヨーロッパの動向と関連付けながら, 思想的に研究しております。

曳野 孝准教授

経済環境と社会組織が異なる条件のもとで, 現在の世界経済の重要な要素である巨大企業がどのように生成し発展を遂げたかを, 国際比較によって明らかにすること。

久野 秀二准教授

グローバル資本主義における農業・食料システムの構造と動態, 主要アクターである各国政府, 国際機関, 多国籍アグリビジネス, 農民・市民社会組織等の諸関係に関する政治経済学的・農業社会学的な分析。

松井 啓之准教授

行政の情報化, 計画支援情報システムの開発, マルチエージェントシミュレーション

八尾 誠教授

不規則系物理学 液体、アモルファス、マイクロクラスター等の構造、量子物性、ダイナミクスに関する実験的研究

松田 和博 准教授

不規則系物理学 超臨界金属流体の構造、量子物性、ダイナミクスに関する実験的研究

吉川 研一教授

時空間秩序・生命物理 生命現象などの非平衡開放系に潜む基本原理を、発見・解明することをめざす。

市川 正敏 講師

生命現象などの、ソフトマテリアル系における非平衡現象の実験的研究

山本 潤 教授

ソフトマター物理学 液晶・高分子・ゲル・マイクロエマルジョン・生命体の階層構造とダイナミクス

高西 陽一 准教授

液晶を中心としたソフトマターの相構造と物性に関する発現機構解明をめざす。

前川 孝 教授

プラズマ物理学
◎プラズマ波動物理
◎トーラスプラズマの波動加熱・電流駆動及び平衡と安定性

田中 仁 准教授

プラズマ物理学 特に、電子サイクロトロン波・電子バースタイン波を用いた球状トカマクの生成、純電子プラズマの閉じ込めと波動特性の研究

川上 則雄 教授

凝縮系理論 強相関電子系、低次元量子多体系、ナノ量子系、冷却原子系などの理論研究

池田 隆介 准教授

凝縮系理論 磁場下の超伝導の基礎理論、新奇な超伝導・超流動状態の理論など、低温で実現する量子凝縮系の理論的研究

藤本 聡 准教授

凝縮系理論 強相関電子系における新奇超伝導、新奇な磁性、新しい量子凝縮相、および量子輸送現象の理論的研究

太田 隆夫 教授

非線形動力学 非平衡ソフトマターを主たる研究対象としてミクロ非平衡系の基本原理・法則の解明

篠本 滋 准教授

非線形動力学、統計物理学、脳の情報処理の理論的研究

藤 定義 准教授

流体物理学 乱流ダイナミクス、乱流輸送現象の理論的研究

小貫 明 教授

統計物理学
◎相転移ダイナミクス
◎非平衡現象の統計物理学

荒木 武昭 准教授

統計物理学・計算物理学 ソフトマター、相転移ダイナミクス

武末 真二 准教授

統計物理学・非線形動力学 格子熱伝導系や粒子流の格子モデルを用いた非平衡統計力学の理論的研究

今井 憲一 教授

原子核物理学 加速器を用いたハドロンと原子核の研究

永江 知文 教授

原子核物理学 高エネルギー加速器を用いて、クォーク・ハドロン・原子核の新しい様相を実験的に研究している。

川畑 貴裕 准教授

原子核物理学 量子多体系である原子核において現れる様々な現象、特に、クラスタリング現象に関心をもち、加速器を用いた実験的研究を行っている。

川合 光 教授

物理に限らずサイエンス一般に興味を持っているが、通常は素粒子論を中心とし、場の理論、量子重力、超弦理論に関する研究をしている。特に超弦理論は非常におもしろい段階にさしかかっており、力をいれている。

畑 浩之 教授

素粒子基礎論
◎ゲージ場・重力場理論のダイナミクス
◎弦理論の基本原則とダイナミクスの解明

福岡 将文 准教授

素粒子基礎論
◎場の量子論のダイナミクス
◎弦理論、量子重力理論の基本原則の解明と理論の定式化

小林 達夫 准教授

素粒子論。弦理論から素粒子の様々な現象論的性質がどのように導かれるのかを研究している。

植松 恒夫 教授

素粒子論。特に、量子色力学と深非弾性過程、核子や光子の構造関数、超弦理論など相互作用の統一理論における超対称性とその自発的破れおよび有効作用理論の研究

青山 秀明 教授

理論物理学・素粒子論。新しい超対称性の研究の一方で、経済物理学、言語物理学などでも、理論物理学の見方を生かした研究を行っている。

笹尾 登 教授

高エネルギー物理学 素粒子の基本構造と相互作用の実験的研究及びビーム物理学の研究。現在は荷電バリオン対称性とその破れの起源に関する研究、原子を利用した基礎物理学の研究および高輝度X線源の開発研究を行っている。

中家 剛 准教授

素粒子実験物理学を専門としており、現在はニュートリノ物理学を主に研究を遂行している。テーマとしては、ニュートリノ振動現象の解明、ニュートリノ質量二乗差の精密測定、ニュートリノ・核子相互作用の研究を行っている。

市川 温子 准教授

素粒子実験物理学、特にニュートリノ振動現象の観測を通じた素粒子の質量の起源の解明

谷森 達 教授

高エネルギー宇宙物理学、特にガンマ線天文学及び素粒子論的宇宙観測。それに必要なガンマ線、粒子線、イメージング技術開発

鶴 剛 准教授

高エネルギー宇宙物理学 特に天文衛星など飛翔体を用いた宇宙X線、ガンマ線の観測的研究と、それに必要な観測機器の開発

國廣 悌二 教授

クォーク・ハドロン多体系の物理学、超高温・高密度での量子色力学、「くりこみ群法」による数理論

菅沼 秀夫 准教授

クォーク・ハドロン物理学 (理論)
◎量子色力学に基づくクォークの閉じ込めとハドロンの研究
◎超弦理論を用いた量子色力学とハドロンの研究

藤原 義和 講師

クォーク模型によるバリオン間相互作用の理論的研究、及び、それらを用いた少数バリオン系や、軽い原子核、ハイパー核等の多クラーター問題

中村 卓史 教授

相対論的天体物理学：ブラックホール、重力波、中性子星、ガンマ線バースト、ダークマター、ダークエネルギー等の形成、起源の研究

白水 徹也 准教授

一般相対論、宇宙論；高次元ブラックホール、高次元宇宙模型、初期宇宙、宇宙検閲仮説等の研究

早田 次郎 准教授

弦理論的宇宙論、およびブラックホール物理学。超弦理論などの量子重力理論に基づいた宇宙初期やブラックホールの理論的研究

地球惑星科学系

福田 洋一 教授

測地学
◎ジオイドの精密決定
◎人工衛星アルティメトリー
◎重力異常と地下構造

宮崎 真一 准教授

測地学及び地殻変動論・地震学
◎測地データを利用した地殻変動解析
◎地殻活動予測シミュレーションー観測データと数値モデルの統合解析ー

淡路 敏之 教授

海洋物理学 海洋循環・変動のシミュレーションと輸送力学、観測とモデルを融合するデータ同化

秋友 和典 准教授

海洋物理学 高緯度海域における“深い対流”と黒潮変動の力学

余田 成男 教授

気象学
◎成層圏変動と気候
◎非線形力学とカオス
◎実験的数値天気予報

石岡 圭一 准教授

地球流体力学 地球流体運動に関する数値実験的・理論的研究

堤 浩之 准教授

変動地形学及び活構造学
◎活断層の地震危険度評価に関する研究
◎東アジアのアクティブテクトニクスに関する研究

町田 忍 教授

地球電磁気学及び太陽地球系物理学
◎地球・惑星磁気圏物理学
◎磁気圏における粒子加速
◎プラズマ粒子計測器開発

中西 一郎 教授

地震学及び地球内部物理学
◎地球内部構造
◎地震活動

平原 和朗 教授

地震学及び地球内部物理学
◎地震発生シミュレーション
◎地球内部の構造と運動のモデリング

久家 慶子 准教授

地震学及び地球内部物理学
◎地震の破壊過程の推定とその物理に関する研究
◎地球内部におけるダイナミクスに関する研究

里村 雄彦 教授

物理気候学 数値モデルを用いた、グローバル及びローカル気候の形成と変動の素過程の研究

家森 俊彦 教授

◎太陽地球系物理学および地球電磁気学
◎磁気圏および電離層における電磁気的現象の研究
◎地磁気の観測とデータ処理に関する研究

藤 浩明 准教授

地球電磁気学、海底観測、電気伝導度構造、地球気活動

竹村 恵二 教授

地熱テクトニクス、第四紀地質学、湖沼堆積物による古気候変動

大沢 信二 准教授

地熱流体論、同位体水文学、地球環境化学 鍵山恒臣 教授 火山物理学、火山電磁気学、火山の熱放出、電磁氣的構造探査

鍵山 恒臣 教授

火山物理学、火山電磁気学、火山の熱放出、電磁氣的構造探査

大倉 敬宏 准教授

地震学、火山物理学、測地学、スラブ内部地震、構造

古川 善紹 准教授

地球惑星科学 惑星の構造形成、進化、沈み込み帯のダイナミクス

小畑 正明 教授

上部マントル・地殻下部の岩石学、マグマの発生と移動、結晶分化作用、岩石組織と構造形成のダイナミクスの研究

北村 雅夫 教授

天然の鉱物の形成過程に関する研究、および原始太陽系で形成した隕石の成因に関する研究

田上 高広 教授

放射性核種の壊変を利用した年代測定と同位体を用いた地球変動、特に断層運動、火山活動及び気候変動の研究

平島 崇男 教授

世界各地の変動帯に分布する地殻深部岩石と地下深部流体の研究

酒井 治孝 教授

アジアの造山帯の形成・上昇プロセス及びそのモンスーン気候とのリンクに関する地質学的研究

平田 岳史 教授

太陽系・地球進化の超高精度年代学：微量元素分析技術の開発とその宇宙地球化学への応用

前田 晴良 准教授

層序学および古生物学、白亜紀アンモナイトの分類、進化、古生態

山路 敦 准教授

地質学的手法を用いた地球及び他の惑星・衛星のテクトニクスの研究

下林 典正 准教授

天然の鉱物に見られる微細組織や集合様式を解析することによって、その形成過程を解明しようとしている。

三宅 亮 准教授

天然の鉱物の微細組織に関する研究・造岩鉱物のコンピューターシミュレーション

化学系

北川 宏 教授

固体物性化学の研究

三木 邦夫 教授

タンパク質結晶学による生体高分子の構造生物学の研究 (タンパク質の構造と機能の解明)

竹田 一旗 講師

物質輸送を担うタンパク質の構造と作用原理の研究

谷村 吉隆 教授

凝縮系の化学物理理論、統計力学理論、分光理論の研究

安藤 耕司 准教授

化学反応量子論、分子多体系における量子移動過程の理論的研究

加藤 重樹 教授
分子の電子状態と化学反応のダイナミックスの理論的研究

林 重彦 准教授
生体機能の分子機構に関する理論的研究

鈴木 俊法 教授
化学反応力学の実験的研究

松本 吉泰 教授
固体表面での光誘起過程と反応ダイナミックスの研究

渡邊 一也 准教授
固体表面での超高速現象の研究と界面選択的分光法の開発

寺嶋 正秀 教授
新規時間分解レーザー分光の開発と蛋白質反応に関するエネルギーと構造ダイナミックスの研究

熊崎 茂一 准教授
光合成化学, レーザー顕微分光学, 時間分解レーザー分光学, 細胞分光学

木村 佳文 准教授
レーザー分光法をもちいた超臨界流体, イオン液体などの特殊環境下での化学反応と分子ダイナミックスの研究

竹腰 清乃理 教授
固体 NMR 法の開発と応用研究

武田 和行 講師
これまで不可能だった分析を可能にする磁気共鳴の研究

吉村 洋介 講師
流体中の化学反応と流体の物性

馬場 正昭 准教授
レーザー分子分光学 励起分子の構造とダイナミックス

有賀 哲也 教授
固体表面を利用した低次元物質の作成と新奇物性の探索

奥山 弘 准教授
固体表面における分子の吸着および反応の基礎的研究

吉村 一良 教授
◎遷移金属化合物の磁気的・電気的性質の研究
◎核磁気共鳴を用いたミクロな固体物性研究

陰山 洋 准教授
低温反応を用いた酸化物の合成と機能性の開発

中西 和樹 准教授
無機系及び有機無機ハイブリッド系多孔材料の液相合成と構造制御

林 民生 教授
遷移金属錯体を用いた高選択的な新規有機合成反応の開発

白川 英二 准教授
遷移金属触媒を用いる新規付加反応および新規高機能反応場の開発

西村 貴洋 講師
遷移金属を触媒とする新規炭素 炭素結合開裂および炭素 炭素結合形成反応の開発

丸岡 啓二 教授
ルイス酸型人工酵素の創製と精密有機合成; 環境調和型キラル相間移動触媒のデザインと実用的アミノ酸合成

加納 太一 講師
有機分子触媒を用いた不斉合成反応の開発

大須賀 篤弘 教授
新規な構造と機能を持つポリフィリン系化合物の開発

杉山 弘 教授
核酸を中心としたケミカルバイオロジー, 遺伝子発現制御化学

板東 俊和 准教授
有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー

井上 丹 教授
バイオナノサイエンスとテクノロジー: RNP (RNA-タンパク質複合体) の分子デザインと構築

白石 英秋 准教授
機能性 RNA および形質発現の研究

生物科学系

疋田 努 教授
爬虫類の系統分類学と生物地理学

曾田 貞滋 教授
◎昆虫の種分化と複数種の共存機構
◎昆虫の生活史進化

山極 壽一 教授
◎ゴリラ・チンパンジー・ニホンザルの社会生態学
◎人間の社会的起源

森 哲 准教授
爬虫類の行動および生態に関する研究

堀 道雄 教授
◎アフリカのタンガニカ湖の魚類群集の研究
◎甲虫の個体群および生物地理学についての研究
◎水生動物の左右性についての研究

中務 真人 准教授
◎類人猿の進化と人類の起源に関する古人類学
◎霊長類の運動分析と運動器官の形態学

久保田 洋 准教授
アオガエル科精子の運動メカニズム

秋山 秋梅 准教授
◎酸化的 DNA 損傷の生成とその修復機構
◎酸化ストレスと癌化, 老化の関係
◎放射線, 活性酸素に対する細胞応答

渡辺 勝敏 准教授
◎淡水魚類の保全生態学・遺伝学
◎淡水魚類の系統地理学

佐藤 ゆたか 准教授
尾索動物ホヤを対象とした分子発生生物学

中川 尚史 准教授
霊長類の採食生態, および社会生態学的研究

稲葉 カヨ 教授
異物認識機構と自然免疫ならびに適応免疫応答の制御に関する研究

高原 和彦 講師
免疫システムにおける外来微生物の認識と生体の応答

長谷 あきら 教授
植物の光応答に関する, 分子遺伝学的, 生化学的, 生理学的及び細胞学的研究

小山 時隆 准教授
光合成生物の時間生物学

井上 敬 講師
細胞生物学 細胞性粘菌における細胞分化と細胞運動・形態形成機構の研究

戸部 博 教授
高等植物の形態学と系統分類学

西村 いくこ 教授
高等植物の細胞と細胞内小器官の分化に関する分子生物学的・細胞生物学的研究

嶋田 知生 講師
植物の高次機能の制御に関する分子細胞生物学

鹿内 利治 教授
光合成・葉緑体機能に関する分子遺伝学・生理学的研究

藤吉 好則 教授
膜蛋白質を中心とする細胞のシグナル伝達機構についての構造生理学的研究

西田 栄介 教授
細胞増殖・分化, 発生及び高次生命機能を制御するシグナル伝達に関する分子生物学

平野 丈夫 教授
脳神経系がはたらくメカニズムについての分子・細胞レベルの研究

七田 芳則 教授
生体における情報変換機構の分子レベルでの研究

石川 冬木 教授
遺伝子の振る舞いが, どのように老化やがん化を引き起こすかを明らかにする。

森 和俊 教授
小胞体の恒常性を維持する応答機構の解析

上村 匡 教授
動物発生における神経細胞と上皮細胞の構築とリモデリング, そして認識に関する研究

阿形 清和 教授
幹細胞をキーワードにした再生と進化に関する研究

千坂 修 准教授
動物の分子発生生物学

中世古 幸信 准教授
細胞周期を制御する因子の分子生物学的解析

吉田 秀郎 准教授
細胞小器官の機能制御機構に関する分子生物学的研究

土井 知子 准教授
シグナル伝達における膜蛋白質が担う調節機構の構造生物学的研究

船山 典子 准教授
カワカイメンを用いた, 進化的に最も古い生物での幹細胞分化制御機構, 細胞間相互作用

今元 泰 准教授
センサー蛋白質の応答に関する物理化学的・構造生物学的研究

高田 彰二 准教授
生体分子システムの構造・機能についての, 理論およびシミュレーション研究

国際交流室

鈴木 在乃 講師
国際教育学, 異文化間教育学, 環境デザイン一般 (建築学・造園学・地域計画学)。現在は, 住宅計画論, 特に留学生等の住居の問題について研究しています。

医学部

医学科

渡邊 大 教授
生体情報科学

斎藤 通紀 教授
機能微細形態学

武藤 誠 教授
遺伝薬理学

鍋島 陽一 教授
腫瘍生物学

松田 道行 教授
病態生物学

光山 正雄 教授
微生物感染症学

湊 長博 教授
免疫細胞生物学

玉木 敬二 教授
法医学

長田 重一 教授
分子生物学

岩田 想 教授
分子細胞情報学

野田 亮 教授
分子腫瘍学

篠原 隆司 教授
分子遺伝学

武田 俊一 教授
放射線遺伝学

金子 武嗣 教授
高次脳形態学

河野 憲二 教授
認知行動脳科学

大森 治紀 教授
神経生物学

成宮 周 教授
神経・細胞薬理学

芥川 忠夫 教授
実験動物学

松田 文彦 教授
疾患ゲノム疫学解析

平出 敦 教授
医学教育, 救急医学, 蘇生学

福山 秀直 教授
脳機能イメージング

中尾 一和 教授
内分泌・代謝内科学

木村 剛 教授
循環器内科学

千葉 勉 教授
消化器内科学

三嶋 理晃 教授
呼吸器内科学

三森 経世 教授
臨床免疫学

稲垣 暢也 教授
糖尿病・栄養内科学

小池 薫 教授
初期診療・救急医学

宮地 良樹 教授
皮膚科学

平岡 真寛 教授
放射線腫瘍学・画像応用治療学

富樫 かおり 教授
画像診断学・核医学

一山 智 教授
臨床病態検査学

坂井 義治 教授
消化器外科

上本 伸二 教授
肝胆臓・移植外科

戸井 雅和 教授
乳癌外科

福田 和彦 教授
麻酔科学

小西 郁生 教授
婦人科学・産科学

小川 修 教授
泌尿器科学

坂田 隆造 教授
心臓血管外科学

伊達 洋至 教授
呼吸器外科学

鈴木 茂彦 教授
形成外科学

吉村 長久 教授
眼科学

伊藤 壽一 教授
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中村 孝志 教授
整形外科

別所 和久 教授
口腔外科学

藤田 潤 教授
分子病診療学

高橋 良輔 教授
臨床神経学

宮本 享 教授
脳神経外科学

佐藤 俊哉 教授
医療統計学

福原 俊一 教授
医療疫学

川上 浩司 教授
薬剤疫学

今中 雄一 教授
医療経済学

小杉 真司 教授
医療倫理学

中山 健夫 教授
健康情報学

小泉 昭夫 教授
環境衛生学

木原 正博 教授
社会疫学

中原 俊隆 教授
健康政策・国際保健学

前川 平 教授
輸血医学, 血液学

真鍋 俊明 教授
診断病理学 (一般), 皮膚病理学, 肺病理学

清水 章 教授
分子生物学, 遺伝子医学

横出 正之 教授
先端医療構築学, 高齢医学

乾 賢一 教授
医療薬理学, 薬物動態学

吉原 博幸 教授
病院情報システム学, 医療情報交換規格

中嶋 善明 准教授
生体情報科学

三浦 岳 准教授
形態形成機構学

光家 保 准教授
細胞機能制御学

青木 正博 准教授
遺伝薬理学

河村 伊久雄 准教授
微生物感染症学

縣 保年 准教授
免疫細胞生物学

鶴山 竜昭 准教授
法医学

福永 理己郎 准教授
分子生物学

谷口 善仁 准教授
放射線遺伝学

藤山 文乃 准教授
高次脳形態学

石井 孝広 准教授
神経生物学

渡邊 直樹 准教授
神経・細胞薬理学

庫本 高志 准教授
実験動物学

山田 重人 准教授
先天異常学

角谷 寛 准教授
疾患ゲノム疫学

須山 幹太 准教授
ゲノム情報科学

美馬 達哉 准教授
臨床脳生理学

山内 浩 准教授
脳機能イメージング

向山 政志 准教授
内分泌・代謝内科学

松森 昭 准教授
循環器内科学

武藤 学 准教授
消化器内科学

新實 彰男 准教授
呼吸器内科学

宇谷 厚志 准教授
皮膚科学

平家 俊男 准教授
発達小児科学

光森 通英 准教授
放射線腫瘍学・画像応用治療学

飯沼 由嗣 准教授
臨床病態検査学

猪飼 伊和夫 准教授
肝胆膵・移植外科学

杉江 知治 准教授
乳腺外科学

藤原 浩 准教授
婦人科学・産科学

池田 義 准教授
心臓血管外科学

大久保 憲一 准教授
呼吸器外科学

野瀬 謙介 准教授
形成外科学

根尾 昌志 准教授
整形外科

藤村 和磨 准教授
口腔外科学

伊藤 克彦 准教授
分子病診療学

池田 昭夫 准教授
臨床神経学

三國 信啓 准教授
脳神経外科学

村井 俊哉 准教授
精神医学

大森 崇 准教授
医療統計学

山崎 新 准教授
医療疫学

樋之津 史郎 准教授
薬剤疫学

沼部 博直 准教授
医療倫理学

石崎 達郎 准教授
健康情報学

岩隈 美穂 准教授
医学コミュニケーション学

原田 浩二 准教授
環境衛生学

木原 雅子 准教授
社会疫学

里村 一成 准教授
健康政策・国際保健学

荒井 俊之 准教授
虚血再灌流傷害の研究

柴田 登志也 准教授
画像診断学

松田 直之 准教授
敗血症の新規創薬, 集中治療医学, 救急医学

柿木 良介 准教授
末梢神経損傷・上肢損傷に対する手術とリハビリ

三上 芳喜 准教授
診断病理学, 婦人科腫瘍学, 泌尿器腫瘍学

高田 泰次 准教授
肝移植

手良向 聡 准教授
臨床統計学

山本 文彦 准教授
放射性薬品化学, 分子イメージング

桂 敏也 准教授
医療薬理学, 生物薬剤学

黒田 知宏 准教授
情報工学, 特にVR, コピキタスコンピューティング技術の医療・福祉分野への応用

岸本 寛史 准教授
地域医療学・緩和医療学・心身医学

林 克彦 講師
機能微細形態学

清川 悦子 講師
病態生物医学

小林 拓也 講師
分子細胞情報学

小川 正 講師
認知行動脳科学

森本 剛 講師
医学教育学, 総合内科学, 医療安全学, 臨床疫学

石川 隆之 講師
血液・腫瘍内科学

門脇 則光 講師
血液・腫瘍内科学

高折 晃史 講師
血液・腫瘍内科学

益崎 裕章 講師
内分泌・代謝内科学

田村 尚久 講師
内分泌・代謝内科学

久米 典昭 講師
循環器内科学

堀内 久徳 講師
循環器内科学

塩井 哲雄 講師
循環器内科学

平井 豊博 講師
呼吸器内科学

藤井 隆夫 講師
臨床免疫学

若月 芳雄 講師
加齢医学

藤本 新平 講師
糖尿病・栄養内科学

高橋 健造 講師
皮膚科学

是枝 哲 講師
皮膚科学

依藤 亨 講師
発達小児科学

溝脇 尚志 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学

磯田 裕義 講師
画像診断学・核医学

久保 肇 講師
消化管外科学

岡部 寛 講師
消化管外科学

伊丹 淳 講師
消化管外科学

土井 隆一郎 講師
肝胆膵・移植外科学

岡本 晋弥 講師
肝胆膵・移植外科学

高折 恭一 講師
肝胆膵・移植外科学

廣田 喜一 講師
麻酔科学

倉田 二郎 講師
麻酔科学

万代 昌紀 講師
婦人科学・産科学

巽 啓司 講師
婦人科学・産科学

西山 博之 講師
泌尿器科学

三和 千里 講師
心臓血管外科学

宮原 亮 講師
呼吸器外科学

河合 勝也 講師
形成外科学

坂谷 正紀 講師
眼科学

竹本 佳司 教授

◎金属錯体を用いた立体選択的合成法の開発
◎生物活性天然有機化合物の不斉合成研究

松崎 勝巳 教授

生体膜における生体分子間相互作用解析と創薬への展開

加藤 博章 教授

酵素、トランスポーター、チャンネル、シャペロン、レセプターなど細胞内のタンパク質装置がいかに機能しているのか、X線結晶構造解析で決定した原子レベルの構造に基づいてその仕組みを解明すること。

辻本 豪三 教授

ゲノム包括的解析、バイオインフォマティクスによる in silico 創薬研究とテーラーメイド医療

半田 哲郎 教授

脂質あるいはこれと血漿アポリipoproteinによる分子集合体形成の生物物理化学とその薬学への応用

竹島 浩 教授

細胞内 Ca²⁺ シグナルと神経情報伝達の分子基盤解明

金子 周司 教授

神経伝達物質受容体とイオンチャンネルに関する電気生理および分子薬理学的研究

伊藤 信行 教授

遺伝子探索法による細胞間シグナル分子の探索とその生理的意義

中山 和久 教授

◎細胞内メンブレン・トラフィックの調節機構
◎細胞内タンパク質分解の調節機構

橋田 充 教授

◎薬物の体内動態の機構解明に関する研究
◎薬物体内動態の精密制御を目的とした新しい薬物投与技術の開発

赤池 昭紀 教授

◎神経疾患におけるニューロン死の機序と神経保護因子の探索
◎虚血性脳障害の予防・治療薬の研究

佐治 英郎 教授

◎画像診断薬、放射線治療薬の創製
◎病態解明、創薬のための分子イメージング化合物の開発
◎金属化合物の生体作用の解明

高倉 喜信 教授

◎遺伝子治療薬品の生物薬理学的研究
◎培養細胞を利用した薬物動態研究

岡村 均 教授

哺乳類における時計遺伝子の分子システムの解明、リズム障害の分子基盤に関する研究

掛谷 秀昭 教授

次世代化学療法開発を指向した先端のケミカルバイオロジー研究および天然物薬学研究

北浦 和夫 教授

計算化学による生体高分子の構造・機能の研究と創薬のための新規手法の開発

大野 浩章 准教授

創薬テンプレートの構築を指向した新規変換反応の開発と応用に関する研究

山田 健一 准教授

有機合成反応の開発と生物活性物質合成への応用

高須 清誠 准教授

機能性低分子の迅速製造を可能とする分子変換法の開拓と創薬への展開

伊藤 美千穂 准教授

◎植物二次代謝産物の構造—機能相関研究
◎フィールドワークを軸とする薬用植物の調査・開発研究

三谷 章 教授

リハビリテーションの神経機構

宮島 朝子 教授

「人間—環境系」の視点からみた療養者の生活環境と健康現象の関わり性ほか

山根 寛 教授

障害構造およびトータルリハビリテーションシステム、作業活動を介したコミュニケーション、場の機能とグループダイナミクス

青山 朋樹 准教授

間葉系幹細胞移植及び内因性幹細胞活性化による運動器の再生

赤澤 千春 准教授

臓器移植に関するクリティカル看護ケアに関する研究、リンパ浮腫に関する研究、アクティブ・ラーニングに関する研究

池本 正生 准教授

臨床生化学：急性炎症抑制蛋白に関する研究

石津 浩一 准教授

画像診断学、核医学、医用画像工学、CT、MRI

伊吹 謙太郎 准教授

微生物学・ウイルス感染症学

大塚 研一 准教授

偏微分方程式論

加藤 寿弘 准教授

発達障害の作業療法（特に高機能広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害、学習障害児に対する臨床研究）

笹山 哲 准教授

医療情報処理

作田 裕美 准教授

がん看護学（がん術後リンパ浮腫の発症予測に関する生理学的研究、がん術後リンパ浮腫患者への治療的介入研究、がん患者のQOL向上に向けた教育・指導の方法論に関する研究）

谷口 初美 准教授

性と生殖に関する Transition の看護概念をテーマに各 transition の女性達の成長や健康への影響に関する研究

玉木 彰 准教授

運動と呼吸のリズムに関する研究、呼吸器学療法に関する研究

星野 明子 准教授

地域看護学 大都市の人口空洞化地域における高齢者の自律支援のためのサテライトシステムの構築

本田 育美 准教授

糖尿病患者の足病変予防に関する研究、高齢者へのフットケアに関する研究

柳吉 桂子 准教授

助産ケアモデルの構築、助産学教育、助産管理

若村 智子 准教授

生体リズムからみた生活環境調整に関する研究、睡眠に関する研究

大畑 光司 講師

運動発達とその障害に関する研究、脳損傷とリハビリテーション

前田 祐子 講師

高齢者医療の心理・態度研究と医療コミュニケーションの研究

薬学部

富岡 清 教授

機能性分子の有機合成化学と生物活性分子の生物有機化学

市橋 則明 教授

骨・関節系理学療法に関する臨床的およびバイオメカニクス的研究

岡 昌吾 教授

生化学・神経糖鎖生物学

桂 敏樹 教授

老人・成人保健、健康な街づくり

我那部山 キヨ子 教授

母性・父性のメンタルヘルスと育児支援システム構築に関する研究、助産ケアの質向上のためのシステム構築に関する研究、女性の生涯に渡るリプロダクティブヘルスに関する研究

木下 彩楽 教授

認知症の病態に関する分子生物学的研究および認知症のケアに関する研究

黒木 裕土 教授

超音波装置を用いた軟骨の評価に関する研究、逸心性収縮による運動療法がラット骨格筋に及ぼす影響に関する研究、空気を圧力利用した歩行補助装置の研究

齋藤 邦明 教授

アミノ酸代謝と免疫および疾患メタボロームプロテオーム解析

齋藤 ゆみ 教授

基礎看護学（感染・生体防御看護学）

櫻庭 繁 教授

精神看護学、リエゾン精神看護学、自殺、失感情症、病跡学、精神障害者援助論、精神保健福祉活動

椎名 毅 教授

生体医工学、医用超音波技術、次世代医用イメージングと診断・治療支援技術開発

杉本 直三 教授

医用画像情報学

菅 佐和子 教授

臨床心理学、看護カウンセリング

菅沼 信彦 教授

不妊症学、産婦人科内分泌学

鈴木 真知子 教授

小児在宅療養支援に関する研究、超重症児の自律に向けた育児支援に関する研究、学校看護師の専門的機能と役割に関する研究、訪問看護ステーションにおける重心児（者）の専門特化すべきサービスのあり方に関する研究

精山 明敏 教授

生体が営む複雑な生命現象を、磁気共鳴・光学計測法などの物理学的手法を用いて可視化し、その機能発現を解明する

高桑 徹也 教授

慢性炎症から発症するリンパ腫の研究

坪山 直生 教授

整形外科学、運動器リハビリテーション学

十一 元三 教授

精神医学認知神経科学、発達障害学、児童司法精神医学

中泉 明彦 教授

肺癌の早期診断を目指した臨床研究

野本 慎一 教授

災害医学、看護学、医療安全学、心臓血管外科学

藤田 正俊 教授

内科学、循環器内科学

二木 淑子 教授

障害学、作業療法学に関する研究（主に身体障害、高次脳機能障害、認知機能障害のリハビリテーションに関する研究）

細田 公則 教授

内分泌代謝内科学 肥満 糖尿病

宮本 和明 講師

眼科学

辻川 明孝 講師

眼科学

平野 滋 講師

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中川 隆之 講師

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中山 富貴 講師

整形外科学

小林 雅彦 講師

整形外科学

高橋 克 講師

口腔外科学

伊東 秀文 講師

臨床神経学

高木 康志 講師

脳神経外科学

野間 俊一 講師

精神医学

林田 賢史 講師

医療経済学

細川 雅也 講師

糖尿病学、臨床栄養学

深津 敦司 講師

腎臓内科学

伊藤 順子 講師

臨床神経生理学

高倉 俊二 講師

感染症学、臨床微生物学

長尾 能雅 講師

医療安全管理学

小阪 謙三 講師

婦人科手術学（腹腔鏡下手術）

中嶋 安彬 講師

診断病理学、骨腫瘍

瀬川 一 講師

集中治療医学、麻酔科学

仲瀬 裕志 講師

炎症性腸疾患の新規治療法開発

菅井 学 講師

分子生物学、遺伝子医学

村山 敏典 講師

先端医療システム構築学、被験者擁護論

増田 智先 講師

薬物の体内動態・毒性発現の分子機構解明

竹村 匡正 講師

医療言語処理学、過去症例に基づく医学知識抽出

伊藤 俊之 講師

消化器内科学、医学教育学

医学部人間健康科学科

足立 壯一 教授

小児医科学、血液内科学、病態医科学

荒井 秀典 教授

地域医療学及び在宅医療学、新たな地域医療システムを構築するための研究、老年医学、肥満・動脈硬化の予防に関する研究

石橋 誠 教授

中枢神経系、骨格系の発生・再生の分子機構の解明（遺伝子工学的手法、発生工学的手法、数理生物学的手法による）

星野 大准教授
高分解能 NMR による生体物質の構造機能解析

中津 亨准教授
◎光生物タンパク質の構造生物学的研究
◎ヒト赤血球アニオントランスポーターの構造生物学的研究

平澤 明准教授
◎オーファン受容体のリガンド探索と機能解析
◎DNA マイクロアレイを用いた発現プロファイル解析

中野 実准教授
◎脂質膜の静的・動的構造評価とタンパク質との相互作用評価
◎脂質ナノ粒子の創製と薬学的応用

山崎 哲男准教授
リンパ球の恒常性維持機構の分子基盤解明

渡部 好彦准教授
サイトカインの細胞生物学および腫瘍免疫学

中川 貴之准教授
◎薬物依存形成機構の神経薬理学的解析
◎痛みの発生・制御機構に関する神経薬理学的解析

山下 富義准教授
◎薬物体内動態シミュレーターの開発研究
◎微粒子運搬体による薬物体内動態制御に関する研究

久米 利明准教授
神経変性疾患における中枢ニューロン死制御を目指した神経薬理学的研究

矢野 育子准教授
薬物動態と薬効の速度論的解析並びに個別化投与設計に関する研究

小野 正博准教授
病態機能分析を指向した分子イメージング技術の開発とその創薬研究への応用

山岡 清准教授
◎動物体内動態試験での一点 Sampling データに基づく Bootstrap 法による動態パラメータの分散の評価
◎RNA 干渉の速度論的定量化およびその制御
◎非線形センサー動態と全身動態の関連解析 (in loci)

西川 元也准教授
◎核酸を基盤とする治療・デリバリーシステムの開発
◎生体防御関連因子の時空間制御技術の開発

服部 明准教授
ユビキチン - プロテアソーム系制御法の開発とその創薬への応用

三宅 歩講師
ゼブラフィッシュを用いた FGF の機能解析

川上 茂講師
◎機能性 DDS キャリアの開発
◎細胞選択的遺伝子ターゲティングシステムの開発

大石 真也講師
生体分子からの医薬品リード化合物の創製と応用

土居 雅夫講師
脳内中枢時計における分子振動システムの解明、生体リズム調製剤の開発

工学部

地球工学科

杉浦 邦征教授
社会基盤工学専攻 鋼構造・複合構造の力学的特性評価およびその設計法

白土 博通教授
社会基盤工学専攻 建造物の耐風設計、強風災害低減、腐食環境物理モデル

宮川 豊章教授
社会基盤工学専攻 コンクリート建造物の耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

田村 武教授
社会基盤工学専攻 応用力学、数値解析、粒状体の力学、トンネル工学

橘津 家久教授
社会基盤工学専攻 各種水域における流れと環境の相互特性および乱流輸送現象に関する研究、世界最先端の流体計測による乱流科学の解明

岡 二三生教授
社会基盤工学専攻 計算地盤力学、砂地盤の液化化解析、地盤の変形の局所化

小林 潔司教授
都市社会工学専攻 国土・地域システムの分析と計画方法論に関する研究

中川 大教授
都市社会工学専攻 都市計画、都市交通対策、公共交通政策

谷口 栄一教授
都市社会工学専攻 道路交通計画、地域ロジスティクスに関する研究

藤井 聡教授
都市社会工学専攻 土木計画、交通計画ならびに社会心理学等の社会科学を基本とした公共政策研究

清野 純史教授
都市社会工学専攻 地盤震動および地震時の人的被害発生メカニズムの解明に関する研究

大津 宏康教授
都市社会工学専攻 ジオリスクエンジニアリング、海外建設プロジェクトリスクマネジメント

細田 尚教授
都市社会工学専攻 河川工学、開水路水理学、数値流体力学

田村 正行教授
都市環境工学専攻 衛星リモートセンシング及び地理情報システムに関する研究

後藤 仁志教授
都市環境工学専攻 海岸工学、流砂・漂砂水理学、数値流体力学

河野 広隆教授
都市環境工学専攻 建造物の維持管理、コンクリート工学

椎葉 充晴教授
都市環境工学専攻 水文学、水資源工学、河川防災

川崎 雅史教授
都市環境工学専攻 公共空間における景観デザイン

勝見 武教授
地球環境学 社会基盤親和技術の開発、環境地盤工学

木村 亮教授
都市環境工学専攻 / 産官学連携センター 新たな構造物基礎やトンネル建造物の開発、世界の貧困削減に向けた研究の実施

牛島 省教授
社会基盤工学専攻 / 学術情報メディアセンター 数値流体力学と水工学分野への応用

藤田 正治教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 山地流域の土砂動態に関する研究、水・土砂・生物系に関する研究

中川 一教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 洪水および土砂災害の防止・軽減に関する研究

井合 進教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 地震時の地盤災害、地盤防災に関する研究

関口 秀雄教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 水際地形環境の研究、海岸地下水環境に関する研究

澤田 純男教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 震源モデルと地盤振動解析に基づく設計入力地震動評価

小尻 利治教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 水資源工学、総合流域管理、流域環境評価、人工知能システム

中北 英一教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 降雨予測を含むローダー水文学、世界の異常降雨災害

岡田 憲夫教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 災害リスクマネジメント、特に、計画的な手法やシステム科学的アプローチに関する研究

戸田 圭一教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 地下浸水を含む都市水害の予測と対策

多々納 裕一教授
社会情報学専攻 / 防災研究所 防災の経済分析、災害リスクガバナンス

矢守 克也教授
社会情報学専攻 / 防災研究所 防災心理学に関する研究、防災教育を中心とした減災・防災システムに関する研究

林 春男教授
社会情報学専攻 / 防災研究所 防災心理学、組織の危機管理論、災害情報システム、災害過程論

堀 智晴教授
都市環境工学専攻 / 防災研究所 水資源システムの計画と管理、洪水・漏水災害の防止と軽減

間瀬 肇教授
都市環境工学専攻 / 防災研究所 海岸災害解析の基礎となる波動理論、数値モデル、耐波設計法

寶 馨教授
都市環境工学専攻 / 防災研究所 洪水予報と治水計画、極値統計理論、防災の新技术・政策論

角 哲也教授
都市環境工学専攻 / 防災研究所 ダム工学、水工水理学、ダム貯水地の土砂管理に関する研究

宇都宮 智昭准教授
社会基盤工学専攻 海洋建造物の動的応答に関する研究

八木 知己准教授
社会基盤工学専攻 建造物の空気力学、強風防災、風工学に関する研究

山本 貴士准教授
社会基盤工学専攻 コンクリート 構造の力学性能および耐久性、補修・補強、新材料・新工法

木元 小百合准教授
社会基盤工学専攻 地盤材料の構成式、地盤数値解析

松島 格也准教授
都市社会工学専攻 国土・地域のマネジメント手法論の開発、交通市場構造分析

松中 亮治准教授
都市社会工学専攻 都市地域計画、交通計画、都市環境評価、交通政策・制度

山田 忠史准教授
都市社会工学専攻 輸送システム、ロジスティクス、最適化

宇野 伸宏准教授
都市社会工学専攻 道路交通システムの計画と ITS を用いた管理運用の方法論に関する研究

吉井 稔雄准教授
都市社会工学専攻 交通制御工学、交通流解析、交通ネットワーク解析

五十嵐 晃准教授
都市社会工学専攻 地震荷重下における社会基盤建造物の安全性および動的応答の制御

塩谷 智基准教授
都市社会工学専攻 土木建造物の維持管理に資する先端計測技術・評価手法の研究

岸田 潔准教授
都市社会工学専攻 地盤の力学・水理学特性の評価、トンネルと地下空間の創出、地下構造の可視化

須崎 純一准教授
都市環境工学専攻 衛星・地上リモートセンシングによる都市環境のモニタリングとモデリング

西山 哲准教授
都市環境工学専攻 地下空間の創出・保全・維持管理のための力学、水理学的特性を解明する解析および計測手法の研究

原田 英治准教授
都市環境工学専攻 流砂・漂砂水理学、固液混相流の計算力学

服部 篤史准教授
都市環境工学専攻 コンクリート建造物のマネジメント、耐久性、維持管理、補修・補強、新材料・新工法

立川 康人准教授
都市環境工学専攻 水文学、水資源工学、水災害軽減に関する研究

久保田 善明准教授
都市環境工学専攻 景観工学、橋梁デザイン、構造・材料・施工を踏まえた土木建造物の空間デザイン

竹林 洋史准教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 土砂水理学、河川工学

川池 健司准教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 都市水害の氾濫数値解析、防災水工学

三村 衛准教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 粘土地盤の変形解析、地盤情報データベース、土木遺跡の保存

堤 大三准教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 山岳域における土砂生産や流砂の観測および土砂災害防止に関する研究

武藤 裕則准教授
社会基盤工学専攻 / 防災研究所 河川流および沿岸流の構造観測、河川構造と生態系成立の関連に関する研究

高橋 良和准教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 地震時における土木構造システムの安全性評価、オブジェクト指向地震工学

田中 賢治准教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 陸面過程スキームの開発、全球規模から領域規模までの水・熱循環の予測

城戸 由能准教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 水環境の動態解析と予測・評価

横松 宗太准教授
都市社会工学専攻 / 防災研究所 防災投資による災害リスクの軽減便益の経済評価に関する研究

米山 望准教授
都市社会学専攻 / 防災研究所 数値シミュレーションによる流体関連災害メカニズムの解明

森 信人准教授
都市環境工学専攻 / 防災研究所 沿岸災害メカニズムの基礎理論および数値モデリング

山敷 庸亮准教授
都市環境工学専攻 / 防災研究所 地球規模水・物質循環、閉鎖性水域モデル、陸域 / 海域の融合シミュレーション

畑山 満則准教授
社会情報学専攻 / 防災研究所 時空間地理情報システム、災害リスク・コミュニケーション、情報システムを用いた災害対応

牧 紀男准教授
社会情報学専攻 / 防災研究所 ステークホルダー参画型防災戦略計画、災害復興計画、すまいの災害誌 (アジア地域を中心に)

竹門 康弘准教授
都市環境工学専攻 / 防災研究所 河川や湖沼の生態系管理のための応用生態学的、生態水文学的研究

青木 謙治教授
都市環境工学専攻 岩盤内の浸透流挙動に関する研究、地殻環境評価技術の研究

松岡 俊文教授
社会基盤工学専攻 地下資源開発と地球環境保全へのナノジオサイエンスの適用研究

石田 毅教授
社会基盤工学専攻 地下深部の利用・開発に関わる地圧状態の研究や破壊音の測定による岩盤破壊の研究

朝倉 俊弘教授
社会基盤工学専攻 岩盤構造設計と保守に関する研究

馬淵 守教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源に資する新材料に関する研究

宅田 裕彦教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

三ヶ田 均教授
社会基盤工学専攻 統合型マルチスケール構造探査技術の確立と応用

塚田 和彦准教授
社会基盤工学専攻 非破壊検査による材料劣化の評価に関する研究

村田 澄彦准教授
社会基盤工学専攻 人と地球環境にやさしい資源開発技術の創生

山田 泰広准教授
社会基盤工学専攻 資源開発と地球環境保全のための地質モデルに関する研究

後藤 忠徳准教授
社会基盤工学専攻 電磁探査を用いた海底資源・活断層調査技術の開発と適用

水戸 義忠准教授
社会基盤工学専攻 岩盤構造物の情報化設計・施工と地殻環境評価技術の開発

上田 晃准教授
社会基盤工学専攻 CO₂-地下水-岩石間の地球化学的反応解析に関する研究

楠田 啓准教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 資源開発と合理的供給システム、海洋資源エネルギー

藤本 仁准教授
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 加工プロセスにおける省エネルギー・省資源

薛 自求 講師
社会基盤工学専攻 地中貯留における CO₂ 挙動モニタリングと CO₂ 貯留量の定量的評価に関する研究

森澤 眞輔教授
都市環境工学専攻 都市環境システムの評価とデザインに関する研究

津野 洋教授
都市環境工学専攻 公共用水域の水質制御と水処理に関する研究

小山 昭夫教授
都市環境工学専攻 放射性廃棄物管理に関する研究

馬原 保典教授
都市環境工学専攻 環境中での放射能の移動挙動と分布に関する研究

松岡 譲教授
都市環境工学専攻 地球環境の統合評価に関する研究

東野 達教授
エネルギー科学研究科・エネルギー社会・環境科学専攻 エアロゾル粒子の環境動態と環境負荷評価に関する研究

藤井 滋穂教授
地球環境学専攻 水域水質・生態系の保全と制御に関する研究

田中 宏明教授
都市環境工学専攻 健全な水循環・水環境をめざす研究

酒井 伸一教授
都市環境工学専攻 循環型社会形成と廃棄物管理に関する研究

清水 芳久教授
都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の分析方法の開発と挙動の解明、流域管理

米田 稔教授
都市環境工学専攻 土壌圏を中心とする環境汚染物質のリスク評価

伊藤 禎彦教授
都市社会学専攻 都市衛生工学、水道水質の安全性評価とその制御

藤川 陽子准教授
都市環境工学専攻 放射性廃棄物中処分時の環境安全評価に係る実験的研究

松井 利仁准教授
都市環境工学専攻 サウンドスケープおよび騒音の健康影響に関する研究

松田 知成准教授
都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の毒性メカニズムの解明

高岡 昌輝准教授
都市環境工学専攻 循環型社会形成のための廃棄物の処理・処分・管理に関する研究

西村 文武准教授
都市環境工学専攻 水環境の保全と廃水処理に関する研究

倉田 学児准教授
都市環境工学専攻 広域大気汚染シミュレーションとその将来影響予測に関する研究

菅 運清准教授
都市環境工学専攻 環境用水保全のための雨水水利用と水道給水管路内における微生物学的安全性に関する研究

平井 康宏准教授
都市環境工学専攻 教育研究における環境安全に関する研究、廃棄物管理・物質循環のシステム解析に関する研究

平山 修久准教授
都市社会学専攻 水道事業の戦略計画に関する研究

越後 信哉准教授
都市社会学専攻 浄水処理の化学、高度水処理技術の開発

八十島 誠准教授
都市環境工学専攻 健全な水環境の創造に関する研究

田中 周平准教授
地球環境学専攻 化学物質の挙動調査と処理技術の開発、沿岸生態系の修復保全

山下 尚之講師
都市環境工学専攻 健全な水環境をめざす研究

建築学科

林 康裕教授
地域と建築物の保全再生、建築物の耐震性能評価とリスクマネジメント、建築地震防災

門内 輝行教授
人間生活環境学及び建築・都市設計の方法に関する研究

高橋 康夫教授
日本都市・建築史の研究

西山 峰広教授
コンクリート系建築構造物の耐震設計

銚井 修一教授
エネルギーの有効利用と快適な建築温熱環境の設計

高松 伸教授
建築設計過程の分析を通じた建築意匠学の研究

上谷 宏二教授
弾塑性構造物の臨界現象論と建築構造物の性能設計

加藤 直樹教授
建築計画、構造、環境の全般にわたる情報工学的、システム工学的技術に関する研究

金子 佳生教授
新素材を用いた次世代構造システムの機能創生と環境共生への適用

高田 光雄教授
建築計画学及び住まい・まちづくりに関する研究

高橋 大武教授
居住・行動空間の音環境設計に関する研究

竹脇 出教授
建築構造物-地盤連成系の逆問題型設計法、制振構造・極限地震動に関する研究

小林 正美教授
自然が災害によって教える人間らしい居住のあり方に関する研究

大崎 純准教授
建築システム最適化と大スパン構造物の設計

石田 泰一郎准教授
人間の視覚特性に基づいた建築視環境に関する研究

山岸 常人准教授
日本建築史及び歴史的建造物保存

河野 進准教授
コンクリート系構造物の耐震設計

原田 和典准教授
建築空間の火災安全設計

竹山 聖准教授
建築空間論及び居住形態論

荒木 慶一准教授
構造解析・構造材料・構造力学に関する研究

吹田 啓一郎准教授
鋼構造建築物の設計と接合システム、耐震補強技術の開発に関する研究

古阪 秀三准教授
建築プロジェクトのマネジメントシステムに関する研究

金多 隆准教授
建築生産システムとマネジメントに関する研究

上谷 芳昭准教授
環境共生型昼光照明設計法

伊勢 史郎准教授
アクティブ騒音制御、音環境制御及び音環境心理に関する研究

吉田 哲准教授
居住空間における環境心理学の研究

辻 聖晃准教授
粘性系のダンパーを用いた既存建築物の耐震補強

神吉 紀世子准教授
都市・農村計画、環境共生の地域づくり

田路 貴浩准教授
建築・都市デザインに関する建築論的研究

松下 大輔講師
人間行動に基づく建築設計方法の研究

中島 正愛教授
建物の地震時挙動の解明と震害の防御・軽減技術

河井 宏允教授
自然風の特徴を考慮した新しい建築構造物の耐風設計

田中 仁史教授
鉄筋コンクリート構造物の耐震設計法

田中 喙義教授
地震火災被害のリスク評価と防災対策

川瀬 博教授
都市居住空間の地震災害低減のための構造物の被害予測と耐震性向上策の提案

丸山 敬准教授
市街地における環境の解明

田村 修次准教授
地盤の不均一性評価および地盤

日高 桃子准教授
新素材・合成手法を応用した耐震構造・要素の開発

松島 信一准教授
震源と地盤の不均質性を考慮した地震時の揺れの評価とその都市防災への応用

物理工学科

榎木 哲夫教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 人間機械協調システムのデザインと知的意思決定支援

西脇 真二教授
機械理工学専攻・機械システム学コース
◎最適設計法
◎車両設計・生産工学

北條 正樹教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 先進複合材料の破壊における巨視微視相関メカニクス、バイオメカニクス

宮崎 則幸教授
機械理工学専攻・機械システム学コース 電子材料 / 電子デバイスの強度評価、計算固体力学

小森 悟 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
流体装置および環境中に見られる乱流輸送現象の流体工学的解明

木田 重雄 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
乱流による熱や物質の混合・輸送のメカニズムの解明

北村 隆行 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
小さな構造材料の破壊機構の解明と数値シミュレーション

牧野 俊郎 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
熱・ふく射輸送現象の解明と熱・ふく射応用計測

松久 寛 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎機械構造物の振動解析
◎振動および騒音の制御

松野 文俊 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
ロボティクス、機械システムの制御、レスキュー工学、ヒューマンインターフェイス、生物の運動知能の理解と機械システムによる実現

中部 主敬 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
熱物質移動現象の解明と制御ならびに熱流体応用計測

蓮尾 昌裕 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
レーザー光・近接場光を用いた光計測・分光法の開発

富田 直秀 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
荷重支持組織の再生、再建とその生体環境設計

井手 亜里 教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
粒子ビームによる超微細加工・分析

安達 泰治 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
生体組織・細胞の機能的適応のバイオメカニクスとその工学的応用

池田 徹 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
界面の破壊力学、電子実装における信頼性評価

花崎 秀史 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
流体中の熱・物質輸送現象の解明

松本 充弘 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
分子熱流体現象の解明

宇津野 秀夫 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎機械構造物の振動、騒音制御
◎連続体を伝わる波動現象の解析

横小路 泰義 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
ロボット工学、操縦型マニピュレータの解析と制御

小森 雅晴 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎メカニズム・機構・機械要素
◎超精密形状計測

黒瀬 良一 准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
流体装置内および環境中に見られる乱流輸送現象の解明

水山 元 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
◎生産システム工学
◎品質管理・品質工学

中西 弘明 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
学習・適応システムとシステム制御、自律型ロボットの設計とその安全・防災活動への応用

澄川 貴志 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
微小構造体の変形と破壊特性に関する実験及び力学解析

山本 彦彦 講師

機械理工学専攻・機械システム学コース
代多数媒体の高さのアラケロフ幾何的視点による研究とその応用

琵琶 志朗 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
非線形超音波計測によるエネルギー機器の機能・健全性評価

小寺 秀俊 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
マイクロシステムの加工と特性に関する研究

田畑 修 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
マイクロマシン、マイクロシステム、微小電気機械システム (MEMS) に関する研究

木村 健二 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
高速荷電粒子と固体表面の相互作用の解明とそれを用いた表面の新しい評価・分析法の開発

立花 明知 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
量子力学に基づく物性理論とシミュレーション及びそのエレクトロニクス材料設計への応用

松原 厚 教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
◎高速・高精度位置決め技術
◎加工プロセスのモニタリングと制御

楠見 明弘 教授

再生医科学研究所・機械システム学コース
1 分子ナノバイオテクノロジーの開発と細胞の構造形成・情報変換・神経回路研究への応用

神野 伊策 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
薄膜材料工学およびマイクロマシンデバイスに関する研究

土屋 智由 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
マイクロシステム、マイクロマシン用材料の機械的物性評価

鈴木 基史 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
◎ナノ構造薄膜の電気的、光学的物性に関する研究
◎イオンビームを用いた薄膜表面・界面の解析

茨木 創一 准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
◎加工機の制御と運動精度計測
◎加工プロセスの制御

玄 丞然 准教授

再生医科学研究所・機械システム学コース
◎有機高分子医療用材料の合成と物性
◎人工関節軟骨・人工関節のバイオメカニクス
◎細胞増殖制御と生体組織の保存

宮野 公樹 科学技術振興講師

マイクロエンジニアリング専攻
金属相変態現象における析出制御
◎バイオ・マイクロデバイス

桑島 修一郎 科学技術振興講師

マイクロエンジニアリング専攻 X線の散乱現象を利用した生体分子薄膜の構造評価とバイオセンシング応用

吉田 英生 教授

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース
熱エネルギーを主体とするシステムの開発

片井 修 教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎知能システムの構築と運用
◎メディア技術とヒューマン・インタフェース
◎創発システム論

熊本 博光 教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎人間中心システム
◎乗用車の運転支援
◎信頼性と安全性

杉江 俊治 教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎アドバント制御理論とその応用
◎メカトロニクス系の設計と制御

川上 浩司 准教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎人工物工学による設計支援
◎機械学習

西原 修 准教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎人間中心システム
◎動力学解析によるパーチャル・プロトタイプング

岩井 裕 准教授

航空宇宙工学専攻・機械システム学コース
熱機器における熱移動現象の解明とその予測および制御

石川 将人 講師

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎非線形制御理論
◎非ホロノミックシステムの制御
◎ハイブリッドシステムの制御

稲室 隆二 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
複雑混相流体力学の基礎理論とその応用

泉田 啓 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
力学的理解と生体の運動知能理解に基づく航空宇宙システムの知能化制御とシステム設計

永田 雅人 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
流れの非線形安定性に関する研究と非線形システムにおける解の分岐

斧 高一 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
電離気体および反応性気体の力学と物性に関する実験的研究とその航空宇宙工学への応用

市川 朗 教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
システム制御理論とその航空宇宙工学への応用

大和田 拓 准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
分子気体力学の理論的研究

幸田 武久 准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
システムの信頼性および安全性

江利口 浩二 准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
プラズマと固体表面・界面との反応機構に関する研究と航空宇宙工学への応用

杉元 宏 講師

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
微視的流体力学の理論的研究

青木 一生 教授

機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース
希薄気体力学の理論的研究とその航空宇宙工学への応用

高田 滋 准教授

機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース
非平衡気体力学の理論的研究

福山 淳 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎プラズマ物理学
◎核融合プラズマ工学
◎プラズマ応用

伊藤 秋男 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎イオンビーム衝突現象の基礎と原子スケール物質科学
◎クラスター粒子を含む量子線ビームの高度利用研究
◎量子線計測

山本 克治 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎物理学の基礎理論
◎光と原子の量子状態操作と量子情報通信
◎素粒子物理学

功刀 資彰 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎数値熱流体力学
◎ナノ・マイクロ熱流体工学
◎核融合炉熱工学

神野 郁夫 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎放射線物理学
◎放射線検出器と量子励起現象

高木 郁二 教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎核融合炉材料
◎軽水炉材料
◎水素エネルギー材料

村上 定義 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎プラズマ物理学
◎核融合プラズマ工学

土田 秀次 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎量子ビーム照射環境下で起こる物理過程の解明
◎高速イオンと物質との衝突反応素過程の解明

松尾 二郎 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎量子ビームと物質との相互作用
◎量子ビームによる新材料創製技術
◎反応ダイナミクス

田崎 誠司 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎低速中性子光学
◎中性子スピン干渉現象の研究と応用

佐々木 隆之 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎アクチノイドの分離分析化学
◎放射性医薬物の処理処分

柴田 裕実 准教授

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎高速クラスターイオンと物質との相互作用
◎超高速微粒子生成と宇宙塵計測
◎マイクロイオンビームに依る微量分析

河原 全作 講師

原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎エネルギー機器の熱流体工学
◎伝熱工学
◎混相流の物理と工学

瀬木 利夫 講師
原子核工学専攻・原子核工学サブコース
◎量子ビームの生成と制御
◎量子ビームによる高精度ナノ加工・ナノ材料創成

松原 英一郎 教授
材料工学専攻・材料科学コース
構造解析に基づく金属ガラス転移解明, 金属ナノ粒子製造, 鉛フリーはんだ設計, 磁性薄膜自己組織化等を研究

辻 伸泰 教授
材料工学専攻・材料科学コース
構造用金属材料のナノ・ミクロ組織の形成と力学特性の発現のメカニズム

乾 晴行 教授
材料工学専攻・材料科学コース
金属間化合物の格子欠陥と物性

河合 潤 教授
材料工学専攻・材料科学コース
材料の構造, 物性, 電子状態, 化学状態, 濃度等に関する物質情報を計測したり, 環境物質を分析するための新手法の開発

杉村 博之 教授
材料工学専攻・材料科学コース
物質の集積化と機能構築

田中 功 教授
材料工学専攻・材料科学コース
セラミックス材料の量子材料設計

酒井 明 教授
材料工学専攻・材料科学コース
ナノテクノロジー, 特にナノワイヤー, ナノ接点の電子伝導の研究

落合 庄治郎 教授
材料工学専攻・材料科学コース
複合材料の機能発現メカニズムと最適構造デザイン

中村 裕之 教授
材料工学専攻・材料科学コース
金属・化合物の磁性, 強相関電子系の低温量子物性

白井 泰治 教授
材料工学専攻・材料科学コース
陽電子 (ポジトロン) ビームを用いた物質内部の局所原子配列の解明, 高機能材料開発, 新しい陽電子分析機器の開発

田中 克志 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
単結晶弾性率測定法の開発と新材料の弾性率測定, 外部応力・磁場による組織制御とそのデバイスへの応用

伊藤 和博 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
薄膜材料の作製と物性

邑瀬 邦明 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
電気化学的もしくは化学的手法による金属, 合金, および化合物薄膜の作製プロセスとその機能評価

松永 克志 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
セラミック材料における格子欠陥の計算設計

奥田 浩司 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
多相・複合化材料の構造解析と機能最適化デザイン

黒川 修 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
メソスコピック電子現象の研究

市坪 哲 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
金属ガラスのガラス転移・緩和状態, ナノ粒子垂直磁化膜の作成, 超音波物性測定

宇田 哲也 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
新しいタイプの燃料電池の研究, レアメタルの製造プロセス

岸田 恭輔 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
結晶性材料の格子欠陥設計による物性制御

田畑 吉計 准教授
材料工学専攻・材料科学コース
中性子散乱実験による物性研究. 金属間化合物の磁気的性質に対する基礎的研究

石原 慶一 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
エネルギー・環境材料, エネルギー・環境教育, エネルギー環境負荷評価

奥村 英之 准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
環境材料, 機能性材料, 環境教育, エネルギー環境負荷評価

萩原 理加 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
無機合成化学, 物理化学, 電気化学

岸本 泰明 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
核融合プラズマ乱流輸送・高強度レーザーと物質相互作用に関する理論・シミュレーション, 相対論プラズマ, 高エネルギー密度科学

野平 俊之 准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
電気化学的エネルギー変換および材料創製

塩路 昌宏 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
熱機関における燃焼現象の解明とその制御

石山 拓二 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
内燃機関の燃焼と排気

川那 辺洋 准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
乱流燃焼の光学計測および数値解析

松本 英治 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
連続体中の波動伝ばと電磁場下の材料の挙動

星出 敏彦 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
セラミックス系材料の強度と金属疲労に関する実験と数値シミュレーション, セラミックス薄膜の創製とその機械的特性の評価

今谷 勝次 准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
高温非弾性変形と材料加工プロセスの解析

平藤 哲司 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
電気化学を基礎とする機能素材プロセスング

岩瀬 正則 教授
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
鉄鋼生産をはじめとするエネルギー多量消費型材料生産のプロセスに関する熱化学とプロセス物理解析

藤原 弘康 准教授
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース
鉄鋼精錬の熱力学およびエネルギー解析

電気電子工学科

土居 伸二 教授
非線形システム, 生命システム, 脳神経系・心臓の電気生理学・医学, システム論的予測医学

古谷 栄光 准教授
システム・制御理論の医療への応用, 患者の生理状態推定法, むだ時間制御系の理論

松尾 哲司 准教授
電磁気解析, 計算磁気学

雨宮 尚之 教授
超伝導体の電磁現象, 超伝導のエネルギー応用, 超伝導の医療・バイオ応用

中村 武恒 准教授
高温超伝導パワーループ, 新磁界応用, 先進電気機器

小林 哲生 教授
脳機能イメージング, 複合医学工, マンマシンインターフェース, 量子生体計測, 生体信号処理

濱田 昌司 准教授
生体の関与する電界・磁界・電磁界の解析, 脳磁計測用逆計算手法

引原 隆士 教授
非線形力学の工学的応用, MEMS, 電気エネルギーネットワーク, パワーエレクトロニクス

和田 修己 教授
電気回路モデリング, デジタル EMC 実装工学, 電磁波工学

久門 尚史 准教授
非線形回路システム, 分布定数回路システム, アルゴリズムのハードウェア化

萩原 朋道 教授
ディジタル/サンプリング制御理論, 2自由度最適制御系の理論と応用, 動的システム理論

蛸原 義雄 講師
数値最適化手法を用いた線形制御系の解析・設計

大澤 靖治 教授
電力システムの安定度解析ならびに安定化制御

山本 修 講師
高電圧絶縁, 放電現象の研究

鈴木 実 教授
高温超伝導物質とジョセフソン効果の研究, 巨大磁気抵抗材料, 複合酸化物の電子応用

掛谷 一弘 准教授
超伝導・磁性などの量子論的創発現象を用いた革新的電子材料の研究

後藤 康仁 准教授
電界放出現象の解析とその応用, PVD による薄膜形成技術開発, イオンビーム分析

酒井 道 准教授
マイクロプラズマの生成法の研究, マイクロプラズマによる電磁波制御の研究

木本 恒暢 教授
ワイドギャップ半導体の結晶成長, 物性制御とデバイス応用

須田 淳 准教授
ワイドギャップ半導体ヘテロエピタキシーと機能デバイスへの応用

松重 和美 教授
分子ナノエレクトロニクス, 有機電子材料の構造制御と電子物性, ナノテクノロジー, 電気自動車

山田 啓文 准教授
ナノスケール構造の光・電子物性とその応用

川上 養一 教授
原子レベルで制御された低次元量子構造において発現する新しい光物性の解明と探索

船戸 充 准教授
光材料の育成と物性探索

野田 進 教授
光半導体・光結晶, 超高速光エレクトロニクス, 情報通信・ネットワーク用光デバイス

浅野 卓 准教授
半導体光デバイスの研究

北野 正雄 教授
量子エレクトロニクス, 量子光学, 電磁メタマテリアル

杉山 和彦 准教授
量子エレクトロニクス, レーザー原子時計, 光周波数シンセサイザ, 量子計算機

青木 学 講師
ナノスケール材料の創製, 評価に関するシミュレーション技術

高岡 義寛 教授
クラスターイオン, ナノプロセス, 表面反応, 高機能材料創製の研究

藤田 静雄 教授
量子機能薄膜材料の育成と物性探索, 有機エレクトロニクスの材料

中村 敏浩 講師
電子材料プロセスの分光診断と反応解析

黒橋 禎夫 教授
自然言語処理, 知識情報処理

松山 隆司 教授
ディジタル画像・映像の処理, 認識, 表示, 生成, 編集のためのソフトウェアおよびハードウェアの研究

川嶋 宏彰 講師
パターン認識, ヒューマンコミュニケーション, ハイブリッドダイナミカルシステム

吉田 進 教授
高信頼度ディジタル通信技術, 無線情報ネットワーク

村田 英一 准教授
ディジタル無線通信技術, 無線通信システムの研究

守倉 正博 教授
伝送信号処理技術を用いた無線 LAN, 無線アクセスシステム構成技術の研究

田野 哲 准教授
適応信号処理, 伝送路符号化, ソフトウェア無線技術を駆使した次世代無線通信システムの研究

高橋 達郎 教授
マルチメディアネットワークアーキテクチャ, プロトコル, システム構成技術

朝香 卓也 准教授
情報ネットワークの制御・設計・管理技術

佐藤 高史 教授
大規模集積回路の設計技術, 設計自動化技術

越智 裕之 准教授
再構成アーキテクチャ, マルチメディア機器向け VLSI 技術

小野寺 秀俊 教授
VLSIの設計手法とCAD技術

佐藤 亨 教授
高分解能レーダーイメージング技術

乗松 誠司 准教授
光通信, 特に光ファイバ通信に関する研究

石井 信 教授
生命システム, 計算論的神経科学, システム神経生物学, 強化学習

大羽 成征 講師
多変量データの確率的モデリング, システム要素の統計学, ハイオインフォマティクス

松田 哲也 教授
医用画像診断法および生体物理計測法の開発

下田 宏 准教授
エネルギーシステムを支える情報技術とヒューマンインタフェース技術

中村 祐司 准教授
核融合プラズマの閉じ込め及び電磁流体力学的性質に関するコンピュータ数値解析・シミュレーション

野澤 博 教授
強誘電体機能メモリ, 断熱型CMOS論理回路, SPICEシミュレーション

白井 康之 教授
先進エネルギーシステム, 超伝導現象のエネルギー応用, 極低温液体の熱流体力学

小山田 耕二 教授
情報可視化に関する研究およびボリュームコミュニケーション分野への応用, パラメータ最適化に関する研究および電子機器製品設計や生体シミュレーションへの応用

中村 裕一 教授
ネットワークを介したコミュニケーションシステム, 画像・映像メディアの撮影・認識・編集

山川 宏 教授
宇宙環境探査工学, 太陽エネルギーを用いた宇宙システム工学, 宇宙機の軌道ダイナミクス

小嶋 浩嗣 准教授
科学衛星による宇宙プラズマ中でのプラズマ波動の探査

橋本 弘蔵 教授
宇宙太陽発電所, マイクロ波電力伝送, 科学衛星による波動観測, 宇宙プラズマ中の波動

篠原 真毅 准教授
マイクロ波エネルギー伝送, 宇宙太陽発電所

山本 衛 教授
電離圏イレギュラリティの研究, レーダーによる大気観測方式に関する研究

橋口 浩之 准教授
各種大気レーダーの開発とそれを用いた気象現象のリモートセンシングに関する研究

津田 敏隆 教授
電波・光・音波を用いた地球大気計測技術の開発と大気環境科学への応用

大村 善治 教授
宇宙プラズマ中の非線形現象の計算機実験と宇宙電磁環境工学への応用

水内 亨 教授
高温プラズマ周辺領域の物性・制御技術の研究

南 貴司 准教授
高温プラズマのレーザー計測と輸送物理の研究

佐野 史道 教授
複合複雑系としての高温プラズマ中の協同現象の機構解明

花谷 清 准教授
トラスプラズマにおける輸送と加熱の計算機シミュレーション

岡田 浩之 准教授
高温プラズマの生成および閉じ込め

長崎 百伸 教授
高周波を用いたプラズマの生成と加熱に関する研究, ミリ波伝送システムの開発

増田 開 准教授
荷電粒子ビーム・電磁界相互作用を用いた高輝度電子ビーム源, 自由電子レーザー, ビーム集束核融合の研究

情報学科

佐藤 雅彦 教授
構成的プログラミング, コンピュータソフトウェア

山本 章博 教授
人工知能基礎論, 帰納論理, 機械学習, 知識発見

西田 豊明 教授
会話情報学, 社会知のデザイン, 人工知能

奥乃 博 教授
人工知能, 音環境理解, 音楽情景分析, ロボット聴覚

吉川 正俊 教授
データベース, 情報検索, 社会情報学

田中 克己 教授
Web情報検索, マルチメディア情報システム, データベース

石田 亨 教授
人工知能, コミュニケーション, 社会情報システム

船越 満明 教授
非線形力学, 流体力学, 力学システムの力オス

西村 直志 教授
計算力学, 応用力学, 計算工学

山本 裕 教授
システム・制御理論, デジタルシステムと信号処理, システムモデリング

中村 佳正 教授
可積分系, 計算数学, アルゴリズム, 組合せ論

永持 仁 教授
離散最適化問題に対するアルゴリズム理論の研究および実用問題への応用

福岡 雅夫 教授
計画工学, システム最適化の理論とアルゴリズム

太田 快人 教授
システム制御理論, 関数解析手法に基づく制御系設計解析, 通信路を介した制御

宗像 豊哲 教授
統計物理学, 非線形動力学, 計算機シミュレーション

岩井 敏洋 教授
力学系の微分幾何学的研究

田中 利幸 教授
確率モデルに基づく情報処理, 情報通信理論, 情報統計力学, 機械学習

酒井 英昭 教授
適応信号処理と通信, 雑音制御への応用

高橋 豊 教授
システムのモデル化と性能解析, 情報システム, 待ち行列理論

岩間 一雄 教授
アルゴリズムと計算複雑性の理論

湯淺 太一 教授
プログラミング言語と処理系

美濃 導彦 教授
マルチメディア情報処理, 3次元モデル中心処理, 知的映像メディア処理, 環境メディア, スマートクラスルーム, e-Learning

稲垣 耕作 准教授
基礎情報学・情報物理学・情報文明学の研究

五十嵐 淳 准教授
プログラミング言語の基礎理論

角 康之 准教授
知識処理システム, ヒューマンインタフェース, インタラクティブシステム

尾形 哲也 准教授
ヒューマンロボットインタラクション, ロボット認知学習モデル

田島 敬史 准教授
データベースシステム, 情報検索

松原 繁夫 准教授
情報経済学, 人工知能

田中 泰明 准教授
確率力学系の理論とそのリスク解析への応用, 効率化シミュレーション

藤岡 久也 准教授
サンプル値制御, ロバスト制御, 数値最適化に基づく制御系設計解析

山下 信雄 准教授
数理計画, 非線形最適化に対するアルゴリズムの開発とその応用

鷹羽 淨嗣 准教授
ロバスト制御, 最適制御およびフィルタリング

五十嵐 顕人 准教授
複雑ネットワークと情報通信, 情報物理学

谷村 省吾 准教授
量子論, 量子情報科学, 力学系とゲージ理論

林 和則 准教授
通信システムのための信号処理

笠原 正治 准教授
情報システム理論, ネットワークシステム, 待ち行列理論とその応用

伊藤 大雄 准教授
グラフ・ネットワーク理論とアルゴリズム, 離散幾何学, 組合せゲーム・パズル

八杉 昌宏 准教授
プログラミング言語, 並列処理

棕木 雅之 准教授
映像メディア処理, コンピュータビジョン

宮崎 修次 講師
複雑力学系や複雑ネットワークの数理解析

青柳 富誌生 講師
脳の情報処理のモデルの構成と解析, 非線形力学, 統計物理学

辻本 諭 講師
離散可積分系の理論とその応用

趙 亮 講師
ネットワークの最適化および応用

工業化学科

松原 誠二郎 教授
材料化学専攻 有機反応化学, 立体化学, 有機合成化学, 有機金属化学, 有機材料化学

平尾 一之 教授
材料化学専攻 無機材料化学, 非晶質ガラス科学, 無機構造化学, セラミクス工学

三浦 清貴 准教授
材料化学専攻 無機材料化学, 無機材料物性, レーザー反応科学, 微細構造制御

田中 勝久 教授
材料化学専攻 無機固体化学, 無機材料科学, 非線形光学, 酸化物磁性体

藤田 晃司 准教授
材料化学専攻 無機固体化学, 無機材料化学, 光機能性材料

大罵 幸一郎 教授
材料化学専攻 有機反応化学, 立体化学, 有機合成化学, 有機金属化学, 有機材料化学

檜山 為次郎 教授
材料化学専攻 天然物有機化学, ヘテロ元素化学, 有機合成, 有機金属, 触媒反応, 有機材料

清水 正毅 准教授
材料化学専攻 有機合成化学, 有機金属化学, 有機ケイ素化学, 有機フッ素化学, 有機材料化学

大塚 浩二 教授
材料化学専攻 材料解析化学, 分離分析化学, マイクロ/ナノ分析, μ -TAS

北川 文彦 講師
材料化学専攻 材料解析化学, 分離分析化学, マイクロ/ナノ分析, μ -TAS

瀧川 敏算 教授
材料化学専攻 高分子ダイナミクス, 高分子ゲルの物理化学, 不均質系のレオロジー

浦山 健治 准教授
材料化学専攻 高分子ゲルの物理化学, 高分子薄膜の電気力学物性, エラストマーの力学

木村 俊作 教授
材料化学専攻 機能材料, 高分子超分子化学, ペプチド工学

小山 宗孝 准教授
材料化学専攻 ナノ材料化学, 電子移動化学, 電気分析化学, 分光電気化学

西本 清一 教授
物質エネルギー化学専攻 励起状態の物理化学, 分子イメージング, ケミカルバイオロジー

垣内 隆 教授
物質エネルギー化学専攻 界面の物理化学, 溶液系の界面物性, 電気分析化学, 機能性材料化学

井上 正志 教授
物質エネルギー化学専攻 無機材料の新規合成法とその触媒機能

江口 浩一 教授
物質エネルギー化学専攻 環境およびエネルギーに関連した固体触媒の開発と基礎物性

大江 浩一 教授
物質エネルギー化学専攻 有機活性種化学, 遷移金属錯体を用いる触媒反応の開発

辻 康之 教授
物質エネルギー化学専攻 新規分子触媒の開発とその応用, 触媒反応機構の解明

安部 武志 教授
物質エネルギー化学専攻 電極, 電解質材料のインターカレーションケミストリー

柴田 誠一 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性同位体の生成と利用に関する放射化学的研究

年光 昭夫 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 有機ヘテロ元素化学を利用する材料合成

小澤 文幸 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 高効率遷移金属錯体触媒の開発と機能物質合成

三浦 智也 講師
合成・生物化学専攻 有機金属化学, 有機合成化学

宮原 稔 教授
化学工学専攻 界面制御工学, ナノ空間工学, ナノ秩序構造形成

三浦 孝一 教授
化学工学専攻 反応工学, 石炭転換工学, 炭素材料

田門 肇 教授
化学工学専攻 分離工学, 吸着工学, 乾燥工学

大嶋 正裕 教授
化学工学専攻 材料プロセス工学, 高分子成形加工, プロセス制御

長谷部 伸治 教授
化学工学専攻 化学プロセスの最適化・設計・操作, 生産管理

前 一廣 教授
化学工学専攻 環境プロセス工学, マイクロリアクター開発, バイオマス転換工学

山本 量一 教授
化学工学専攻 複雑流体・ソフトマターの流動現象に関する基礎研究, 計算機シミュレーションを用いた物性研究

松坂 修二 教授
化学工学専攻 協力講座 粉体工学, エアロゾル工学, 静電気工学

河瀬 元明 准教授
化学工学専攻 反応工学, 材料反応工学, 反応装置

佐野 紀彰 准教授
化学工学専攻 分離工学, ナノ材料の合成およびその応用開発, プラズマ応用, 環境浄化技術

加納 学 准教授
化学工学専攻 統計のプロセス・品質管理, プロセス制御, 生体情報解析

牧 奉輔 准教授
化学工学専攻 環境プロセス工学, マイクロリアクター開発

谷口 貴志 准教授
化学工学専攻 ソフトマターの変形流動現象の研究, ソフトマター数値計算科学

中川 浩行 准教授
化学工学専攻 協力講座 環境安全工学, 難処理有害物の効率的処理方法の開発

新戸 浩幸 講師
化学工学専攻 ソフト界面, 生細胞・微粒子間の相互作用, 計算機シミュレーション

長嶺 信輔 講師
化学工学専攻 液相内秩序構造, 界面を鋳型にしたナノ材料, 微粒子合成

八尾 健 教授
エネルギー基礎科学専攻 結晶化学, 材料電気化学, リチウム電池・燃料電池の材料開発, 生命適合材料, 医用セラミックスの開発, 無機材料化学

日比野 光宏 准教授
エネルギー基礎科学専攻 無機固体化学, 固体電気化学, 種々の固体内におけるイオン輸送現象解明とエネルギーデバイス材料の開発

尾形 幸生 教授
エネルギー理工学研究所・協力講座 半導体の電気化学と表面改質および太陽光などの光エネルギー有効利用への応用

作花 哲夫 准教授
エネルギー理工学研究所・協力講座 物質界面層における光化学反応および分光学的研究

金谷 利治 教授
高分子化学専攻 協力講座 高分子高次構造制御を旨とした 1) 高分子結晶化過程の解明 2) 高分子ガラス転移機構の解明 3) 高分子ゲルの生成機構と階層構造

山子 茂 教授
高分子化学専攻 協力講座 新しい高分子合成反応および有機合成反応の開発

岩田 博夫 教授
高分子化学専攻 協力講座 高分子材料の医療への応用と細胞・組織工学の研究

田畑 泰彦 教授
高分子化学専攻 協力講座 生体材料, 再生医学, ドラッグデリバリーシステム (DDS), 幹細胞工学

辻井 敬亘 教授
高分子化学専攻 協力講座 高分子表面設計, 高分子超薄膜, 高分子ブラシの合成と物性

辻 正樹 准教授
高分子化学専攻 協力講座 結晶性高分子の固体の構造とその形成過程

西田 幸次 准教授
高分子化学専攻 協力講座 高分子電解質溶液の構造, 高分子の結晶化

加藤 功一 准教授
高分子化学専攻 協力講座 生体材料, バイオエンジニアリング

青木 裕之 准教授
高分子物性, 近接場光学, 単一分子分光, 生体イメージング

吉田 潤一 教授
合成・生物化学専攻 新しい有機合成法の開発, 機能性物質および生物活性物質の合成

北川 進 教授
合成・生物化学専攻 錯体化学, 多重機能化学, ナノポーラス錯体マテリアル

村上 正浩 教授
合成・生物化学専攻 有機金属化学および有機合成化学

森 泰生 教授
合成・生物化学専攻 細胞生理科学, 遺伝子工学, 分子神経生物学, タンパク質科学, 生体分子機能測定

杉野目 道紀 教授
合成・生物化学専攻 精密有機合成を旨とした新反応開拓, 新規高分子材料を指向した精密重合法開拓

浜地 格 教授
合成・生物化学専攻 生命分子化学, 生物有機・無機化学, 細胞内有機化学, 超分子バイオマテリアル

松田 建児 教授
合成・生物化学専攻 物理有機化学, 有機機能材料化学, 有機ナノテクノロジー

跡見 晴幸 教授
合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生化学・分子生物学

世良 貴史 准教授
合成・生物化学専攻 生体分子のデザイン, バイオテクノロジーの開発, 生命現象の人為的操作および解明

大場 正昭 准教授
合成・生物化学専攻 金属錯体, 錯体磁性体の誘電性・磁気光学特性, 多孔性磁性体

王子田 彰夫 講師
合成・生物化学専攻 生体関連化学, 分子認識化学, 有機合成化学

長谷川 淳也 講師
合成・生物化学専攻 量子化学理論の開発, 光合成・視覚・生物発光の理論解析

俣野 善博 准教授
分子工学専攻 高原子価ビスマス化合物の化学とヘテロ原子を含む機能性材料の化学

川崎 三津夫 准教授
分子工学専攻 感光材料の光物理化学と表面化学

増淵 雄一 准教授
分子工学専攻 協力講座 高分子計算科学, 高分子ダイナミクス

梶 弘典 准教授
分子工学専攻 協力講座 非晶質材料の構造と発光特性, 特に有機 EL, 新しい固体 NMR 法の開発. 乱れた構造をもつ高分子材料の構造およびダイナミクス

佐藤 徹 准教授
分子工学専攻 協力講座 物性理論化学と炭素材料の電子物性解析

橋本 訓 講師
分子工学専攻 光化学反応, ラジカル反応, 大気化学

澤本 光男 教授
高分子化学専攻 高分子精密合成, カチオン重合, ラジカル重合

中條 善樹 教授
高分子化学専攻 新しい高分子合成反応の開拓, インテリジェント高分子の創成, 高分子ナノハイブリッド材料

吉崎 武尚 教授
高分子化学専攻 高分子溶液学, 高分子ダイナミクス, 高分子統計力学

田中 文彦 教授
高分子化学専攻 高分子基礎物理化学, 高分子理論物性学, 高分子の会合とゲル化に関する理論・シミュレーション

伊藤 紳三郎 教授
高分子化学専攻 高分子光物理・光化学, 機能性高分子, 高分子構造, 高分子超薄膜

赤木 和夫 教授
高分子化学専攻 導電性・発光性・液晶性高分子の合成と性質, 不斉液晶場での階層構造盛業, キラル転写・反転による円偏光性発現

長谷川 博一 教授
高分子化学専攻 高分子形態学, ブロックコポリマー・ポリマーブレンド・高分子液晶の構造と物性, エレクトロントモグラフィ

松岡 秀樹 准教授
高分子化学専攻 高分子界面化学, 両親媒性高分子の自己組織化, 高分子微粒子

三田 文雄 准教授
高分子化学専攻 高分子合成, アミノ酸ポリマー

中村 洋 准教授
高分子化学専攻 分枝高分子溶液物性

大北 英生 准教授
高分子化学専攻 高分子系の光物理・光化学, 高分子の光・電子物性, 高分子超薄膜

古賀 毅 准教授
高分子化学専攻 高分子基礎物理化学, 高分子の構造形成とレオロジーに関する理論・シミュレーション

竹中 幹人 講師
高分子化学専攻 高分子アロイの物理化学, ソフトマター, 自己秩序化によるボトムアップ型ナノ材料の構築

森崎 泰弘 講師
高分子化学専攻 高分子合成化学, 構造有機化学, 有機金属化学

長 昌史 講師
高分子化学専攻 高分子溶液学, 水溶性高分子の溶液物性

中村 正治 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 元素科学を基盤とした資源活用型有機合成反応の開発

村田 靖次郎 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 機能性π共役系化合物の合成ならびにフラレン化学

近藤 輝幸 教授
新規有機金属錯体の合成とその触媒機能の開発

田邊 一仁 准教授
物質エネルギー化学専攻 ゲノム化学・分子イメージング・機能性ナノ材料

寺尾 潤 准教授
物質エネルギー化学専攻 新規π共役系分子の合成とその電子デバイスへの応用

沖 雄一 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性エアロゾルの生成機構と性質の解明

岡崎 雅明 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 新規遷移金属クラスターの合成と機能発現

高谷 光 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 金属結合型人工エプシドの開発と機能開拓

高宮 幸一 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性同位体を用いた分析手法の開発

和田 健司 講師
物質エネルギー化学専攻 炭素資源変換に用いる新規触媒材料の開発

松井 敏明 講師
物質エネルギー化学専攻 固体イオニクス, 固体電気化学, 無機固体化学

白川 昌宏 教授
分子工学専攻 生体高分子の立体構造と生体計測手法に関する研究

榊 茂好 教授
分子工学専攻 化学反応の理論研究, 複合電子系の量子化学研究

田中 一義 教授
分子工学専攻 分子ナノ工学, 量子機能材料の設計と電子物性解析

田中 庸裕 教授
分子工学専攻 エアロビク酸化触媒系の開発, 光触媒化学, 触媒構造・機能・設計

今堀 博 教授
分子工学専攻 人工光合成系の構築, 有機太陽電池の開発

川崎 昌博 教授
分子工学専攻 化学反応ダイナミクス, 大気環境化学反応

横尾 俊信 教授
分子工学専攻 協力講座 機能性無機材料の創製, 有機-無機ハイブリッド低温溶融ガラスの構造, 機能設計

渡辺 宏 教授
分子工学専攻 協力講座 高分子ダイナミクス, 不均質物質の変形, 流動とダイナミクス

枋尾 豪人 准教授
分子工学専攻 タンパク質の立体構造・運動性・細胞内機能の研究

佐藤 啓文 准教授
分子工学専攻 溶液内分子の量子化学・統計力学と化学反応理論

伊藤 彰浩 准教授
分子工学専攻 量子機能材料, 分子磁性, 物理有機化学

宍戸 哲也 准教授
分子工学専攻 固体酸塩基触媒の化学, 選択酸化触媒, 固体触媒の構造・機能・設計

農学部

資源生物科学科

天野 洋教授

天敵類の生態学的研究と持続的農業への応用

荒木 崇教授

高等植物の環境応答の分子機構の研究。特に、成長転換（花成）の制御機構の解明

今井 裕教授

生殖細胞および体細胞の分化・脱分化機構の解明と個体生産への応用

稲村 達也教授

持続的農業システムのための耕地生態管理に関する研究

祝前 博明教授

DNA マーカー・量的形質遺伝子の情報を取り込んだ能力評価法の開発と資源動物の育種改良への応用

遠藤 隆教授

コムギにおける異種染色体断片導入系統の育成と分子細胞遺伝学的研究

奥野 哲郎教授

植物ウイルスの増殖機構の研究

北島 宣教授

有用植物の生産・管理に関する生理・生態学的研究

久米 新一教授

動物の環境生理に関する研究

佐久間 正幸教授

昆虫の感覚と空間定行動の生理学的研究

左子 芳彦教授

海洋熱水環境に生息する超好熱菌の探索と遺伝子資源の研究開発

白岩 立彦教授

作物の収量形成の生理・生態的機構と増収技術

谷坂 隆俊教授

有用遺伝子資源の開発と同一に関する育種学的研究

富永 達教授

雑草の生活史特性に関する生態・遺伝学的研究

土井 元章教授

野菜・花卉の環境応答に基づく発育制御と品質管理

中坊 徹次教授

魚の進化系統分類学。形態と分子により魚の系統関係を研究、ときに新種の記載を行う。

縄田 栄治教授

熱帯作物の生態生理、熱帯における農業システム動態

平田 孝教授

海洋生物資源の有効利用、機能性物質の探索、機能発現機構の解明に関する研究。

舟川 晋也教授

熱帯および半乾燥地土壌生態系における物質動態と土地利用に関する研究

廣岡 博之教授

牛肉生産に関するシステム分析と熱帯地域への応用

藤崎 憲治教授

昆虫類の生態、とりわけ生活史戦略に関する研究

藤原 建紀教授

沿岸の海洋環境ならびに物質・生物輸送に関する研究

二井 一禎教授

森林における微生物と樹木、昆虫の相互関係に関する生理・生態学的研究

松井 徹教授

消化管内ミネラルの化学形態とその利用率

松村 康生教授

食品およびその加工素材の品質評価制御

守屋 和幸教授

GPS 首輪を用いた林内放牧牛の移動履歴の収集と解析

米森 敬三教授

果実生長の制御要因解析と果樹の系統分類

荒井 修亮准教授

バイオテレメトリーによる水圏生物資源情報の収集と解析

大崎 直太准教授

植食性昆虫の個体群生態学

奥本 裕准教授

イネの出穂期に関する遺伝子分析

刑部 正博准教授

ハダニ類の個体群構造と種間相互作用について

笠井 亮秀准教授

海洋環境と生態系に関する研究

河原 太八准教授

栽培植物の進化と植物遺伝資源の多様性解析に関する研究

北川 政幸准教授

環境調和型肉用牛飼養に関する研究

熊谷 元准教授

・熱帯地域における家畜
・飼料生産技術開発
・未利用資源の飼料化に関する研究

菅原 達也准教授

海洋生物の機能性脂質に関する研究

田尾 龍太郎准教授

果樹類の形質転換及び受粉開花生理

高野 義孝准教授

植物と病原糸状菌の相互作用の背景にある分子メカニズムの研究

田川 正朋准教授

魚卵の卵から稚魚まで起こる変態や回遊等の機構を主にホルモンから研究している。

竹田 晋也准教授

森林資源学 / 東南アジアモンスーン林の利用と保全

田中 千尋准教授

糸状菌類の生理・生態遺伝学的研究

田中 朋之准教授

イネ種子登熟過程の解析と生産性・品質の改善

豊原 治彦准教授

海洋生物機能の活用に関する研究

中崎 鉄也准教授

イネの活性型トランスポゾン mPing の転移誘発機構の解明

林 由佳子准教授

口腔内での味の受容メカニズムの解明とその応用

樋口 浩和准教授

熱帯地域のさまざまな生態環境条件下における作物と環境の農業生態学的研究

舟場 正幸准教授

間葉系細胞の増殖と分化過程を制御する分子機構

細川 宗孝准教授

蔬菜・花卉の有用遺伝子の探索と利用

丸山 伸之准教授

種子貯蔵タンパク質の細胞内輸送機構の解明と分子農業への応用

三瀬 和之准教授

植物ウイルスの感染・増殖機構の研究

南 直治郎准教授

哺乳動物の初期発生と遺伝子発現に関する研究

宮下 直彦准教授

イネ属植物及びシロイヌナズナとハタザオ属植物の分子集団遺伝子学研究

山田 宜永准教授

量的形質原因遺伝子の同一に関する研究

山田 雅保准教授

哺乳動物胚の発生と分化

吉田 天土准教授

ラン藻に感染するウイルスの分子性状解析を通じて、新たな水環境保全のため基盤構築

三浦 励一講師

アフリカ半乾燥地の雑穀農業における雑草の生態と進化

汪 光照講師

除草剤抵抗性機構の解明およびその遺伝子変異の迅速解析法の開発

応用生命科学科

植田 和光教授

健康な体をまもる ABC 蛋白質：脂質トランスポーターの分子メカニズムの解明

植田 充美教授

ゲノム情報の解析による新しい細胞分子生物学の展開とその応用

喜多 恵子教授

微生物の有用酵素に関する構造・機能相関の解析と分子進化

加納 健司教授

酵素触媒電子移動反応の基礎と応用

河内 孝之教授

植物光環境応答の分子遺伝学的研究

阪井 康能教授

微生物の細胞機能を利用した制御発酵学

佐藤 文彦教授

植物細胞の機能分化の分子細胞生物学と分子育種

西田 律夫教授

昆虫生理活性物質の化学生態学的研究

間藤 徹教授

高等植物における無機元素の生理作用に関する研究

三上 文三教授

食品タンパク質・食品関連酵素の X 線結晶構造解析及び新機能設計

宮川 恒教授

植物および菌類の二次代謝に関する化学

三芳 秀人教授

呼吸鎖電子伝達系系に作用する生理活性物質のデザイン合成と作用機構研究

井上 善晴准教授

生物の環境ストレス応答機構に関する分子細胞生物学的研究

遠藤 剛准教授

光合成電子伝達系を中心とした葉緑体機能の環境応答機構の解明

片岡 道彦准教授

微生物の新機能探索、開発と物質生産への応用

木岡 紀幸准教授

動物細胞の運動、形態の制御に関する研究

黒田 浩一准教授

環境調和型の細胞分子育種と細胞内情報伝達機構に関する研究

小林 優准教授

細胞壁ペクチンの機能と生合成機構

白井 理准教授

生体膜及び模擬膜を介したイオン輸送の物理化学

中川 好秋准教授

昆虫成育制御剤の構造活性相関と作用機構研究

福澤 秀哉准教授

光合成生物の環境順化（二酸化炭素の検知と輸送濃縮）・生殖に関する分子細胞生物学

森 直樹准教授

植物と阻害性昆虫における防御と適応の有機化学

由里本 博也准教授

微生物の代謝および遺伝子発現制御機構に関する研究

地域環境工学科

川島 茂人教授

大気と生物圏の相互作用に関する研究

河地 利彦教授

水資源の開発・管理・保全と水環境のモデル化に関する理論と応用

北山 兼弘教授

森林生態系の維持機構に関する生態系生態学、森林の持続的管理

小林 慎太郎教授

土地利用計画・地域分析および国内外の持続的・自立的な地域発展研究

近藤 直教授

農畜水産物や食品の生産、選別、加工、貯蔵施設内における計測・制御等の工学的研究

清水 浩教授

グリーンハウス・植物工場における計測技術および環境調節に関する研究

星野 敏教授

ナレッジマネジメントを応用した農村計画手法の開発

飯田 訓久准教授

農業におけるロボティクスおよびメカトロニクス

宇波 耕一准教授

水資源の管理・運用における最適化問題と利水系における水理現象の数値モデリング

小林 晃准教授

農業水利施設の安全性と周辺環境に与える影響

中嶋 洋准教授

土一機械系および土一車両系のテラメカニクス

中村 公人講師

流域圏および農地土壌中の水循環と物質循環の制御・管理

橋本 禪講師

多主体の参加と協働にもとづく農村の計画・管理

前田 滋哉講師

河川・湖沼における水環境の最適管理手法

食糧・環境経済学科

小田 滋見教授

農業経営における重層的ガバナンス構造とアカウンタビリティの拡張に関する研究

加賀爪 優教授

農業貿易と環境安全および地域経済発展に関する計量経済分析

末原 達郎教授

地球規模における農業・食料・地域社会の持続に関する比較農学研究

武部 隆教授

資源利用評価と環境ガバナンス

新山 陽子教授

フードシステム分析、食品安全とリスク認知、消費者行動の研究

野田 公夫教授

近現代日本農業史および比較農業発展史・比較土地制度史

福井 清一教授

発展途上国の農村における貧困を削減するための政策に関する研究、開発の行動経済学

秋津 元輝准教授

現代農村の地域社会と環境に関する社会学的研究

浅見 淳之准教授

途上国の農村制度と農業発展

仙田 徹志准教授

食料・農業における統計情報の体系的保存と高度利用に関する研究

足立 芳宏准教授

近代ドイツ農業・農村社会史

川村 誠准教授

森林・林業政策学

辻村 英之准教授

アフリカの農業経済経営・農村協同組合・フードシステムの分析

香川 文庸講師

農業経営・アグリビジネスにおける損益・資産・資本構造の測定

沈 金虎講師

中国の農業・農村経済と食料・環境問題に関する研究

森林科学科**東 順一教授**

バイオマスの化学と生化学、リグノセルロースの生合成と生分解

井鷲 裕司教授

森林動態と生物保全に関する研究

大澤 晃教授

森林の構造発達と炭素動態学

太田 誠一教授

熱帯林の土壌生態と養分ならびに温室効果ガスの動態に関する研究

奥村 正悟教授

木材の機械加工と生産加工システム

木村 恒久教授

磁場を用いた生物繊維材料の高機能化

坂 志朗教授

植物バイオマスのバイオ燃料化・有用ケミカルス化及び環境調和型エコ材料の創製

酒井 徹朗教授

リモートセンシングやGISを用いた生物圏の環境情報モニタリングと評価

高野 俊幸教授

木材成分の分析、および化学的利用に関する研究

谷 誠教授

洪水・渇水緩和、地球温暖化抑制など、森林の環境保全機能に関する研究

中野 隆人教授

木材の物理的特性と微細構造との関係に関する研究

西尾 嘉之教授

木材・セルロース・キッチン等バイオマスの高機能複合材料化

水山 高久教授

土砂の生産、流出とその森林等による制御

森本 幸裕教授

緑地環境の保全と創造に関する研究

岡田 直紀准教授

温帯および熱帯樹木の成長と材形成に関する生理・生態学的研究

河本 晴雄准教授

バイオマス変換およびエネルギー利用の生態系に及ぼす影響

神崎 護准教授

熱帯林の群集生態学と植生学

小杉 賢一朗准教授

森林の水源涵養機能と表層崩壊防止機能に関する研究

高部 圭司准教授

木質化細胞壁の形成メカニズム

深町 加津枝准教授

地域性をふまえた景観の保全と活用に関する研究

藤井 義久准教授

木材の高度利用と加工

松下 幸司准教授

森林計画に関する研究

山内 龍男准教授

紙およびパルプの科学に関する研究

大澤 直哉講師

森林生態系における昆虫群集の研究

坂本 正弘講師

木質系バイオマスの形成に関わる生化学・分子生物学的研究

高柳 敦講師

クマハギ発生地域におけるツキノワグマの保護管理に関する研究。カモシカ・シカによる造林木食害に関する研究。狩猟制度に関する研究。

仲村 匡司講師

木質系材料の感性的特性、木質環境の居住性

吉岡 まり子講師

バイオマスを用いた高性能・高機能材料の開発に関する研究

食品生物科学科**安達 修二教授**

食品製造工学、食品反応工学、クロマトグラフ分離工学などの食品を造るための基礎科学

井上 國世教授

酵素の機能発現の解明と新規機能の創成および有用生体活性物質生産と健康科学への応用

入江 一浩教授

生活習慣病に係わるタンパク質の機能ドメインの化学合成、構造機能解析、及び薬剤開発

河田 照雄教授

肥満の発症メカニズムの解明とその応用研究、生活習慣病を防ぐ食品の開発

北島 直文教授

食品素材の加工特性に関する研究、甘味・渋味・苦味物質の構造と甘味・渋味・苦味発現機構

永尾 雅哉教授

(1) 亜鉛の生理学、生化学 (2) 天然物からの有用な生体活性物質の探索

伏木 亨教授

食品の持つ情報と、動物消化管・口腔における情報受容機構、運動能力を増強する食品の開発、おいしさの科学

村田 幸作教授

細胞（微生物）、遺伝子、タンパク質などの構造、機能、及び進化

山本 憲二教授

(1) 微生物の糖質分解酵素を用いた有用物質の生産 (2) 乳酸菌のオリゴ糖代謝機構の解析

芦田 久准教授

糖鎖を介した微生物と高等動物の相互作用の解析

井上 和生准教授

中枢性疲労発生機構に関する研究、運動時エネルギー代謝の中枢性調節機構に関する研究

裏出 令子准教授

(1) 小胞体におけるタンパク質の品質管理機構に関する研究 (2) 動物細胞における脂質代謝の調節機構に関する研究

大日向 耕作准教授

脳神経系や循環器系に作用する新しい生理活性ペプチドの探索と作用機構の解明

神戸 大朋准教授

亜鉛トランスポーターの機能解析を通じた亜鉛恒常性維持機構の解明

谷 史人准教授

(1) 自然免疫および粘膜炎免疫系のストレス応答に関する研究 (2) 分子進化から眺めたタンパク質の構造と機能

橋本 渉准教授

微生物における高分子物質の輸送と代謝に関わる分子の構造と機能

増田 誠司准教授

mRNA成熟に関わる複合体群の機能解析

保川 清准教授

タンパク質分解酵素とDNA合成酵素の酵素化学的性質の解明および改変

入学者選抜要項の請求方法

入学者選抜に関する概要を記載した選抜要項は、7月中旬から配付します。

郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、200円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm × 240mm）を同封し、志望する学部の教務担当あてに「選抜要項請求」と朱書して申し込んでください。

学生募集要項の請求方法

大学の学生募集要項等の請求方法には、以下の4つの方法があります。（京都大学からは郵送しませんのでご注意ください。）

①大学のホームページから直接請求する方法

詳しくは、京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp/>）にアクセスしてください。

総合人間学部案内、工学部案内、農学部案内につきましては、各学部のホームページにて、電子媒体での公開を行っています。

②テレメール（インターネット・自動応答電話）で請求する方法

学生募集要項は9月から案内開始、12月上旬から送付。



テレメール

インターネットの場合		電話の場合	
携帯電話・パソコンとも共通アドレス	http://telemail.jp	IP 電話	050-2015-0555
QRコード ※対応する携帯電話で読み取れます。		[一般電話回線からの通話料金は日本全国3分毎に約11円です。]	

資料名	資料請求番号	送料	送料は、お届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払いください。 なお、払込手数料として120円が必要となります。
学生募集要項	584620	210円	
学生募集要項 + 大学案内	544610	290円	
大学案内	564600	290円	
総合人間学部案内	564620	140円	
工学部案内	544620	210円	
農学部案内	564730	210円	

③郵便局から請求する方法（10月から案内開始：12月上旬から送付）

郵便局や高等学校等に10月から設置されます「国立私立大学・短期大学及び通信教育課程、大学校募集要項（願書）請求申込書」（郵便局用願書請求カタログ）に必要事項を記入し、最寄りの郵便局に送料と払込手数料120円を添えて申し込んでください。

郵便局・テレメールでの請求についての問い合わせ先：

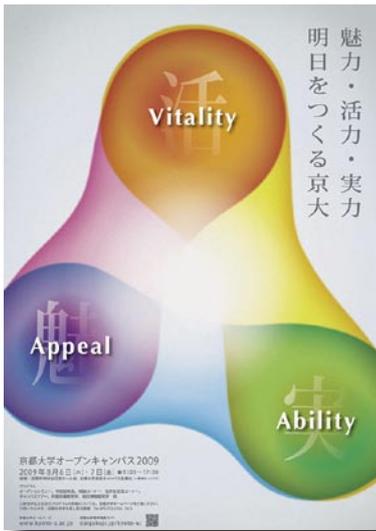
テレメールカスタマーセンター 050-2015-5050（9：30～18：00）

④大学の窓口等でも配布しています（12月上旬より）

学生部入試企画課 9：00～17：00（月～金曜日 [祝休日を除く]）

京都大学インフォメーションセンター（本部構内正面横） 土・日・祝休日を含む24時間

京都大学オープンキャンパス



本学では、京都大学受験を志望する方に京都大学を直接知っていただくための広報活動として、平成14(2002)年度から年に一度、夏休みを利用して2日間の日程で「京都大学オープンキャンパス」を実施しています。

このオープンキャンパスは、本学各学部の教育研究の紹介・模擬授業体験・施設見学や入試・学生生活・留学などの各種相談等を通して、本学の教員・在学生・事務職員と直接交流していただくことにより、受験生の皆さんに本学を実感していただく場となっています。

近畿を中心に全国から参加があり、平成20(2008)年度には約9,200名の受験生・保護者・学校関係者等の参加を得ました。多くの参加者から「有意義であった」と好評をいただいています。

[問い合わせ先] 学生部入試企画課 Tel.075-753-2524



多様な入学制度 / お問い合わせ先一覧

京都大学では、一般入試のほか、以下のような特別選抜を実施しています。

外国学校出身者の入学について

法学部、経済学部で実施しています。
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

第3年次編入学試験について

教育学部、法学部、経済学部、医学部人間健康科学科、工学部(高等専門学校卒業(見込)者対象)で実施しています。
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

学士入学試験について

1. 大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：文学部で実施しています。
2. 京都大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：総合人間学部、経済学部、理学部、工学部で実施しています。
詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

参考：平成21年度外国学校出身者のための選考の実施結果

学部	募集人員	志願者数	第1次選考合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法学部	10名以内	25	18	11	9	9
経済学部	10名以内	28	15	11	6	6

参考：平成21年度3年次編入学試験の実施結果

学部	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
教育学部	10名	23	22	6	6
法学部	10名	122	89	9	8
経済学部	20名以内	120	107	12	12
医学部 人間健康科学科	17名	30	27	1	1
工学部	20名程度	39	35	14	13

入学者選抜要項・学生募集要項の請求先／学部・学科に関する問い合わせ先

学部	担当掛	電話番号	所在地	URL	
総合人間学部	教務掛	075-753-6507	〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町	http://www.h.kyoto-u.ac.jp/	
文学部	第一教務掛	075-753-2709	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html	
教育学部	教務掛	075-753-3010		http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/	
法学部	教務掛	075-753-3107		http://kyodai.jp/	
経済学部	教務掛	075-753-3406		http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/	
理学部	第二教務掛	075-753-3637		〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/
医学部	医学科	教務・学生支援室 (学部教務担当)	075-753-4325	〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町	http://www.med.kyoto-u.ac.jp/
	人間健康科学科	教務・学生支援室 (教務人間健康科学科担当)	075-751-3906	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53	http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/
薬学部	教務掛	075-753-4514	〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町	http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/	
工学部	教務掛	075-753-5039	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.t.kyoto-u.ac.jp/	
農学部	第一教務掛	075-753-6012	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/	

入学試験・入学後の就学に関する問い合わせ先

担当部課	電話番号	所在地	URL
学生部入試企画課	075-753-2521~2524	〒606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.kyoto-u.ac.jp/

[資料] 入学者選抜実施状況について

平成21年度 入学者選抜実施状況 (単位:人)

学部	日程	募集人数	志願者数	第一段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	65	330	306	305	68	1		67
	前期理系	55	207	207	202	57			57
文学部	前期	220	561	561	558	223	1		222
教育学部	前期文系	50	189	189	185	52	1		51
	前期理系	10	36	36	34	10			10
法学部	前期	320	812	812	802	327			327
経済学部	前期一般	180	583	583	574	190	2		189
	前期論文	25	112	88	84	25			25
	前期理系	25	110	110	109	25			24
理学部	前期	311	1,003	987	982	316			316
医学部	前期	248	590	590	579	260	2		258
薬学部	前期	80	244	244	236	84	1		83
工学部	前期	955	2,388	2,388	2,352	973	7	1	967
農学部	前期	300	826	826	811	317	1		316
合計		2,844	7,991	7,927	7,813	2,927	16	1	2,912

医学部学科・専攻別/薬学部学科別内訳 (単位:人)

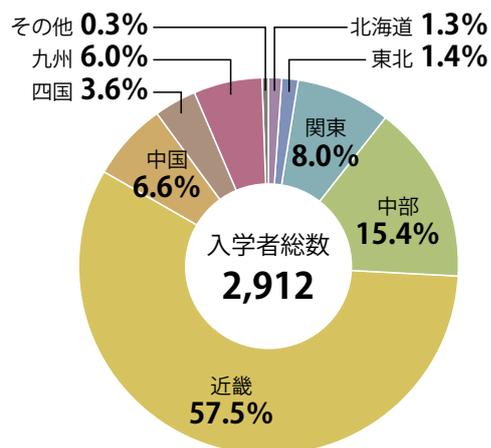
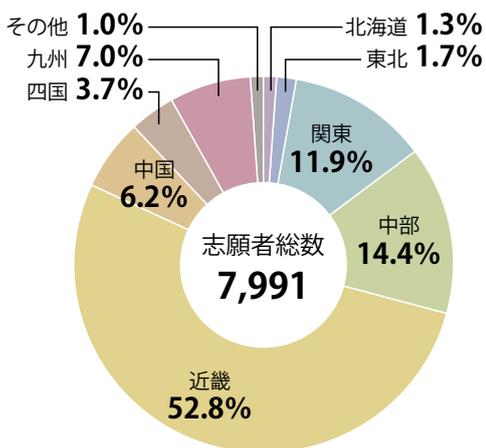
学部 (学科・専攻)	日程	募集人数	志願者数	第一段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学部	前期	248	590	590	579	260	2		258
医学科	前期	105	306	306	299	109			109
人間健康科学科	前期	143	284	284	280	151	2		149
看護学専攻	前期	70	115	115	113	74	2		72
検査技術科学専攻	前期	37	85	85	83	39			39
理学療法学専攻	前期	18	34	34	34	19			19
作業療法学専攻	前期	18	50	50	50	19			19
薬学部	前期	80	244	244	236	84	1		83
薬科学科	前期	50	122	122	120	53	1		52
薬学科	前期	30	122	122	116	31			31

工学部・農学部学科別内訳 (単位:人)

学部 (学科)	日程	募集人数	志願者数	第一段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
工学部	前期	955	2,388	2,388	2,352	973	7	1	967
地球工学科	前期	185	393	393	389	189			189
建築学科	前期	80	253	253	252	82			82
物理工学科	前期	235	592	592	587	238	4	1	235
電気電子工学科	前期	130	281	281	272	132	2		130
情報学科	前期	90	224	224	220	92	1		91
工業化学科	前期	235	645	645	632	240			240
農学部	前期	300	826	826	811	317	1		316
資源生物科学科	前期	94				98			98
応用生命科学科	前期	47				49			49
地域環境工学科	前期	37				40	1		39
食料・環境経済学科	前期	32				34			34
森林科学科	前期	57				60			60
食品生物科学科	前期	33				36			36

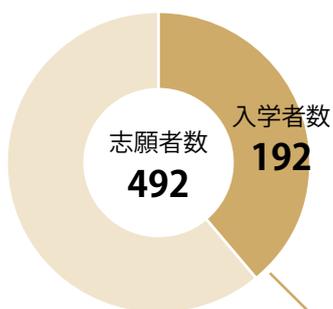
全体

	志願者	入学者
北海道	107	37
東北地区	134	40
関東地区	949	232
中部地区	1,151	448
近畿地区	4,223	1,675
中国地区	492	192
四国地区	296	105
九州地区	556	175
その他	83	8
計	7,991	2,912



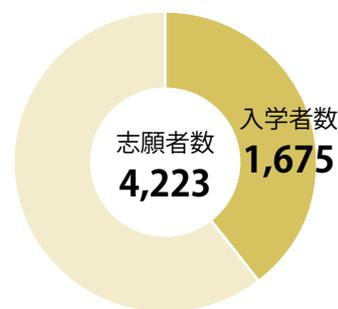
中国地区

	志願者	入学者
鳥取	44	11
島根	36	14
岡山	124	48
広島	241	100
山口	47	19
計	492	192



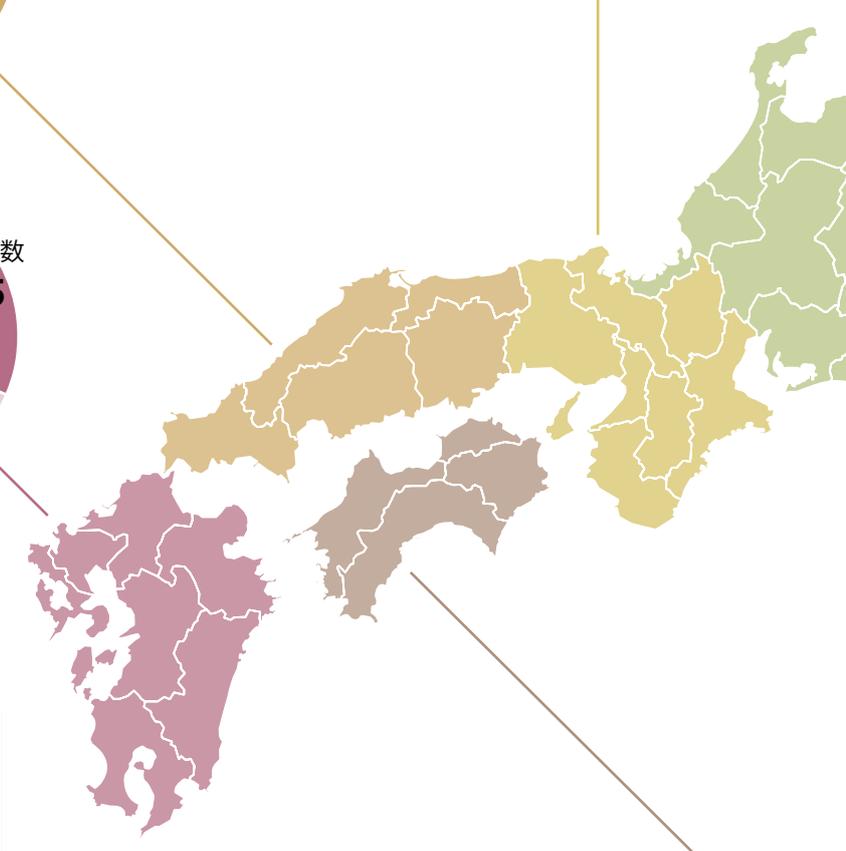
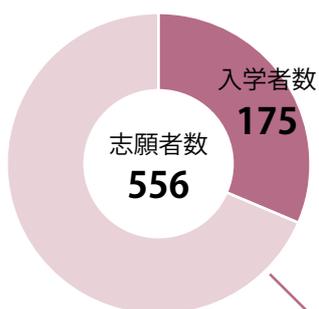
近畿地区

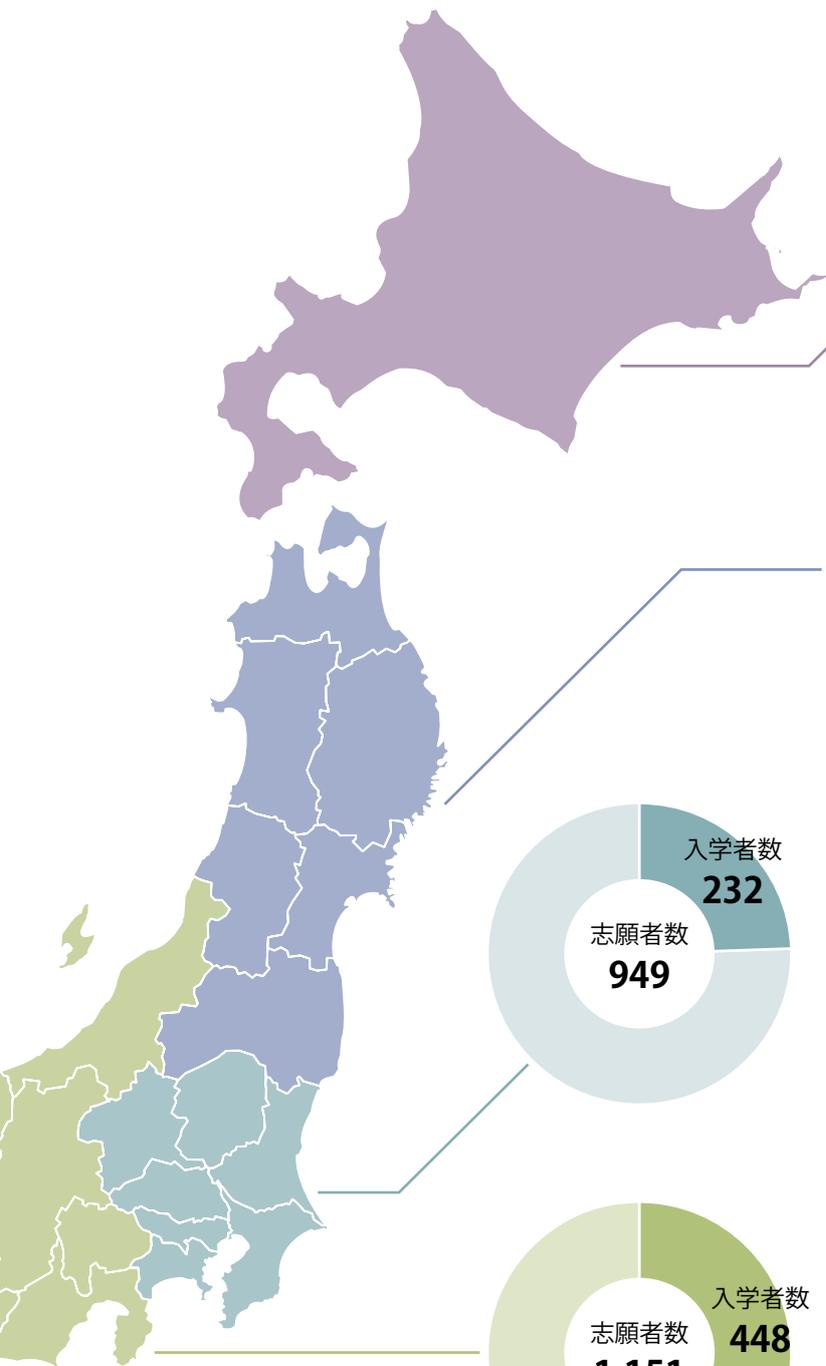
	志願者	入学者
三重	143	59
滋賀	189	84
京都	806	331
大阪	1,499	576
兵庫	853	344
奈良	620	244
和歌山	113	37
計	4,223	1,675



九州地区

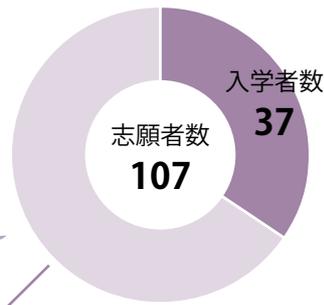
	志願者	入学者
福岡	263	95
佐賀	35	9
長崎	40	10
熊本	57	17
大分	26	8
宮崎	33	8
鹿児島	82	24
沖縄	20	4
計	556	175





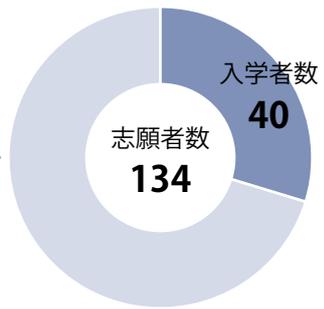
北海道

	志願者	入学者
北海道	107	37



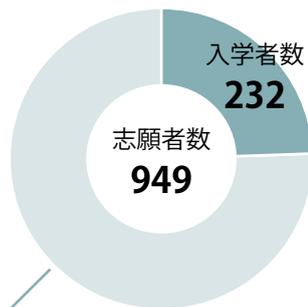
東北地区

	志願者	入学者
青森	10	4
岩手	12	1
宮城	48	14
秋田	19	6
山形	11	3
福島	34	12
計	134	40



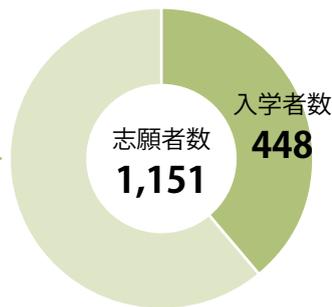
関東地区

	志願者	入学者
茨城	58	18
栃木	36	11
群馬	46	10
埼玉	86	22
千葉	122	18
東京	438	116
神奈川	163	37
計	949	232



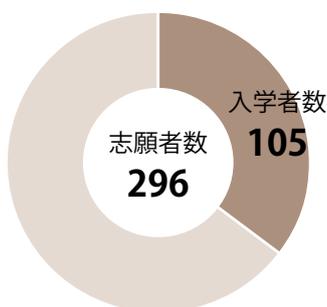
中部地区

	志願者	入学者
新潟	42	14
富山	45	19
石川	89	35
福井	90	31
山梨	26	9
長野	78	27
岐阜	156	66
静岡	160	62
愛知	465	185
計	1,151	448



四国地区

	志願者	入学者
徳島	50	24
香川	106	35
愛媛	94	34
高知	46	12
計	296	105



その他 (高校卒業程度認定等)

	志願者	入学者
その他	83	8



[資料] 平成 21 年度合格者 最高点・最低点 (総点)

学部	日程		満点	総点			
				最高点	最低点	平均点	
総合人間学部	前期	(文系)	750	538.33	426.33	461.37	
		(理系)	800	524.25	390.50	429.03	
文学部	前期		700	533.61	431.16	461.36	
教育学部	前期	(文系)	900	636.35	554.29	586.89	
		(理系)	900	638.93	558.13	595.21	
法学部	前期		750	595.20	465.45	500.27	
経済学部	前期	(一般)	800	633.95	512.65	539.79	
		(論文)	600	415.99	329.33	364.63	
		(理系)	950	723.65	569.76	604.51	
理学部	前期	注 1	650	484.00	324.00	360.91	
		(数理 30 位) 注 2	(400)	(312.00)	(241.00)	—	
学部合計		前期	—	—	—	—	
医学部	医学科		前期	1300	1067.01	884.99	940.81
	人間健康科学科	看護学専攻	前期	1200	799.13	618.43	684.05
		検査技術科学専攻		1200	857.60	686.23	727.56
		理学療法学専攻		1200	893.23	682.40	764.01
		作業療法学専攻		1200	807.83	672.63	728.76
学部合計		前期	950	710.05	565.26	612.73	
薬学部	薬科学科		前期	950	697.71	565.26	609.53
	薬学科			950	710.05	576.51	618.21
学部合計		前期	—	—	—	—	
工学部	地球工学科		前期	1000	673.25	488.70	547.86
	建築学科		前期	1000	679.15	520.13	576.06
	物理工学科	前期	(配点 A)	1000	673.63	534.45	579.58
			(配点 B)	1000	720.00	584.66	616.89
	電気電子工学科		前期	1000	847.23	510.20	577.14
	情報学科		前期	1000	715.85	534.71	588.81
	工業化学科		前期	1000	745.31	528.76	580.28
農学部	前期		1050	815.93	601.95	648.66	

注 1： 最高点は合格者のうち総点が最も高い者の得点です。最低点は合格者のうち順位が最下位であった者の得点です。平均点は合格者の総点の平均点です。

注 2： 合格者のうち個別学力検査の成績順位が「数学」と「理科」の得点合計を用いて定められる 30 位までの者の「数学」と「理科」の得点合計。

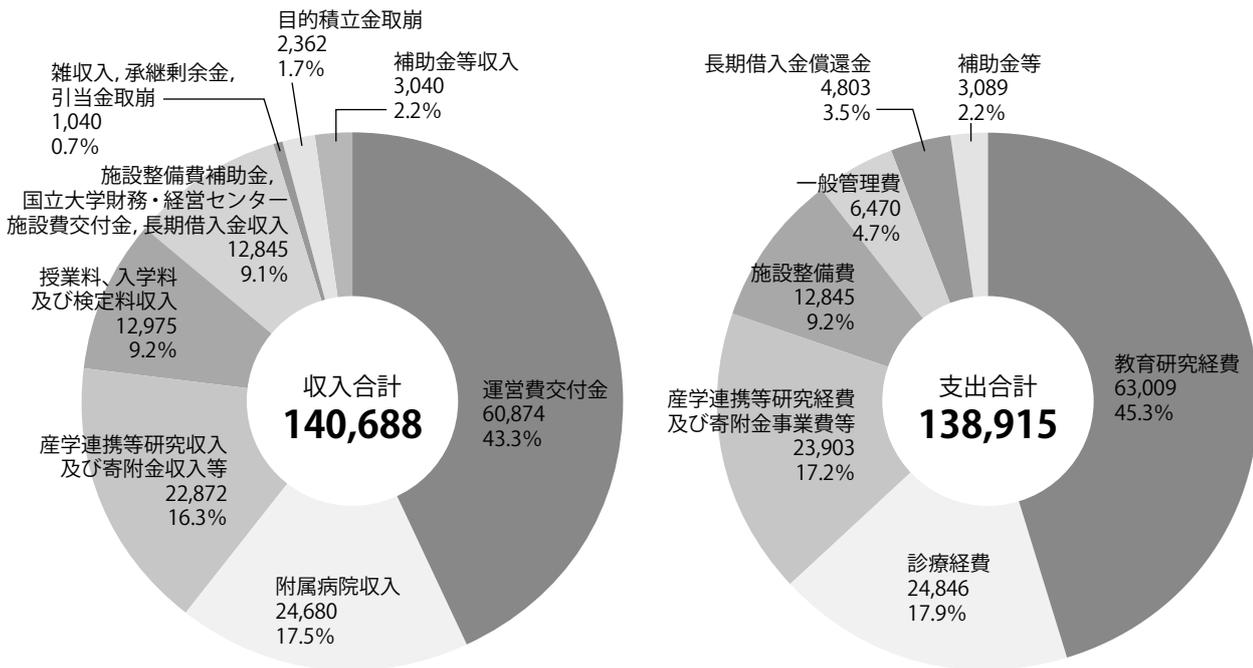
(備考) 1. 法学部・経済学部の外国学校出身者のための選考を除く。

2. 総点については、前期合格発表時のものです。

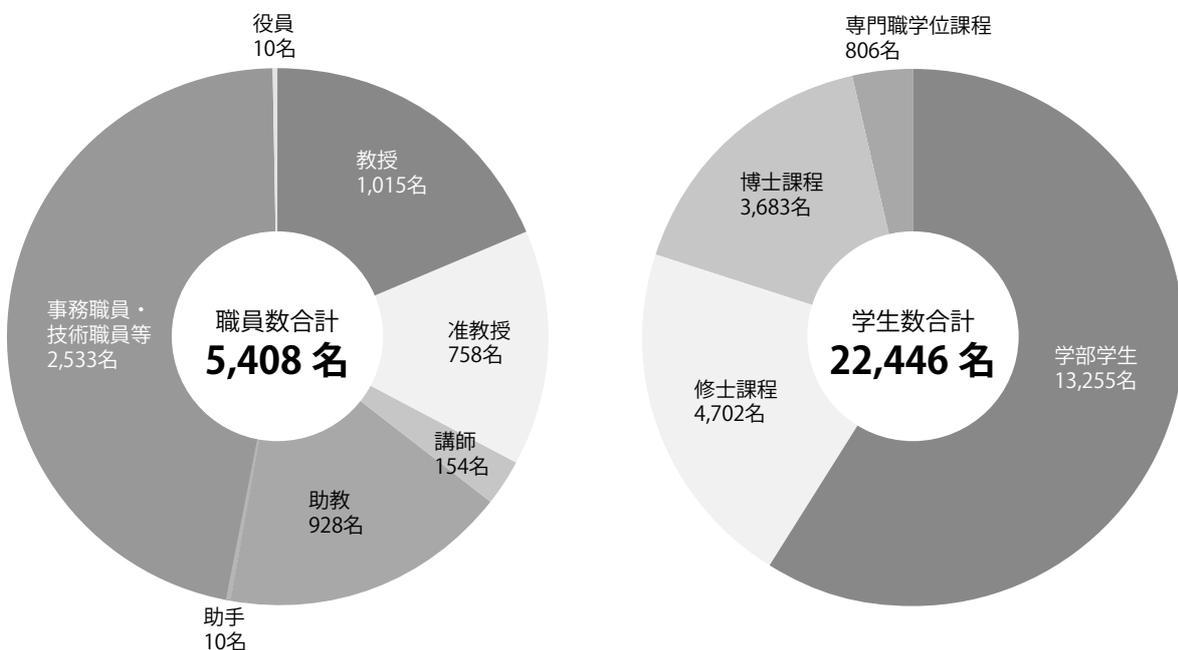
[京都大学小史]

- 明治** 明治 30 年 (1897) に京都帝国大学として設置される。理工学 (1897), 法科大学, 医科大学 (1899), 文科大学 (1906) が設置される。
- 大正** 大正 8 年 (1919) に, 分科大学を学部と改称する。経済学部 (1919), 農学部 (1923) が設置される。
- 昭和** 昭和 22 年 (1947) 京都帝国大学を京都大学と改称する。昭和 24 年 (1949), 新制大学として発足する。教育学部 (1949), 教養部 (1954), 薬学部 (1960), 総合人間学部 (1992) が設置される。独立研究科。大学院重点化。
- 平成** 平成 16 年 (2004) 国立大学法人京都大学によって京都大学が設置される。

[京都大学の財務状況] 平成 19 年度 (単位: 百万円)



[京都大学の職員数・学生数] 平成 21 年 5 月 1 日現在



吉田キャンパス

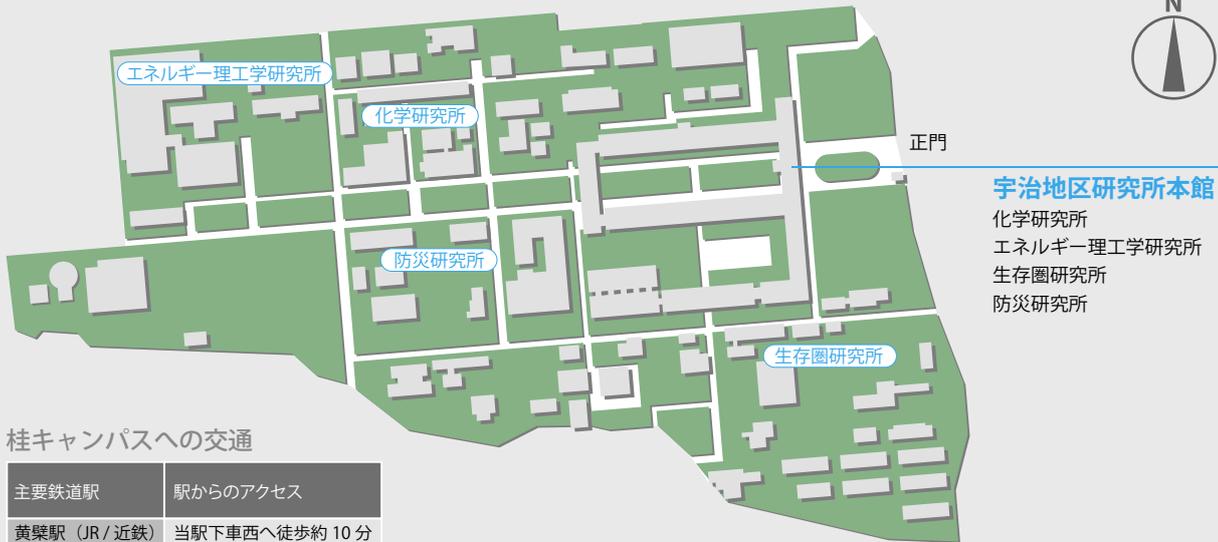


吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通期間等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間※	下車バス停
京都駅 (JR/近鉄)	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約35分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約35分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
河原町駅 (阪急)	市バス	四条河原町	201系統	「祇園・百万遍」行	約25分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約25分	
			17系統	「河原町通 銀閣寺・錦林車庫」行	約25分	
今出川駅 (地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	3系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	約25分	「百万遍」, 薬は「荒神口」
			203系統	「今出川通 銀閣寺道・錦林車庫」行	約15分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
東山駅 (地下鉄東西線)	市バス	東山三条	201系統	「百万遍・祇園」行	約15分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			206系統	「高野 北大路バスターミナル」行	約20分	
			31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約20分	
出町柳駅 (京阪)	徒歩	(東へ)			約20分	文・教育・法・経済・工は、当駅から徒歩約15分, 総人・理・農は徒歩約20分
	市バス	出町柳駅前	201系統	「祇園・みぶ」行	約10分	「百万遍」又は「京大正門前」, 医・薬は「近衛通」
神宮丸太町駅 (京阪)	徒歩	(東へ)	17系統	「銀閣寺・錦林車庫」行	約10分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
					約10分	医・薬は、当駅から徒歩約10分

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

宇治キャンパス

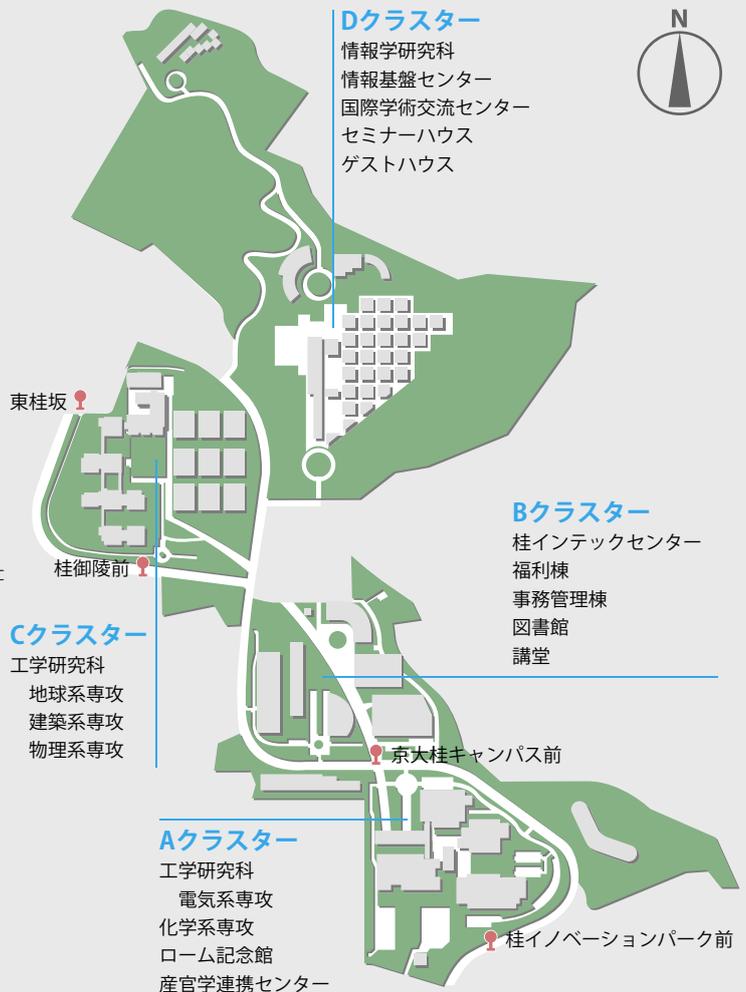


桂キャンパスへの交通

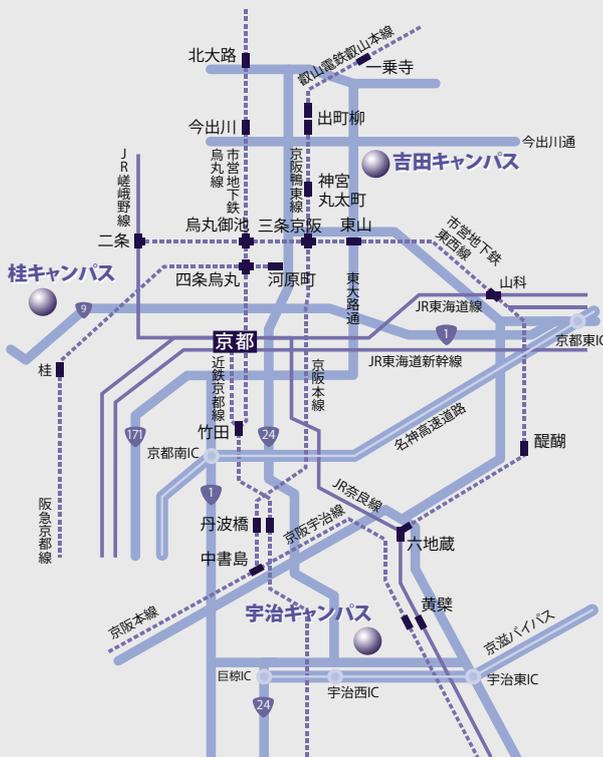
主要鉄道駅	駅からのアクセス
黄檗駅 (JR/近鉄)	当駅下車西へ徒歩約 10分

桂キャンパス

*一部計画中の施設を含む



京都大学キャンパス配置図



桂キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用バス停	乗車バス系統	経路	下車バス停
桂駅 (阪急)	桂駅西口	市バス西6系統	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 17分)
		京阪京都交通	「桂坂中央」行	
向日町駅 (JR)	JR 向日町	京阪京都交通	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 20分)
		ヤサカバス	「桂坂中央」行	

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

発行 平成 21 年 7 月

京都大学 学生部入試企画課

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL. 075-753-2521～2524

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>